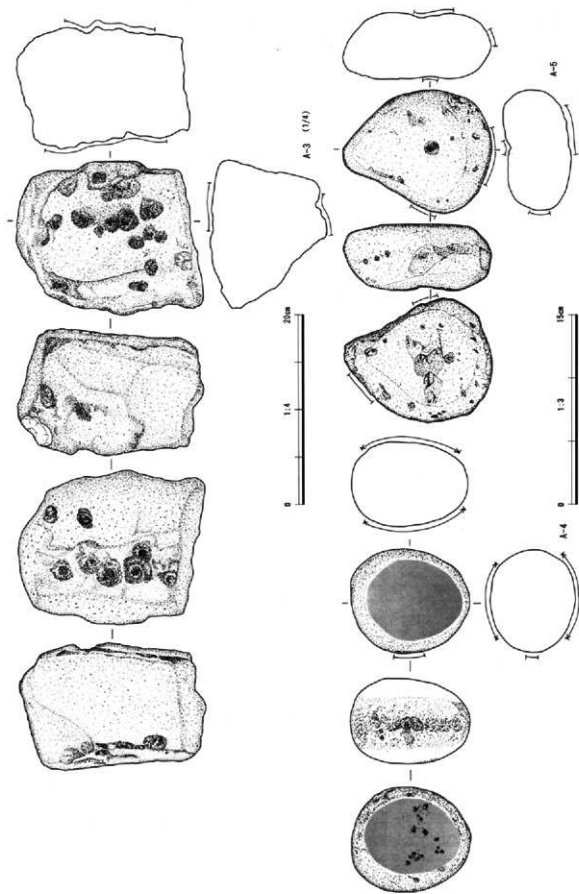
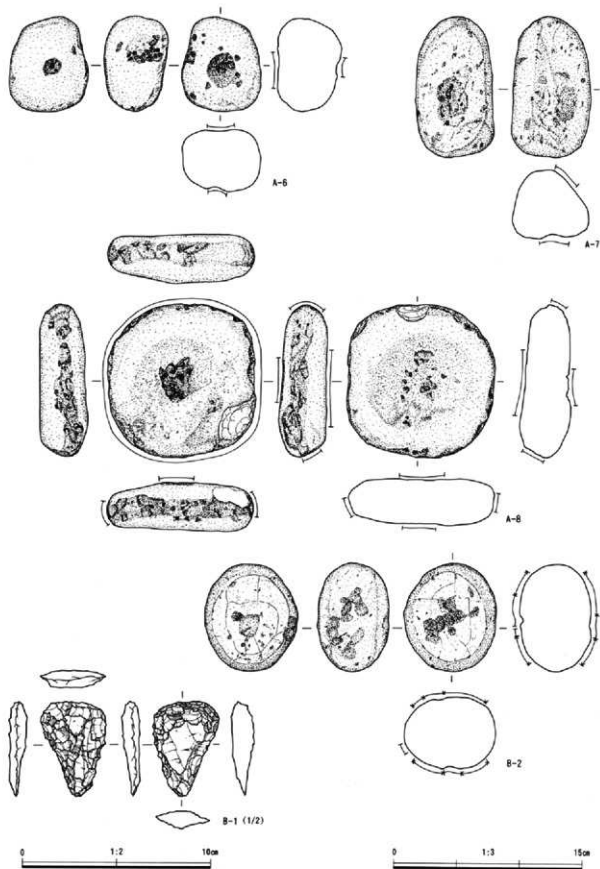


第118圖 6号・9号・10号集石出土石器実測圖

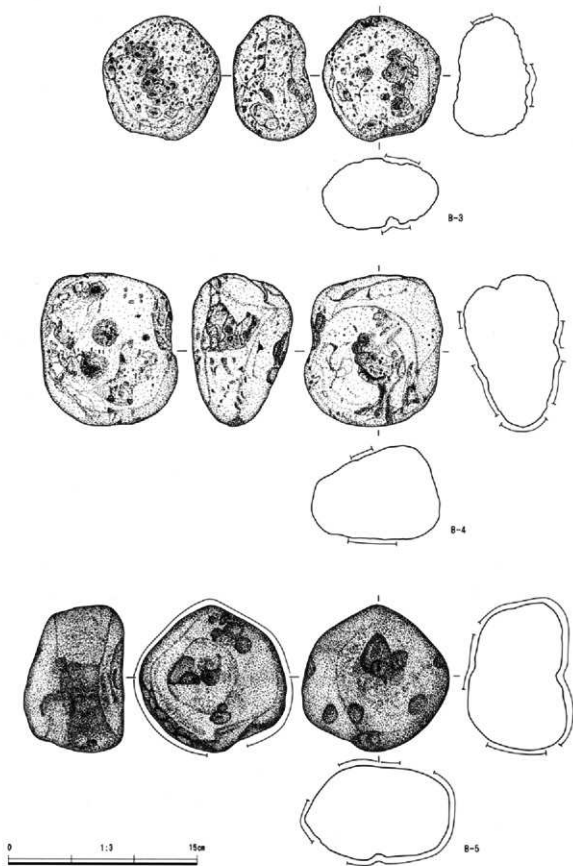


第119图 10号集石出土石器实测图(1)

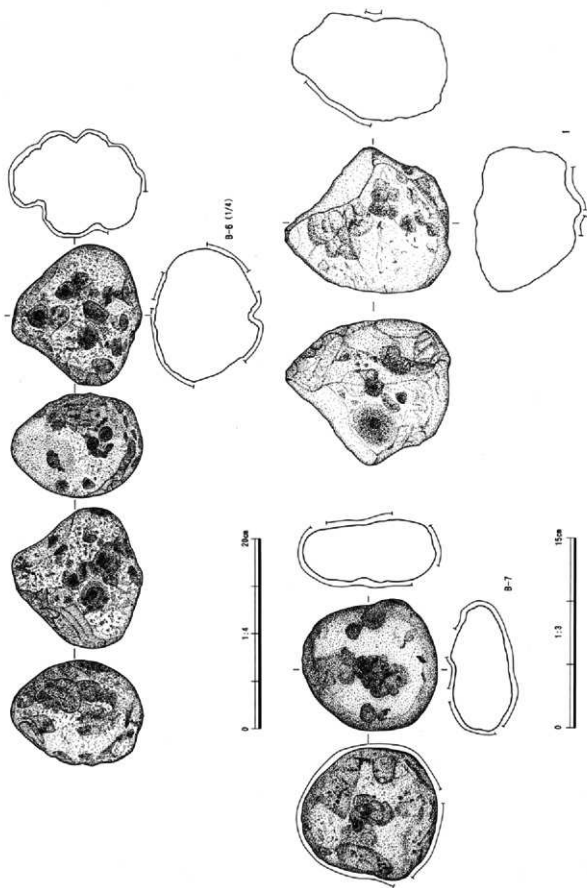
第2節 縄文時代



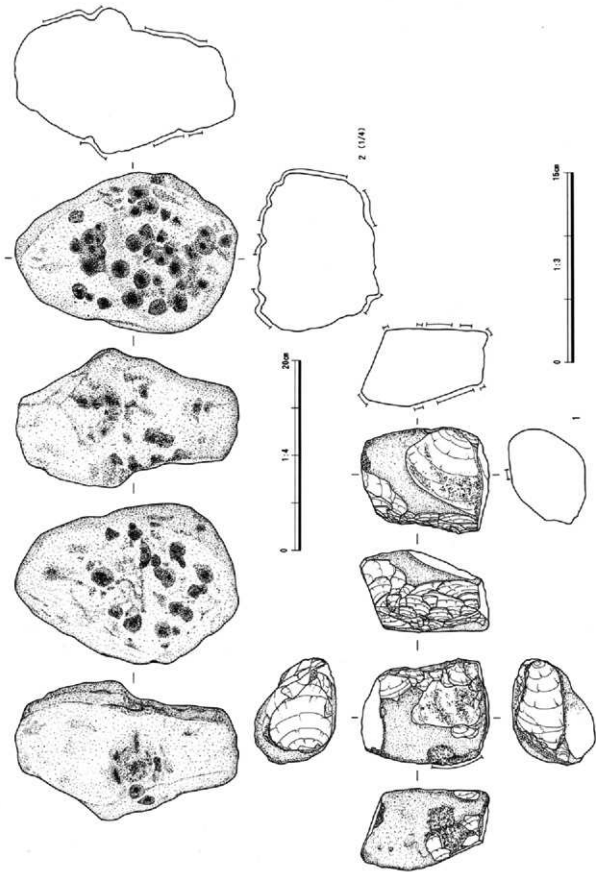
第120图 10号集石出土石器実測图(2)



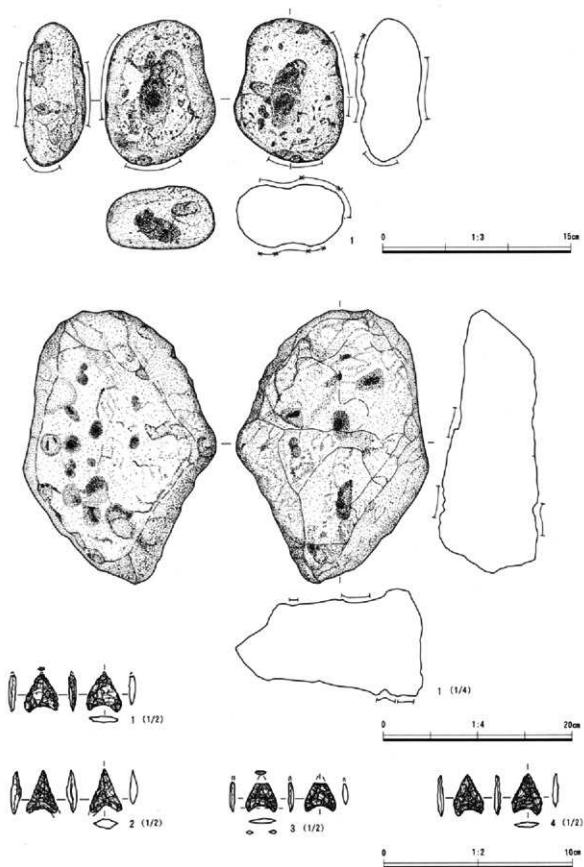
第121图 10号集石出土石器实测图(3)



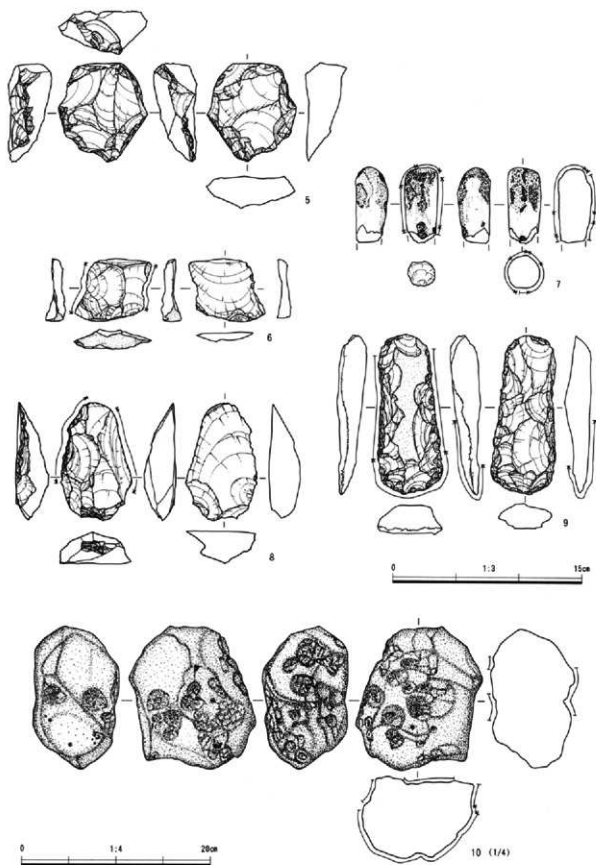
第122図 10号・12号兼石出土石器実測図



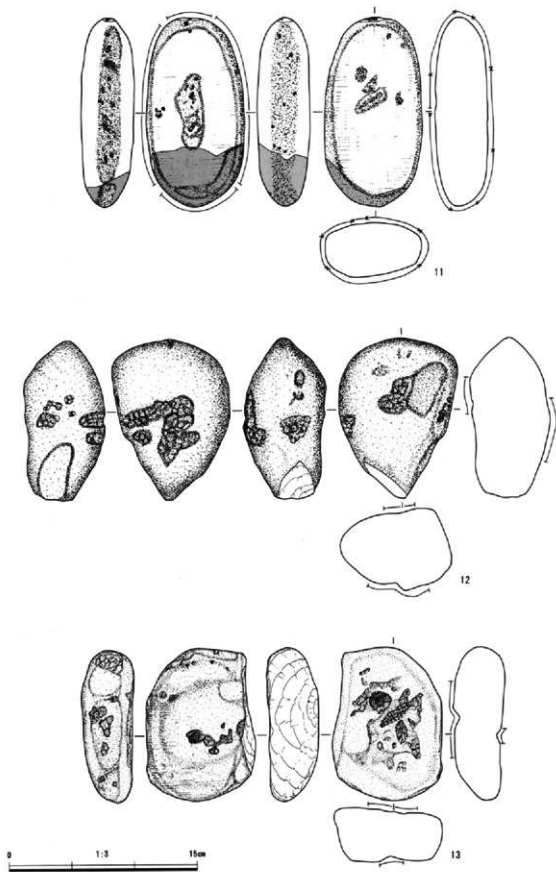
第123圖 12号・13号集石出土石器實測圖



第124図 14号・16号集石、1号配石出土石器実測図



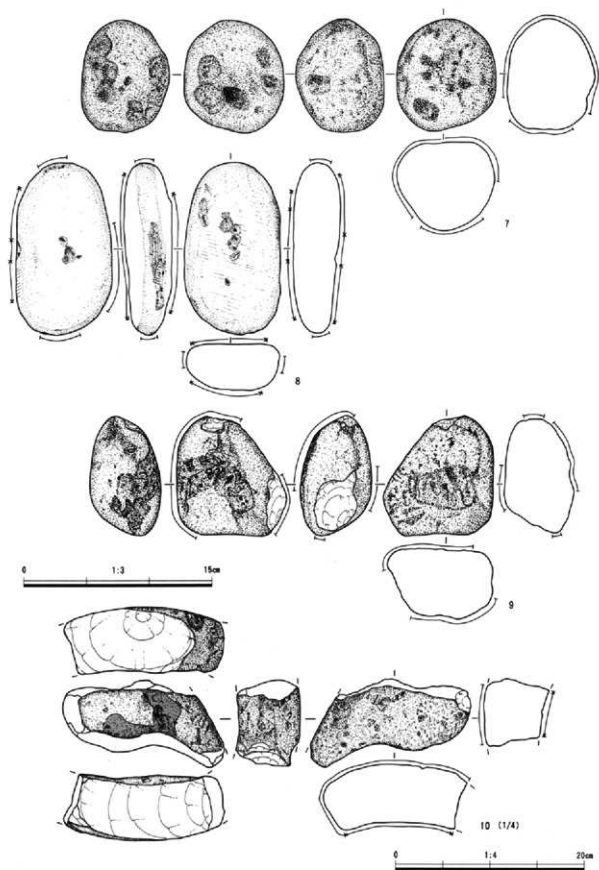
第125图 1号配石出土石器实测图(1)



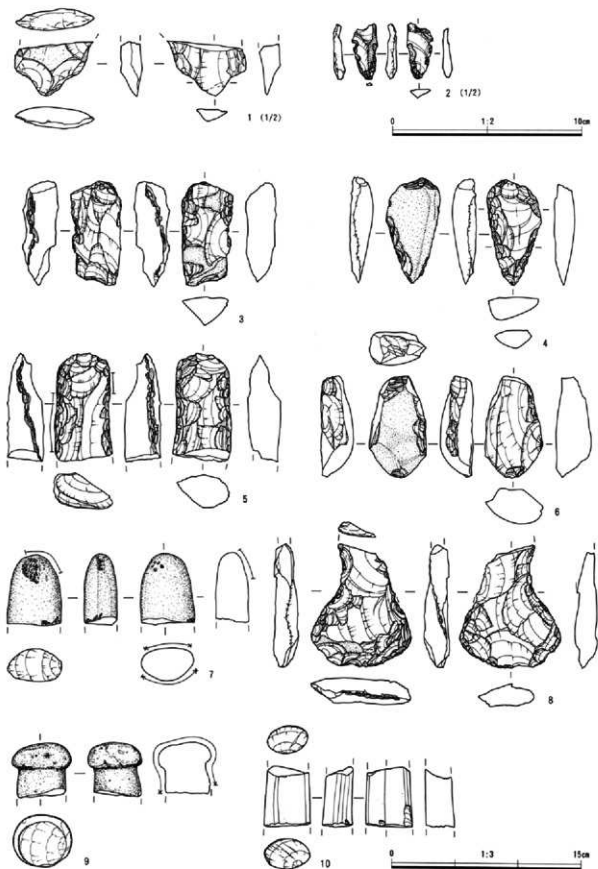
第126圖 1号配石出土石器実測圖(2)



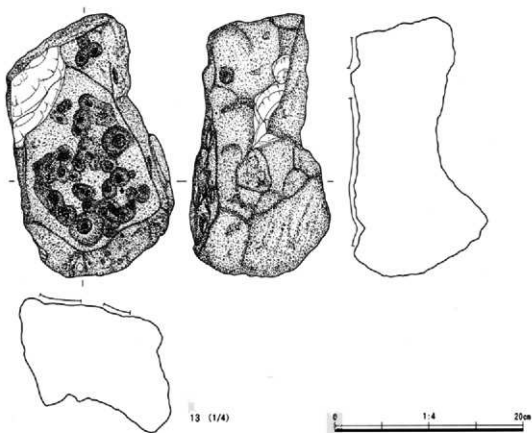
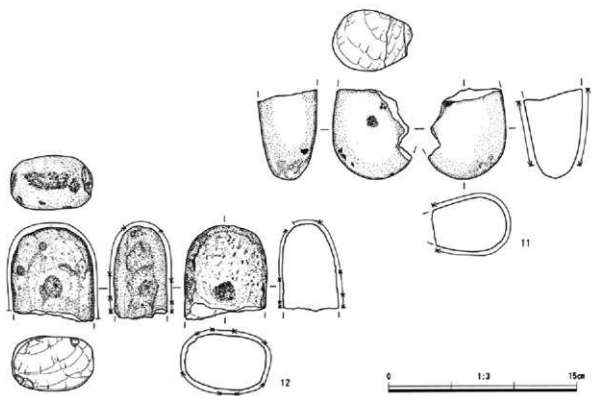
第127图 2号配石出土石器实测图(1)



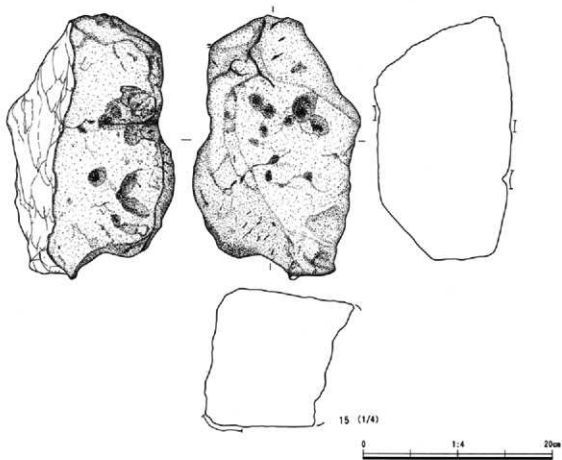
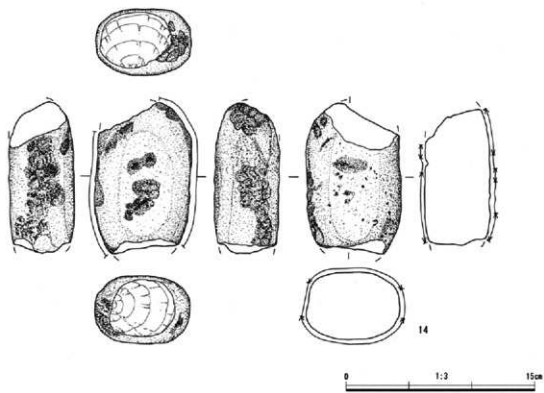
第128図 2号配石出土石器実測図(2)



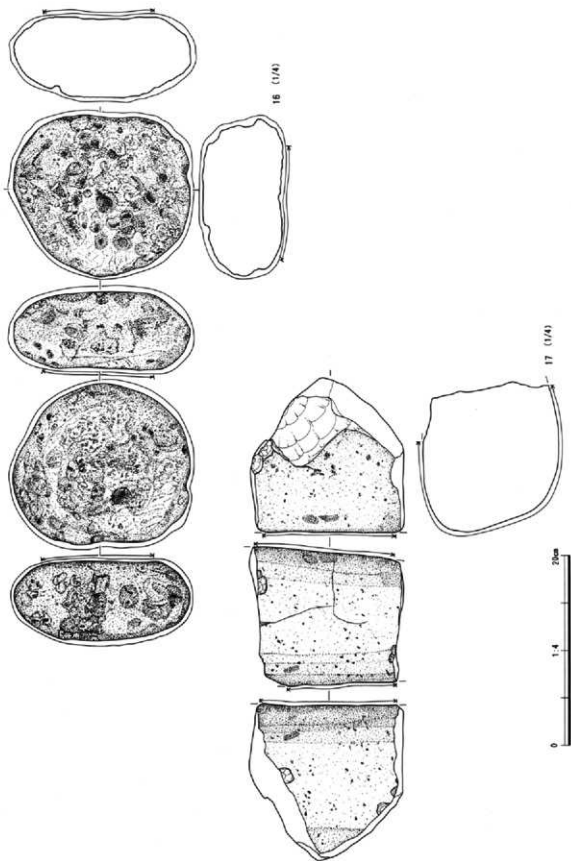
第129图 3号配石出土石器实测图(1)



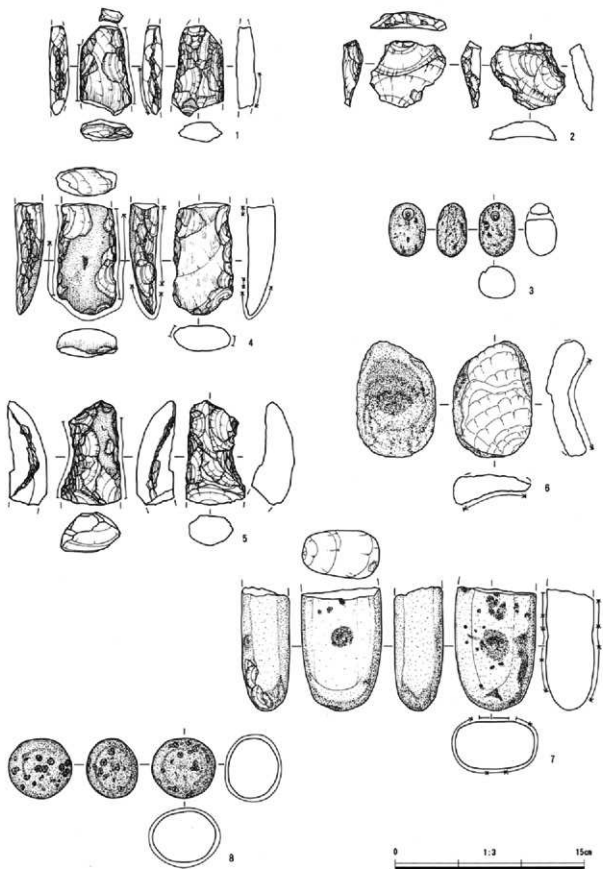
第130図 3号配石出土石器実測図(2)



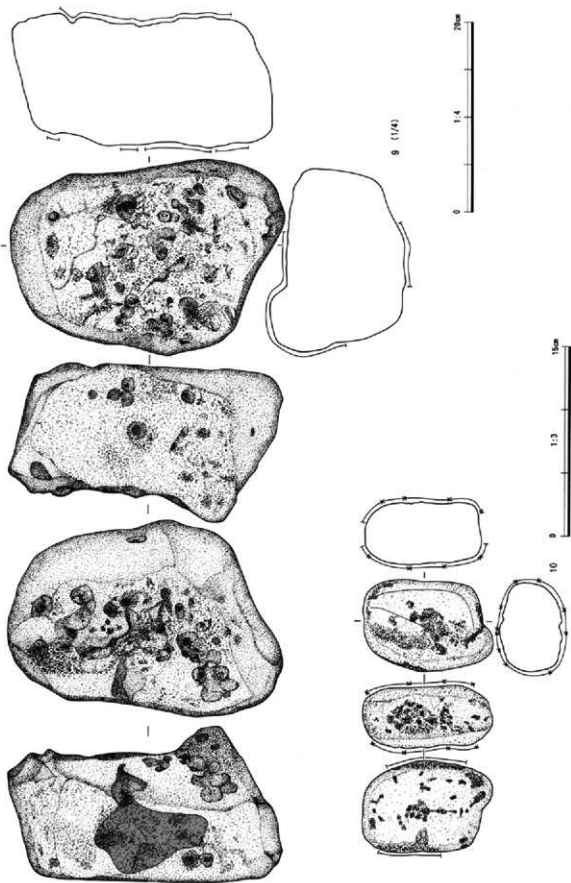
第131图 3号配石出土石器实测图(3)



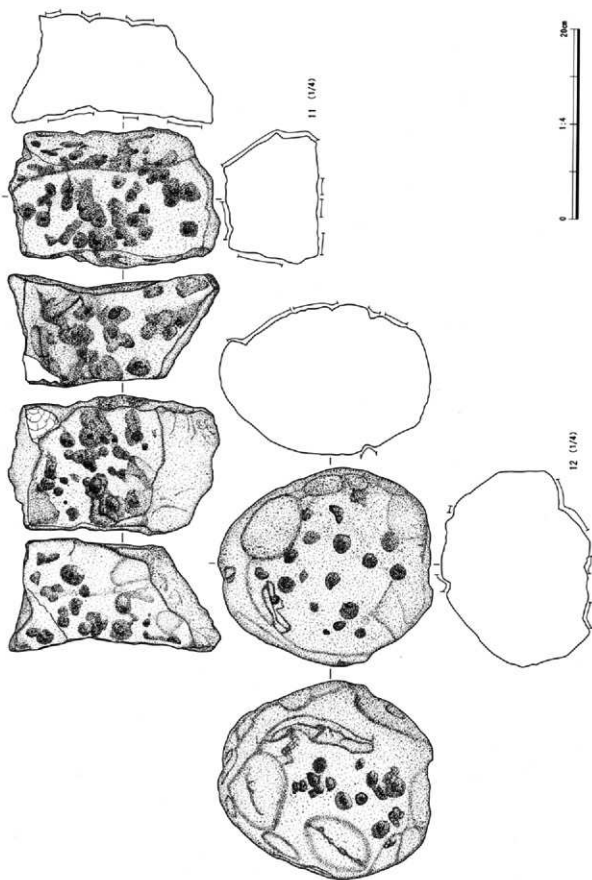
第132図 3号配石出土石器実測図(4)



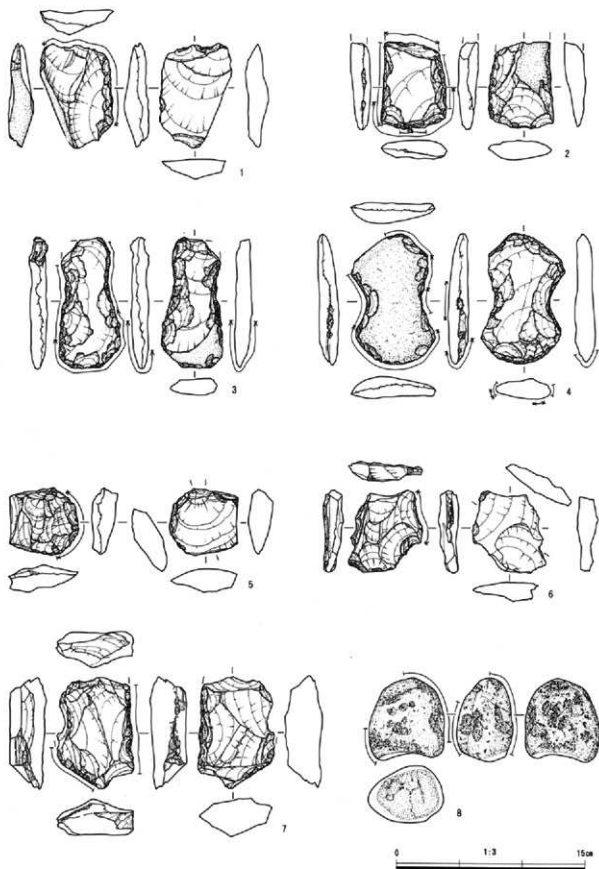
第133图 8号配石出土石器实测图(1)



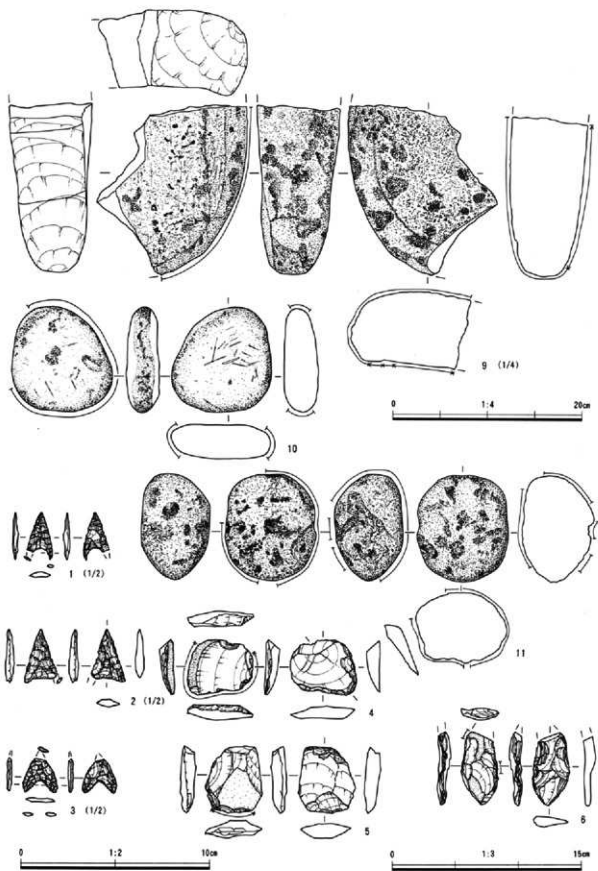
第134図 6号配石出土石器実測図(2)



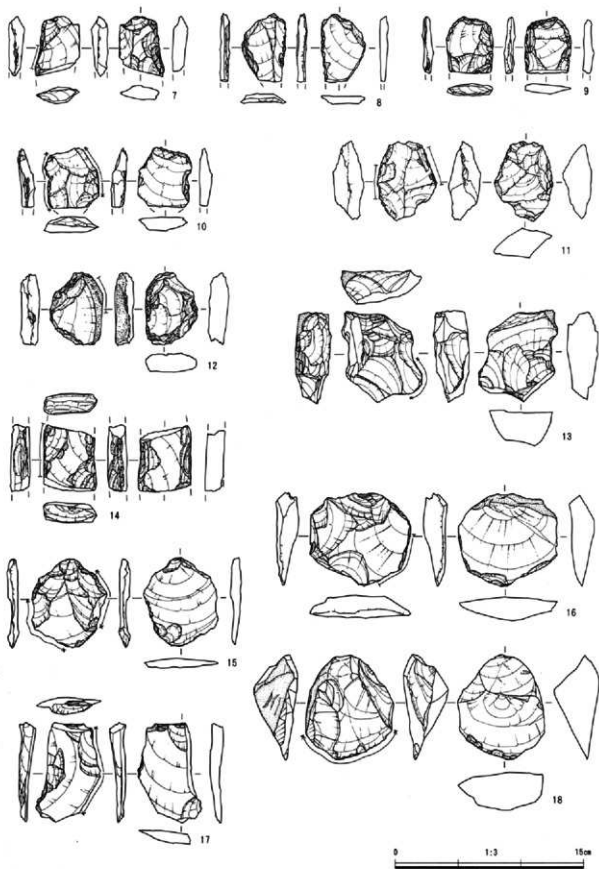
第135図 8号配石出土石器実測図(3)



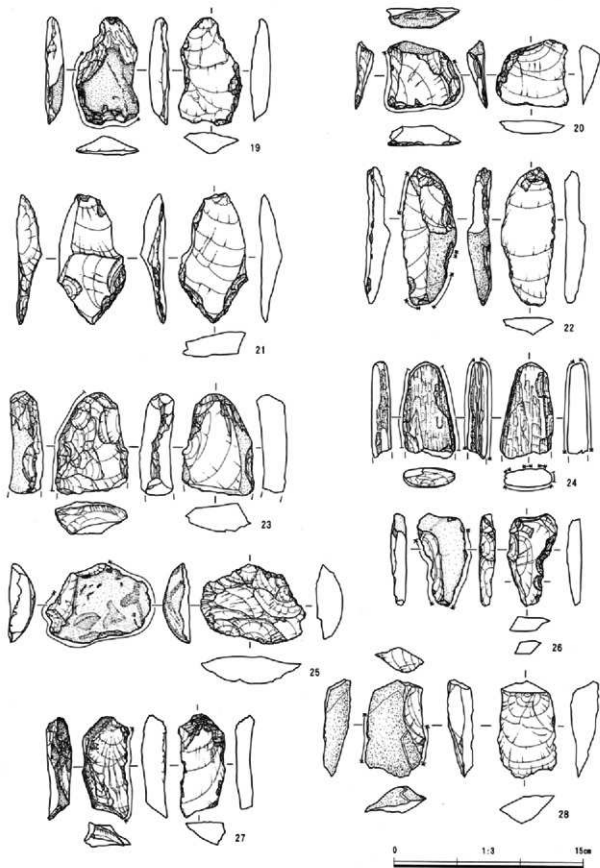
第136図 7号配石出土石器実測図



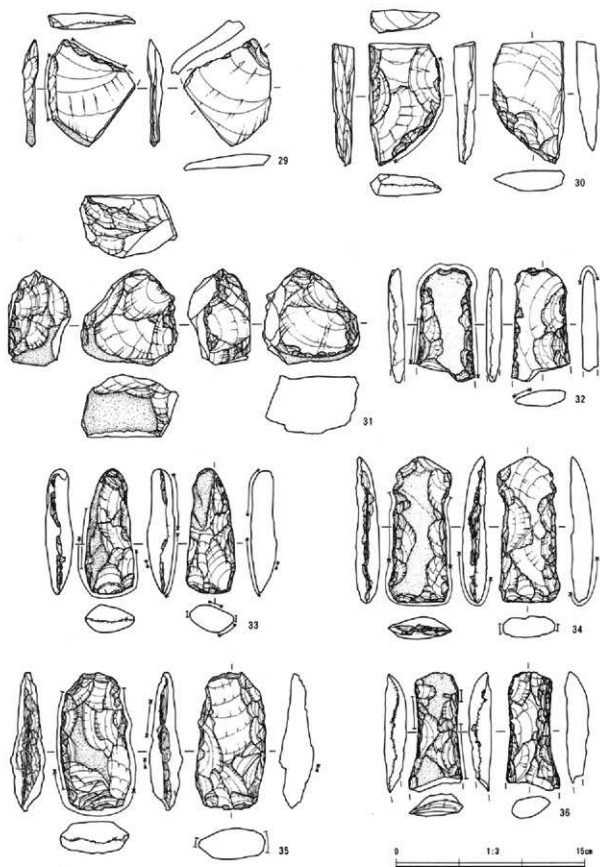
第137图 7号·9号配石出土石器实测图

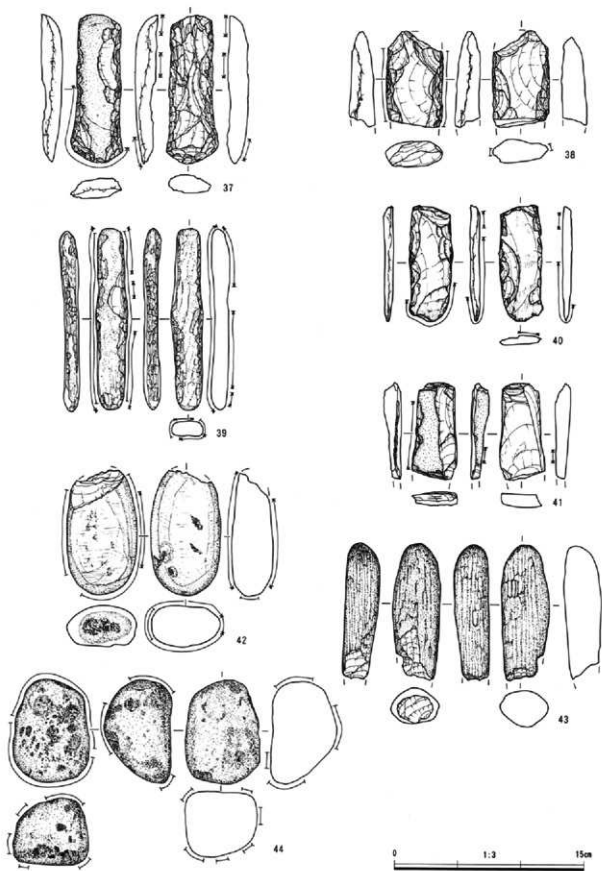


第138圖 9号配石出土石器実測図(1)

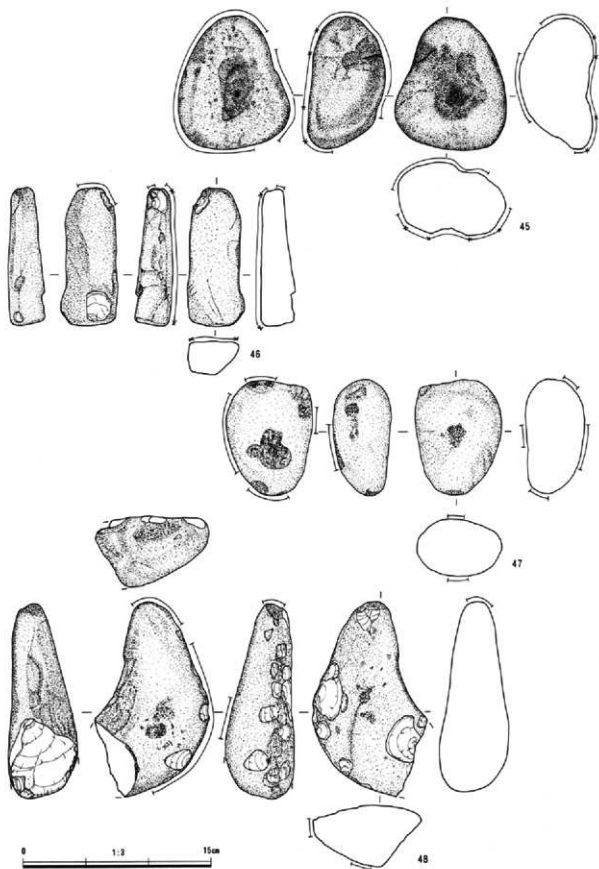


第139图 9号配石出土石器实测图(2)

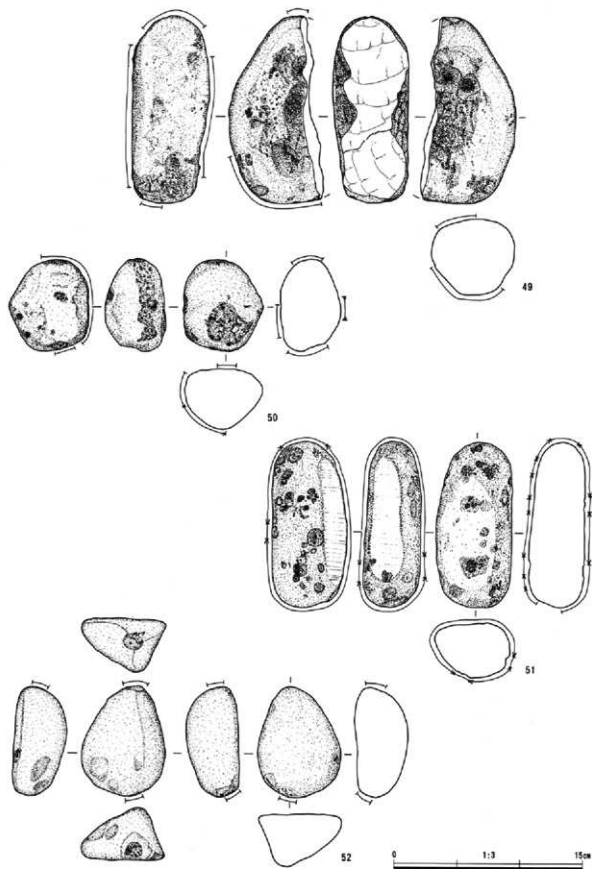




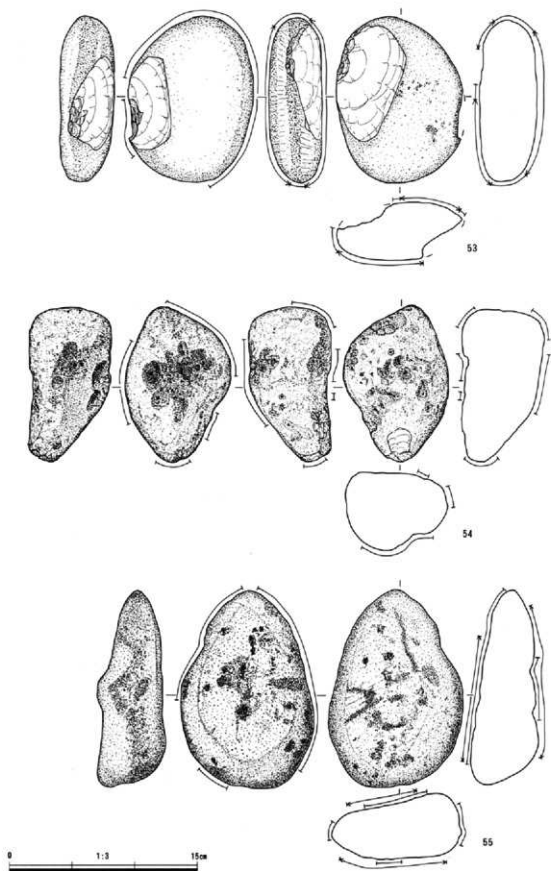
第141图 9号配石出土石器实测图(4)



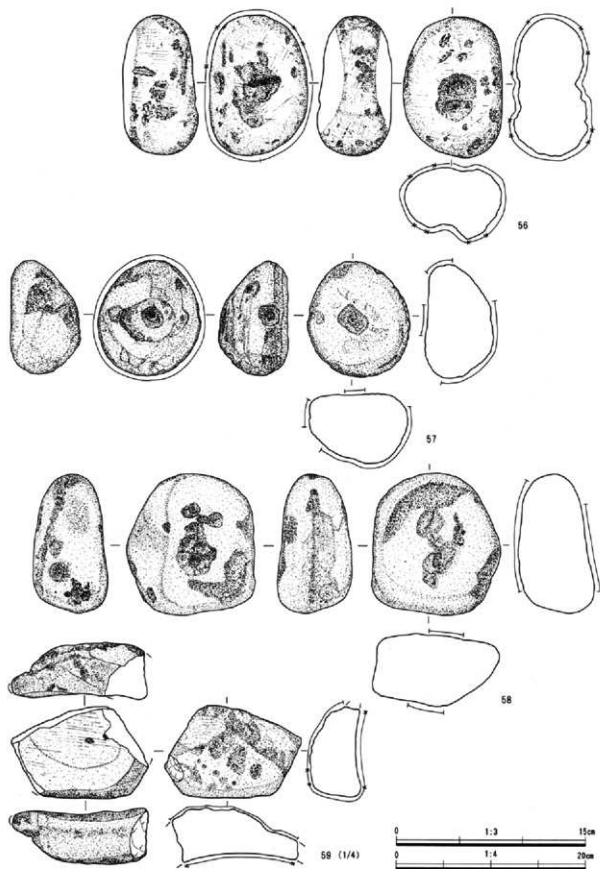
第142図 9号配石出土石器実測図(5)



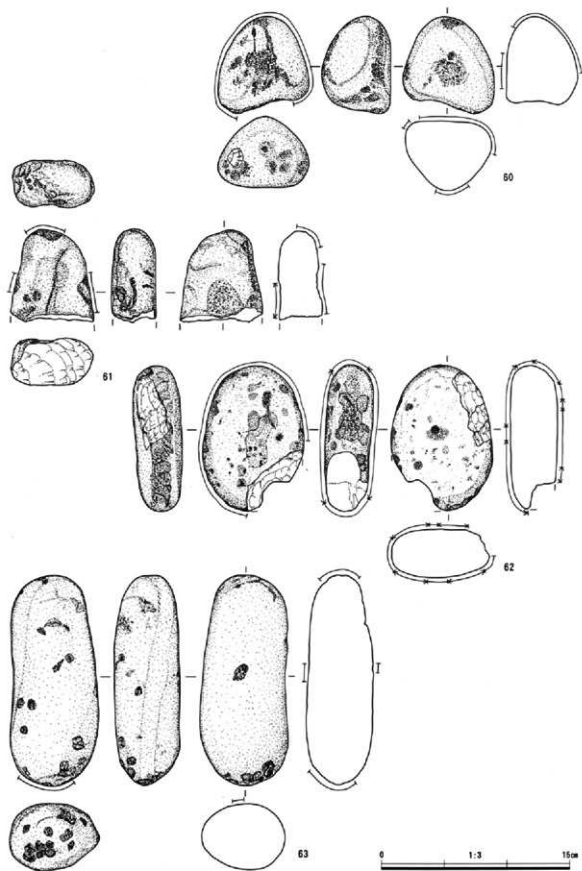
第143图 9号配石出土石器实测图(6)



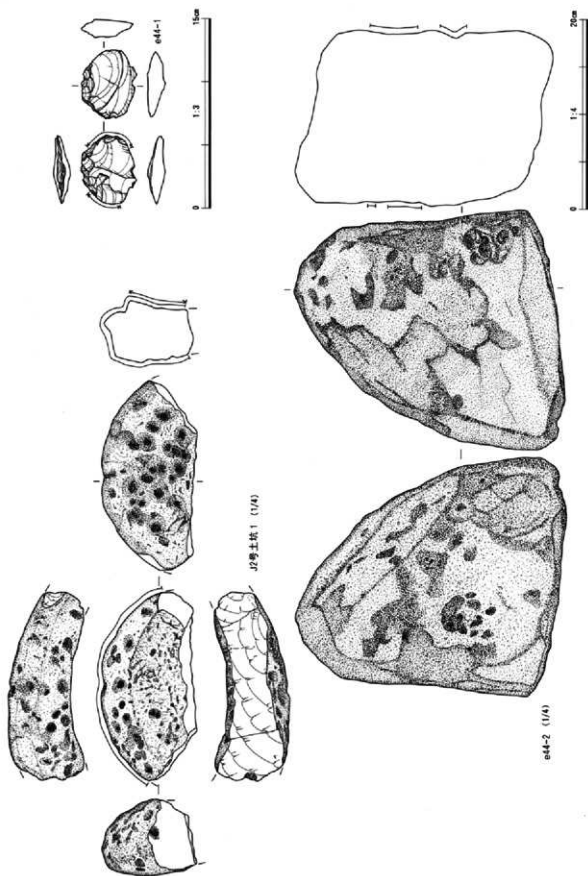
第144図 9号配石出土石器実測図(7)



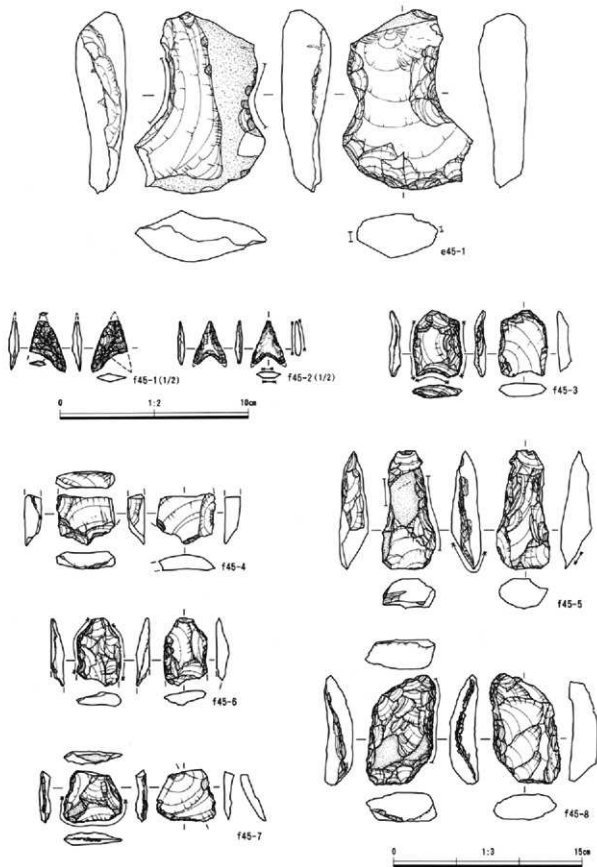
第145图 9号配石出土石器实测图(8)



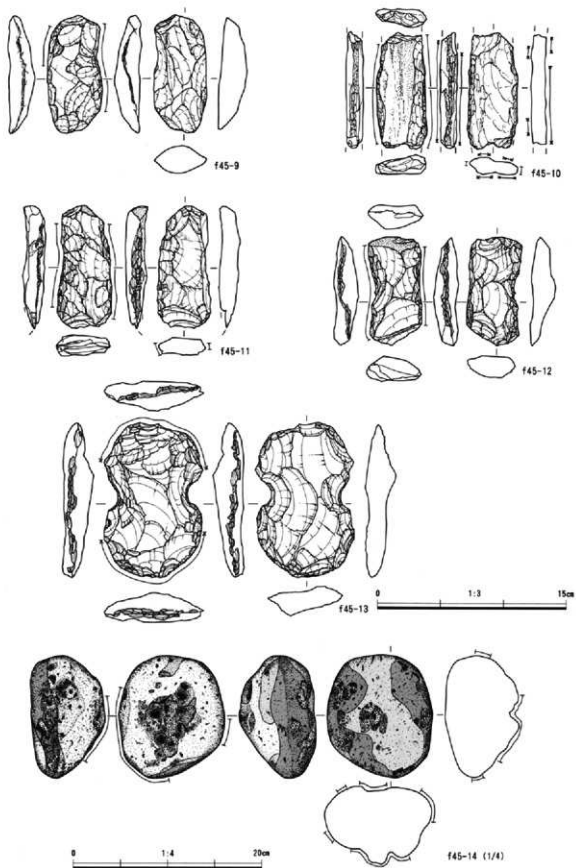
第146图 9号配石出土石器実測图(9)



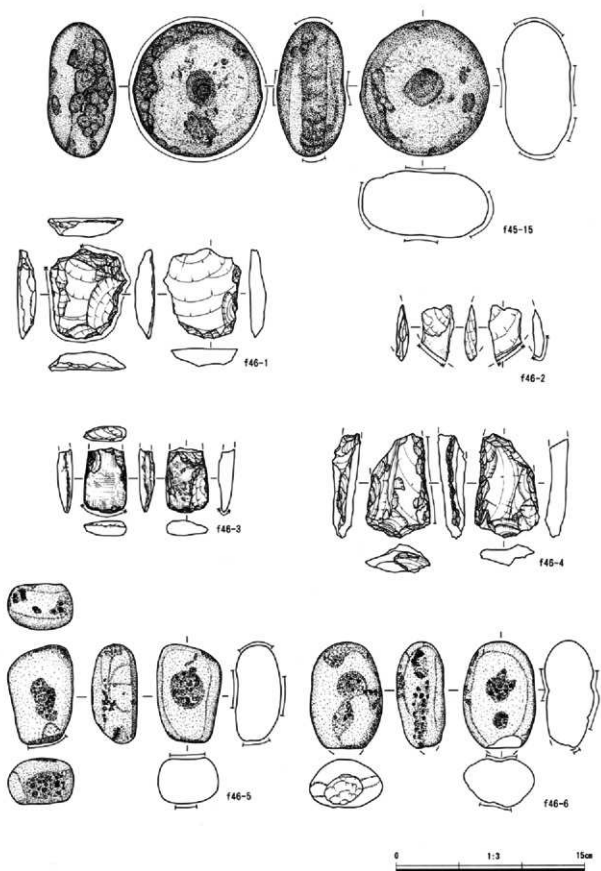
第147図 J2号土坑・グリッド出土石器実測図



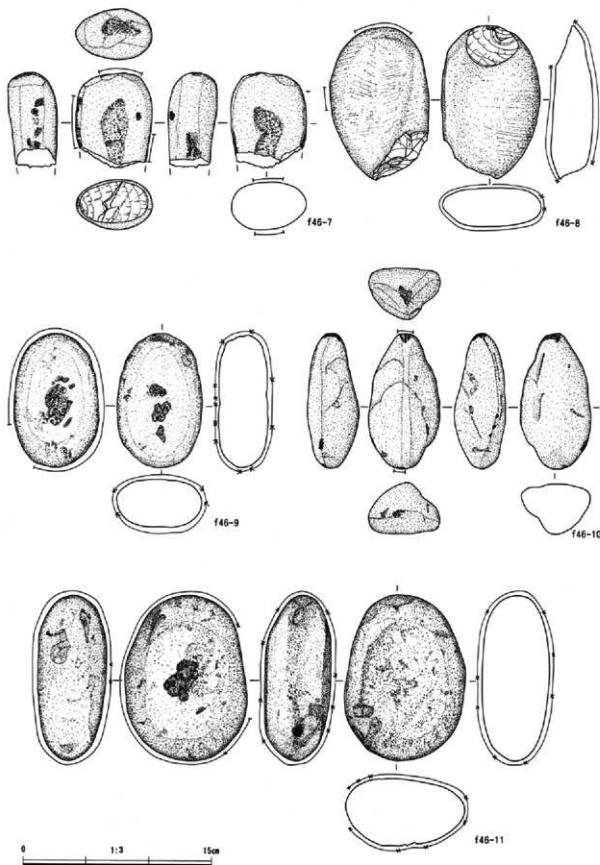
第148図 G区グリッド出土石器実測図(1)



第149図 G区グリッド出土石器実測図(2)

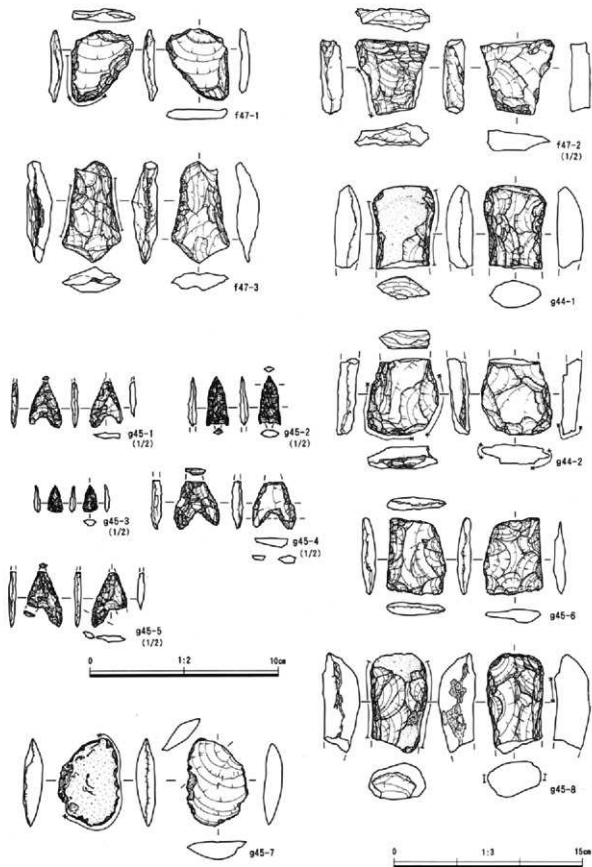


第150図 G区グリッド出土石器実測図(3)

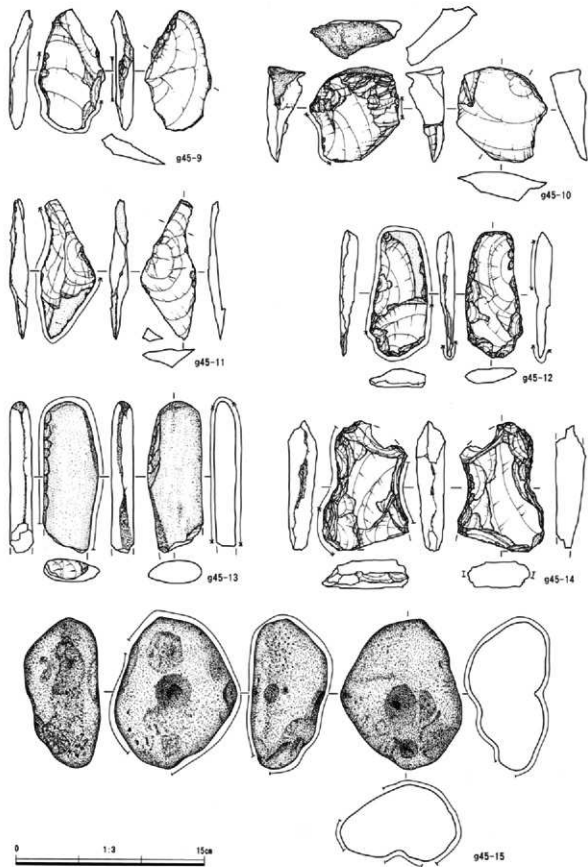


第151図 G区グリッド出土石器実測図(4)

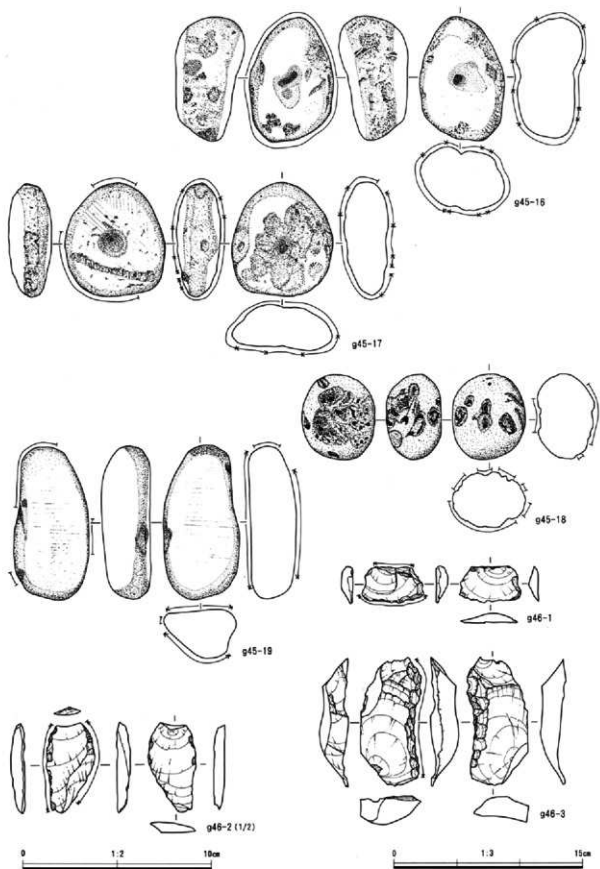
第2節 縄文時代



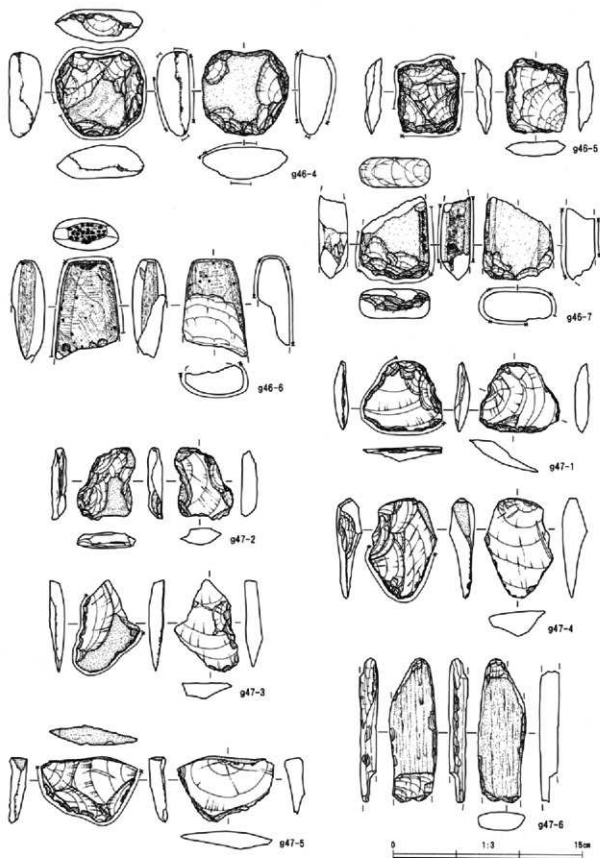
第152図 G区グリッド出土石器実測図(5)



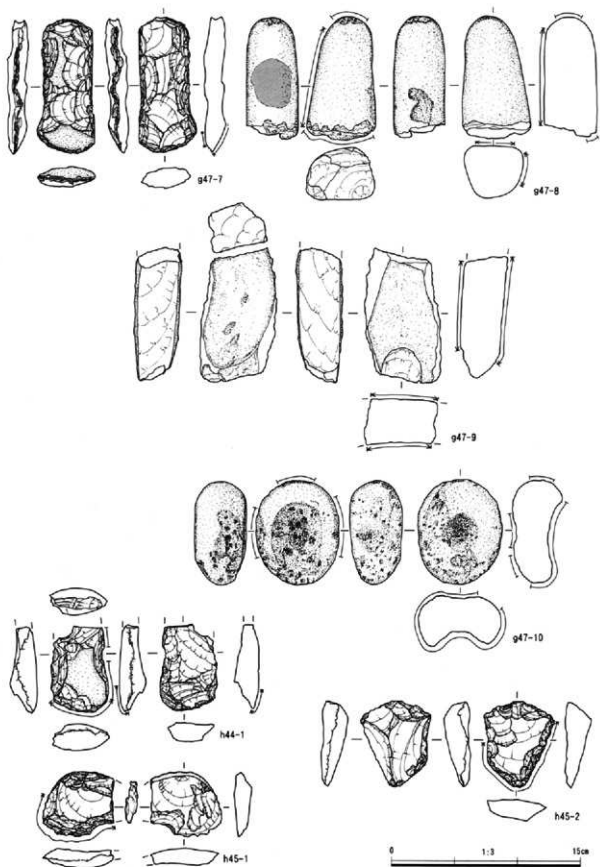
第153図 G区グリッド出土石器実測図(6)



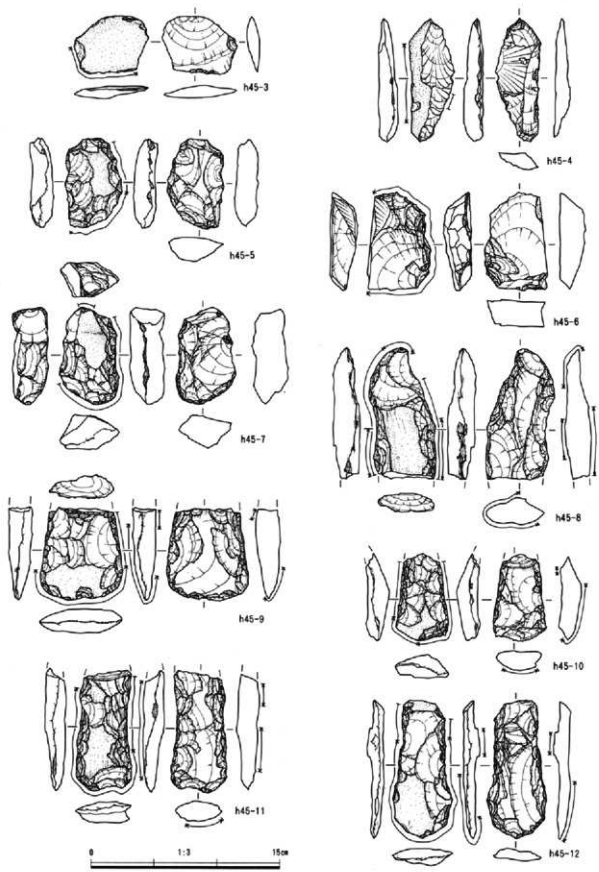
第154図 G区グリッド出土石器実測図(7)



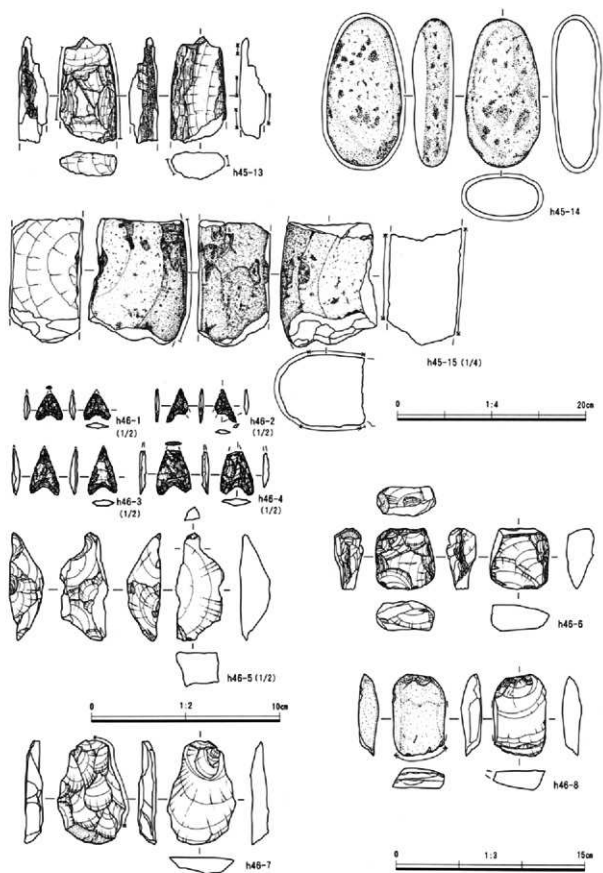
第155図 G区グリッド出土石器実測図(8)



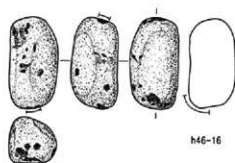
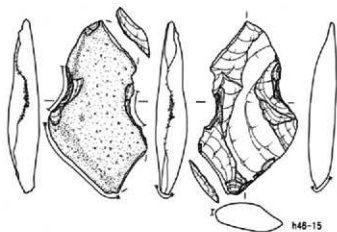
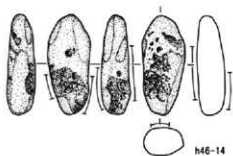
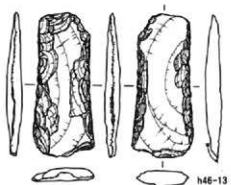
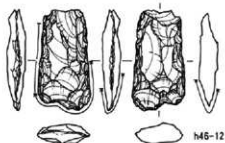
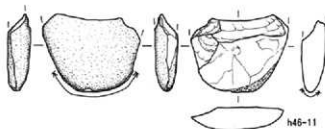
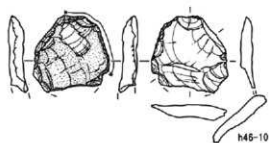
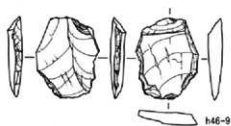
第158図 G区グリッド出土石器実測図(9)



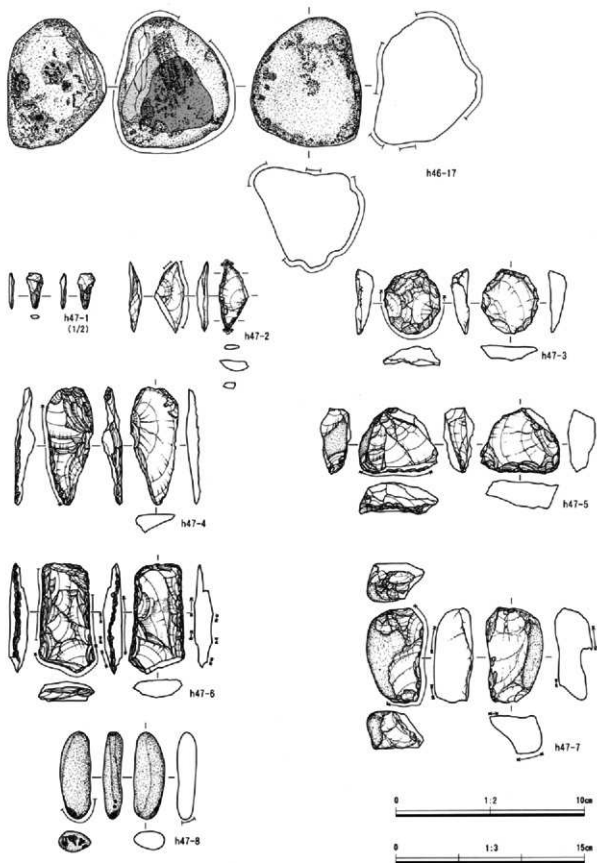
第157図 G区グリッド出土石器実測図(10)



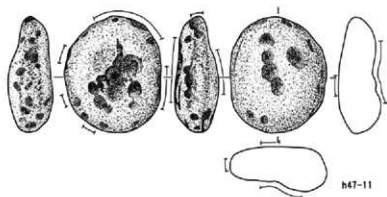
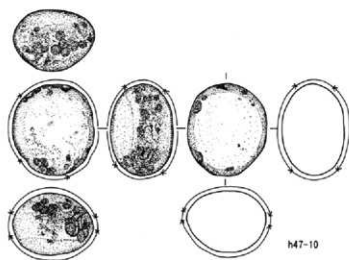
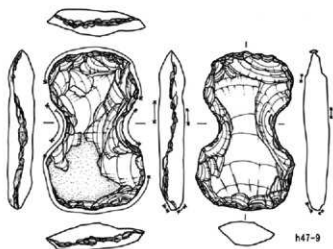
第158図 G区グリッド出土石器実測図(11)



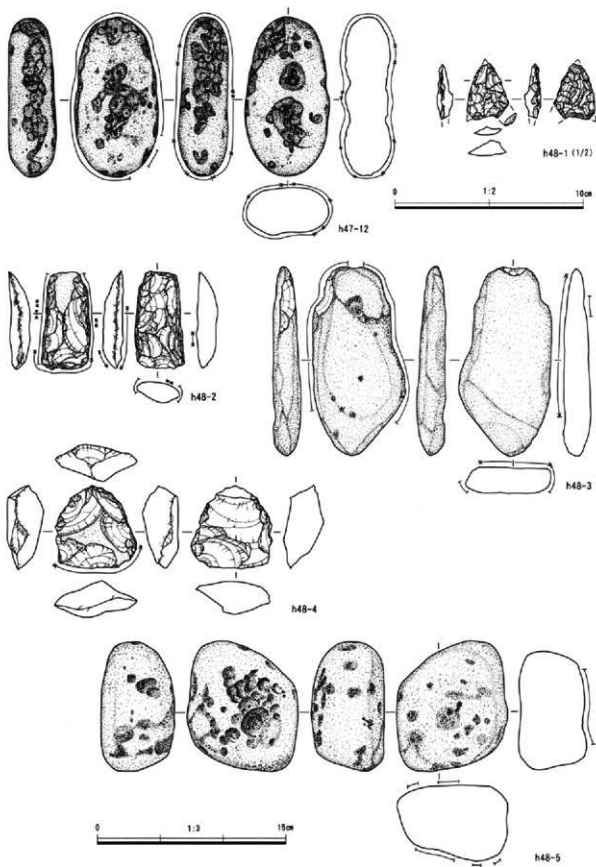
第159図 G区グリッド出土石器実測図(12)



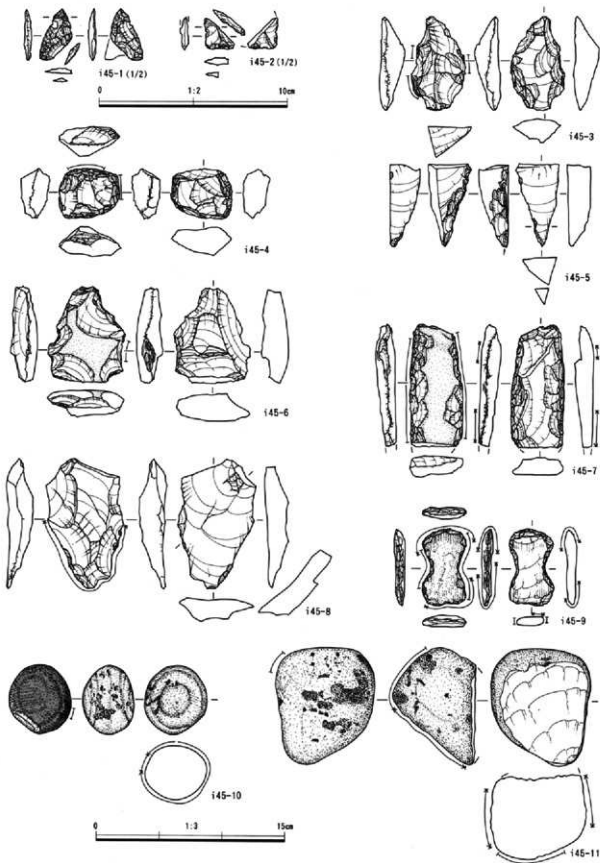
第100図 G区グリッド出土石器実測図(13)



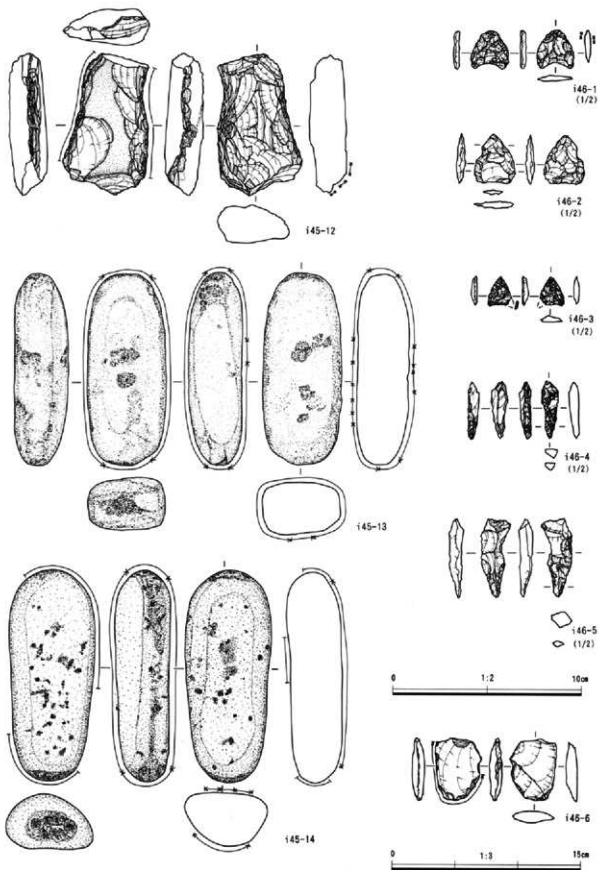
第161図 G区グリッド出土石器実測図 (14)



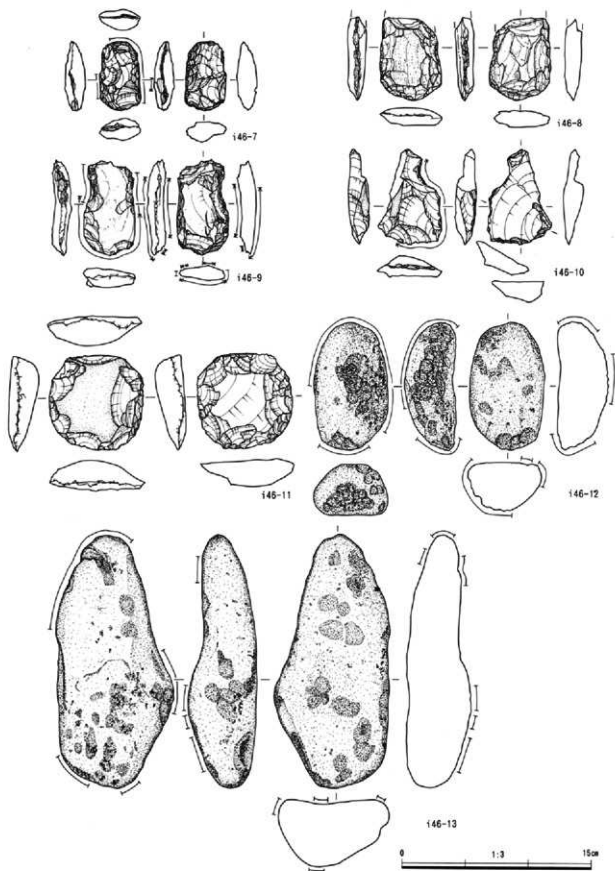
第162図 G区グリッド出土石器実測図(15)



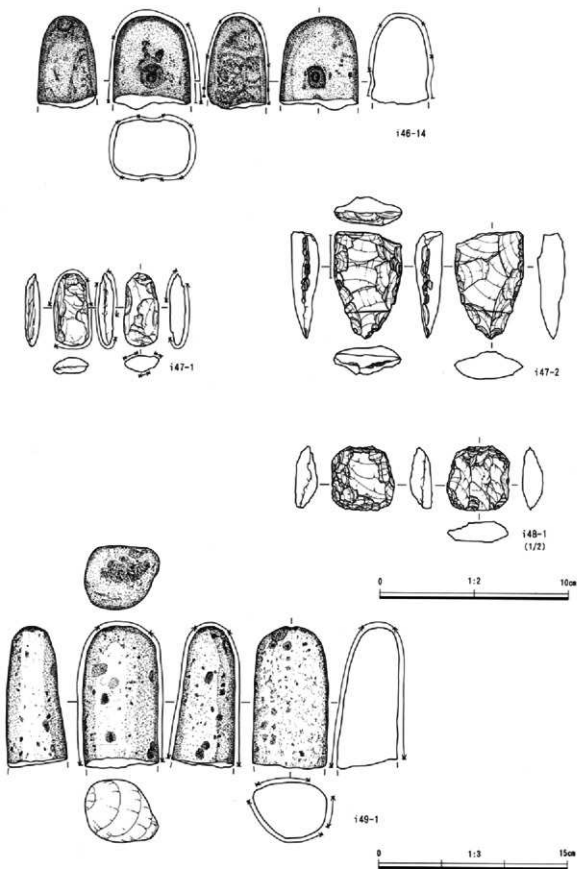
第183図 G区グリッド出土石器実測図 (16)



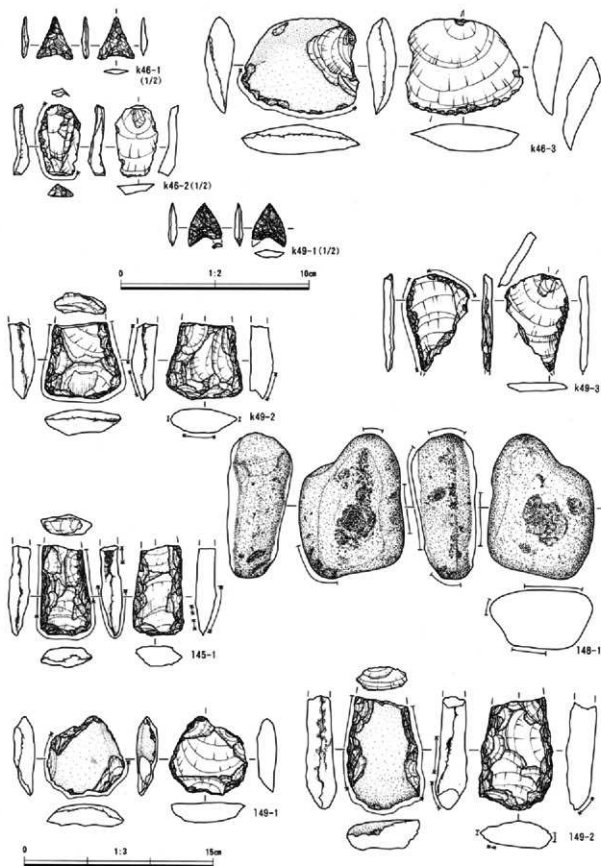
第164図 G区グリッド出土石器実測図 (17)



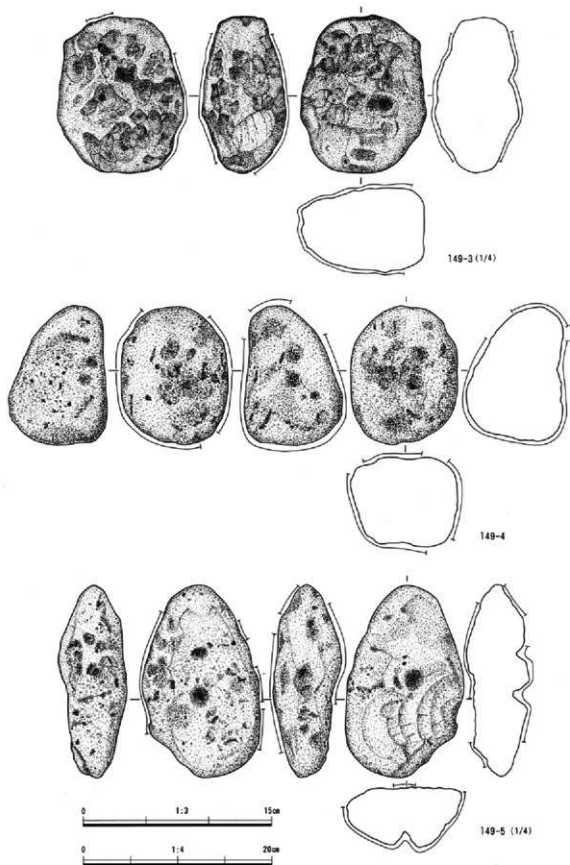
第165図 G区グリッド出土石器実測図(18)



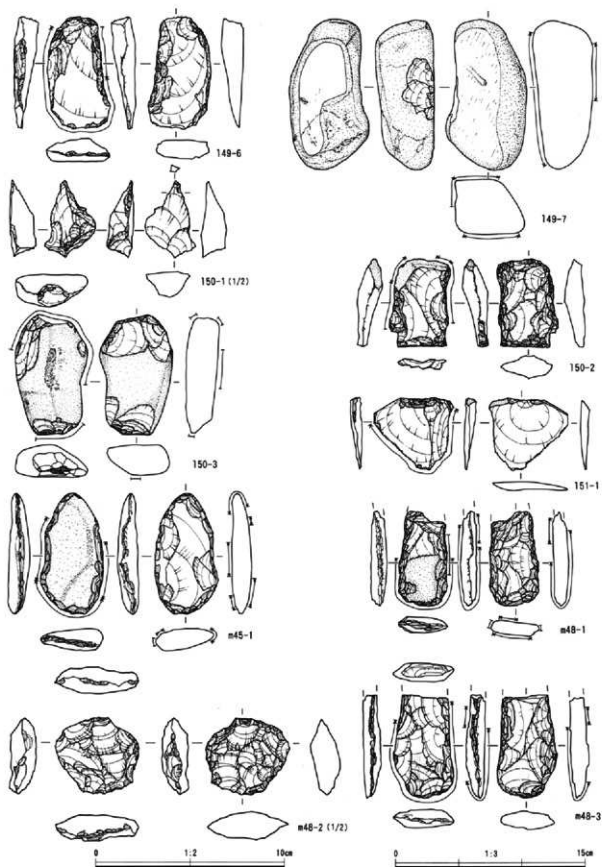
第186図 G区グリッド出土石器実測図(19)



第167図 G区グリッド出土石器実測図(20)

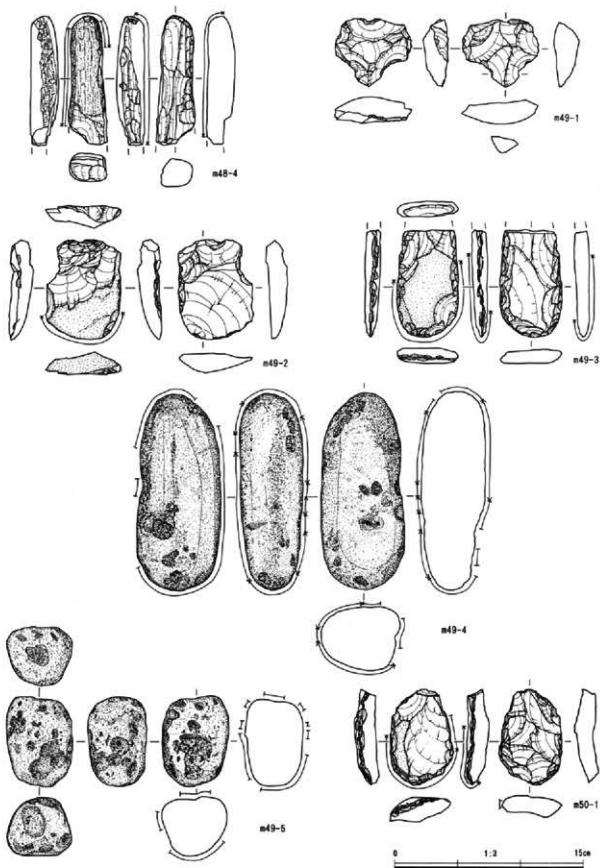


第188図 G区グリッド出土石器実測図(21)

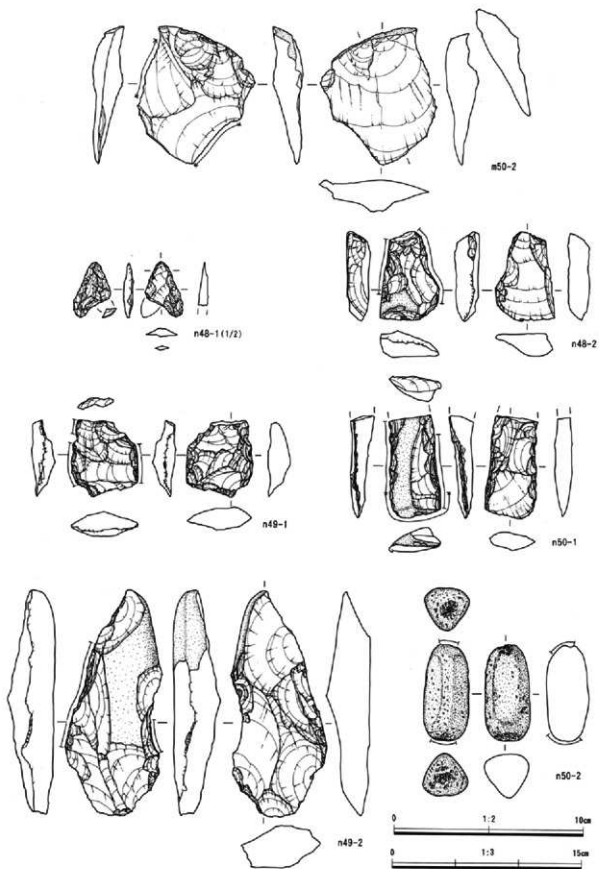


第169図 G区グリッド出土石器実測図 (22)

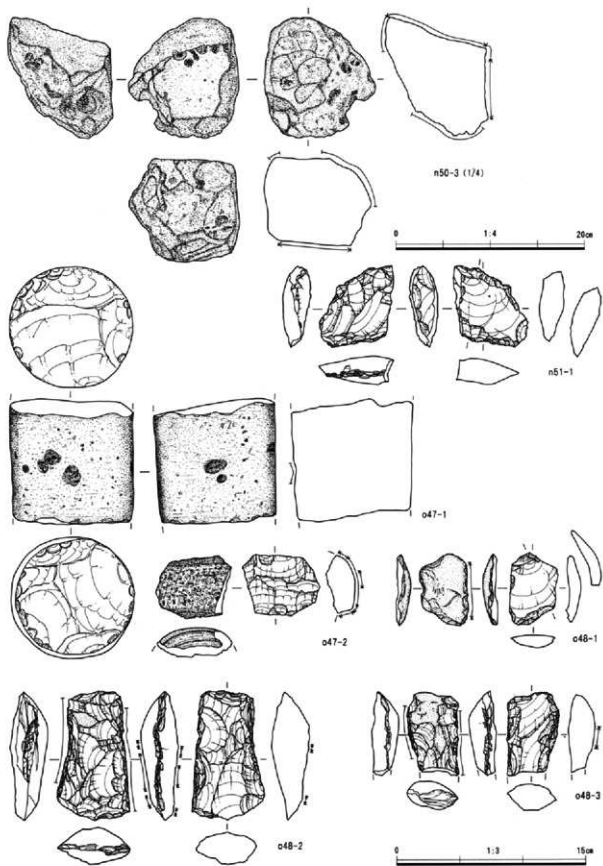
第2節 縄文時代



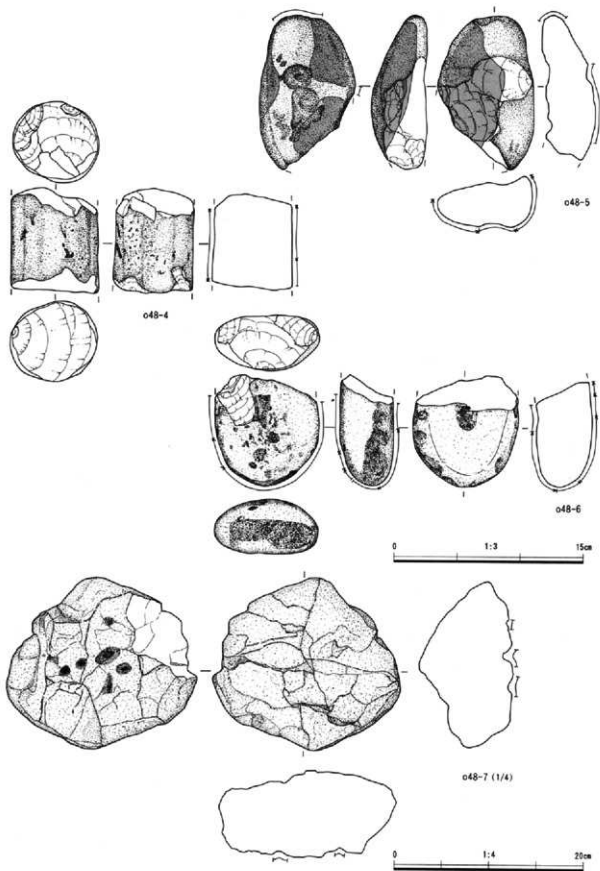
第170図 G区グリッド出土石器実測図 (23)



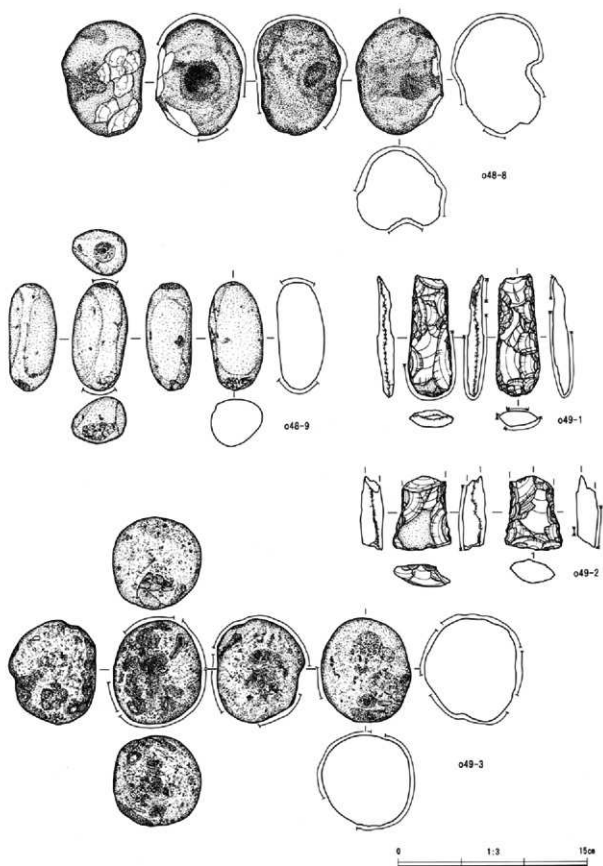
第171図 G区グリッド出土石器実測図 (24)



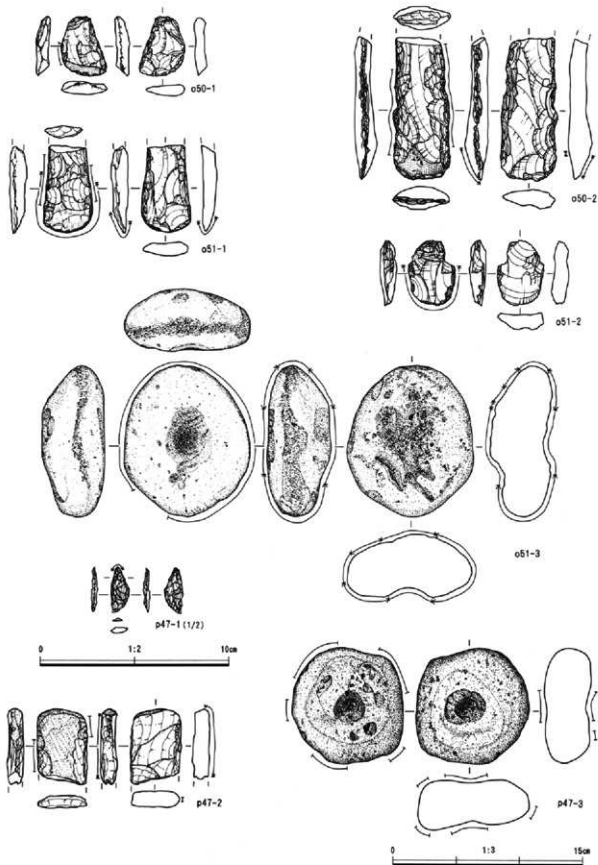
第172図 G区グリッド出土石器実測図 (25)



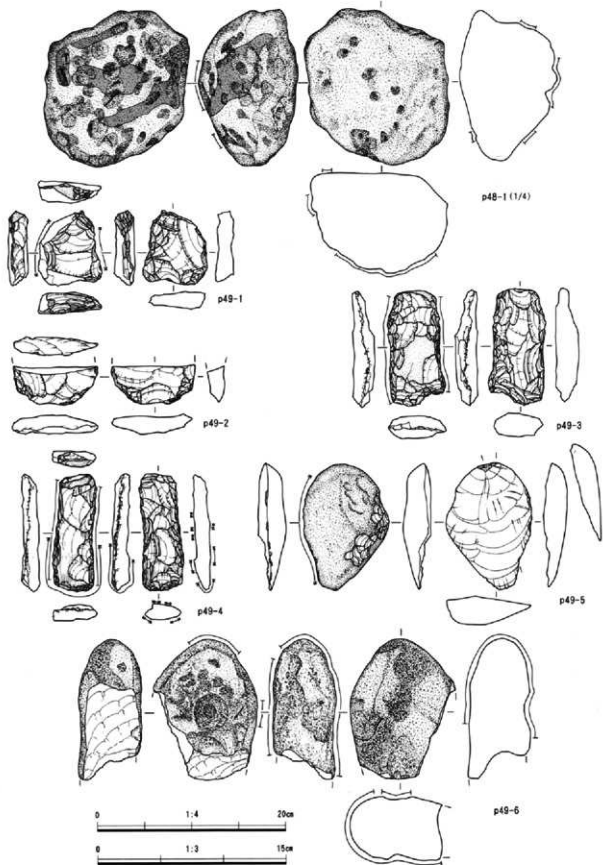
第173図 G区グリッド出土石器実測図 (28)



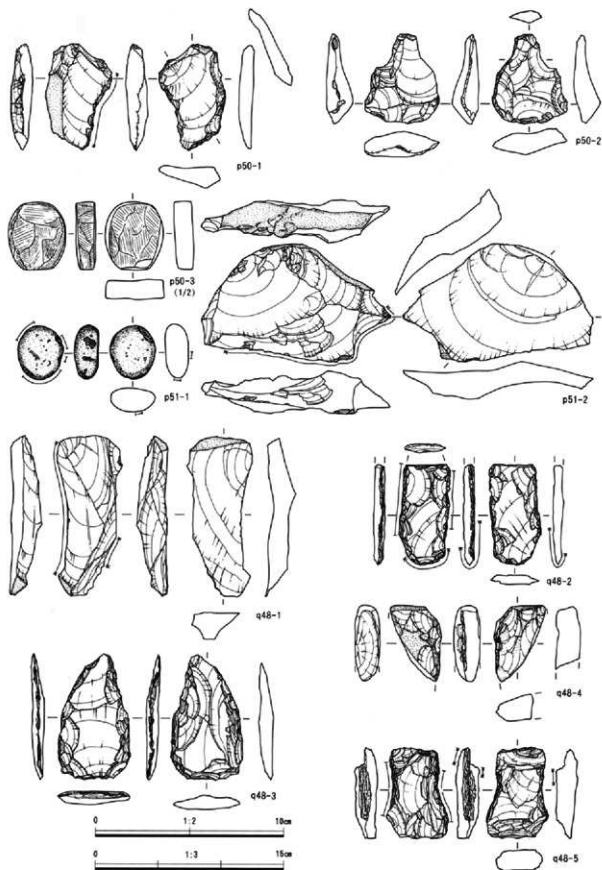
第174図 G区グリッド出土石器実測図(27)



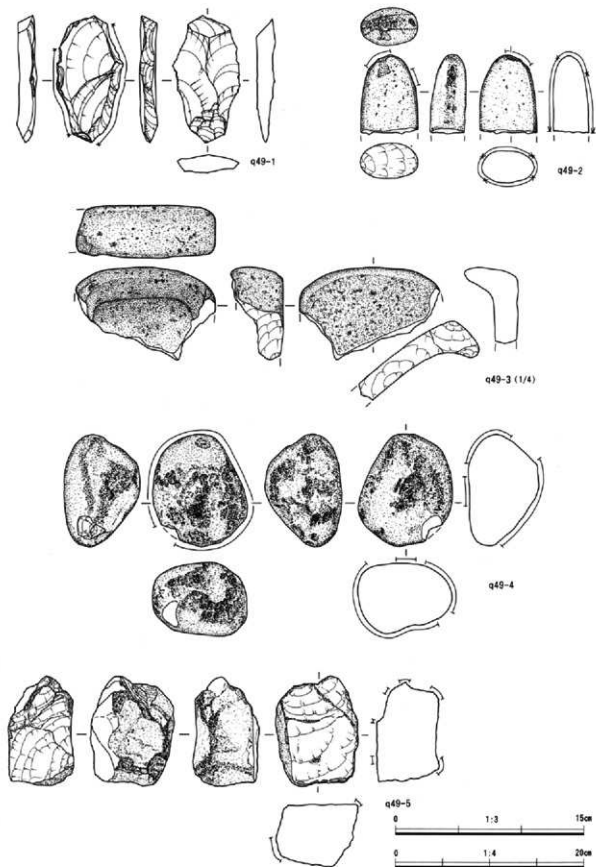
第175図 G区グリッド出土石器実測図(28)



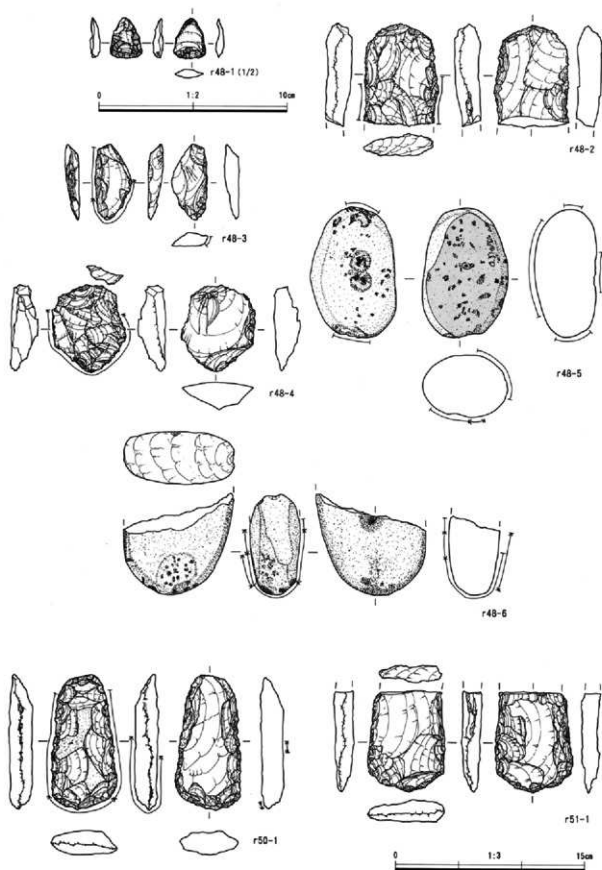
第176図 G区グリッド出土石器実測図(29)



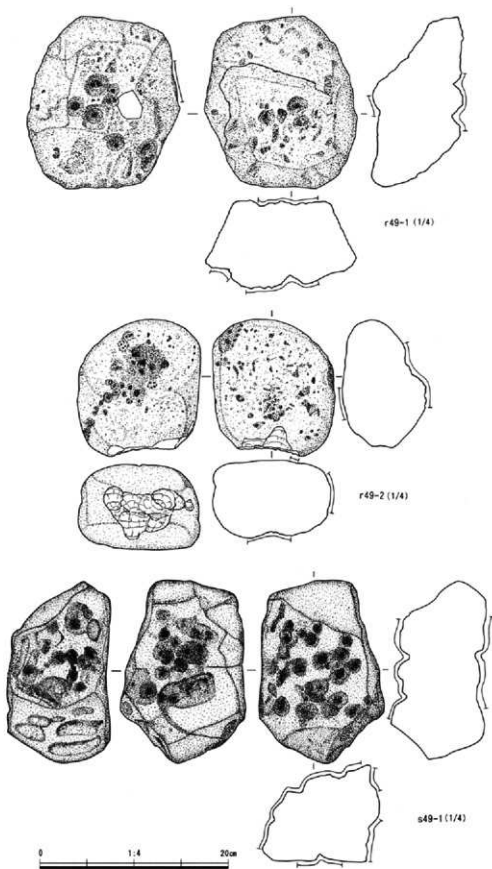
第177図 G区グリッド出土石器実測図(30)



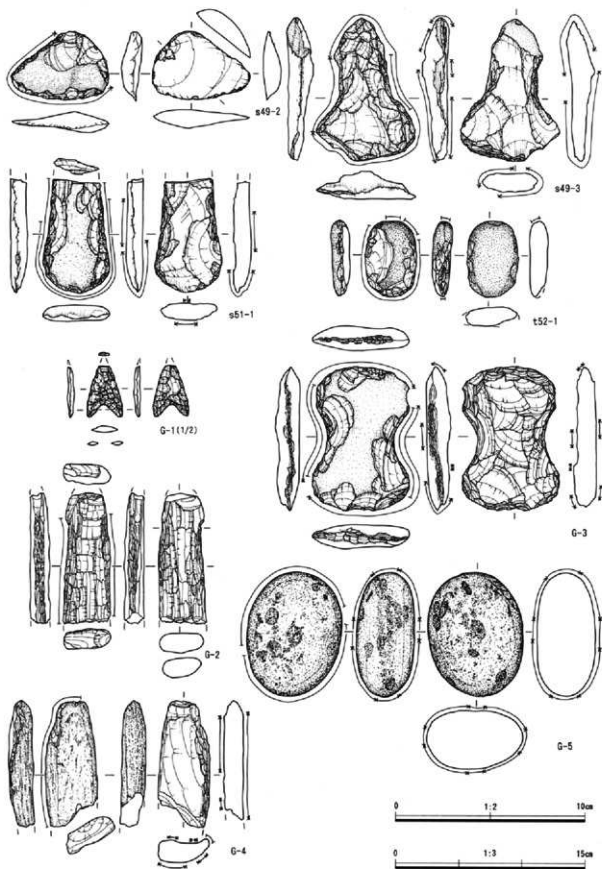
第178図 G区グリッド出土石器実測図 (31)



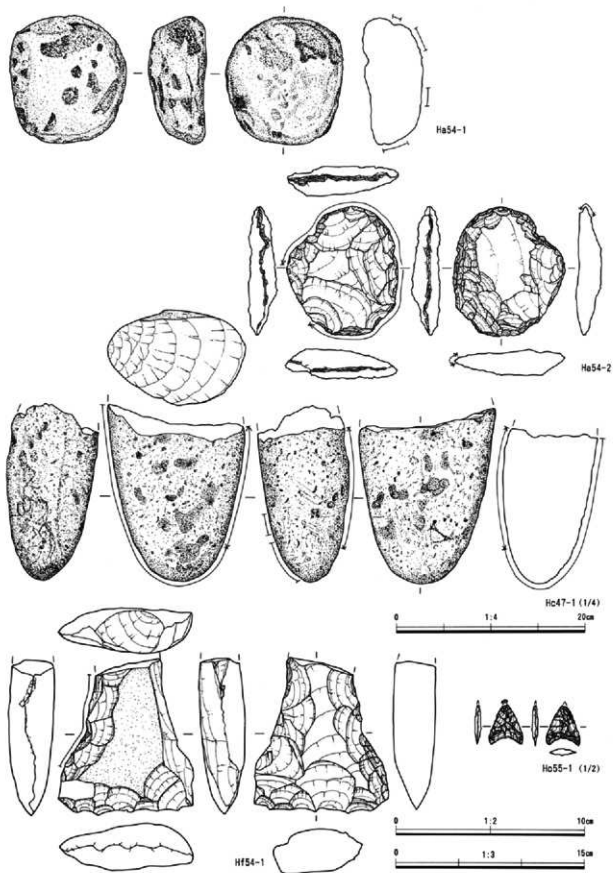
第179図 G区グリッド出土石器実測図(32)



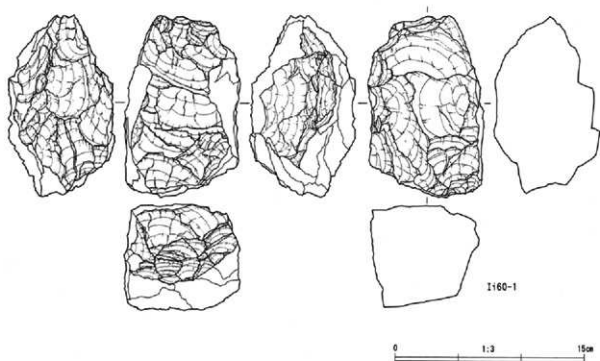
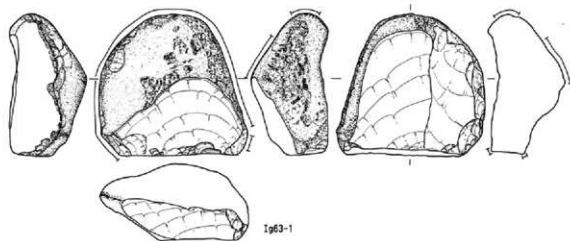
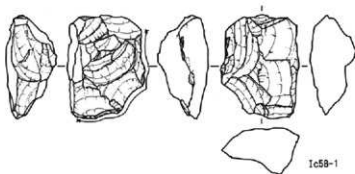
第180図 G区グリッド出土石器実測図 (33)



第181図 G区グリッド出土石器実測図 (34)

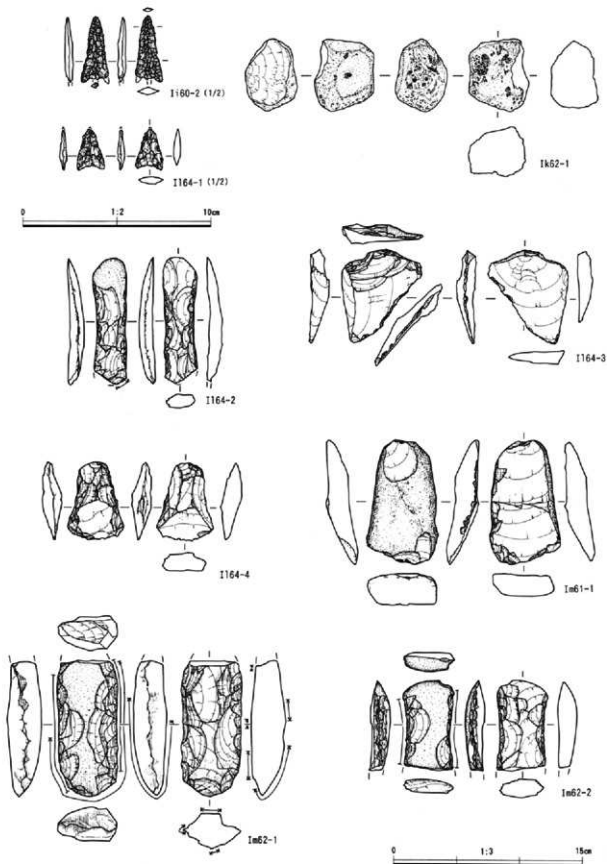


第182図 H区グリッド出土石器実測図

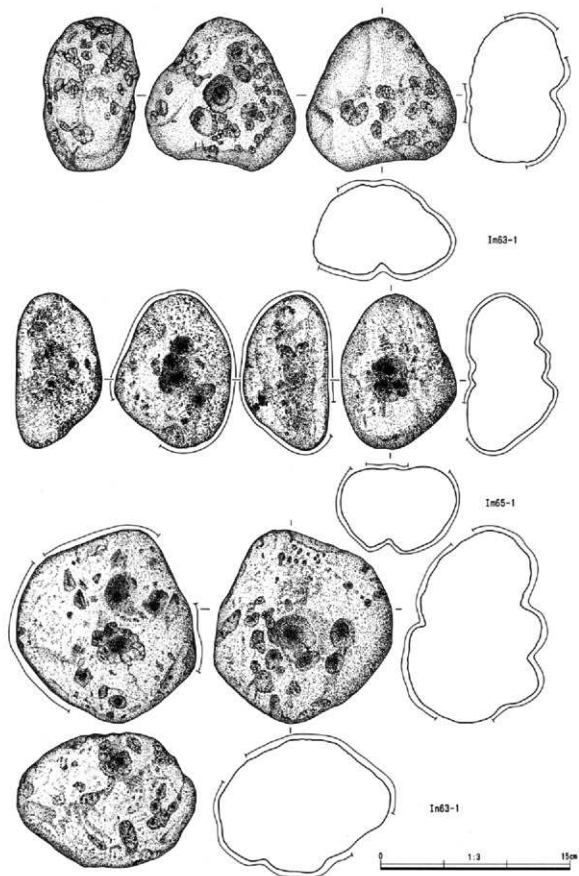


第103図 1区グリッド出土石器実測図(1)

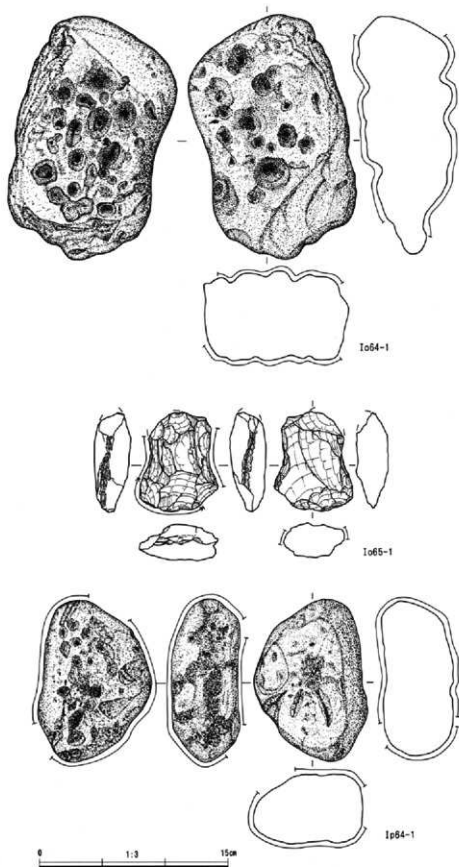
第2節 縄文時代



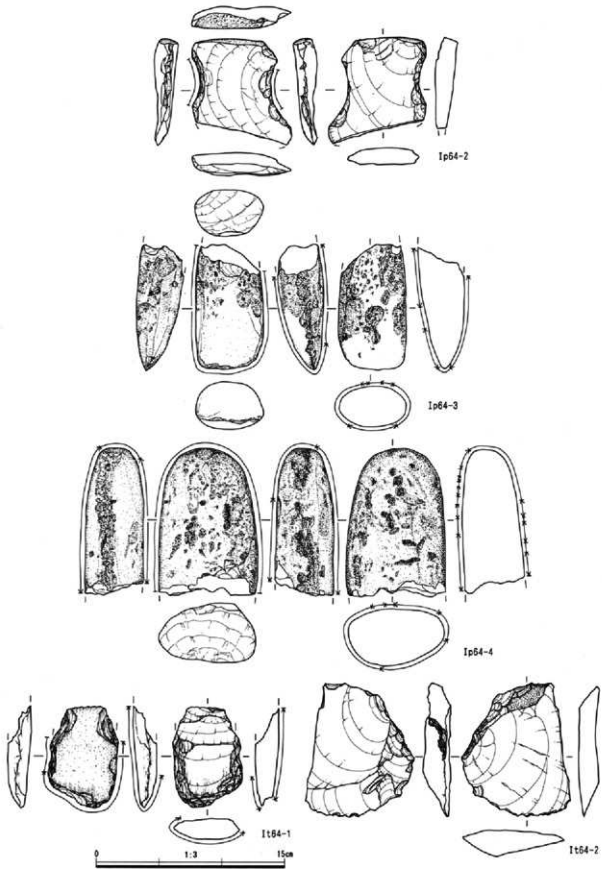
第184図 Ⅰ区グリッド出土石器実測図(2)



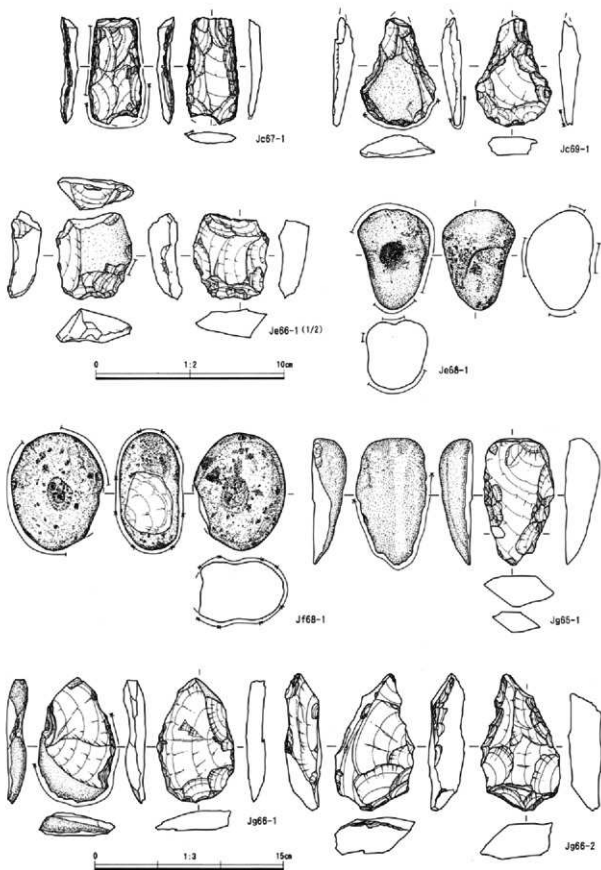
第185図 1区グリッド出土石器実測図(3)



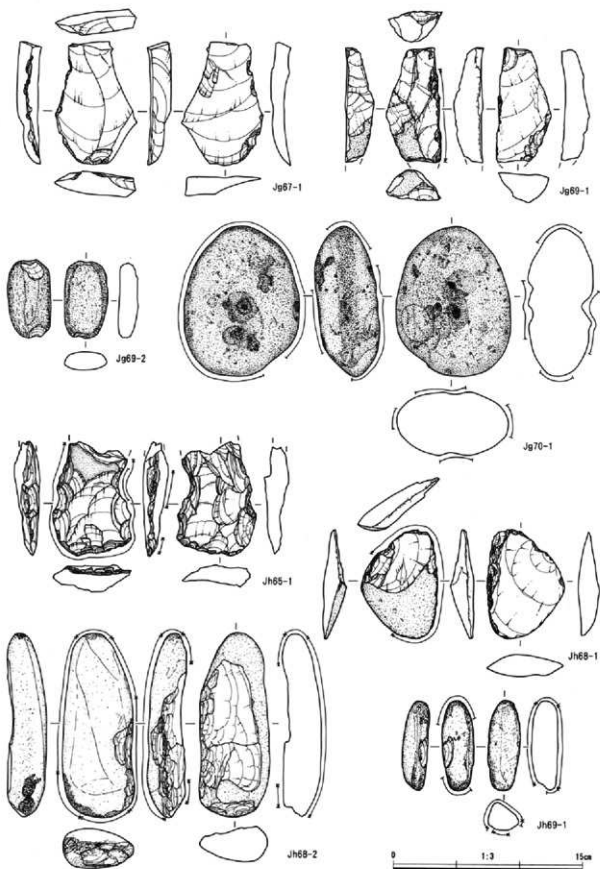
第186図 I区グリッド出土石器実測図(4)



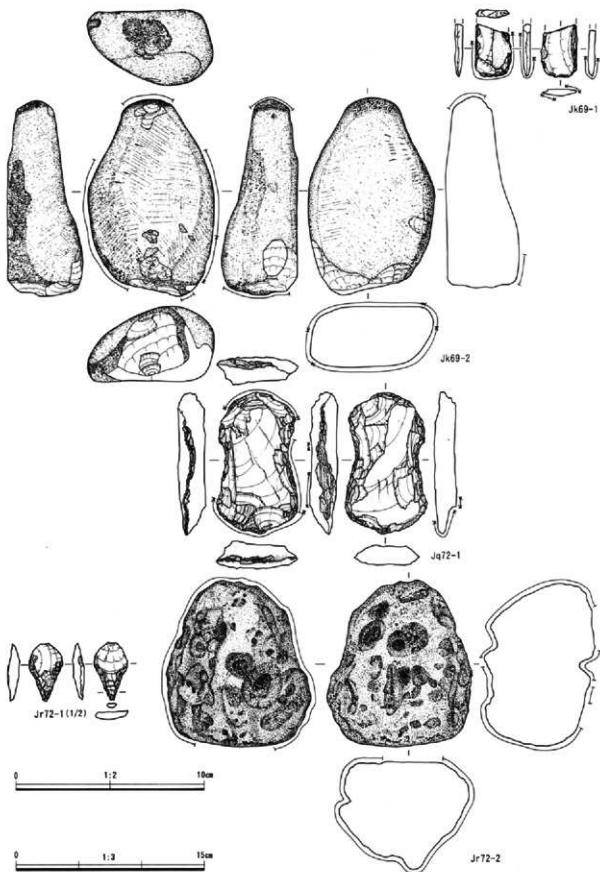
第187図 I区グリッド出土石器実測図(5)



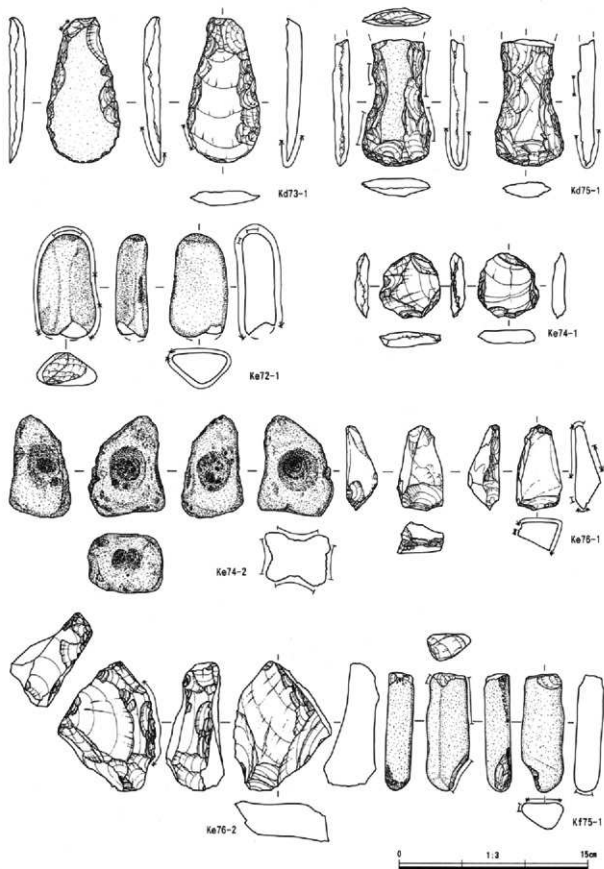
第188図 J区グリッド出土石器実測図(1)



第189図 J区グリッド出土石器実測図(2)

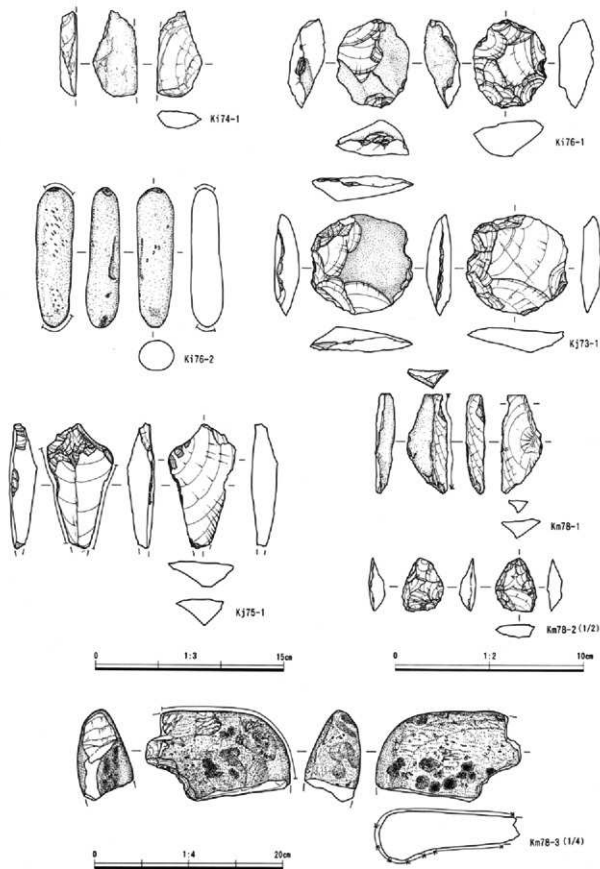


第190図 J区グリッド出土石器実測図(3)

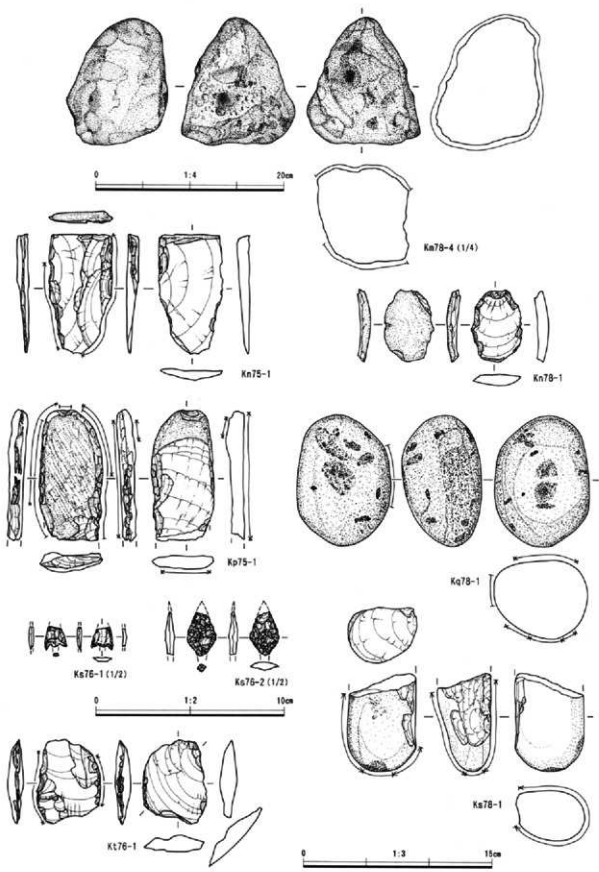


第191図 K区グリッド出土石器実測図(1)

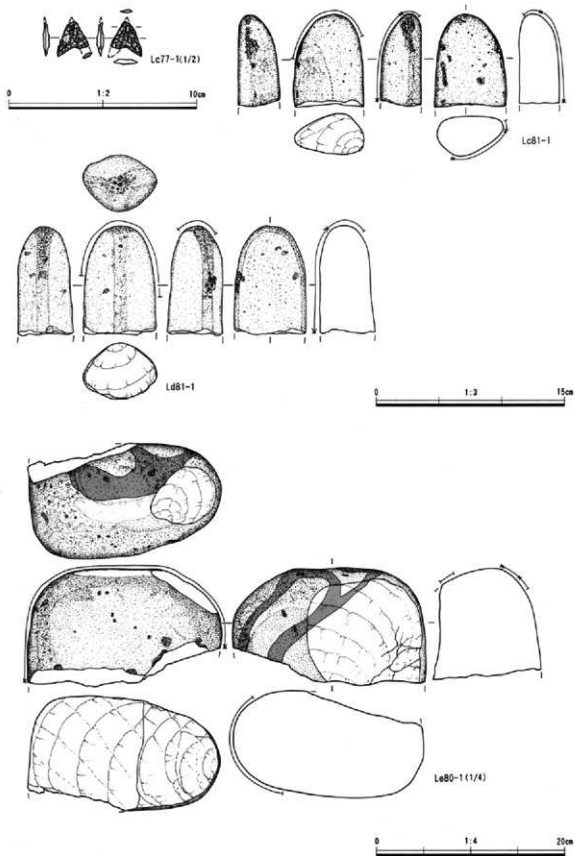
第2節 縄文時代

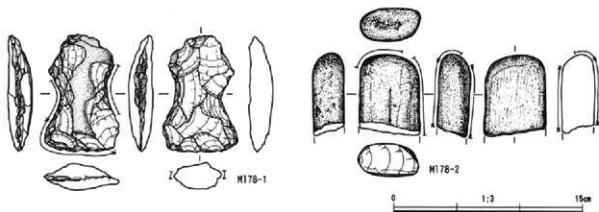
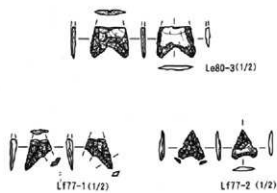
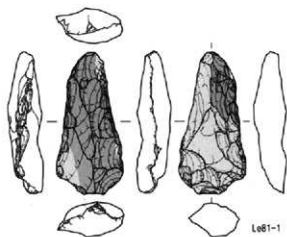
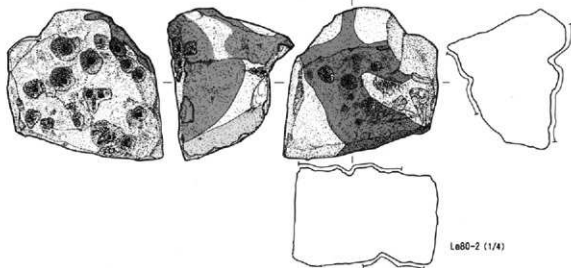


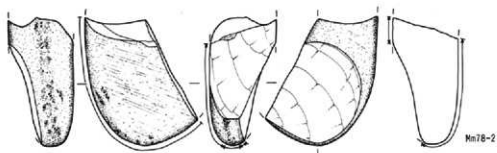
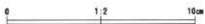
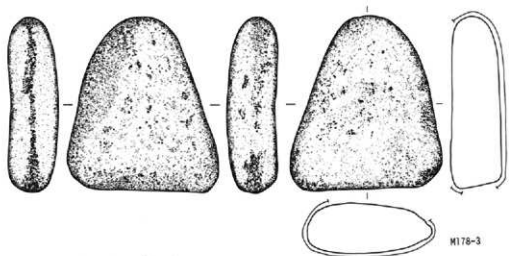
第182図 K区グリッド出土石器実測図(2)



第193図K区グリッド出土石器実測図(3)







第196図 M区グリッド出土石器実測図

第21表 集石出土石器計測表

図版・写真番号	整理番号	器種	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
第107図 P.L. 98	1集1	石鏃(頰欠)	G区1集石覆土	2.6	2.0	0.5	1.9	黒色安山岩	
第107図 P.L. 98	1集2	石鏃	G区1集石覆土	4.1	2.4	1.1	7.0	黒色安山岩	
第107図 P.L. 98	1集3	UF	G区1集石覆土	6.5	3.3	1.9	33.5	黒色頁岩	
第107図 P.L. 98	1集4	打弁(頰~脚)	G区1集石覆土	6.0	3.9	1.4	49.8	灰色安山岩	頰左端一部磨滅
第107図 P.L. 98	1集5	打弁(脚)	G区1集石覆土	5.1	4.8	1.5	51.6	灰色安山岩	磨滅に再生
第107図 P.L. 98	1集6	凹・敲石	G区1集石覆土	5.2	6.1	3.4	100.5	粗粒輝石安山岩	
第107図 P.L. 98	1集7	打弁(脚)	G区1集石覆土	8.6	5.0	1.2	78.8	細粒輝石安山岩	上下欠損
第107図 P.L. 98	1集8	凹石	G区1集石覆土	23.7	18.5	11.1	5100.0	粗粒輝石安山岩	角礫素材
第108図 P.L. 98	1集9	敲石	G区1集石覆土	12.1	7.9	4.3	460.0	粗粒輝石安山岩	
第108図 P.L. 98	1集10	磨・敲石	G区1集石覆土	12.4	6.0	3.1	360.5	粗粒輝石安山岩	磨面顯著
第108図 P.L. 98	1集11	凹石	G区1集石覆土	11.8	7.6	5.2	480.0	粗粒輝石安山岩	
第108図 P.L. 98	3集1	磨・敲・凹石	G区3集石覆土	8.8	7.4	4.2	430.0	粗粒輝石安山岩	被熱(焼けて変色)
第109図 P.L. 99	3集2	石棒(下半欠)	G区3集石覆土	28.1	11.6	12.0	4200.0	デイスait	
第109図 P.L. 99	3集3	凹石	G区3集石覆土	22.4	13.5	13.4	4160.0	粗粒輝石安山岩	
第110図 P.L. 99	3集4	凹石	G区3集石覆土	10.8	7.0	4.9	405.0	粗粒輝石安山岩	
第110図 P.L. 99	4集1	打弁(刃)	G区4集石覆土	7.3	4.1	1.4	63.5	灰色安山岩	刃部磨滅
第110図 P.L. 99	4集2	削器	G区4集石覆土	6.8	5.2	1.7	67.7	黒色頁岩	表面一部磨滅
第110図 P.L. 99	4集3	敲石	G区4集石覆土	9.9	7.5	6.9	580.0	粗粒輝石安山岩	赤変
第110図 P.L. 99	4集4	磨石	G区4集石覆土	16.3	9.8	8.9	1770.0	石英閃緑岩	敲打痕
第111図 P.L. 99	4集5	凹石	G区4集石覆土	16.5	9.7	5.7	650.0	粗粒輝石安山岩	表面若干磨滅
第111図 P.L.100	4集6	敲・凹石	G区4集石覆土	11.4	7.7	4.7	360.0	粗粒輝石安山岩	
第111図 P.L.100	4集7	磨・敲・凹石	G区4集石覆土	11.4	8.6	5.2	500.0	粗粒輝石安山岩	磨面顯著
第112図 P.L.100	5集1	UF	G区5集石覆土	4.7	2.4	1.1	12.5	黒色安山岩	
第112図 P.L.100	5集2	打弁(頰~脚)	G区5集石覆土	8.2	4.6	1.8	111.2	珪質頁岩	両側縁敲打
第112図 P.L.100	5集3	打弁(脚~刃)	G区5集石覆土	8.3	5.9	1.1	55.9	細粒輝石安山岩	刃部磨滅顯著
第112図 P.L.100	5集4	敲石	G区5集石覆土	7.6	2.7	2.2	56.2	石英閃緑岩	風化顯著
第112図 P.L.100	5集5	磨・敲石	G区5集石覆土	8.8	8.8	5.6	670.0	閃緑岩	磨滅顯著
第112図 P.L.100	5集6	凹石	G区5集石覆土	5.5	8.2	3.2	152.7	粗粒輝石安山岩	小形石皿状
第112図 P.L.100	5集7	敲石	G区5集石覆土	10.6	6.2	3.8	340.0	粗粒輝石安山岩	
第113図 P.L.100	5集8	敲石	G区5集石覆土	14.6	11.5	4.6	975.0	粗粒輝石安山岩	被熱赤変、ヒビ割
第113図 P.L.100	5集9	凹石	G区5集石覆土	13.6	10.6	7.2	915.0	粗粒輝石安山岩	
第113図 P.L.101	5集10	敲石	G区5集石覆土	12.4	7.2	6.0	620.0	粗粒輝石安山岩	
第114図 P.L.101	5集11	凹石	G区5集石覆土	20.6	15.1	15.5	5450.0	粗粒輝石安山岩	角礫素材
第114図 P.L.101	5集12	凹石	G区5集石覆土	14.0	13.3	11.9	2900.0	粗粒輝石安山岩	角礫素材
第114図 P.L.101	5集13	磨・敲・凹石	G区5集石覆土	8.9	7.8	5.6	540.0	粗粒輝石安山岩	磨面顯著
第115図 P.L.101	5集14	凹石	G区5集石覆土	14.9	12.1	8.9	2130.0	粗粒輝石安山岩	
第115図 P.L.101	5集15	凹石	G区5集石覆土	19.4	15.4	8.7	2380.0	粗粒輝石安山岩	
第1158図 P.L.102	6集1	打弁(完形)	G区6集石覆土	14.5	9.2	2.9	360.0	黒色頁岩	分銅形、磨滅
第1168図 P.L.102	6集2	石皿	G区6集石覆土	23.6	20.3	5.4	2760.0	粗粒輝石安山岩	被熱赤変
第1168図 P.L.102	6集3	凹石	G区6集石覆土	14.3	13.1	11.5	2990.0	粗粒輝石安山岩	角礫素材、磨面あり
第1178図 P.L.102	6集4	石皿	G区6集石覆土	21.5	20.2	13.3	3800.0	粗粒輝石安山岩	凹多数あり
第1178図 P.L.102	6集5	磨・敲石	G区6集石覆土	9.8	6.9	3.6	380.0	粗粒輝石安山岩	磨面明瞭
第1178図 P.L.102	6集6	敲・凹石	G区6集石覆土	8.3	8.4	5.4	410.0	粗粒輝石安山岩	角礫素材
第1188図 P.L.102	6集7	磨・敲・凹石	G区6集石覆土	14.3	9.9	4.9	680.0	粗粒輝石安山岩	被熱、全体赤変
第1188図 P.L.102	9集1	三角磨形石器	G区9集石覆土	11.4	6.9	3.5	300.0	黒色頁岩	風化、磨面、磨面あり
第1188図 P.L.102	10A集1	石刺(鬚)	G区10A集石覆土	5.5	3.3	1.2	38.3	緑色片岩	
第1188図 P.L.102	10A集2	三角磨形石器	G区10A集石覆土	11.0	8.1	4.3	390.0	変質玄武岩	側縁敲打、磨面顯著
第1198図 P.L.103	10A集3	凹石	G区10A集石覆土	19.7	16.3	12.5	4700.0	粗粒輝石安山岩	角礫素材
第1198図 P.L.103	10A集4	磨石	G区10A集石覆土	9.3	8.2	6.8	760.0	粗粒輝石安山岩	
第1198図 P.L.103	10A集5	敲石	G区10A集石覆土	10.8	9.8	5.3	640.0	粗粒輝石安山岩	凹あり
第1208図 P.L.103	10A集6	凹石	G区10A集石覆土	7.5	6.2	5.1	550.0	粗粒輝石安山岩	敲あり
第1208図 P.L.103	10A集7	凹石	G区10A集石覆土	11.1	6.2	5.4	215.0	角閃石安山岩	敲あり
第1208図 P.L.103	10A集8	凹石	G区10A集石覆土	12.0	11.7	3.6	620.0	粗粒輝石安山岩	敲あり
第1208図 P.L.103	10B集1	削器	G区10B集石覆土	5.1	3.5	1.1	15.4	黒色安山岩	三角形
第1208図 P.L.103	10B集2	敲石	G区10B集石覆土	8.5	7.3	5.6	440.0	粗粒輝石安山岩	磨面あり
第1218図 P.L.103	10B集3	凹石	G区10B集石覆土	9.8	9.3	5.7	610.0	粗粒輝石安山岩	敲あり
第1218図 P.L.103	10B集4	凹石	G区10B集石覆土	12.0	10.9	7.5	930.0	粗粒輝石安山岩	敲あり
第1218図 P.L.104	10B集5	敲・凹石	G区10B集石覆土	11.4	11.6	7.5	1100.0	粗粒輝石安山岩	
第1228図 P.L.104	10B集6	凹石	G区10B集石覆土	13.8	14.8	11.0	1800.0	粗粒輝石安山岩	敲あり
第1228図 P.L.104	10B集7	敲・凹石	G区10B集石覆土	10.7	10.2	4.8	520.0	粗粒輝石安山岩	
第1228図 P.L.104	12集1	凹石	G区12集石覆土	13.2	11.4	8.2	1280.0	粗粒輝石安山岩	角礫素材
第1228図 P.L.105	12集2	凹石	G区12集石覆土	23.5	16.9	15.8	5700.0	粗粒輝石安山岩	

第2節 縄文時代

図版・写真番号	整理番号	器種	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
第123図 P.L.104	13集1	磁石	G区13集石覆土	10.1	8.3	6.1	709.0	砂岩	
第124図 P.L.104	14集1	磨・敲・凹石	G区14集石覆土	11.4	8.6	4.9	430.0	粗粒輝石安山岩	
第124図 P.L.105	16集1	凹石	G区16集石覆土	28.7	20.3	11.3	6700.0	粗粒輝石安山岩	角礫素材

第22表 配石出土石器計測表

図版・写真番号	整理番号	器種	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
第124図 P.L.104	1配1	石鏃(略定形)	G区1配石覆土	1.9	1.8	0.4	1.0	黒色安山岩	頭部一部欠
第124図 P.L.104	1配2	石鏃(略定形)	G区1配石覆土	2.3	1.7	0.5	1.1	黒色安山岩	右側一部欠
第124図 P.L.104	1配3	石鏃(頭端欠)	G区1配石覆土	1.5	1.7	0.3	0.5	黒曜石	
第124図 P.L.104	1配4	石鏃(完形)	G区1配石覆土	2.2	1.6	0.3	0.6	黒曜石	
第125図 P.L.105	1配5	脛箭	G区1配石覆土	7.8	7.1	3.3	169.0	黒色頁岩	
第125図 P.L.105	1配6	U F	G区1配石覆土	5.0	6.1	1.5	33.4	黒色頁岩	
第125図 P.L.105	1配7	石棒(破片)	G区1配石覆土	6.0	2.7	2.6	70.3	緑色片岩	
第125図 P.L.105	1配8	脛箭	G区1配石覆土	9.3	5.6	2.5	110.0	黒色頁岩	
第125図 P.L.105	1配9	打穿(完形)	G区1配石覆土	12.5	5.1	2.3	151.6	黒色頁岩	刃部磨減
第125図 P.L.105	1配10	凹石	G区1配石覆土	14.9	12.2	8.9	1250.0	粗粒輝石安山岩	角礫素材
第126図 P.L.106	1配11	磨・敲・凹石	G区1配石覆土	15.0	7.8	4.2	790.0	粗粒輝石安山岩	磨付着黒変
第126図 P.L.106	1配12	凹石	G区1配石覆土	12.6	9.2	6.2	810.0	粗粒輝石安山岩	敲打による凹
第126図 P.L.106	1配13	凹・台石	G区1配石覆土	16.2	11.6	5.7	1420.0	粗粒輝石安山岩	磨面剥落、敲あり
第127図 P.L.106	2配1	脛箭	G区2配石覆土	7.3	4.6	1.0	33.2	粗粒輝石安山岩	表一部磨減
第127図 P.L.106	2配2	脛箭	G区2配石覆土	5.7	5.5	2.4	84.8	黒色頁岩	方形
第127図 P.L.106	2配3	敲石	G区2配石覆土	5.3	7.0	4.9	240.0	黒色頁岩	磨面剥落、磨面あり
第127図 P.L.106	2配4	脛箭	G区2配石覆土	8.8	7.4	2.7	208.4	粗粒輝石安山岩	
第127図 P.L.106	2配5	磨・凹・磨石	G区2配石覆土	11.5	7.1	4.5	580.0	粗粒輝石安山岩	
第127図 P.L.106	2配6	磨・敲石	G区2配石覆土	10.5	7.6	5.7	590.0	アフライト	
第128図 P.L.106	2配7	凹・敲石	G区2配石覆土	8.9	7.8	7.0	540.0	粗粒輝石安山岩	
第128図 P.L.107	2配8	凹石	G区2配石覆土	13.5	7.8	3.9	650.0	粗粒輝石安山岩	
第128図 P.L.107	2配9	敲・凹石	G区2配石覆土	9.5	8.7	5.6	520.0	粗粒輝石安山岩	
第128図 P.L.107	2配10	石鏃(破片)	G区2配石覆土	9.2	17.0	6.8	1030.0	粗粒輝石安山岩	黒変あり
第129図 P.L.107	3配1	R F	G区3配石覆土	2.8	4.1	1.1	11.5	黒色頁岩	先端作凸
第129図 P.L.107	3配2	R F	G区3配石覆土	3.0	1.4	0.6	1.5	黒曜石	
第129図 P.L.107	3配3	脛箭	G区3配石覆土	8.2	4.0	2.3	92.9	黒色頁岩	
第129図 P.L.107	3配4	脛箭	G区3配石覆土	8.3	4.1	1.7	63.9	黒色頁岩	三角形
第129図 P.L.107	3配5	打穿(頭)	G区3配石覆土	8.4	4.4	2.5	127.6	黒色頁岩	
第129図 P.L.107	3配6	脛箭	G区3配石覆土	8.1	4.5	2.7	112.3	黒色頁岩	厚手
第129図 P.L.107	3配7	磨・敲石	G区3配石覆土	5.6	4.2	2.5	92.4	実質黒炭灰?	
第129図 P.L.107	3配8	打穿(割~刃)	G区3配石覆土	9.4	8.1	1.8	142.0	黒色頁岩	分割し且縁形
第129図 P.L.107	3配9	石棒(破片)	G区3配石覆土	4.3	4.7	4.1	80.9	アイサイト	白色、軟質
第129図 P.L.107	3配10	石鏃(破片)	G区3配石覆土	4.8	3.7	2.2	63.3	頁岩	黒色、硬質
第130図 P.L.107	3配11	磨・敲石	G区3配石覆土	7.0	6.1	4.6	270.0	粗粒輝石安山岩	
第130図 P.L.107	3配12	凹・磨石	G区3配石覆土	7.4	6.6	4.3	320.0	粗粒輝石安山岩	敲あり
第130図 P.L.108	3配13	凹石	G区3配石覆土	27.7	16.2	14.0	6750.0	粗粒輝石安山岩	角礫素材、凹多数
第131図 P.L.109	3配14	磨・敲・凹石	G区3配石覆土	11.8	7.7	5.2	780.0	粗粒輝石安山岩	全体に黒熱赤変
第131図 P.L.108	3配15	凹石	G区3配石覆土	27.7	17.8	14.6	7750.0	粗粒輝石安山岩	角礫素材
第132図 P.L.108	3配16	凹石	G区3配石覆土	18.2	16.9	8.3	2580.0	粗粒輝石安山岩	全体敲打、凹多数
第132図 P.L.109	3配17	石棒?	G区3配石覆土	16.3	16.4	14.3	5700.0	粗粒輝石安山岩	全体若干被熱、磨減
第133図 P.L.109	6配1	打穿(頭)	G区6配石覆土	7.1	4.1	1.6	55.8	黒色頁岩	表面磨減顯著
第133図 P.L.109	6配2	R F	G区6配石覆土	5.3	5.9	1.5	43.8	黒色頁岩	
第133図 P.L.109	6配3	浮子	G区6配石覆土	4.2	2.9	2.4	12.8	緑石	孔幅6mm、貫通部4mm
第133図 P.L.109	6配4	打穿(割~刃)	G区6配石覆土	8.6	4.5	2.2	119.8	黒色頁岩	磨減顯著
第133図 P.L.109	6配5	打穿(割~側)	G区6配石覆土	8.2	4.7	3.0	125.0	珪質頁岩	側面敲打
第133図 P.L.109	6配6	石皿	G区6配石覆土	9.0	6.2	2.2	152.5	粗粒輝石安山岩	小形、弱い磨減
第133図 P.L.109	6配7	磨・敲・凹石	G区6配石覆土	9.8	6.5	3.8	425.0	粗粒輝石安山岩	
第133図 P.L.110	6配8	磨・敲石	G区6配石覆土	4.7	5.1	4.0	128.2	粗粒輝石安山岩	弱い磨減
第134図 P.L.109	6配9	凹石	G区6配石覆土	29.0	20.6	14.6	10920.0	粗粒輝石安山岩	敲、黒変あり
第134図 P.L.109	6配10	磨・敲・凹石	G区6配石覆土	10.4	7.1	4.9	535.0	粗粒輝石安山岩	
第135図 P.L.110	6配11	凹石	G区6配石覆土	22.5	14.2	10.1	5050.0	粗粒輝石安山岩	角礫素材、凹多数
第135図 P.L.110	6配12	凹石	G区6配石覆土	22.7	20.9	18.5	9790.0	粗粒輝石安山岩	凹多数
第136図 P.L.110	7配1	脛箭	G区7配石覆土	8.2	5.8	2.0	78.4	黒色頁岩	
第136図 P.L.110	7配2	打穿(割~刃)	G区7配石覆土	6.8	5.3	1.5	73.4	黒色頁岩	縁部一部磨減
第136図 P.L.110	7配3	打穿(頭端欠)	G区7配石覆土	10.3	4.9	1.5	90.5	黒色頁岩	刃部一部磨減
第136図 P.L.110	7配4	打穿(完形)	G区7配石覆土	10.3	6.7	1.6	129.9	黒色頁岩	分割形、柄部欠
第136図 P.L.110	7配5	脛箭	G区7配石覆土	5.3	5.4	1.9	64.5	黒色頁岩	

集石、配石出土石器

図版・写真番号	整理番号	器種	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
第136図 P L110	7配6	R F	G区7配石覆土	6.5	5.8	1.6	59.5	頁岩	
第136図 P L111	7配7	打弁	G区7配石覆土	8.7	6.0	2.9	183.2	砂岩	下層欠損後再生
第137図 P L111	7配8	敲石	G区7配石覆土	6.5	6.0	4.5	210.0	粗粒輝石安山岩	
第137図 P L111	7配9	石皿(破片)	G区7配石覆土	17.6	15.7	8.9	2630.0	粗粒輝石安山岩	
第137図 P L111	7配10	敲石	G区7配石覆土	8.2	8.0	2.7	210.0	粗粒輝石安山岩	
第137図 P L111	7配11	敲・凹石	G区7配石覆土	8.4	7.3	5.5	275.0	粗粒輝石安山岩	
第137図 P L111	9配1	石皿(左脚欠)	G区9配石覆土	2.0	1.4	0.4	1.0	黒色安山岩	
第137図 P L111	9配2	石皿(右脚欠)	G区9配石覆土	3.0	1.7	0.5	1.3	黒色頁岩	薄手、長脚 縁部磨滅
第137図 P L111	9配3	石皿(前脚欠)	G区9配石覆土	1.8	1.9	0.3	0.9	黒色安山岩	
第137図 P L111	9配4	削器	G区9配石覆土	4.2	5.1	1.0	28.2	黒色頁岩	
第137図 P L111	9配5	削器	G区9配石覆土	5.2	4.5	1.2	37.1	黒色頁岩	
第137図 P L111	9配6	打弁(側~刃)	G区9配石覆土	5.7	2.9	0.8	15.2	細粒輝石安山岩	
第138図 P L111	9配7	打弁(破破片)	G区9配石覆土	4.7	3.6	1.2	20.2	黒色頁岩	
第138図 P L111	9配8	U F	G区9配石覆土	5.3	3.4	0.7	14.8	黒色頁岩	
第138図 P L111	9配9	打弁(側)	G区9配石覆土	4.4	3.7	0.8	16.7	黒色頁岩	
第138図 P L111	9配10	U F	G区9配石覆土	4.7	4.2	1.0	24.8	黒色安山岩	
第138図 P L111	9配11	削器	G区9配石覆土	6.1	4.6	2.3	56.0	黒色頁岩	黒化
第138図 P L111	9配12	削器	G区9配石覆土	5.5	4.3	1.5	46.3	黒色頁岩	表面一部磨滅
第138図 P L112	9配13	U F	G区9配石覆土	7.2	6.3	2.5	134.3	黒色頁岩	
第138図 P L112	9配14	打弁(側)	G区9配石覆土	5.1	4.2	1.5	54.1	細粒輝石安山岩	裏面磨滅
第138図 P L112	9配15	U F	G区9配石覆土	6.9	6.0	0.9	33.5	黒色頁岩	
第138図 P L112	9配16	削器	G区9配石覆土	7.2	7.9	1.8	118.8	黒色頁岩	
第138図 P L112	9配17	U F	G区9配石覆土	7.8	5.1	1.0	37.9	砂岩	
第138図 P L112	9配18	U F	G区9配石覆土	8.3	6.8	3.5	175.9	黒色頁岩	
第139図 P L112	9配19	削器	G区9配石覆土	8.5	4.9	1.6	65.6	ホルンフェルス	表面磨滅
第139図 P L112	9配20	削器	G区9配石覆土	5.3	5.7	1.5	41.8	黒色頁岩	
第139図 P L112	9配21	R F	G区9配石覆土	10.2	5.4	1.6	88.8	黒色頁岩	先端作出
第139図 P L112	9配22	削器	G区9配石覆土	10.8	4.3	1.5	68.6	黒色頁岩	側縁磨滅顯著
第139図 P L112	9配23	削器(下端欠)	G区9配石覆土	8.0	5.7	2.2	136.8	黒色頁岩	
第139図 P L112	9配24	石刺(下半欠)	G区9配石覆土	7.6	4.2	1.5	67.1	雲母石英片岩	
第139図 P L112	9配25	削器	G区9配石覆土	6.2	8.3	2.1	111.8	黒色安山岩	
第139図 P L112	9配26	削器	G区9配石覆土	7.2	4.0	1.2	35.4	黒色頁岩	台形様
第139図 P L112	9配27	U F	G区9配石覆土	8.2	4.0	1.8	52.0	黒色頁岩	
第139図 P L112	9配28	U F	G区9配石覆土	7.6	4.7	2.1	70.5	黒色頁岩	
第140図 P L113	9配29	削器	G区9配石覆土	8.5	7.0	1.2	59.1	黒色頁岩	
第140図 P L113	9配30	削器	G区9配石覆土	9.7	5.8	1.6	117.5	黒色頁岩	
第140図 P L113	9配31	石核	G区9配石覆土	7.6	7.7	4.5	325.0	黒色頁岩	
第140図 P L113	9配32	打弁(側~脚)	G区9配石覆土	8.9	4.6	1.3	61.2	粗粒輝石安山岩	表面磨滅
第140図 P L113	9配33	磨弁(完形)	G区9配石覆土	9.9	3.9	2.1	93.0	黒色頁岩	黒化
第140図 P L113	9配34	打弁(完形)	G区9配石覆土	11.5	4.8	1.6	132.7	砂岩	刃部磨滅
第140図 P L113	9配35	打弁(完形)	G区9配石覆土	10.8	5.6	2.6	185.1	灰色安山岩	刃部磨滅、柄擦れ
第140図 P L113	9配36	打弁(側~脚)	G区9配石覆土	9.3	4.2	1.6	75.5	黒色頁岩	刃部欠損
第141図 P L113	9配37	打弁(完形)	G区9配石覆土	11.6	3.9	1.6	90.5	黒色頁岩	表刃部磨滅、柄擦れ
第141図 P L113	9配38	打弁(側)	G区9配石覆土	7.5	4.4	1.9	87.8	細粒輝石安山岩	側縁敲打
第141図 P L113	9配39	石刺(完形)	G区9配石覆土	14.2	2.5	1.4	78.0	雲母石英片岩	
第141図 P L113	9配40	打弁(完形)	G区9配石覆土	9.1	3.4	0.8	30.0	黒色頁岩	薄手、磨滅顯著
第141図 P L113	9配41	R F(下端欠)	G区9配石覆土	7.7	3.6	1.2	47.7	雜質頁岩	側縁・裏面一部磨滅
第141図 P L113	9配42	磨・敲石	G区9配石覆土	9.8	5.5	3.3	250.0	安山安山岩	
第141図 P L113	9配43	石刺(下端欠)	G区9配石覆土	10.7	3.8	2.9	158.3	雲母石英片岩	素材?加工痕無し
第141図 P L114	9配44	敲石	G区9配石覆土	8.1	6.0	5.2	310.0	粗粒輝石安山岩	
第142図 P L114	9配45	磨・敲・凹石	G区9配石覆土	10.5	8.8	5.5	545.0	粗粒輝石安山岩	
第142図 P L114	9配46	磨・敲石	G区9配石覆土	10.8	4.4	2.7	184.4	砂岩	
第142図 P L114	9配47	敲石	G区9配石覆土	9.0	6.8	4.5	320.0	粗粒輝石安山岩	
第142図 P L114	9配48	敲石	G区9配石覆土	15.3	9.1	5.2	730.0	安山玄武岩	
第143図 P L114	9配49	凹石(1/2欠)	G区9配石覆土	14.8	7.5	5.8	690.0	粗粒輝石安山岩	
第143図 P L114	9配50	敲石	G区9配石覆土	7.3	6.2	4.8	210.0	粗粒輝石安山岩	表一部磨滅
第143図 P L114	9配51	磨・敲石	G区9配石覆土	13.1	6.0	4.4	265.0	石英閃綠岩	
第143図 P L114	9配52	敲石	G区9配石覆土	8.7	6.6	4.2	589.0	粗粒輝石安山岩	
第144図 P L114	9配53	磨・敲石	G区9配石覆土	13.0	9.9	4.5	820.1	粗粒輝石安山岩	磨面顯著
第144図 P L115	9配54	磨・凹石	G区9配石覆土	12.2	8.3	6.5	660.0	粗粒輝石安山岩	
第144図 P L115	9配55	磨・凹石	G区9配石覆土	15.6	10.5	5.2	960.0	角閃石安山岩	敲あり
第145図 P L115	9配56	磨・敲・凹石	G区9配石覆土	11.1	7.9	5.9	450.0	粗粒輝石安山岩	
第145図 P L115	9配57	敲石	G区9配石覆土	9.1	8.1	5.3	440.0	粗粒輝石安山岩	

第2節 縄文時代

図版・写真番号	整理番号	器種	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
第145図 P L.115	9配58	敲・凹石	G区9配石覆土	11.1	9.8	5.8	860.0	粗粒輝石安山岩	
第145図 P L.115	9配59	石皿(破片)	G区9配石覆土	9.7	14.5	5.6	630.0	粗粒輝石安山岩	
第146図 P L.115	9配60	石皿	G区9配石覆土	7.7	7.3	5.5	299.0	粗粒輝石安山岩	
第146図 P L.115	9配61	敲石	G区9配石覆土	7.3	6.5	3.4	230.0	粗粒輝石安山岩	裏面一部磨減
第146図 P L.115	9配62	磨・敲石	G区9配石覆土	11.5	8.0	3.6	490.0	粗粒輝石安山岩	被熱、やや赤変
第146図 P L.115	9配63	敲石	G区9配石覆土	16.5	7.0	5.1	945.0	石英閃緑岩	

第23表 J2号土坑出土石器計測表

図版・写真番号	整理番号	器種	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
第147図 P L.116	J2土	石皿(破片)	K区J2土坑覆土	10.0	19.6	6.4	1500.0	粗粒輝石安山岩	凹石多数

第24表 G区グリッド出土石器計測表

図版・写真番号	整理番号	器種	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
第147図 P L.116	e44G-1	削器	G区e-44	4.3	5.3	1.3	31.6	黒色頁岩	
第147図 P L.116	e44G-2	凹石	G区e-44	29.0	25.4	18.5	19400.0	粗粒輝石安山岩	角磨素材、大形
第148図 P L.116	e45G-1	凹石	G区e-45	14.2	10.3	3.7	530.0	黒色頁岩	未使用品?
第148図 P L.116	f45G-1	石鏃(左脚欠)	G区f-45	2.5	1.8	0.4	1.1	黒曜石	
第148図 P L.116	f45G-2	石鏃	G区f-45	2.5	1.8	0.36	0.9	黒色安山岩	表裏接部横位研磨
第148図 P L.116	f45G-3	打穿	G区f-45	5.2	3.8	1.0	23.2	黒色頁岩	欠損後再生
第148図 P L.116	f45G-4	削器	G区f-45	4.0	4.7	1.2	28.8	黒色頁岩	
第148図 P L.116	f45G-5	打穿	G区f-45	9.2	4.3	2.4	96.4	黒色頁岩	刃部磨減
第148図 P L.116	f45G-6	削器	G区f-45	5.5	3.5	1.0	17.6	黒色頁岩	裏面一部磨減
第148図 P L.116	f45G-7	削器	G区f-45	4.0	4.6	0.8	17.3	黒色頁岩	
第148図 P L.117	f45G-8	打穿(完形)	G区f-45	8.7	5.6	2.0	116.8	黒色頁岩	右側縁敲打
第149図 P L.117	f45G-9	打穿	G区f-45	9.2	4.2	2.1	107.1	黒色頁岩	全面風化顯著
第149図 P L.117	f45G-10	石剣	G区f-45	9.0	3.9	1.4	66.9	雲母石英片岩	両端欠損
第149図 P L.117	f45G-11	打穿(完形)	G区f-45	9.6	4.2	1.6	85.1	黒色頁岩	主に表磨減
第149図 P L.117	f45G-12	打穿(完形)	G区f-45	8.5	4.2	2.0	76.2	黒色頁岩	柄磨れ、刃部磨減
第149図 P L.117	f45G-13	打穿	G区f-45	12.2	7.8	2.3	22.0	黒色頁岩	風化、分銅形
第149図 P L.117	f45G-14	敲・凹石	G区f-45	12.9	11.3	8.1	1120.0	粗粒輝石安山岩	赤変・黒変あり
第150図 P L.117	f45G-15	敲・凹石	G区f-45	10.6	10.0	5.4	810.0	粗粒輝石安山岩	表裏磨減
第150図 P L.117	f46G-1	削器	G区f-46	7.0	6.1	1.4	68.1	黒色頁岩	
第150図 P L.117	f46G-2	磨片(破片)	G区f-46	4.5	2.6	0.9	13.1	実玄武岩	
第150図 P L.117	f46G-3	磨片(胴~刃)	G区f-46	5.1	3.4	1.2	28.3	黒色頁岩	小形、被熱赤変
第150図 P L.117	f46G-4	打穿(胴~刃)	G区f-46	8.3	5.0	1.5	71.5	黒色頁岩	右側縁打
第150図 P L.117	f46G-5	凹石	G区f-46	7.9	5.2	3.6	203.4	粗粒輝石安山岩	敲あり
第150図 P L.117	f46G-6	凹石	G区f-46	8.4	5.7	3.8	200.0	粗粒輝石安山岩	敲あり
第151図 P L.118	f46G-7	敲石	G区f-46	7.5	6.0	3.8	270.0	石英閃緑岩	
第151図 P L.118	f46G-8	磨・敲石	G区f-46	12.0	7.8	3.3	435.0	粗粒輝石安山岩	
第151図 P L.118	f46G-9	敲・磨・凹石	G区f-46	10.5	6.7	3.8	435.0	粗粒輝石安山岩	
第151図 P L.118	f46G-10	敲石	G区f-46	10.7	5.6	4.0	280.0	粗粒輝石安山岩	
第151図 P L.118	f46G-11	凹石	G区f-46	13.0	9.6	5.3	943.0	石英閃緑岩	
第152図 P L.118	f47G-1	削器	G区f-47	5.5	4.8	0.8	27.5	黒色頁岩	
第152図 P L.118	f47G-2	UF	G区f-47	4.0	3.9	1.1	19.0	チャート	
第152図 P L.118	f47G-3	打穿(完形)	G区f-47	8.1	4.5	1.6	63.6	砂岩	風化顯著、両側縁打
第152図 P L.118	k44G-1	打穿(胴~脚)	G区k-44	6.5	4.9	2.2	78.8	黒色頁岩	
第152図 P L.118	k44G-2	打穿(刃)	G区k-44	6.0	5.6	1.8	75.7	粗粒輝石安山岩	刃部磨減
第152図 P L.118	k45G-1	石鏃(頭端欠)	G区k-45	23.5	12.5	0.4	1.3	黒色安山岩	
第152図 P L.118	k45G-2	石鏃(基部欠)	G区k-45	2.5	1.2	0.4	0.9	チャート	
第152図 P L.118	k45G-3	石鏃(完形)	G区k-45	1.4	0.8	0.3	0.1	黒曜石	小形、三角形
第152図 P L.118	k45G-4	石鏃(頭部欠)	G区k-45	2.6	2.4	0.5	2.5	黒色安山岩	
第152図 P L.119	k45G-5	石鏃	G区k-45	2.9	1.9	0.4	1.4	黒色安山岩	左側・頭端欠損
第152図 P L.119	k45G-6	打穿(完形)	G区k-45	6.0	4.6	1.1	32.8	黒色頁岩	短形
第152図 P L.119	k45G-7	削器	G区k-45	7.0	4.7	1.4	52.9	黒色頁岩	
第152図 P L.119	k45G-8	打穿(胴~脚)	G区k-45	7.8	4.5	2.8	137.0	砂質頁岩	両側よく敲打
第153図 P L.119	k45G-9	UF	G区k-45	9.4	5.2	1.3	52.2	黒色頁岩	一部磨減
第153図 P L.119	k45G-10	UF	G区k-45	7.4	7.1	2.3	125.9	黒色頁岩	
第153図 P L.119	k45G-11	石鏃	G区k-45	10.9	4.4	1.4	41.8	黒色頁岩	
第153図 P L.119	k45G-12	打穿(完形)	G区k-45	9.9	4.5	1.4	62.3	黒色頁岩	刃部磨減、柄磨れ
第153図 P L.119	k45G-13	石剣(下端欠)	G区k-45	11.9	4.3	1.8	141.4	黒色片岩	
第153図 P L.119	k45G-14	打穿	G区k-45	10.2	6.9	2.3	182.2	実玄武岩	両端一部欠損
第153図 P L.119	k45G-15	凹・敲石	G区k-45	11.7	9.5	6.0	440.0	粗粒輝石安山岩	
第154図 P L.119	k45G-16	敲・磨・凹石	G区k-45	9.7	6.7	5.5	370.0	粗粒輝石安山岩	

配石、土坑、グリッド出土石器

図版・写真番号	整理番号	器種	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
第154図 P L 119	R 45G-17	鍬・磨・凹石	G区 R-45	8.9	8.0	3.4	370.0	粗粒輝石安山岩	
第154図 P L 120	R 45G-18	鍬・凹石	G区 R-45	6.7	5.8	4.4	144.7	粗粒輝石安山岩	
第154図 P L 120	R 45G-19	磨・鍬石	G区 R-45	12.1	6.0	4.9	430.0	粗粒輝石安山岩	
第154図 P L 120	R 46G-1	R F	G区 R-46	2.8	4.8	6.0	11.0	黒色頁岩	
第154図 P L 120	R 46G-2	U F	G区 R-46	4.8	2.7	0.8	7.0	黒色安山岩	
第154図 P L 120	R 46G-3	削器	G区 R-46	10.1	4.8	2.2	90.0	変質玄武岩	
第155図 P L 120	R 46G-4	磨・鍬石	G区 R-46	6.6	6.8	2.6	150.0	砂岩	全縁敲打
第155図 P L 120	R 46G-5	削器	G区 R-46	5.9	4.9	1.2	40.0	黒色頁岩	復?
第155図 P L 120	R 46G-6	磨斧(頭)	G区 R-46	7.7	5.1	2.7	110.0	蛇紋岩	研磨面磨
第155図 P L 120	R 46G-7	磨斧(刃)	G区 R-46	6.5	5.6	2.3	130.0	変質玄武岩	
第155図 P L 120	R 47G-1	削器	G区 R-47	5.5	6.3	1.1	34.7	黒色頁岩	
第155図 P L 120	R 47G-2	打斧	G区 R-47	5.7	4.5	1.3	37.6	黒色頁岩	小形、分割形
第155図 P L 120	R 47G-3	削器	G区 R-47	7.1	5.0	1.2	31.4	黒色頁岩	
第155図 P L 120	R 47G-4	U F	G区 R-47	7.9	5.4	1.9	63.1	粗粒輝石安山岩	
第155図 P L 120	R 47G-5	削器	G区 R-47	5.1	7.7	1.4	55.4	珪質頁岩	
第155図 P L 120	R 47G-6	石剣(下階欠)	G区 R-47	11.3	3.8	1.5	88.8	雲母石英片岩	
第156図 P L 120	R 47G-7	打斧(完形)	G区 R-47	10.6	4.8	1.7	104.6	珪質頁岩	刃部磨滅、柄擦れ
第156図 P L 120	R 47G-8	磨・鍬石	G区 R-47	9.7	5.4	4.1	330.0	変質安山岩	一部輝付黒変
第156図 P L 121	R 47G-9	石皿(破片)	G区 R-47	10.7	6.0	3.6	390.0	緑色片岩	
第156図 P L 121	R 47G-10	凹石	G区 R-47	8.3	6.6	3.8	210.0	粗粒輝石安山岩	小形、石皿状
第156図 P L 121	H 44G-1	打斧(胴・刃)	G区 h-44	6.8	4.6	2.1	69.0	粗粒輝石安山岩	刃部表面磨
第156図 P L 121	H 45G-1	削器	G区 h-45	5.1	5.7	1.5	48.9	黒色安山岩	
第156図 P L 121	H 45G-2	削器	G区 h-45	6.7	5.1	2.0	107.5	黒色頁岩	
第157図 P L 121	H 45G-3	U F	G区 h-45	4.6	5.9	0.9	25.0	ホルンフェルス	
第157図 P L 121	H 45G-4	R F	G区 h-45	9.7	3.5	1.6	46.8	珪質頁岩	
第157図 P L 121	H 45G-5	削器	G区 h-45	7.0	4.5	1.9	71.3	黒色頁岩	
第157図 P L 121	H 45G-6	削器	G区 h-45	7.7	5.0	2.2	107.5	黒色頁岩	厚手
第157図 P L 121	H 45G-7	打斧(完形)	G区 h-45	7.7	4.7	2.7	113.0	黒色頁岩	厚手、右側敲打
第157図 P L 121	H 45G-8	打斧(完形)	G区 h-45	10.3	5.4	2.2	125.9	粗粒輝石安山岩	磨滅
第157図 P L 121	H 45G-9	打斧(刃)	G区 h-45	7.3	6.5	1.9	116.6	粗粒輝石安山岩	欠損後削器再生
第157図 P L 121	H 45G-10	打斧(頭端欠)	G区 h-45	6.8	4.2	1.8	51.9	頁岩	刃部磨滅
第157図 P L 121	H 45G-11	打斧(頭端欠)	G区 h-45	9.5	4.4	1.7	82.5	黒色頁岩	表面磨滅
第157図 P L 121	H 45G-12	打斧(完形)	G区 h-45	10.9	4.2	1.3	58.1	粗粒輝石安山岩	主に表面磨滅、柄擦れ
第158図 P L 121	H 45G-13	石剣(頭)	G区 h-45	8.3	4.5	2.2	101.1	雲母石英片岩	全面敲打
第158図 P L 121	H 45G-14	鍬石	G区 h-45	11.7	5.9	3.3	310.0	グライツト質凝灰岩	
第158図 P L 121	H 45G-15	石皿(破片)	G区 h-45	13.1	10.2	7.6	1580.0	粗粒輝石安山岩	
第158図 P L 122	H 46G-1	石剣(頭端欠)	G区 h-46	1.3	1.4	0.2	0.4	黒曜石	
第158図 P L 122	H 46G-2	石剣(右舞欠)	G区 h-46	1.8	1.2	0.3	0.3	チャート	長形
第158図 P L 122	H 46G-3	石剣(頭端欠)	G区 h-46	2.4	1.5	0.4	1.0	黒色安山岩	
第158図 P L 122	H 46G-4	石剣(頭端欠)	G区 h-46	2.3	1.8	0.4	1.4	チャート	
第158図 P L 122	H 46G-5	石剣	G区 h-46	5.7	2.6	1.5	2.1	黒色頁岩	削器?
第158図 P L 122	H 46G-6	削器	G区 h-46	4.9	4.7	2.1	68.2	黒色頁岩	方形、打斧再生品?
第158図 P L 122	H 46G-7	U F	G区 h-46	8.2	5.4	1.3	61.6	黒色頁岩	
第158図 P L 122	H 46G-8	U F	G区 h-46	6.4	4.1	1.6	60.3	珪質頁岩	
第158図 P L 122	H 46G-9	削器	G区 h-46	6.3	5.0	1.1	40.2	黒色頁岩	
第159図 P L 122	H 46G-10	削器	G区 h-46	6.0	6.0	1.1	42.9	黒色頁岩	
第159図 P L 122	H 46G-11	磨斧(刃部)	G区 h-46	6.1	7.6	1.9	107.2	輝綠石	刺刺面傾研磨
第159図 P L 122	H 46G-12	打斧(完形)	G区 h-46	7.9	4.3	1.5	56.7	黒色頁岩	刃部磨滅
第159図 P L 122	H 46G-13	打斧(完形)	G区 h-46	11.3	4.9	1.2	88.4	粗粒輝石安山岩	刃部磨滅
第159図 P L 122	H 46G-14	鍬石	G区 h-46	7.9	3.4	2.2	85.9	珪質変質岩	
第159図 P L 122	H 46G-15	打斧	G区 h-46	13.3	7.7	2.1	235.0	粗粒輝石安山岩	刃部一部磨滅
第159図 P L 122	H 46G-16	鍬石	G区 h-46	7.2	3.8	3.6	131.9	粗粒輝石安山岩	
第160図 P L 122	H 46G-17	鍬石	G区 h-46	10.3	8.7	7.5	725.0	粗粒輝石安山岩	被熱やく赤・黒変
第160図 P L 123	H 47G-1	石剣	G区 h-47	1.9	0.9	0.2	0.4	黒色頁岩	先端傾位磨滅
第160図 P L 123	H 47G-2	石剣	G区 h-47	5.5	2.3	0.8	8.4	黒色頁岩	両端作出
第160図 P L 123	H 47G-3	削器	G区 h-47	5.0	4.3	1.3	30.3	黒色頁岩	円形
第160図 P L 123	H 47G-4	削器	G区 h-47	9.2	3.7	1.3	37.7	珪質頁岩	
第160図 P L 123	H 47G-5	削器	G区 h-47	4.9	6.2	2.0	84.1	珪質頁岩	
第160図 P L 123	H 47G-6	打斧(完形)	G区 h-47	8.6	4.5	1.3	65.9	黒色頁岩	磨滅、柄擦れ
第160図 P L 123	H 47G-7	削器	G区 h-47	7.4	4.5	3.0	126.2	灰色安山岩	部分の研磨
第160図 P L 123	H 47G-8	鍬石	G区 h-47	6.8	2.4	1.5	37.0	砂岩	小形
第161図 P L 123	H 47G-9	打斧(完形)	G区 h-47	12.5	7.7	1.9	285.0	黒色頁岩	磨滅、柄擦れ
第161図 P L 123	H 47G-10	磨・鍬石	G区 h-47	7.2	6.3	4.8	310.0	粗粒輝石安山岩	

第2節 縄文時代

図版・写真番号	整理番号	器種	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
第161図 P.123	h 47G-11	甌・凹石	G区h-47	9.2	7.7	3.4	256.0	粗粒輝石安山岩	
第162図 P.123	h 47G-12	磨・甌・凹石	G区h-47	12.5	6.6	3.7	389.0	粗粒輝石安山岩	
第162図 P.123	h 48G-1	石鏃(端部欠)	G区h-48	2.9	2.2	0.8	3.7	黒色安山岩	
第162図 P.123	h 48G-2	打斧(完形)	G区h-48	7.6	3.7	1.6	62.6	黒色頁岩	刃部磨滅
第162図 P.123	h 48G-3	磨・甌石	G区h-48	14.8	7.2	2.1	260.0	牛伏砂岩	
第162図 P.123	h 48G-4	甌磨	G区h-48	6.5	6.3	2.8	105.1	黒色頁岩	
第162図 P.124	h 48G-5	甌・凹石	G区h-48	10.3	8.9	5.9	720.0	粗粒輝石安山岩	
第162図 P.124	i 45G-1	石鏃	G区i-45	2.7	1.7	0.4	1.2	黒色安山岩	右側欠損
第162図 P.124	i 45G-2	石鏃(半欠)	G区i-45	1.6	1.6	0.4	0.4	チャート	未成品
第162図 P.124	i 45G-3	甌磨	G区i-45	7.4	4.3	1.9	50.1	黒色頁岩	
第162図 P.124	i 45G-4	甌磨	G区i-45	3.8	4.8	2.2	48.5	黒色頁岩	
第162図 P.124	i 45G-5	UF	G区i-45	6.4	3.5	2.1	37.4	黒色頁岩	先端部縁状剥離
第162図 P.124	i 45G-6	甌磨	G区i-45	7.5	6.1	2.2	98.3	黒色頁岩	
第162図 P.124	i 45G-7	打斧(胴~柄)	G区i-45	9.8	4.2	1.5	95.5	粗粒輝石安山岩	磨滅
第162図 P.124	i 45G-8	甌磨	G区i-45	10.2	6.1	1.7	104.7	黒色頁岩	
第162図 P.124	i 45G-9	打斧(完形)	G区i-45	6.0	3.4	0.9	23.9	黒色頁岩	小形、分剝形
第162図 P.124	i 45G-10	磨・甌石	G区i-45	5.4	5.0	4.2	149.4	粗粒輝石安山岩	
第162図 P.124	i 45G-11	磨・甌石	G区i-45	9.2	7.9	6.5	530.2	粗粒輝石安山岩	
第164図 P.124	i 45G-12	打斧(完形)	G区i-45	11.3	6.8	3.0	280.0	灰色安山岩	欠損後調整
第164図 P.125	i 45G-13	磨・甌・凹石	G区i-45	15.1	6.3	4.2	710.0	粗粒輝石安山岩	
第164図 P.124	i 45G-14	磨・甌石	G区i-45	16.7	6.8	4.3	797.0	粗粒輝石安山岩	
第164図 P.125	i 46G-1	石鏃(完形)	G区i-46	2.0	2.0	0.4	1.3	黒色安山岩	部分的に磨滅
第164図 P.125	i 46G-2	石鏃(完形)	G区i-46	2.6	2.1	0.4	2.3	黒色安山岩	
第164図 P.125	i 46G-3	石鏃(右側欠)	G区i-46	1.6	1.3	0.3	0.4	黒曜石	
第164図 P.125	i 46G-4	石鏃	G区i-46	3.0	0.9	0.7	1.6	黒曜石	
第164図 P.125	i 46G-5	石鏃	G区i-46	4.2	1.5	0.8	4.0	黒色頁岩	
第164図 P.125	i 46G-6	UF	G区i-46	4.8	3.6	1.0	20.0	黒色頁岩	
第165図 P.125	i 46G-7	打斧(完形)	G区i-46	5.4	3.3	1.1	31.5	黒色頁岩	小形、一部磨滅
第165図 P.125	i 46G-8	打斧(刃部)	G区i-46	6.5	4.9	1.3	59.0	ホルンフェルス	風化顯著
第165図 P.125	i 46G-9	打斧(完形)	G区i-46	7.4	4.1	1.3	51.0	黒色頁岩	裏面横位研磨
第165図 P.125	i 46G-10	甌磨	G区i-46	7.5	5.0	1.6	46.8	瑠璃頁岩	
第165図 P.125	i 46G-11	甌磨	G区i-46	7.3	7.4	2.1	147.7	黒色頁岩	凹形、裏上端磨滅
第165図 P.125	i 46G-12	甌石	G区i-46	10.0	5.9	3.8	280.0	粗粒輝石安山岩	
第165図 P.125	i 46G-13	甌石	G区i-46	19.9	9.3	5.0	1050.0	粗粒輝石安山岩	
第166図 P.125	i 46G-14	磨・甌・凹石	G区i-46	7.2	6.1	4.6	300.0	粗粒輝石安山岩	
第168図 P.126	i 47G-1	磨弁(完形)	G区i-47	5.7	2.7	1.2	26.0	頁岩	風化顯著、小形
第168図 P.126	i 47G-2	甌磨	G区i-47	8.5	5.5	2.2	102.5	黒色頁岩	風化顯著
第168図 P.126	i 48G-1	甌磨(横)	G区i-48	3.3	3.3	1.1	13.6	黒色安山岩	方形
第168図 P.126	i 49G-1	磨・甌石	G区i-49	11.1	6.0	4.8	510.0	石栗閃綠岩	若干磨滅
第167図 P.126	k 46G-1	石鏃(完形)	G区k-46	2.2	2.0	0.4	0.7	黒色頁岩	風化
第167図 P.126	k 46G-2	R F	G区k-46	3.7	2.2	0.9	4.8	瑠璃頁岩	
第167図 P.126	k 46G-3	甌磨	G区k-46	7.5	9.3	2.3	166.9	黒色頁岩	
第167図 P.126	k 49G-1	石鏃(右側欠)	G区k-49	2.2	1.8	0.4	1.0	黒曜石	
第167図 P.126	k 49G-2	打斧(刃)	G区k-49	6.0	6.0	2.1	83.4	瑠璃頁岩	刃部磨滅
第167図 P.126	k 49G-3	甌磨	G区k-49	7.2	5.0	0.8	30.5	黒色頁岩	先端部作出
第167図 P.126	i 45G-1	打斧(胴~刃)	G区i-45	7.1	4.0	1.6	61.9	粗粒輝石安山岩	裏面磨滅、右側敲打
第167図 P.126	i 48G-1	磨・凹石	G区i-48	11.5	8.3	5.1	580.0	粗粒輝石安山岩	
第167図 P.126	i 49G-1	甌磨	G区i-49	6.1	6.1	1.5	68.5	黒色頁岩	
第167図 P.126	i 49G-2	打斧(胴~刃)	G区i-49	8.9	5.8	2.4	156.7	安寶玄武岩	刃部磨滅
第168図 P.126	i 49G-3	凹石	G区i-49	16.4	13.4	9.0	2300.0	粗粒輝石安山岩	角礫素材、凹多数
第168図 P.127	i 49G-4	甌・凹石	G区i-49	10.9	8.5	7.7	695.0	粗粒輝石安山岩	
第168図 P.127	i 49G-5	甌・凹石	G区i-49	20.3	12.2	7.0	1116.0	粗粒輝石安山岩	
第169図 P.127	i 49G-6	打斧(完形)	G区i-49	8.7	5.0	1.8	82.6	黒色頁岩	
第169図 P.127	i 49G-7	磨・甌石	G区i-49	11.9	6.4	4.7	520.0	凝灰質砂岩	
第169図 P.127	i 50G-1	石鏃(先端欠)	G区i-50	4.1	2.7	1.3	9.6	黒色頁岩	
第169図 P.127	i 50G-2	甌磨	G区i-50	6.8	4.8	2.0	63.0	黒色頁岩	打斧再生利用
第169図 P.127	i 50G-3	甌石	G区i-50	9.5	5.7	2.5	184.5	黒色頁岩	
第169図 P.127	i 51G-1	UF	G区i-51	5.6	6.3	0.9	23.2	黒色頁岩	
第169図 P.127	m 45G-1	磨弁(完形)	G区m-45	9.5	5.1	1.6	102.5	黒色頁岩	裏面側研磨
第169図 P.127	m 48G-1	打斧(胴~刃)	G区m-48	7.4	3.8	1.2	48.3	粗粒輝石安山岩	裏面磨滅
第169図 P.127	m 48G-2	甌磨	G区m-48	4.0	4.5	1.4	27.3	瑠璃頁岩	凹形
第169図 P.127	m 48G-3	打斧(胴~刃)	G区m-48	8.0	4.7	1.4	71.2	粗粒輝石安山岩	磨滅
第170図 P.127	m 48G-4	石鏃(下半欠)	G区m-48	10.2	3.0	2.1	98.4	緑色片岩	

グリッド出土石器

図版・写真番号	整理番号	器種	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
第170図 P L128	m49G-1	RF	G区m-49	5.3	6.2	2.0	60.5	黒色頁岩	先端作出
第170図 P L128	m49G-2	削器	G区m-49	7.9	5.8	1.4	90.5	黒色頁岩	
第170図 P L128	m49G-3	打斧(胴へ刃)	G区m-49	8.4	5.0	1.2	73.1	粗粒輝石安山岩	刃部磨減
第170図 P L127	m49G-4	磨・礫石	G区m-49	15.4	6.5	5.0	260.0	溶結凝灰岩	
第170図 P L128	m49G-5	礫石	G区m-49	7.2	5.2	4.5	201.0	粗粒輝石安山岩	
第170図 P L128	m50G-1	打斧(完形)	G区m-50	7.3	5.0	1.6	71.6	黒色頁岩	表左側磨減
第171図 P L128	m50G-2	UF	G区m-50	10.7	9.2	2.5	179.1	黒色頁岩	
第171図 P L128	n48G-1	石鏃(右側欠)	G区n-48	2.9	1.9	0.5	2.0	黒色安山岩	
第171図 P L128	n48G-2	打斧(完形)	G区n-48	7.0	4.5	1.6	69.5	粗粒輝石安山岩	欠損後再生?
第171図 P L128	n49G-1	削器	G区n-49	6.0	5.4	1.7	59.9	変質玄武岩	
第171図 P L128	n49G-2	打斧(完形)	G区n-49	17.8	7.7	3.8	460.0	頁岩	未使用?
第171図 P L128	n50G-1	打斧(胴へ刃)	G区n-50	8.1	4.0	1.4	59.6	黒色頁岩	刃部一部磨減
第171図 P L128	n50G-2	礫石	G区n-50	7.6	3.4	3.4	118.4	粗粒輝石安山岩	
第172図 P L128	n50G-3	磨・凹石	G区n-50	12.5	11.7	10.7	1420.0	粗粒輝石安山岩	角礫素材
第172図 P L128	n51G-1	削器	G区n-51	6.3	5.9	1.9	84.3	砂質頁岩	
第172図 P L129	o47G-1	石鏃(破片)	G区o-47	9.9	9.8	9.7	1450.0	アイサイト	敲き割れ調整
第172図 P L129	o47G-2	石鏃(破片)	G区o-47	4.9	6.1	2.3	91.7	緑色片岩	敲打・研磨整形
第172図 P L129	o48G-1	削器	G区o-48	5.7	3.8	1.0	25.5	黒色頁岩	
第172図 P L129	o48G-2	打斧(完形)	G区o-48	10.1	5.8	2.9	185.1	変質玄武岩	一部磨減・摩面
第172図 P L129	o48G-3	打斧(胴へ刃)	G区o-48	6.6	4.0	2.1	64.7	黒色頁岩	表・中央磨面?
第173図 P L129	o48G-4	石鏃(破片)	G区o-48	8.1	7.0	6.4	435.0	アイサイト	
第173図 P L129	o48G-5	磨・礫・凹石	G区o-48	12.0	7.4	3.7	389.0	粗粒輝石安山岩	被熱・黒変赤変
第173図 P L129	o48G-6	磨・礫・凹石	G区o-48	8.8	8.3	4.4	440.0	粗粒輝石安山岩	
第173図 P L129	o48G-7	凹石	G区o-48	18.1	20.0	9.9	3350.0	粗粒輝石安山岩	角礫素材
第174図 P L129	o48G-8	磨・凹石	G区o-48	9.1	6.6	6.4	360.0	粗粒輝石安山岩	
第174図 P L129	o48G-9	礫石	G区o-48	8.5	4.2	3.6	190.1	粗粒輝石安山岩	
第174図 P L130	o49G-1	打斧(完形)	G区o-49	9.6	3.4	1.2	50.3	黒色頁岩	表面磨減
第174図 P L130	o49G-2	打斧(胴)	G区o-49	5.8	4.6	1.7	53.9	黒色頁岩	表面磨減
第174図 P L130	o49G-3	磨・凹石	G区o-49	8.1	7.0	7.3	340.0	粗粒輝石安山岩	
第175図 P L130	o50G-1	削器	G区o-50	4.7	3.5	0.8	17.4	黒色頁岩	
第175図 P L130	o50G-2	打斧(胴へ刃)	G区o-50	11.2	4.4	1.9	105.9	黒色頁岩	刃部磨減、両側敲打
第175図 P L130	o51G-1	打斧(胴へ刃)	G区o-51	6.8	3.9	1.0	40.5	黒色頁岩	刃部磨減
第175図 P L130	o51G-2	削器	G区o-51	5.0	3.8	1.1	27.6	珪質頁岩	
第175図 P L130	o51G-3	磨・凹石	G区o-51	11.9	10.0	5.1	520.0	粗粒輝石安山岩	全体に被熱赤変
第175図 P L130	p47G-1	石鏃	G区P-47	2.3	0.9	0.3	0.7	黒色安山岩	上端磨減、下端欠損
第175図 P L130	p47G-2	石鏃(胴)	G区P-47	5.9	4.0	1.3	56.8	緑色片岩	
第175図 P L130	p47G-3	磨・凹石	G区P-47	9.2	8.8	3.9	360.0	粗粒輝石安山岩	
第176図 P L130	p48G-1	凹石	G区P-48	16.3	15.5	10.4	2950.0	粗粒輝石安山岩	凹多数、角礫素材
第176図 P L130	p49G-1	削器	G区P-49	5.8	5.0	1.4	58.9	黒色頁岩	
第176図 P L130	p49G-2	削器	G区P-49	3.0	6.7	1.4	33.3	黒色頁岩	
第176図 P L130	p49G-3	打斧(完形)	G区P-49	9.0	4.4	1.8	90.7	灰色安山岩	部分的に磨減
第176図 P L130	p49G-4	打斧(完形)	G区P-49	9.2	3.5	1.2	56.8	黒色頁岩	刃部磨減
第176図 P L131	p49G-5	UF	G区P-49	10.0	6.9	1.7	137.2	珪質頁岩	
第176図 P L131	p49G-6	磨・凹石	G区P-49	11.1	8.3	4.7	420.0	粗粒輝石安山岩	敲打中に欠損
第177図 P L131	p50G-1	削器	G区P-50	8.4	5.3	1.6	64.4	黒色頁岩	
第177図 P L131	p50G-2	石鏃	G区P-50	7.1	5.7	1.8	65.6	黒色頁岩	
第177図 P L131	p50G-3	磨石	G区P-50	3.6	3.1	1.0	15.6	牛伏砂岩	土層甲板状
第177図 P L131	p51G-1	礫石	G区P-51	4.2	3.6	1.8	35.4	粗粒輝石安山岩	小形、円形
第177図 P L131	p51G-2	UF	G区P-51	9.3	15.2	2.6	330.0	黒色頁岩	先端作出
第177図 P L131	q48G-1	UF	G区Q-48	12.5	5.2	2.2	123.7	黒色頁岩	
第177図 P L131	q48G-2	打斧(胴へ刃)	G区Q-48	7.8	3.9	0.9	34.5	黒色頁岩	刃部磨減
第177図 P L131	q48G-3	打斧(完形)	G区Q-48	9.9	5.7	1.1	64.0	黒色頁岩	薄手、頭端欠る
第177図 P L131	q48G-4	磨斧(破片)	G区Q-48	6.0	4.0	1.9	55.7	変質安山岩	縁辺敲打・研磨
第177図 P L131	q48G-5	打斧(完形)	G区Q-48	7.1	4.9	1.7	67.4	ホルンフェルス	分剝形、側面敲打
第178図 P L131	q49G-1	UF	G区Q-49	9.8	5.4	1.4	75.1	黒色頁岩	
第178図 P L131	q49G-2	磨・礫石	G区Q-49	6.1	4.5	3.0	126.0	粗粒輝石安山岩	
第178図 P L131	q49G-3	石鏃(破片)	G区Q-49	9.8	15.0	5.6	700.0	粗粒輝石安山岩	
第178図 P L132	q49G-4	磨・凹石	G区Q-49	8.8	7.6	6.0	440.0	粗粒輝石安山岩	
第178図 P L132	q49G-5	礫石	G区Q-49	8.6	6.6	5.2	390.0	石英	
第179図 P L132	r48G-1	石鏃(完形)	G区r-48	2.1	1.7	0.5	1.3	チャート	三角形
第179図 P L132	r48G-2	打斧(胴)	G区r-48	7.9	5.9	2.0	121.1	粗粒輝石安山岩	
第179図 P L132	r48G-3	削器	G区r-48	6.0	2.9	1.1	30.1	黒色頁岩	
第179図 P L132	r48G-4	削器	G区r-48	6.9	5.8	2.2	78.7	黒色頁岩	

第2節 縄文時代

図版・写真番号	整理番号	器種	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
第179図 P L132	r48G-5	磨・敲・凹石	G区 r-48	10.3	6.8	5.0	519.0	石英閃綠岩	被熱赤変
第179図 P L132	r48G-6	磨・敲・凹石	G区 r-48	8.0	8.4	4.0	330.0	粗粒輝石安山岩	
第180図 P L132	r49G-1	凹石	G区 r-49	18.5	16.3	9.6	3200.0	粗粒輝石安山岩	角礫素材
第180図 P L132	r49G-2	敲・凹石	G区 r-49	14.5	13.0	9.0	1840.0	粗粒輝石安山岩	
第179図 P L132	r50G-1	打弁(完形)	G区 r-50	10.6	5.3	1.8	152.2	ひん岩	一部磨減
第179図 P L132	r51G-1	打弁(割~刃)	G区 r-51	7.9	6.1	1.5	105.0	変質安山岩	刃縁磨減
第180図 P L133	s49G-1	凹石	G区 s-49	19.2	13.3	10.3	3050.0	粗粒輝石安山岩	角礫素材、凹多数
第181図 P L133	s49G-2	磨器	G区 s-49	5.4	7.7	1.4	55.4	黒色頁岩	
第181図 P L133	s49G-3	打弁(完形)	G区 s-49	11.2	7.9	2.2	148.7	灰色安山岩	磨形、表面磨減
第181図 P L133	s51G-1	打弁(割~刃)	G区 s-51	9.0	5.3	1.3	88.7	灰色安山岩	刃部磨減
第181図 P L133	t52G-1	敲石	G区 t-52	6.0	3.9	1.4	48.8	頁岩	横に使用?
第181図 P L133	G区-1	石鏝(頭端欠)	G区 r-一括	2.7	1.9	0.4	1.6	黒色安山岩	
第181図 P L133	G区-2	石鏝(下半欠)	G区 r-一括	10.4	3.8	1.6	116.9	緑色片岩	
第181図 P L133	G区-3	打弁(完形)	G区 r-一括	11.3	7.6	1.7	207.6	粗粒輝石安山岩	分剝形、磨減
第181図 P L133	G区-4	石鏝(下半欠)	G区 r-一括	9.8	4.0	1.5	102.6	黒色片岩	
第181図 P L133	G区-5	磨・敲石	G区 r-一括	9.9	7.5	4.6	425.0	粗粒輝石安山岩	

第25表 H区グリッド出土石器計測表

図版・写真番号	整理番号	器種	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
第182図 P L133	a54G-1	敲石	H区 a-54	10.0	9.3	4.6	500.0	粗粒輝石安山岩	
第182図 P L133	a54G-2	磨器	H区 a-54	10.2	8.8	2.3	200.0	灰色安山岩	全体被熱赤変
第182図 P L134	c47G-1	石棒	H区 c-47	18.7	14.5	9.6	2650.0	粗粒輝石安山岩	
第182図 P L134	f54G-1	打弁(割~刃)	H区 f-54	12.2	10.8	3.7	560.0	砂岩	磨形
第182図 P L134	o55G-1	石鏝(頭端欠)	H区 o-55	2.0	1.8	0.4	0.9	チャート	

第26表 I区グリッド出土石器計測表

図版・写真番号	整理番号	器種	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
第183図 P L134	c58G-1	磨器	I区 c-58	8.2	6.2	4.0	190.0	黒色安山岩	
第183図 P L134	k63G-1	敲石	I区 k-63	11.2	11.8	6.0	940.0	変質安山岩	
第183図 P L134	l60G-1	石棒	I区 l-60	14.3	9.1	7.8	1360.0	黒色安山岩	
第184図 P L134	l60G-2	石鏝	I区 l-60	3.4	1.4	0.4	1.3	黒曜石	基部・右側欠損
第184図 P L134	k82G-1	石棒	I区 k-62	5.6	4.7	4.0	140.0	赤磨玉	
第184図 P L134	l64G-1	石鏝(頭端欠)	I区 l-64	2.2	1.2	3.9	0.9	黒色安山岩	
第184図 P L134	l64G-2	打弁(刃端欠)	I区 l-64	9.9	2.7	1.1	40.0	黒色頁岩	
第184図 P L135	l64G-3	R F	I区 l-64	7.3	6.4	1.2	50.0	黒色頁岩	
第184図 P L135	l64G-4	打弁(頭)	I区 l-64	6.1	4.5	1.6	40.0	黒色頁岩	
第184図 P L135	m61G-1	打弁(完形)	I区 m-61	9.9	5.8	2.6	120.0	頁岩	
第184図 P L135	m62G-1	打弁(割~刃)	I区 m-62	10.6	4.8	2.7	180.0	粗粒輝石安山岩	表面両側磨減
第184図 P L135	m62G-2	打弁(頭~割)	I区 m-62	7.1	4.0	1.5	50.0	地質頁岩	
第185図 P L135	m63G-1	凹石	I区 m-63	12.1	11.9	7.5	960.0	粗粒輝石安山岩	
第185図 P L135	m65G-1	敲・凹石	I区 m-65	12.0	9.0	6.3	700.0	粗粒輝石安山岩	
第185図 P L135	n63G-1	凹石	I区 n-63	15.2	14.0	10.5	2180.0	粗粒輝石安山岩	敲・凹多数
第186図 P L136	o64G-1	凹石	I区 o-64	19.2	13.4	7.5	1620.0	粗粒輝石安山岩	敲・凹多数、亜角礫
第186図 P L136	o65G-1	打弁(頭端欠)	I区 o-65	7.7	4.8	2.6	140.0	灰色安山岩	分剝形、表面磨減
第186図 P L136	p64G-1	敲・凹石	I区 p-64	12.1	8.1	5.4	610.0	粗粒輝石安山岩	
第187図 P L136	p64G-2	打弁(頭~割)	I区 p-64	7.6	7.1	1.7	110.0	黒色頁岩	分剝形
第187図 P L136	p64G-3	磨弁(割~刃)	I区 p-64	9.8	5.4	3.5	290.0	変質安山岩	磨弁
第187図 P L136	p64G-4	磨・敲石	I区 p-64	11.5	7.9	4.7	620.0	粗粒輝石安山岩	
第187図 P L136	l64G-1	打弁(刃)	I区 l-64	7.9	5.4	1.9	90.0	黒色頁岩	磨減顯著
第187図 P L136	l64G-2	U F	I区 l-64	10.5	8.6	2.0	170.0	黒色頁岩	

第27表 J区グリッド出土石器計測表

図版・写真番号	整理番号	器種	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
第188図 P L137	c67G-1	打弁(刃端欠)	J区 c-67	8.5	4.1	0.8	42.8	黒色頁岩	
第188図 P L137	c69G-1	打弁(頭端欠)	J区 c-69	8.5	6.0	1.7	71.7	黒色頁岩	
第188図 P L137	e66G-1	磨器	J区 e-66	4.5	4.0	1.5	31.8	黒色頁岩	横に利用?
第188図 P L137	e68G-1	凹石	J区 e-68	8.0	5.8	5.2	250.0	粗粒輝石安山岩	
第188図 P L137	f68G-1	磨・敲・凹石	J区 f-68	9.2	7.3	4.6	410.0	粗粒輝石安山岩	
第188図 P L137	k65G-1	磨器	J区 k-65	10.0	5.6	2.7	161.3	黒色安山岩	
第188図 P L137	k66G-1	打弁(完形)	J区 k-66	9.7	6.0	1.5	101.2	黒色頁岩	表面一部磨面没す
第188図 P L137	k66G-2	打弁(完形)	J区 k-66	10.8	6.3	2.6	185.9	黒色頁岩	未製品、上端尖る
第189図 P L137	k67G-1	U F	J区 k-67	9.7	6.5	1.4	100.2	黒色頁岩	
第189図 P L137	k69G-1	磨器	J区 k-69	9.0	4.0	2.1	81.5	黒色頁岩	

図版・写真番号	整理番号	器種	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
第189図 P L137	R69-G-2	石鏃	J区 R-69	6.0	3.4	1.5	53.8	雲母石英片岩	
第189図 P L137	R70-G-1	鏃・凹石	J区 R-70	11.9	9.2	5.1	151.0	粗粒輝石安山岩	黒化顕著
第189図 P L138	h65-G-1	打弁(割〜刃)	J区 h-65	9.0	6.2	1.9	46.3	粗粒輝石安山岩	磨滅
第189図 P L138	h68-G-1	削器	J区 h-68	8.6	6.1	1.8	84.6	黒色頁岩	
第189図 P L138	h68-G-2	磨弁	J区 h-68	14.4	5.5	2.9	385.0	蛇紋岩	礫素材
第189図 P L138	h69-G-1	磨・敲石	J区 h-69	7.1	2.5	2.1	51.8	頁岩	小形
第190図 P L138	k69-G-1	打弁(刃)	J区 k-69	4.2	2.8	0.6	10.3	黒色頁岩	小形、磨滅
第190図 P L138	k69-G-2	敲・磨石	J区 k-69	15.5	10.0	6.0	1300.0	黒色頁岩	顕著
第190図 P L138	q72-G-1	打弁(両刃)	J区 q-72	11.1	6.5	1.5	180.0	頁岩	両端磨滅、分銅形
第190図 P L138	r72-G-1	石鏃	J区 r-72	3.0	1.7	0.4	2.4	黒色頁岩	表面割れ
第190図 P L138	r72-G-2	凹石	J区 r-72	12.3	11.4	8.4	880.0	粗粒輝石安山岩	角礫素材、凹多数

第28表 K区グリッド出土石器計測表

図版・写真番号	整理番号	器種	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
第191図 P L138	d73-G-1	打弁(完形)	K区 d-73	11.5	5.8	1.3	100.0	黒色頁岩	刃部磨滅
第191図 P L138	d75-G-1	打弁(割〜刃)	K区 d-75	10.0	5.5	1.3	88.3	粗粒輝石安山岩	刃部磨滅、柄割れ
第191図 P L138	e72-G-1	敲・磨石	K区 e-72	8.1	4.5	2.5	132.5	ヘルツフェルス	
第191図 P L138	e74-G-1	削器	K区 e-74	5.1	4.8	1.0	29.1	黒色頁岩	円形
第191図 P L138	e74-G-2	凹石	K区 e-74	7.8	5.9	4.7	177.4	粗粒輝石安山岩	四方に凹
第191図 P L138	e76-G-1	磨弁(完形)	K区 e-76	6.7	3.7	2.4	57.2	黒色頁岩	小形、角変る
第191図 P L138	e76-G-2	削器	K区 e-76	10.3	7.7	4.2	280.0	黒色頁岩	
第191図 P L138	f75-G-1	敲石	K区 f-75	9.3	3.3	2.0	106.6	粗粒輝石安山岩	
第192図 P L138	i74-G-1	磨弁	K区 i-74	6.7	3.5	1.3	44.0	変玄武岩	石鏃の可能性あり
第192図 P L138	i76-G-1	削器	K区 i-76	7.0	5.7	2.6	108.2	黒色頁岩	円形
第192図 P L138	j76-G-2	敲石	K区 j-76	11.0	2.9	2.6	126.2	砂岩	
第192図 P L138	j73-G-1	削器	K区 j-73	7.9	8.0	1.6	123.1	黒色頁岩	裏面磨滅
第192図 P L138	j75-G-1	R F	K区 j-75	9.8	5.4	2.0	76.8	黒色頁岩	
第192図 P L138	m78-G-1	削器	K区 m-78	7.9	3.2	1.3	26.5	黒色頁岩	
第192図 P L138	m78-G-2	石鏃	K区 m-78	2.8	2.2	0.8	4.7	黒色安山岩	未成品?
第192図 P L138	m78-G-3	石皿(破片)	K区 m-78	9.5	15.0	5.1	940.0	緑色片岩	裏面若干変
第193図 P L138	m78-G-4	凹石	K区 m-78	13.2	11.7	10.5	1570.0	粗粒輝石安山岩	角礫素材
第193図 P L138	n75-G-1	削器	K区 n-75	9.3	5.0	0.9	49.7	黒色頁岩	
第193図 P L138	n78-G-1	削器	K区 n-78	5.6	4.0	0.8	23.7	黒色頁岩	
第193図 P L140	p75-G-1	石刺(下端欠)	K区 p-75	10.3	4.8	1.4	105.1	黒色片岩	表面磨滅
第193図 P L140	q78-G-1	敲石	K区 q-78	10.4	7.5	6.3	690.0	粗粒輝石安山岩	
第193図 P L140	r76-G-1	石鏃(割〜脚)	K区 r-76	1.2	1.2	0.2	0.3	黒色頁岩	頭端に新磨痕
第193図 P L140	r76-G-2	石鏃(脚)	K区 r-76	2.3	1.5	0.4	1.2	黒曜石	上下両端欠損
第193図 P L140	r78-G-1	磨・敲石	K区 r-78	7.6	5.6	4.2	250.0	閃緑岩	
第193図 P L140	r76-G-1	削器	K区 r-76	6.6	5.0	1.3	42.4	黒色頁岩	

第29表 L区グリッド出土石器計測表

図版・写真番号	整理番号	器種	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
第194図 P L140	c77-G-1	石鏃	L区 c-77	1.7	1.7	0.3	0.5	黒曜石	頭端・右脚欠損
第194図 P L140	c81-G-1	磨・敲石	L区 c-81	7.2	5.5	3.1	190.0	灰色安山岩	顕著磨滅
第194図 P L140	d81-G-1	磨・敲石	L区 d-81	8.4	5.8	4.4	310.0	花崗岩	
第194図 P L140	e80-G-1	磨石	L区 e-80	12.4	20.6	11.2	4200.0	粗粒輝石安山岩	被熱、傷付黒変
第195図 P L140	e80-G-2	凹石	L区 e-80	15.6	15.8	13.3	3570.0	粗粒輝石安山岩	角礫素材、黒変
第195図 P L141	e80-G-3	石鏃(頭欠)	L区 e-80	1.6	2.0	0.2	1.0	黒色安山岩	
第195図 P L140	e81-G-1	打弁(完形)	L区 e-81	11.3	5.4	2.8	140.0	黒色頁岩	被熱赤変・黒変
第195図 P L141	f77-G-1	石鏃	L区 f-77	1.6	1.4	0.3	0.4	黒曜石	頭・右脚欠損
第195図 P L141	f77-G-2	石鏃(完形)	L区 f-77	1.5	1.4	0.2	0.3	黒曜石	

第30表 M区グリッド出土石器計測表

図版・写真番号	整理番号	器種	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
第195図 P L141	i78-G-1	打弁(完形)	M区 i-78	9.0	5.7	1.8	100.0	黒色頁岩	分銅形
第195図 P L141	i78-G-2	磨・敲石	M区 i-78	6.2	4.8	2.6	140.0	砂岩	
第196図 P L141	i78-G-3	敲石	M区 i-78	13.8	12.1	4.0	980.0	理質頁岩	
第196図 P L141	m78-G-1	石鏃	M区 m-78	2.8	1.5	0.5	1.5	黒曜石	基部欠損
第196図 P L141	m78-G-2	磨石	M区 m-78	10.0	9.0	5.2	470.0	砂岩	側面に敲打

*石刺=短形石刺、打弁=打製石弁、磨弁=磨製石弁、U F=使用痕のある断片、R F=加工痕のある断片

第3節 弥生時代

本遺跡における弥生時代の遺構・遺物が検出されたのは、調査区の最南端に位置するMp~r-78~81グリッドである。調査区域外の遺構の広がり予想される。

検出した遺構は、土坑1基と溝1条である。

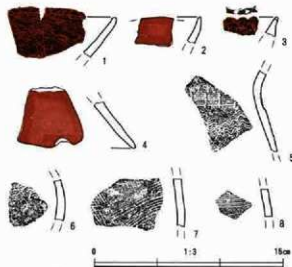
Y1号土坑 (第198・199図、P.L14)

Mr-81グリッドに位置する。本遺構は現道との境界に検出したことから完掘はできなかったが、東側半分程度の調査を行うことができた。遺構確認面は、現代の耕作土を除去した疑似ルーム面である。

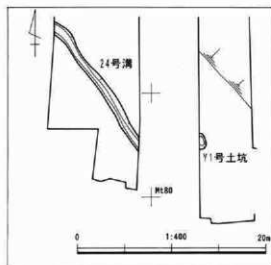
平面形は楕円形を呈し、規模は長軸208cm、短軸残存66cm、深さ65cmを測る。覆土は細かい粒子でしまりのある黒色土である。壁は外反気味に立ち上がり、底面は平坦である。出土遺物は全て覆土内である。30点程の土器片が出土しているが、小片であること、無文で部位不明のものから、以下の8点を図化した。

出土遺物から後期初頭の所産と考えられる。

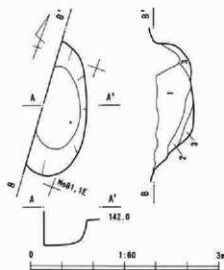
- 1 黒褐色土 粘質土、しまり有
- 2 褐色土 粘質土、しまり有
- 3 黒褐色土 粘質土、しまり有、ローム粒含



第199図 Y1号土坑出土遺物実測図



第197図 弥生時代遺構位置図



第198図 Y1号土坑実測図

24号溝 (第200図、P.L14)

Mp~r-78・79グリッドに位置する。遺構確認は、現代耕作土を除去後の疑似ルーム面である。耕作土は遺構掘り込み面を切り込んでいるため元はもっと深いことが推測される。流筋はN-30°-Wで南東流する。規模は、確認長7.05mを測り、幅は北58cm、中央部40cm、南50cmとほぼ一定している。深さは、確認面から北85cm、中央54cm、南44cmを測るが、標高は北から南に低い南流する地形を呈する。覆土は上層にHr-S降下層があり、間層にはAs-Cの混入

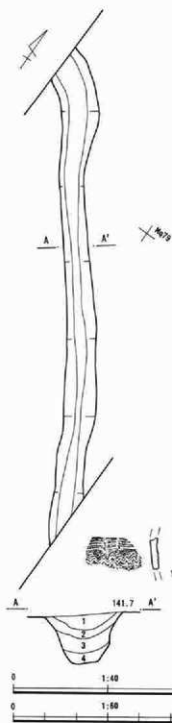
しない黒褐色土となる。下層は黒色砂質土の水流痕が明瞭である。間層にAs-Cの堆積が見られないことから、本遺構はそれ以前に構築されたものと考えられる。

遺物は覆土中より数点出土し、1点が図化可能である。出土遺物から後期初頭と考えられる。

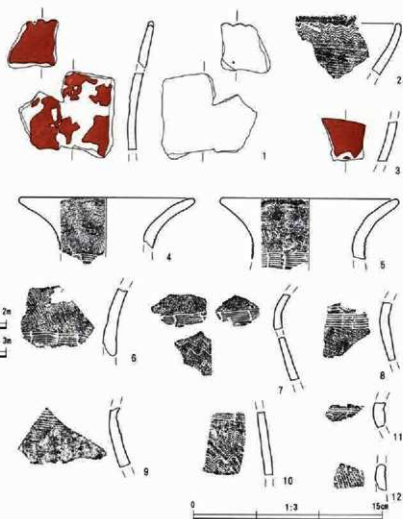
グリッド出土土器 (第200図、P L142)

Mp-r-78~81グリッドを中心にY1号土坑・24号溝などの遺構確認時や同地域内にある中世の溝21~23号溝の覆土内から出土した。100点程の土器片が出土したが、小片であること、無文で部位不明のものが多く、以下の12点を図化した。

遺物は遺構同様に後期初頭の所産である。



- 1 におい黄褐色土 砂質土、軽石粒混、
Hr-S 粒倉
2 明黄褐色土 シルト質土、微砂粒混、
Hr-S 粒倉
3 黒褐色土 砂質土、微砂粒混
4 黒色土 砂質土、微砂粒多混



第200図 24号溝・グリッド出土遺物実測図

第3節 弥生時代

第31表 Y1号土坑出土遺物観察表 (第199図、P.L142)

No	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
土1	高坏	-	-	-	粗砂粒	良好 堅緻	10YR5/4 赤褐	外面：横位・斜位刷毛磨 内面：口唇部に一条の線。以下横位・斜 横位調整刷毛磨	口縁部	覆土	内外面赤色塗彩
土2	高坏	-	-	-	粗砂粒	良好 堅緻	10R5/6 赤	内外面：丁寧な磨	口縁部	覆土	内外面赤色塗彩
土3	甕	-	-	-	粗砂粒	良好 堅緻	2.5YR6/6 橙	外面：縦位擦指き 内面：横位荒磨 口唇部に刷毛	口縁部	覆土	腹口斜刺刷毛
土4	脚付甕	-	-	-	粗砂粒 細粒	良好 軟質	7.5YR7/4 鈍橙	外面：縦位荒磨 内面：横位荒磨	脚部	覆土	外面赤色塗彩 内面灰化による 黒色
土5	甕	-	-	-	粗砂粒 細粒	良好 堅緻	10YR4/2 灰黄褐	外面：頸部、廣状文、割部、波状文 内面：荒研磨	頸部	覆土	廣状文：4条1 単位2段時計回
土6	脚付甕	-	-	-	粗砂粒 細粒	良好 堅緻	10YR5/4 鈍黄褐	外面：波状文 内面：荒研磨	割部	覆土	
土7	甕	-	-	-	粗砂粒 細粒	良好 堅緻	10YR6/6 明黄褐	外面：刷毛目横位・斜位に羽状 内面：横位荒磨	割部 中位	覆土	
土8	甕	-	-	-	粗砂粒 細粒	良好 堅緻	10YR5/6 黄褐	外面：横位直線文 内面：荒磨	割部 中位	覆土	

第32表 24号溝出土遺物観察表 (第200図、P.L142)

No	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
溝1	脚付甕	-	-	-	粗砂粒 細粒	良好 軟質	10YR5/4 鈍黄褐	外面：頸部、廣状文、割部、波状文 内面：荒磨	頸部	覆土	廣状文：3条1 単位、時計回り

第33表 弥生時代グリッド出土遺物観察表 (第200図、P.L142)

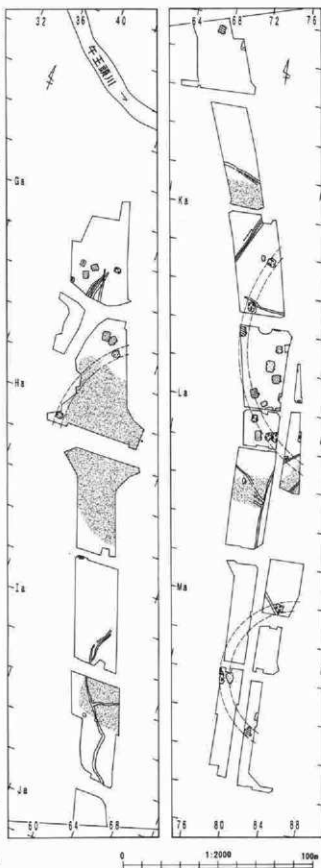
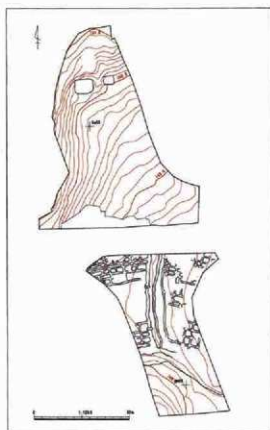
No	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
グ1	甕	-	-	-	粗砂粒 細粒	良好 堅緻	2.5YR8/2 灰白	外面：横位荒磨 内面：横位荒磨 口唇部に刷毛	口縁部 ～割部		内面擦指き後、 全面赤色塗彩
グ2	甕	-	-	-	粗砂粒 細粒	良好 堅緻	10YR6/4 鈍黄橙	外面：口縁部、波状文。口縁部下波状文 施文後荒磨 内面：横位刷毛目後荒磨	口縁部		口縁部内彎 内面赤色塗彩
グ3	高坏	-	-	-	粗砂粒	良好 堅緻	10R5/6 赤	内外面、磨き	口縁部		内外面赤色塗彩
グ4	甕	-	-	-	粗砂粒	良好 堅緻	2.5YR7/2 灰黄	外面：口縁部横位、口辺部横位刷毛目 頸部斜位縦位後廣状文 内面：口縁部横位、横位刷毛目	口縁部 ～頸部		
グ5	甕	-	-	-	粗砂粒	良好 堅緻	2.5Y7/1 灰白	外面：口縁部横位、口辺部横位刷毛目 後横位荒磨、頸部上位縦位刷毛目、頸部 廣状文 内面：口縁部横位、頸部縦位荒磨	口縁部 ～頸部		廣状文：4条1 単位複数段時計 回り
グ6	甕	-	-	-	粗砂粒	良好 堅緻	10YR7/3 鈍黄橙	外面：口辺部斜位刷毛目、頸部廣状文 内面：荒磨	口縁部 ～頸部		内面、灰化黒色
グ7	甕	-	-	-	粗砂粒	良好 堅緻	10YR5/4 鈍黄褐	外面：廣状文、波状文 内面：横位荒磨	頸部		廣状文：4条1 単位2段時計回
グ8	甕	-	-	-	粗砂粒	良好 堅緻	7.5YR5/6 明褐	外面：廣状文、横位・斜位刷毛目 内面：頸部、横位荒磨、頸部、横位斜 位刷毛目	頸部～ 割部		廣状文：4条1 単位複数段時計 回り
グ9	甕	-	-	-	粗砂粒	良好 堅緻	5YR6/6 橙	外面：廣状文、横位刷毛目後スリップ 内面：横位斜位刷毛目	頸部		
グ10	甕	-	-	-	粗砂粒	良好 堅緻	2.5YR8/2 灰白	外面：縦位斜位刷毛目後 廣状文、刷毛目 内面：荒磨	割部		
グ11	甕	-	-	-	粗砂粒	良好 堅緻	7.5YR6/6 橙	外面：廣状文、波状文 内面：荒磨	頸部		
グ12	甕	-	-	-	粗砂粒	良好 堅緻	7.5YR7/4 鈍橙	外面：廣状文、斜位擦指き 内面：荒磨	頸部		

(註：流量は破片のため計量不能)

第4節 古墳時代以降

古墳時代以降の遺構は竪穴住居跡39軒、掘立柱建物跡3棟、欄列5基、竪穴状遺構7基、溝26条、道1本、井戸4基、火葬跡3基、土坑128基、水田3面、畠7面である。以下に時代を追って記す。

古墳時代の遺構は竪穴住居跡2軒、水田1面が検出されている。住居跡は調査区北側の北西方向から傾斜する地点に検出した。水田は傾斜地が緩和される住居跡より南50m程に検出した。水田は5世紀末に降灰したHr-Sにより埋没した小区画水田である。12号住居跡はこの降灰以前に廃棄され、埋土上面にHr-S降灰堆積が確認された。また住居壁外に2.5mの幅で周堤帯が確認された。



第201図 古墳・平安時代遺構位置図

奈良・平安時代の遺構は竪穴住居跡37軒、掘立柱建物跡1棟、竪穴状遺構6基、溝14条、水田1面、畠4面が検出されている。住居跡は、調査区中央のK区・L区に最も集中し、G区とM区の3つの地点に分けられる。G区は現道北の一段高い地点に8世紀代が2軒、9世紀代が3軒あり、現道南側には8世紀代2軒と10世紀代2軒が検出した。この10世紀代の住居はH区南の133号住居跡とともにAs-B下水田を囲むように直径60m程の弧状を呈するようにある。K区・L区では8世紀代の住居2軒と9世紀代の住居10軒と10世紀代の住居1軒が検出した。この9世紀代の住居は直径80m程の弧状を呈する。この弧状の内側には掘立柱建物跡や竪穴状遺構・土坑が検出されており、住居に伴う施設等が想定される。また、この弧状の外側には直線的な溝や柵列が検出し、集落を区画するものと考えられた。M区は9世紀代4軒、8世紀代2軒が検出した。K区・L区同様に9世紀代の住居が直径40m程の弧状を呈するようにある。本遺跡は8世紀代に2軒の単位で発生し、9世紀代になるとこれらの外縁に弧状を呈する集落が構成されてくる。10世紀には縮小され広範囲に点在する。As-Bに覆われた水田・畠はG区・H区の緩斜面から平坦面に検出した水田とI区に検出した畠がある。その他に比較的細く蛇行する溝とその周辺にHr-Sを鉄混んだ畠が検出した。この畠はHr-Sより新しくAs-Bより古いという時間幅があり時代を特定できないものであり、今後の調査例の増加が待たれるところである。

中世の遺構はG区・J区・M区に検出した。G区は現道北からの段差を利用し、柵列・溝により区画された中に掘立柱建物跡を伴う中世屋敷が検出した。その他区画内には井戸2基、火葬跡2基が見られた。J区では溝に区画された中に竪穴状遺構が2基検出した。M区では道が1本あり、周辺に畠が検出した。また、改修の行われた溝も検出しており、付近にある女堀や鎌倉街道との関係が示唆された。土坑はG区・H区・J区を中心に数多く検出したが主に中近世以降の所産と考えられる。

第1項 竪穴住居跡

14号住居跡 (第202図、P L15)

Gn-51グリッドに位置する。南東部側を5号住居跡と重複する。同時代の住居跡は西8mに12号住居跡が位置する。

住居跡の平面形は隅丸長方形を呈し、その規模は南北2.36m、東西3.30mを測る。方位はN-86°-Eを示す。確認面はAs-C混黒色土上面である。

覆土は2層に分層される自然埋没である。

壁の状況はAs-C混黒色土を掘り抜き、黒色土まで掘り込んでいる。傾斜角度は急で垂直に近く、壁の崩壊は少ない。壁高は北壁15cm、南壁10cm、東壁7cm、西壁10cmを測る。

床面の状況は黒色土中に構築され、As-C混黒色土と暗褐色土の混土で貼り床し平坦である。硬質床面範囲は炉南西部に確認された。床下は全体に浅く掘り込み南壁際中央部に不整形の南北58cm、東西87cm、深さ13cmの落ち込みが検出した。

柱穴は3本が住居跡隅に検出した。

第34表 14号住居跡柱穴一覧表

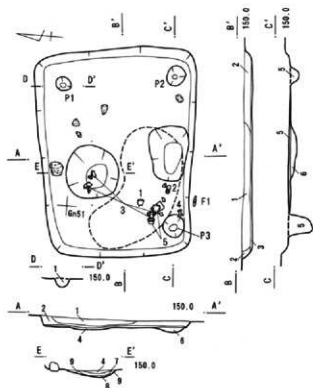
柱穴番号	平面形	NS (cm)	EW (cm)	深さ (cm)	備考
1	円形	25	22	13	主柱穴
2	円形	31	21	16	主柱穴
3	円形	33	36	39	主柱穴

貯蔵穴・周溝は確認されなかった。

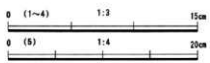
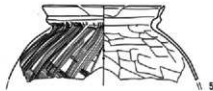
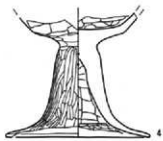
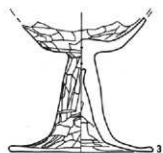
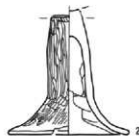
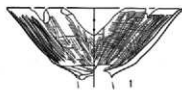
炉 中央北西寄りにある。地焼炉で平面形は円形、断面皿状を呈する。規模は南北82cm、東西85cm、深さ11cmを測る。

遺物は北壁際中央部に炉に接するように長辺22cm、短辺10cm、厚さ7cmの礫が検出し、他に拳大から人頭大の礫が炉東側に点在して出土した。土器は炉内及び住居跡南西隅にS字口縁甕(5)と高坏(4)が床直で出土した。出土した土器はほとんど図化することができた。なお、高坏(3)は炉内と南西隅とで接合関係を示す。また、住居跡南西壁際に刀子(F1)が出土した。刀子は錆の付着が多いがほぼ完形と判断され、東側に鞘の付着も見られた。

出土遺物から本住居跡は4世紀と考えられる。



- 1 黒色土 A_s-C 混
- 2 黒色土 A_s-C 含
- 3 黒褐色土 A_s-C 混
- 4 黒褐色土 A_s-C 混、焼土粒含
- 5 黒褐色土 A_s-C 含
- 6 暗褐色土 A_s-C 混
- 7 暗褐色土 A_s-C 混、□-△粒含
- 8 赤褐色土 焼土
- 9 暗褐色土 A_s-C 混黒色土粒・褐色土粒含



第202図 14号住居跡・出土遺物実測図

第35表 14号住居跡出土遺物観察表(1) (第202図、PL143)

No.	器種・器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 高杯	(14.0)	—	(5.5)	砂粒	良好	7.5Y R7/6 橙	粘土紐輪積み 刷毛目・荒磨	坏部1/5	床直	
2	土師器 高杯	—	(9.5)	(10.0)	砂粒	良好	7.5Y R6/4 紅褐色	粘土紐輪積み 刷毛目・荒磨	脚部	床直	
3	土師器 高杯	—	(11.3)	(10.6)	砂粒	良好	7.5Y R6/6 橙	粘土紐輪積み 刷毛目	坏下部~脚部	床直	

第4節 古墳時代以降

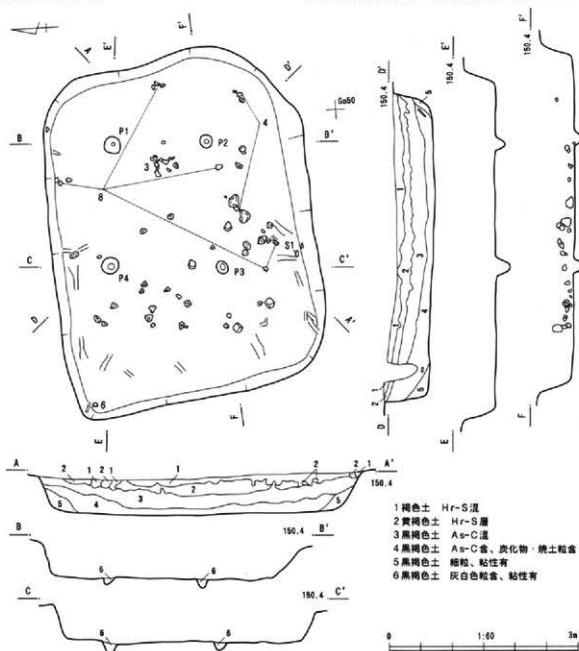
第35表 14号住居跡出土遺物観察表(2) (第202図、P.L.143)

No	器種・器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
4	土師器 高坏	—	(11.3)	(9.8)	砂粒	良好	7.5Y R 6/4	粘土紐輪襷み 刷毛目・荒磨	坏下部～胴部	床直	
5	土師器 台付壺	(13.0)	—	(7.7)	砂粒	良好	7.5Y R 4/6 褐	粘土紐輪襷み 荒磨・刷毛目	口縁～胴部 1/2	床直	

12号住居跡 (第203・204・205図、P.L.16・17)

Gn-49グリッドに位置する。西側に8世紀代の遺物集中地点がある。同時代の住居跡は東8mに14号住居跡が位置する。

住居跡の平面形は隅丸長方形を呈し、その規模は南北4.10m、東西5.45mを測る。方位はN-93°-Eを示す。確認面はAs-C混黒褐色土上面である。



第203図 12号住居跡実測図

周堤帯は混土の高まりを示し検出された。

覆土は自然埋没である。第2層Hr-Sは7枚のユニットに分けられる降下堆積物である。第4層に炭化粒の混入が見られ、壁際からは炭化材や焼土塊が出土した。また、中央西側に拳大から人頭大の礫が床面より僅かに浮くように検出した。漂出土状況については第203図Fラインの投影図を参照されたい。

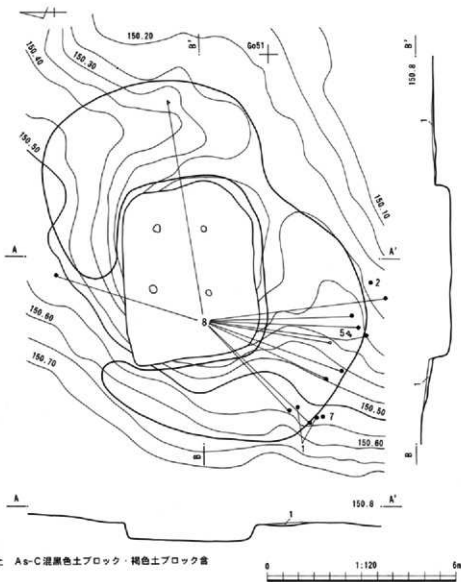
壁はAs-C混黒褐色土を掘り抜き、黒色土に至る。傾斜角度は急でほぼ垂直に近く、壁の崩落は少ない。壁高は北壁54cm、南壁47cm、東壁49cm、西壁55cmを測る。

床面の状況は全体が平坦で踏み締められていた。硬質床面範囲は確認されなかった。床面と掘り方面は一致する。

柱穴は4本が検出した。全体的に東側に寄っていた。屋外周辺の精査に努めたがその他の柱穴は確認できなかった。

第38表 12号住居跡柱穴一覽表

柱穴番号	平面形	NS (cm)	EW (cm)	深さ (cm)	備考
1	円形	23	25	10	主柱穴
2	円形	18	20	12	主柱穴
3	円形	20	22	12	主柱穴
4	円形	28	26	12	主柱穴



第204図 12号住居跡周堤帯実測図

第4節 古墳時代以降

周溝、貯蔵穴、炉は確認されなかった。

壁際に焼土塊と炭化材が出土した。炭化材は壁際で高く、内側に落ちるように見受けられた。なお炭化材については第3章自然科学分析を参照されたい。

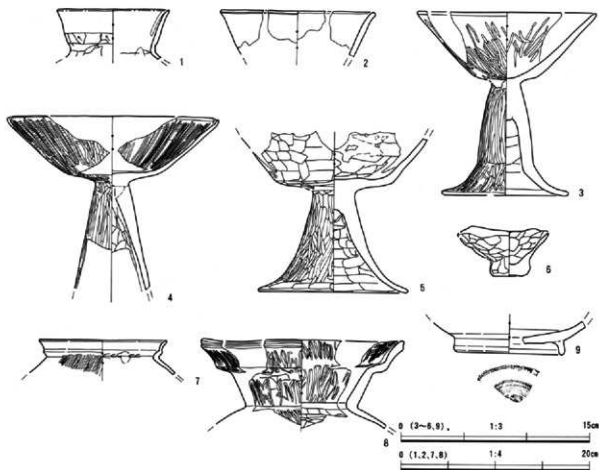
土器は50点程の坏・甕の破片が出土し、その内高坏(3)はP1とP2の中間に床直で一括出土した。また、手づくね(6)は壁際に炭化材に接する様に床面から僅かに高い位置から出土した。

周堤帯は、住居を中心に南北9.1m、東西9.7mの範囲で僅かな高まりを確認した。住居跡からの幅は北1.9m、南3.1m、東2.7m、西1.6mである。盛土はAs-C混黒色土と褐色土の混土で、厚さは南8cm、東10cm、西11cm程である。本地域が北北西から南東

に傾斜していることから、盛土はこの傾斜に沿って流された可能性が考えられる。

遺物は400点程の土器細片が南・西に散在して出土した。その散在した土器片から接合されたパレル式口縁の壺(8)がある。図化した遺物の他に、土師器坏口縁部38片、高坏口縁部2片、高坏脚部3片、甕口縁部10片、甕底部7片、台付甕脚部6片、その他は甕胴部片がある。

出土遺物から本住居跡は5世紀代と考える。



第285図 12号住居跡出土遺物実測図

第37表 12号住居跡出土遺物観察表(1) (第285図、P.L143)

No.	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器壺	(12.0)	—	(5.0)	砂粒	良好	10Y R5/4 にぶい黄褐色	粘土紐輪積み 既撤・荒削り	口縁~頸部 1/4	周堤帯	

第37表 12号住居跡出土物観察表(2) (第205図、P.L143・144)

No	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
2	土師器 壺	(16.2)	—	(4.7)	砂粒	良好	10Y R4/1 褐灰	粘土紐輪積み 磨面	口縁 1/3	周壁帯	
3	土師器 高杯	14.3	10.0	14.5	砂粒	良好	10Y R6/4 にぶい黄橙	粘土紐輪積み 刷毛目・磨面	3/4	床直	
4	土師器 高杯	(16.6)	—	(13.6)	砂粒	良好	5Y R5/6 明赤褐	粘土紐輪積み 刷毛目・磨面	口縁~脚部 1/5	床直	
5	土師器 高杯	—	(11.7)	(12.2)	砂粒	良好	5Y R6/6 橙	粘土紐輪積み 刷毛目・磨面	体部~脚部 1/4	周壁帯	
6	土師器 手づくね	7.2	2.7	3.5	砂粒	良好	10Y R7/4 にぶい黄橙	手づくね 磨面・指押え	完形	床直	
7	土師器 S字壺	(13.6)	—	(3.6)	砂粒	良好	7.5Y R6/4 にぶい橙	粘土紐輪積み 磨面・刷毛目	口縁 1/8	周壁帯	
8	土師器 壺	(21.0)	—	(9.4)	砂粒	良好	7.5Y R5/4 にぶい褐	粘土紐輪積み 磨面・磨面	口縁~脚部 1/4	周壁帯	
9	須恵器 高台付埴	—	(8.7)	(2.7)	砂粒	良好	5Y 8/2 灰白	轆轤成形 回転糸切り	底面	覆土	時期違 い

1号住居跡 (第206・207図、P.L17)

Gf-44・45グリッドに位置する。重複関係はない。周辺には南東6.5mに2号住居跡、東7mに3号住居跡が位置する。

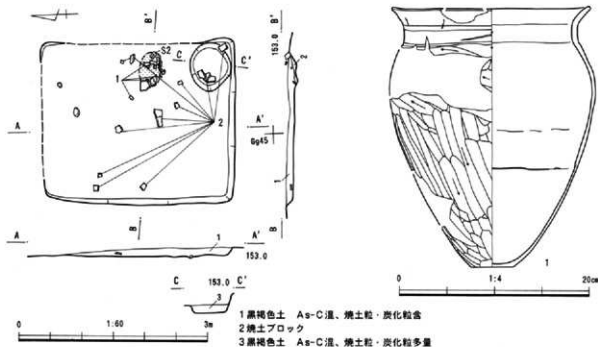
住居跡の平面形は隅丸方形を呈し、その規模は南北3.05m、東西2.52mを測る。方位はN-93°-Eを示す。確認面はAs-C混黒褐色土上面である。

覆土は焼土粒・炭化粒を含むAs-C混黒褐色土である。

壁の状況は黒褐色土を掘り込み、傾斜角度は急で垂直に近く、壁の崩落は少ない。壁高は南壁10cm、東壁12cm、西壁8cmを測る。

床面の状況は黒褐色土中に構築している。硬質床面範囲は確認されなかった。床面と掘り方面は一致している。

貯蔵穴は南東隅にある。平面形は円形を呈し、直径65cm、深さ12cmを測る。床面は平坦である。上面



第206図 1号住居跡・出土物実測図

第4節 古墳時代以降

に大甕(2)の破片が壁面より中央部に傾斜するように出土した。

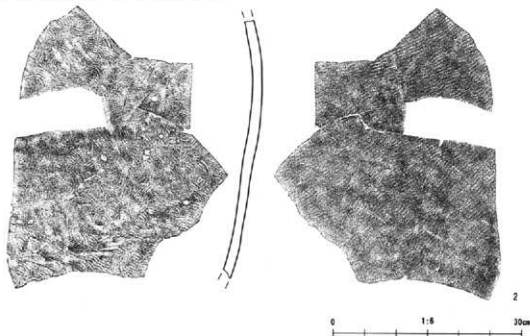
周溝・柱穴は確認されなかった。

カマド 東壁中央にある。燃焼部の掘り方に近い状態で確認された。燃焼部を壁内に構築し煙出しを壁外にするタイプで、壁外20cmほどの範囲に焼土が残っていた。燃焼部は東西53cm、南北33cmで住居床

面から6cm程掘り込んでいる。

遺物はカマド内から「コ」字甕片(1)が、大甕(2)が貯蔵穴及び住居内に散在して出土した。図化した遺物の他に土師器甕口縁部2片と、須恵器坑口縁部2片と土師器甕胴部片が出土した。

本住居跡は出土遺物より9世紀後半と考える。



第207図 1号住居跡出土遺物実測図

第38表 1号住居跡出土遺物観察表(第206・207図、P.L144)

No	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師甕	(21.0)	4.5	(27.5)	砂粒	良好	7.5Y R4/3	粘土細輪積み 段彫・荒磨り	1/4		甕
2	須恵甕 大甕	-	-	-	砂粒	良好	N5/0 灰	粘土細輪積み 叩き目・当て具痕	割部		貯蔵穴

2号住居跡 (第208・209図、P.L17・18)

Gg-45グリッドに位置する。重複関係はない。周辺には北西6.5mに1号住居跡、北東6.0mに3号住居跡が位置する。

住居跡の平面形は隅丸方形を呈し、その規模は南北3.85m、東西3.10mを測る。方位はN-71°-Eを示す。確認面はAs-C混黒褐色土上面である。

覆土は焼土粒・炭化粒を含むAs-C混黒褐色土である。

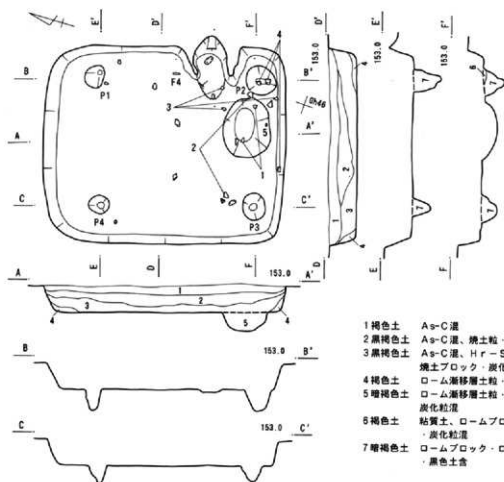
壁の状況は黒褐色土を掘り込み、傾斜角度は急で垂直に近く、壁の崩落は少ない。壁高は北壁40cm、

南壁40cm、東壁43cm、西壁42cmを測る。

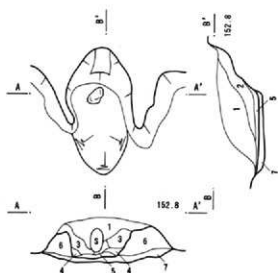
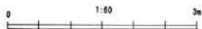
床面の状況は黒褐色土中に構築している。ローム漸移層土を薄く貼り床しているようである。硬質床面範囲は確認されなかった。床面と掘り方面は一致している。

貯蔵穴は南東隅にある。平面形は東西に長い楕円形で、東西93cm、南北73cm、深さ22cmであった。壁面はローム漸移層土を堅く貼り付けるようであった。

柱穴は4本が各隅に検出した。このうち南2本が



- 1 褐色土 Aa-C混
- 2 黒褐色土 Aa-C混、焼土粒・炭化粒含
- 3 黒褐色土 Aa-C混、Hr-S粒含、
焼土ブロック・炭化粒混入
- 4 褐色土 ローム漸移層土粒・黒色土含
- 5 暗褐色土 ローム漸移層土粒・黒褐色土含、
炭化粒混
- 6 褐色土 粘質土、ロームブロック混、焼土粒
・炭化粒混
- 7 暗褐色土 ロームブロック・ローム漸移層土
・黒色土含



- 1 褐色土 Aa-C混、焼土粒・炭化粒含
- 2 赤褐色土 焼土粒多混、炭化物含、粘性有
- 3 褐色土 Aa-C混、ロームブロック含、焼土粒少混
- 4 黒褐色土 Aa-C混、ロームブロック含、炭化粒多混
- 5 赤褐色土 焼土層
- 6 暗褐色土 ロームとローム漸移層混土、固い
- 7 黒褐色土 炭化粒多混、固くしまる



第4節 古墳時代以降

南壁に近すぎる感はあるが、他に柱穴は確認できなかった。

第39表 2号住居跡柱穴一覧表

柱穴番号	平面形	NS (cm)	EW (cm)	深さ (cm)	備考
1	円形	28	34	44	主柱穴
2	円形	49	44	32	主柱穴
3	円形	37	41	25	主柱穴
4	円形	33	27	29	主柱穴

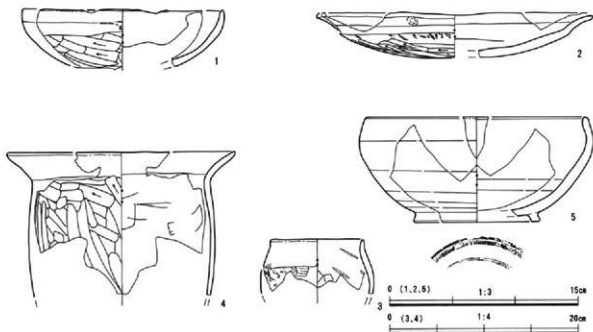
周溝は検出されなかった。

カマド 東壁中央南寄りにある。燃焼部に壁内に構築し壁外に煙道を有するタイプである。規模は全長100cm、幅98cm、契口部幅39cm、燃焼部幅40cm、壁外長17cm、壁内長82cmを測る。袖を壁から内側にローム等を用いた粘土で構築し、床面より6cm程掘り

込み燃焼室を成す。火床面は強く焼けていた。奥壁寄りの河原石は天井補強材か、火床面より浮き天井崩落土中に検出した。煙道部は壁面を削り込む様に構築される。

遺物はカマド周辺から貯蔵穴にかけて集中し、須恵器坑(5)は貯蔵穴壁際に内側に傾くように出土した。土師器環(2)はP2寄りの第2層覆土内から出土した。他は床直である。また、カマド左袖付近から鉄鎌(F4)が床直で出土した。図化した遺物の他に土師器環口縁部37片、壺口縁部8片、底部3片と須恵器坑口縁部2片の他土師器壺胴部片が出土した。

本住居跡は出土遺物から8世紀前半と考える。



第209図 2号住居跡遺物実測図

第40表 2号住居跡出土遺物観察表 (第209図、P.L144)

No	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器環	(16.1)	—	(4.7)	砂粒	良好	7.5Y R6/4 にぶい橙	製作 寛撫・寛削り	1/5	貯蔵穴	
2	土師器環	(21.9)	—	(3.6)	砂粒	良好	5Y R6/6 橙	製作 寛撫・寛削り	1/4	覆土	
3	土師器短壺	(10.1)	—	(5.7)	砂粒	良好	10Y R3/2 黒褐	粘土紐輪積み 寛撫	口縁~胴部 1/3	床直	
4	土師器長胴壺	(24.3)	—	(15.2)	砂粒	良好	7.5Y R4/4 褐	粘土紐輪積み 寛撫・寛削り	口縁~胴中 1/3	床直	
5	須恵器壺	(17.8)	(10.1)	(8.8)	砂粒 白色粒子	良好	2.5Y5/1 黄灰	織輪成形 回転削り・撫調整	1/4	覆土	

3号住居跡 (第210・211図, P L18)

Gf-46グリッドに位置する。重複関係はない。周辺には西7mに1号住居跡、西南6mに2号住居跡が位置する。

住居跡の平面形は隅丸方形を呈し、その規模は南北3.77m、東西3.10mを測る。方位はN-130°-Eを示す。確認面はAs-C混黒褐色土上面である。

覆土の上層はAs-C・Hr-I混入褐色土、下層にはHr-S粒の混入が認められる自然埋没である。

壁の状況は黒褐色土を掘り込み、傾斜角度は急で垂直に近く、壁の崩落は少ない。壁高は南壁27cm、東壁28cm、西壁23cmを測る。

床面の状況はローム漸移層土を削り込み、ローム粒を僅かに含む暗褐色土を薄く貼り床する。貼り床は中央部で10cm弱、壁際で1cm弱の厚さである。床下には中央部に円形皿状の浅い落ち込みが検出し

た。

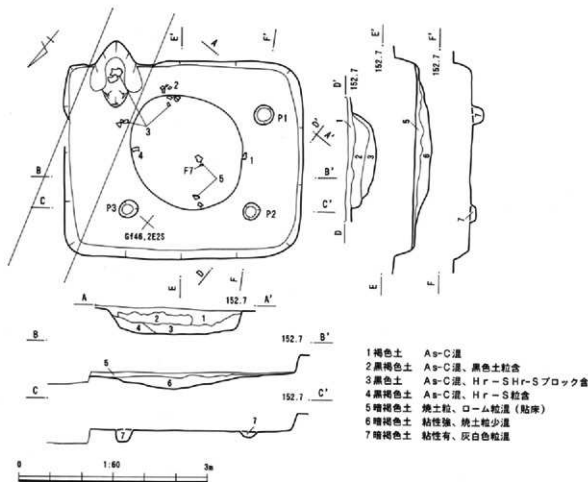
柱穴は3本あり、各隅に対応する位置にある。しかし、柱穴覆土がローム漸移層土に近いことから住居跡に伴うものか不明である。

第41表 3号住居跡柱穴一覧表

柱穴番号	平面形	NS (cm)	EW (cm)	深さ (cm)	備考
1	円形	32	28	18	主柱穴
2	円形	27	24	10	主柱穴
3	円形	28	26	20	主柱穴

周溝・貯蔵穴は検出されなかった。

カマド 東壁北寄りにある。県教委の試掘坑により燃焼部掘り方に近い状態で検出した。燃焼部を壁内に構築し煙道を壁外に有するタイプである。規模は、全長残存77cm、幅残存81cm、壁外長28cm、壁内長48cm、焚口部幅27cm、燃焼部幅31cmを測る。袖を



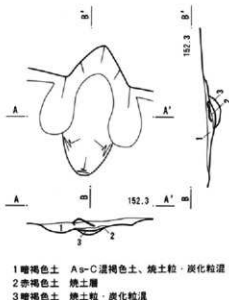
第210図 3号住居跡実測図

第4節 古墳時代以降

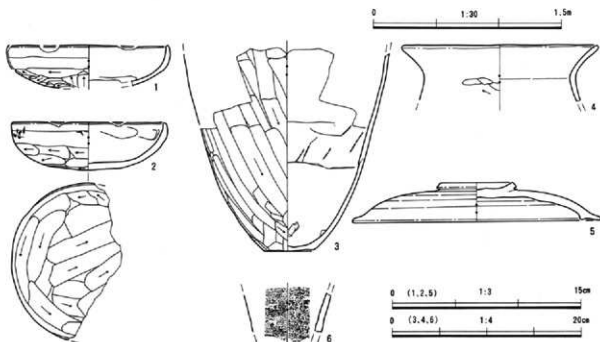
壁から伸ばし構築し、袖には襷を補強材にしていたように両袖先端部に据え付け穴と思われる落ち込みが確認された。煙道は壁外に伸び壁から40cm程の位置まで焼土が残り、被熱赤変していた。カマド内から燧底部片が重なるように出土した。

遺物はカマド内及び周辺から燧(3)が、中央部床直で須恵器蓋(5)が出土した。また、(5)に西接するように鉄器(F7)が出土した。図化されなかった遺物は土師器環口縁部4片・燧底部1片と燧割部20片程である。

本住居跡は出土遺物から8世紀前半と考える。



1 暗褐色土 As-C 混褐色土・焼土粒・炭化粒混
2 赤褐色土 焼土層
3 暗褐色土 焼土粒・炭化粒混



第211図 3号住居跡カマド・出土遺物実測図

第42表 3号住居跡出土遺物観察表(第211図、P.L144・145)

No.	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 環	(13.0)	—	(3.4)	砂粒	良好	5Y R2/1 黒褐	型作り 寛撫・寛削り	1/4	床直	
2	土師器 環	(12.5)	—	3.8	砂粒	良好	5Y R6/4 によい橙	型作り 寛撫・寛削り	1/2	床直	
3	土師器 長胴壺	—	(5.5)	(20.8)	砂粒	良好	2.5Y R6/6 橙	粘土細輪積み 寛撫・寛削り	1/4	電	
4	土師器 長胴壺	(21.0)	—	(5.7)	砂粒	良好	5Y R6/6 橙	粘土細輪積み 寛撫・寛削り	口縁 1/8	覆土	
5	須恵器 蓋	(19.8)	6.3	3.1	砂粒	良好	7.5Y R7/2 白灰	轆轤成形 回転削り・無調整	2/5	覆土	
6	須恵器 長頸壺	—	—	(3.8)	砂粒	良好	N6/0 灰	轆轤成形	頸部	覆土	

4号住居跡 (第212図、P.L18)

Gh-44グリッドに位置する。重複関係はないが、現代耕作土に本住居跡床面近くまで削平されている。また、東側及び南側を試掘坑により壊されている。周辺には北東11m程に1号・2号・3号住居跡があり、同時期の5号住居跡は南東46m、9号住居跡は南71mに位置する。

住居跡の平面形は隅丸方形を呈し、その規模は南北2.80mを測り、東西は残存1.8mである。方位はN-97°-Eを示す。確認面はAs-C混黒褐色土上面である。

覆土には焼土粒・炭化粒を含む暗褐色土が薄く認められた。

壁の状況は黒褐色土を掘り込む。壁高は北壁3cmを測る。

床面の状況はローム漸移層中に構築している。硬質床面範囲は確認されなかった。床面と掘り方面は

一致する。

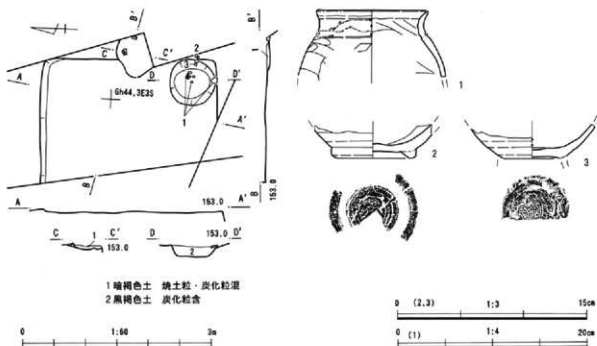
貯蔵穴は南東隅にある。平面形は円形で直径73cm、深さ17cmで、底面は平坦である。遺物が上面に小型甕(1)や須恵器碗(2)が、中に埴(3)が出土した。

周溝・柱穴は確認されなかった。

カマド 東壁中央にある。燃焼部は壁を掘り込み、壁外に構築するタイプである。燃焼部の掘り方に近い状態で確認された。規模は、全長残存80cm、幅残存63cmを測る。燃焼部は住居床面より3cm程掘り込む。

遺物は貯蔵穴に集中し、その他固化されなかった土師器壺口縁部3片、須恵器壺口縁部4片の他胴部片が少量出土した。

本住居跡は出土遺物から9世紀後半と考える。



第212図 4号住居跡・出土遺物実測図

第43表 4号住居跡出土遺物観察表 (第212図、P.L145)

No	器種・形状	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 甕	(12.0)	—	(7.5)	砂粒	良好	7.5Y R 4/4 濁	粘土紐輪横目 露撫・莖刷り	口縁一部 1/8	貯蔵穴	
2	須恵器 高台付埴	—	(6.8)	(3.0)	砂粒	良好	10Y R 6/4 にぶい黄橙	轆轤成形 回転糸切り	1/5	貯蔵穴	
3	須恵器 高台付埴	—	(5.4)	(2.4)	砂粒	良好	10Y R 6/4 にぶい黄橙	轆轤成形 回転糸切り	1/4	貯蔵穴	

第4節 古墳時代以降

5号住居跡 (第213・214図、P.L19)

Gn-51グリッドに位置する。1号掘立柱建物跡と重複関係にあり、本住居跡の方が古い。なお、本住居跡北東隅からカマド先端は試掘坑により壊されている。周辺には北西7.5mに8号住居跡、北西11mに6号住居跡が位置している。同時期の4号住居跡は北西46m、9号住居跡は南西44.5mに位置する。

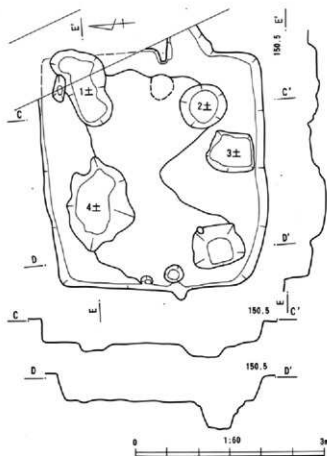
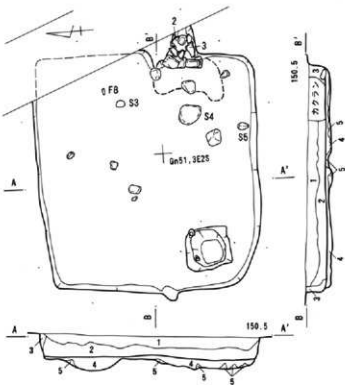
住居跡の平面形は隅丸方形を呈し、その規模は南北3.50m、東西3.76mを測る。方位はN-98°-Eを示す。確認面はAs-C・Hr-I 混茶褐色土上面である。

覆土は確認面土とAs-C混黒色土ブロックを含む褐色土の2層が認められる自然埋没と考える。

壁の状況は黒褐色土を掘り込み、傾斜角度は急で垂直に近く、壁の崩落は少ない。壁高は北壁36cm、南壁33cm、東壁24cm、西壁31cmを測る。

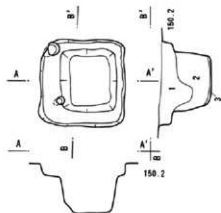
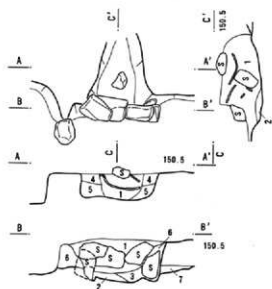
床面の状況はAs-C混黒色土中に構築している。全体にAs-C混黒褐色土と暗褐色土を混ぜた土で薄く貼り床を行っている。さらに柱穴らしい掘り方の不整形な土坑が4カ所に検出した。

貯蔵穴は南西隅にある。平面形は方形を呈する。規模は住居跡床面で南北67cm、東西65cmを測り、10cm程掘り下げた段差の内側で南北44cm、東西47cm、床面からの深さ38cmを測る。底面は平坦で薄く褐色粘質土が貼られていた。段差北側に平面方形、長軸8cm、短軸6cm、深さ15cm程の内傾する



- 1 茶褐色土 粘性有、微砂粒混、As-C混
- 2 茶褐色土 粘性有、微砂粒混、As-C混
黒褐色土ブロック含
- 3 黒褐色土 As-C混
- 4 褐色土 As-C混、Hr-I・Hr-S粒含
- 5 黒褐色土 As-C混

第213図 5号住居跡実測図

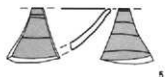
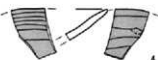
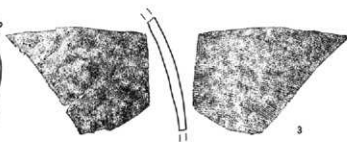
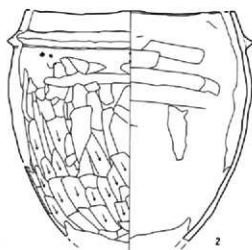


貯蔵穴

- 1 暗褐色土 A s-C 含、微粒、粘性有
- 2 灰黒褐色土 A s-C 混、
- 3 黒褐色土 粘質土、炭化粒含

カマド

- 1 暗褐色土 シルト質砂質土、A s-C 含
- 2 赤褐色土 焼土
- 3 黒灰色土 焼土粒・炭化粒
- 4 茶褐色土 A s-C 混、焼土ブロック含、被熱
- 5 茶褐色土 A s-C 混、被熱
- 6 褐色土 粘質土
- 7 茶褐色土 C 焼土



第214図 5号住居跡カマド・貯蔵穴・出土遺物実測図

第44表 5号住居跡床下土坑一覧表

土坑 番号	平面形	NS (cm)	EW (cm)	深さ (cm)	備考
1	不整形長方形	65	11.5	19.5	
2	円形	73	68	40.5	
3	方形	72	62	108.8	
4	不整形円形	100	145	21.2	

小ピットが2穴検出した。

柱穴は確認されなかったが床下土坑との関係も示唆される。

周溝は確認されなかった。

カマド 東壁中央やや南寄りにある。燃焼部は壁を掘り込み壁外に構築するタイプである。規模は、残存全長89cm、幅94cm、壁外長残存42cm、壁内長47cm、焚口部幅49cm、燃焼部幅30cmを測る。壁を平面形「凸」字状に掘り込み、燃焼部の内側に粘土・石を充填し、袖をやや突出させる。燃焼部は床面より

9cm程掘り込み構築する。焚き口には凝灰岩の切石を鳥居状に石組みをする。燃焼部中央やや奥に長さ18cm、幅12cm安山岩割石の支脚がある。支脚上部に羽釜片が出土した。また、掘り方で左袖付近に直径40cm程の灰のかき出し穴が検出した。

遺物はカマド手前に長軸37.2cm、短軸28.2cm、厚さ10.6cmの扁平な河原石の台石と左側に敲き石、右側南壁際に磨・敲き石が検出した。カマド内より羽釜(2)と須恵器大壺片(3)が出土した。さらに床にくい込むように鉄製品が出土した。図化した遺物の他に土師器坏底部1片と須恵器壺口縁部4片、高台付埴底部2片、羽釜口縁部1片、羽釜の胴部片が多数出土した。

本住居跡は出土遺物から10世紀後半と考える。

第45表 5号住居跡出土遺物観察表 (第214図、P.L145)

No.	器物形状	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	須恵器 埴	—	—	—	砂粒	良好	10Y R6/3 に、おい黄橙	轆轤成形	破片	電	
2	須恵器 羽釜	(22.2)	—	(24.2)	砂粒	良好	7.5Y R4/4	轆轤成形 無調整・笠削り	口縁~胴部 1/4	電	据置
3	須恵器 大壺	—	—	—	砂粒	良好	5Y5/1 灰	粘土紐輪積み 磨き目・叩き目	胴部	覆土	
4	灰釉陶器 碗	—	—	—	砂粒	良好	7.5Y7/1 灰白	轆轤成形	口縁片	覆土	
5	灰釉陶器 碗	—	—	—	砂粒	良好	2.5Y7/1 灰白	轆轤成形	口縁片	覆土	

6号住居跡 (第215・216・217・218図、

P.L19・20)

G1・m-49・50グリッドに位置する。G区土坑群と重複関係にあり、カマド煙道部先端を現代により壊されている。周辺には東接して8号住居跡、南西10.0mに遺物集中地点が位置する。確認面はAs-C・Hr-I混茶褐色土上面である。

覆土はHr-I・Hr-Sを含むAs-C混土であり、地形に沿った北ないし北西方向からの自然埋没である。なお4層の茶褐色シルト質土は北東方向から一時的に流入堆積している。

本住居跡は調査時点では床面にベッド状の高まりを周囲に伴う1軒と考え進めた。しかし、カマドの焼土分布から見た住居プランとの連なり、住居壁面の立ち上がり等を検討した結果、内側(6号-A住

居跡)住居跡は外側(6号-B住居跡)住居跡の縮小改築を行ったものと考えられる。

6号-A住居跡

住居跡の平面形は隅丸方形を呈し、その規模は南北3.27m、東西2.68mを測る。方位はN-86°-Eを示す。

壁の状況は黒褐色土を掘り込み、傾斜角度は急で垂直に近く、壁の崩落は少ない。壁高はBの床面から北壁22cm、南壁9cm、東壁12cm、西壁21cmを測る。

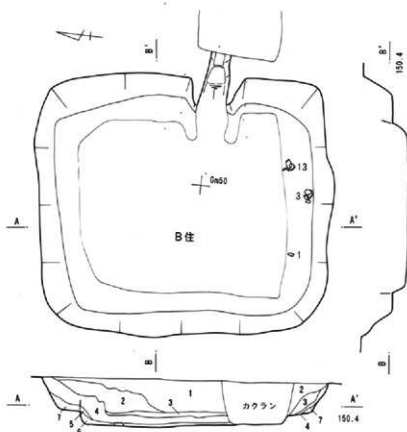
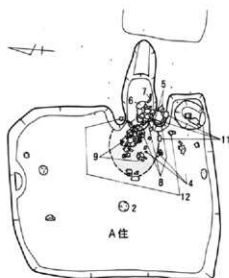
床面の状況は黒色土とHr-S粒を混ぜた粘質土が全体に認められた。床面下は凹凸が少なく平坦である。

貯蔵穴は南東隅にある。平面形は南北に長い不整形長方形を呈し、規模は東西46cm、南北40cm、深さ20cmを測る。底面は南西側で深いU字状である。南壁は地山の黒褐色土内の礫を掘り残し補強材にしているようである。覆土中から小型甕（7）が出土した。

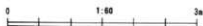
周溝・柱穴は確認されなかった。

カマド 東壁中央南寄りにある。燃焼部は壁を掘り込み壁外に構築するタイプである。規模は全長143cm、幅97cm、壁外長109cm、壁内長34cm、焚口部幅36cm、燃焼部幅42cm、煙道長53cm、煙道幅20cmを測る。燃焼部は壁内に袖を煙道とほぼ平行に伸ばし造られている。左袖は礫を補強材に粘土で壁内に伸ばし構築される。燃焼部は床面より2cm程掘り込み造られ灰粒等が充填され、その上を火床面と成す。燃焼部中央から甕が住居内に倒れるように出土した。煙道部はBのカマドの崩落土を利用し、なだらかに立ち上がる。

遺物はカマド内及び周辺に甕・環が集中して出土した。カマド右袖には甕（11）が逆位に出土した。環（2）は住居中央に正位に床直で出土。貯蔵穴からはこも編み石が2個出土した。

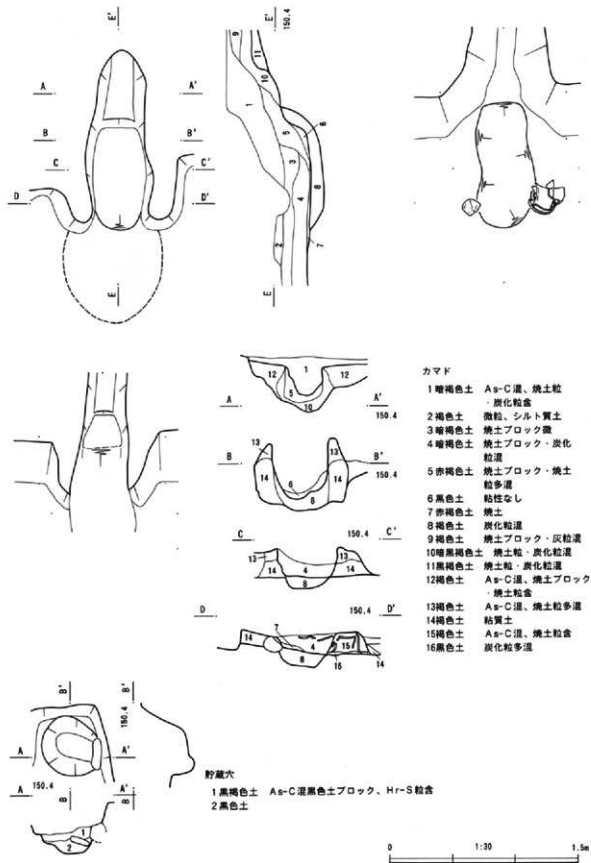


- | | | | |
|--------|--------------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色土 | As-C 混 | 5 黒褐色土 | As-C 混 |
| 2 暗褐色土 | As-C 混、Hr-S ブロック 含 | 6 黒褐色土 | As-C 少混、炭化粒、焼土粒 含 |
| 3 褐色土 | 微粒、シルト質土 | 7 黒色土 | As-C 混 |
| 4 黒褐色土 | As-C 多混 | | |

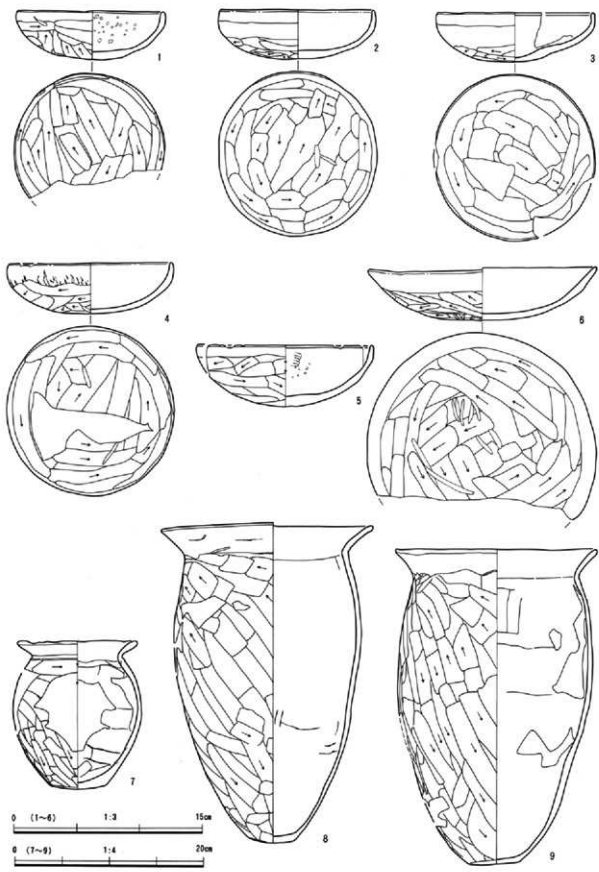


第215図 6号住居跡実測図

第4節 古墳時代以降



第216図 6号住居跡カマド・貯蔵穴実測図



第217图 6号住居跡出土物実測图(1)

第4節 古墳時代以降

6号-B住居跡

住居跡の平面形は隅丸方形を呈し、その規模は南北4.67m、東西4.13mを測る。方位はN-84°-Eを示す。

壁の状況はAs-C・Hr-I 混茶褐色土を掘り込み、傾斜角度は急で垂直に近く、壁の崩落は少ない。壁高は北壁53cm、南壁45cm、東壁46cm、西壁53cmを測る。

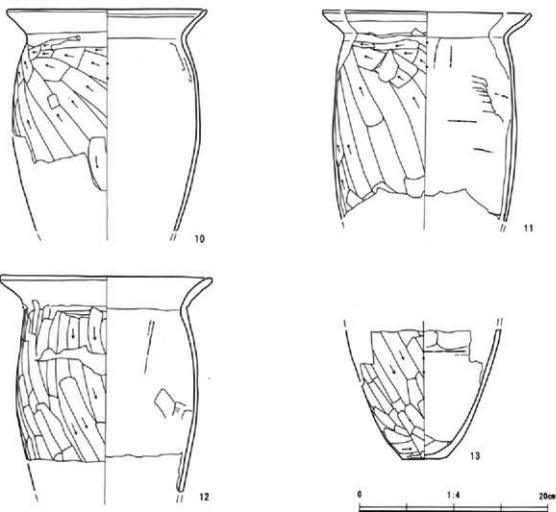
床面の状況はAs-C混黒色土中に構築している。硬質床面範囲は確認されなかった。床面と掘り方面は一致する。

周溝は確認されなかった。

カマド 東壁中央やや南寄りにある。基本的にA住居と同様である。規模は、全長残存125cm、幅85cm、壁外長残存54cm、壁内長71cm、焚口部推定55cm、燃焼部幅残存29cm、煙道長30cm、煙道幅14cmを測る。

遺物は南壁際に壘(13)、坏(3)は壁からやや離れ内側に傾いて出土した。図化した遺物の他に土師器坏口縁部3片、壘口縁部6片、壘割部片が多数出土した。

本住居跡はA・B共に8世紀前半と考える。



第216図 6号住居跡出土遺物実測図(2)

第46表 6号住居跡出土遺物観察表(1) (第217図、P.L.145・146)

No	器種・器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 坏	11.8	-	3.9	砂粒	良好	5Y R 6/6 橙	型作り 甍揃・甍削り	3/4	B床直	
2	土師器 坏	12.5	-	3.9	砂粒	良好	2.5Y R 6/6 橙	型作り 甍揃・甍削り	完形	A床直	

第46表 6号住居跡出土遺物観察表(2) (第217・218図、P.L148・147)

No.	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
3	土師器 環	(12.6)	—	3.9	砂粒	良好	5Y R6/8	型作り 磨	ほぼ完形	B床直	
4	土師器 環	13.1	—	4.0	砂粒	良好	5Y R5/4 にぶい赤褐	型作り 磨・磨削り	ほぼ完形	B床直	
5	土師器 環	(14.1)	—	4.9	砂粒	良好	5Y R6/8	型作り 磨	2/5	B直	
6	土師器 環	18.1	—	4.2	砂粒	良好	7.5Y R4/4 褐	型作り 磨・磨削り	3/4	B直	
7	土師器 小型甕	(12.8)	(5.9)	(15.6)	砂粒	良好	10Y R4/2 灰黄褐	粘土紐輪積み 磨・磨削り	1/4	B直	
8	土師器 長胴甕	22.6	4.8	33.9	砂粒	良好	5Y R5/6 明赤褐	粘土紐輪積み 磨・磨削り	ほぼ完形	B直	
9	土師器 長胴甕	21.4	5.3	33.4	砂粒	良好	7.5Y R6/4 にぶい橙	粘土紐輪積み 磨・磨削り	ほぼ完形	B直	
10	土師器 長胴甕	(21.3)	—	(23.3)	砂粒	良好	7.5Y R6/6 橙	粘土紐輪積み 磨・磨削り	口縁~胴中 1/2	B床直	
11	土師器 長胴甕	(22.2)	—	(22.1)	砂粒	良好	10Y R6/4 にぶい黄褐	粘土紐輪積み 磨・磨削り	口縁~胴中 1/4	B直	
12	土師器 長胴甕	22.6	—	(22.7)	砂粒	良好	10Y R6/3 にぶい黄褐	粘土紐輪積み 磨・磨削り	口縁~胴中	B直	袖
13	土師器 長胴甕	—	(4.8)	(13.6)	砂粒	良好	10Y R2/3 黒褐	粘土紐輪積み 磨・磨削り	胴中~底部 1/2	A床直	

■ 6号住居跡 (第219図、P.L20)

Gm-50グリッドに位置する。G区土坑群と重複関係にある。全体を現代に削平されており残存率は低い。周辺には西接して6号住居跡、南東7.5mに5号住居跡が位置する。確認面はAs-C・Hr-I混茶褐色土上面である。

調査時点では1軒として進めたが、僅かに残る壁の立ち上がりから2軒の重複関係が認められた。カマドを有する住居跡(8号-A住居跡)と北東隅を共有する住居跡(8号-B住居跡)である。新旧関係はAの方が新しい。

壁の状況はAs-C・Hr-I混茶褐色土を僅かに掘り込んでいる。

床面の状況はAs-C混土層中にあり、床面と掘り方は一致しており、凹凸が激しい。硬質床面範囲は確認されなかった。

■ 8号-A住居跡

住居跡の平面形は隅丸長方形を呈し、その規模は南北4.40m、東西3.21mを推測する。方位はN-128°-Eを示す。

壁高は僅かに確認された部分で、東壁5cm、西壁8cmを測る。

周溝・柱穴・貯蔵穴は確認されなかった。

カマド 東壁中央にある。燃焼部掘り方で確認された。燃焼部は壁を僅かに掘り込み、壁内外の中間にある。

遺物はカマド左側に壁の底部(2)と北隅に環(1)が出土し、他の遺物の検出はなかった。

■ 8号-B住居跡

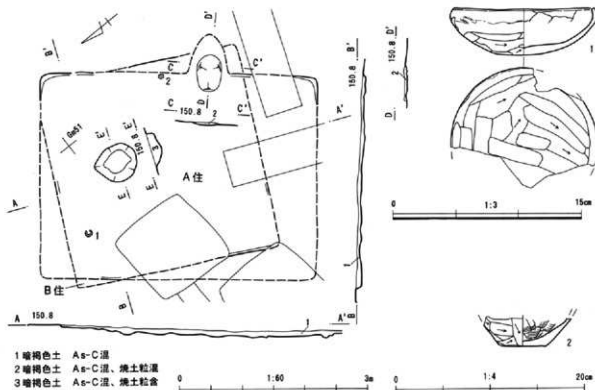
住居跡の平面形は隅丸方形を呈し、その規模は南北3.30m、東西3.23mを推測する。方位はN-116°-Eを示す。

壁高は北壁3cm、南壁2cm、東壁5cm、西壁10cmを測る。

中央北寄りに貯蔵穴か、掘り方土坑かと思われる、平面円形を呈した、直径60cm、底面ほぼ平坦な落ち込みが検出した。

周溝・柱穴・カマドは確認できなかった。

遺物はA住居に採りあげたものだけである。本住居跡は出土遺物からA・B共に8世紀前半と考える。



第219図 8号住居跡・出土遺物実測図

第47表 8号住居跡出土遺物観察表(第219図、P.L147)

No.	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 坏	(11.4)	-	3.6	砂粒	良好	5Y R5/4 にぶい赤褐	型作り 荒撫・磨削り	1/2	床直	
2	土師器 壺	-	5.0	3.1	砂粒	良好	5Y R6/6 橙	粘土紐輪積み 荒撫・磨削り	底部	床直	

9号住居跡 (第220図、P.L20)

Hb-47・48グリッドに位置する。G区6号土坑と重複関係にあり、本住居跡の方が古い。周辺には住居跡は認められなかったが、同時期と思われる。5号住居跡は北東44.5mに、4号住居跡は北71mに位置している。

住居跡の平面形は隅丸方形を呈し、その規模は南北2.97m、東西3.22mを測る。方位はN-89°-Eを示す。確認面はAs-C混黒褐色土上面である。

覆土はAs-C・Hr-I多混の暗褐色土の単層に近く、壁際や床面近くにAs-C混黒色土ブロックがある。この堆積は地形勾配に沿って西側からの自然埋没である。

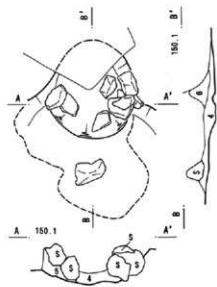
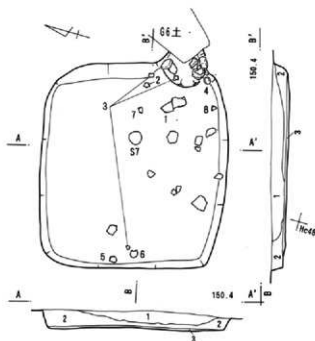
壁の状況はAs-C混黒褐色土層を掘り込んでいるため、傾斜角度が急で垂直に近く、壁の崩壊は少な

い。壁高は北壁27cm、南壁19cm、東壁23cm、西壁16cmを測る。

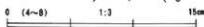
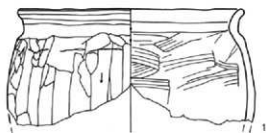
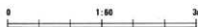
床面の状況はAs-C混黒褐色土中に構築している。床面は褐色土を1cm弱で斑状に貼り床する。硬質床面範囲は中央部で確認された。貼り床下は平坦で床下土坑等の施設は検出されなかった。

周溝・柱穴・貯蔵穴は確認されなかった。

カマド 東壁南隅にある。燃焼部は壁を掘り込み壁外に構築するタイプである。規模は、全長残存77cm、幅79cm、推定壁外長47cm、壁内長30cm、焚口部幅23cm、燃焼部幅50cmを測る。焚口部を除いて6号土坑に壊される。焚口部は2個の角礫を対に立てるように置かれ、燃焼部にも、石を組んだ形跡が見られた。燃焼部には焼土・炭はほとんどなく、南西隅



- 1 暗褐色土 As-C・Hr-S混
- 2 暗黒褐色土 As-C・Hr-S混、As-C混黒色土ブロック查
- 3 黒褐色土 As-C混
- 4 黒色土 灰層と黒色土
- 5 褐色土 As-C混、粘性有
- 6 黒褐色土 黒色土・ローム層移層粒混、粘性有



第220図 9号住居跡・出土遺物実測図

から1m四方付近までかき出したらしい黒灰が薄く広がっていた。また、この分布内にはカマドで使用した石が点在して出土した。石はいずれも地山の角礫を使用しており、被熱やタール等の付着物は肉眼では確認できなかった。カマド内からの土器の出土はない。

遺物はカマド周辺には石の他に、甕(1)・埴(4)

第48表 9号住居跡出土遺物観察表(第220図、P.L147・148)

No	器種器形	口径	高径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 甕	(23.5)	—	(12.0)	砂粒	良好	2.5Y R5/6 明赤褐	粘土紐輪積み 荒撫・荒削り	口縁~胴部 1/4	覆土	
2	土師器 埴	—	—	—	砂粒	良好	10Y R3/3 暗褐	粘土紐輪積み 荒撫・荒削り	口縁片	床直	
3	土師器 埴	—	(9.8)	(4.5)	砂粒	良好	7.5Y R5/3 いぶい	粘土紐輪積み 荒撫・荒削り	胴部~底部 1/4	竈	
4	須恵器 埴	8.6	2.0	4.4	砂粒	良好	5Y R6/6 橙	轆轤成形 回転糸切り	完形	床直	
5	須恵器 埴	10.6	5.9	2.6	砂粒	良好	2.5Y 7/2 灰黄	轆轤成形 静止糸切り	3/4	覆土	
6	須恵器 埴	(13.0)	4.5	4.7	砂粒	良好	7.5Y R7/6 橙	轆轤成形 回転糸切り	1/2	覆土	
7	灰釉陶器 埴	(13.2)	—	(4.0)	砂粒	良好	2.5Y 7/3 黄	轆轤成形	口縁~胴部 1/4	床直	
8	灰釉陶器 高台付碗	(12.9)	—	(4.6)	砂粒	良好	2.5Y 8/1 灰白	轆轤成形	口縁~胴部 1/5	床直	

が床直で出土した。また、西壁際の埴(5)は壁から内傾するように床から僅かに浮いて出土した。凶化した遺物の他に、土師器甕口縁部2片、羽釜口縁部1片、内耳鍋底部1片と須恵器埴底部3片、甕底部1片が出土した。

本住居跡は出土遺物から10世紀後半と考える。

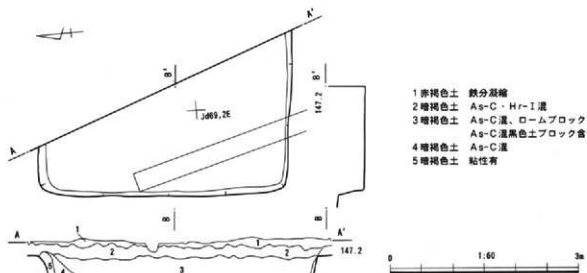
10号住居跡 (第221図、P.L21)

Jb・c-69グリッドに位置する。重複関係はないが、東側は調査区外となっている。周辺には北西15mに134号住居跡が位置している。

住居跡の平面形は隅丸方形と考えられるが、全体の1/2程度西側の残存のため不明である。規模は南

北3.95m、東西残存1.83mである。方位は西壁からN-94°-Eを示す。確認面はAs・C・Hr-I 混黒褐色土上面である。

覆土はAs・C・Hr-I 混黒褐色土にロームブロック、As・C 混黒褐色土との混土で埋没する。中央部に



第221図 10号住居跡実測図

ロームブロックが多く、人為的埋没の可能性が考えられる。

壁の状況は黒褐色土層を掘り抜いているため、傾斜角度が急で垂直に近く、壁の崩壊はしにくい。壁高は北壁36cm、南壁36cm、西壁39cmを測る。

床面の状況はローム漸移層上面まで削平し、As-C混土を部分的に貼り床している。硬質床面範囲が中央部で確認された。床面と掘り方は一致しており、床下土坑などの施設は確認されなかった。

13号住居跡 (第222図、P L21)

Ge・f-48グリッドに位置する。重複関係はないが、現代に削平されている。周辺には西18.5mに1号住居跡が、西25.5mに4号住居跡、さらに南150mに133号住居跡が位置している。

住居跡の平面形は隅丸方形を呈し、その規模は南北2.63m、東西2.92mを測る。方位はN-90°-Eを示す。確認面は現代耕土下のローム面である。

壁・床面の状況は確認面が非常に浅く不明である。

貯蔵穴は南西隅にある。平面形は不整形で、東西62cm、南北70cm、深さ24cmであった。底面は比較

周溝・柱穴・貯蔵穴は確認されなかった。

カマド 調査区外に存在するものと考えられる。遺物の出土はなかった。

本住居跡は平面形、床面の状況は良好であるが、遺物の出土は皆無に近く、生活臭に乏しい。周辺のグリッドでも平安時代前後の遺物が乏しく、遺構があったとしても中心を外れた縁辺に位置するものと考えられる。

本住居跡は覆土より平安時代の所産と考える。

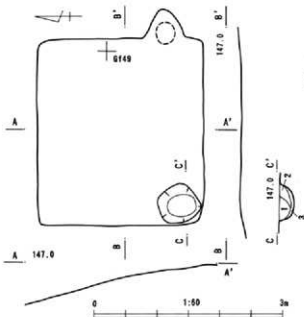
的平坦である。

周溝・柱穴は確認できなかった。

カマド 東壁中央南寄りにある。燃焼部は壁を掘り込んで構築するタイプである。燃焼部の掘り方の被熱部のみ確認された。規模は、推定全長29cm、推定幅34cmを測る。被熱範囲は南北30cm、東西35cmである。

遺物は覆土内より須恵器大壺片だけである。

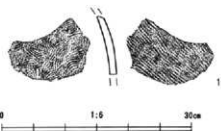
本住居跡は覆土より平安時代と考える。



第49表 13号住居跡出土遺物観察表 (第222図、P L148)

No	器種器形	口径	底径	器高	胎土	構成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	須恵器 大壺	-	-	-	砂粒	良好	N5/6 灰	粘土紐輪襷み 叩き目・当て具痕	割破片	覆土	

- 1 褐色土 As-C混
- 2 褐色土 As-C混、ローム粒・ブロック含
- 3 黒色土 As-C含、粘性有



第222図 13号住居跡・出土遺物実測図

15号住居跡 (第223・224図、P.L21)

Ke-75グリッドに位置する。2軒の住居跡の重複であり、東辺を基準にした建て替えが認められた。周辺には南西25.5mに16号住居跡、南54.5mには17号住居跡が位置している。本住居跡は南に位置する住居跡群の外縁を成すものと考えられる。確認面はAs-C・Hr-I混黒色土上面である。

覆土はHr-I混茶褐色土の単一層である。

本住居跡は東辺を重複させた建て替えがあり、カマドから見ると南北に長い方形プランを呈する15号-B住居跡を東西に長い方形プラン(15号-A住居跡)に建て替えている。

壁の状況は黒褐色土を掘り抜きルーム面に至って

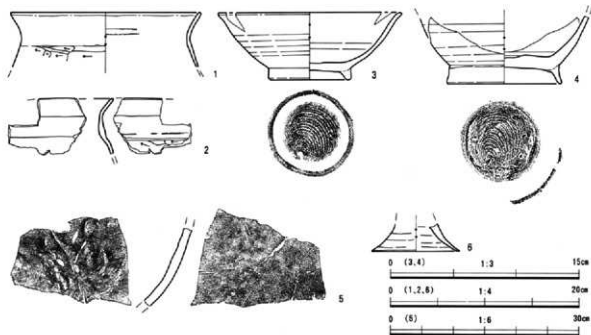
おり、傾斜角度は急で垂直に近く、壁の崩壊はしにくい。

15号-A住居跡

住居跡の平面形は隅丸方形を呈し、その規模は南北3.35m、東西3.95mを測る。方位はN-108°-Eを示す。

壁高は、南壁17cm、東壁20cm、西壁17cmを測る。

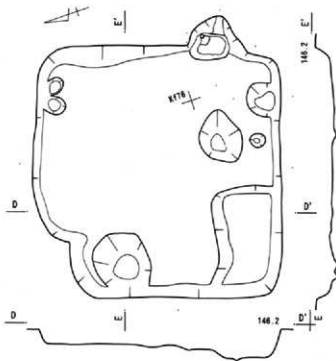
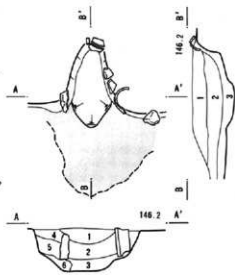
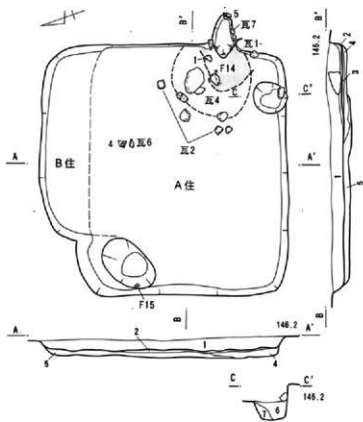
床面は壁間は掘り込んだルームを踏み固めており、カマド手前は褐色土で貼り床している。なお、貼り床は壁面から10cm弱の隙間があり、壁際の補強材の痕跡と考えられる。硬質床面範囲はカマド手前から中央部にかけて確認された。なお、西側は掘りすぎ



第223図 15号住居跡実測図

第50表 15号住居跡出土遺物観察表 (第223図、P.L148)

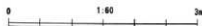
No	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 壺	20.0	-	5.1	砂粒	良好	5Y R5/8 明赤褐	粘土紐輪積み 笠飾・器周り	口縁～頸部 1/8	竈	
2	土師器 壺	-	-	-	砂粒	良好	5Y R3/3 暗赤褐	粘土紐輪積み 笠飾・器周り	口縁～頸部片	覆土	
3	須恵器 高台付椀	(14.6)	6.6	5.4	砂粒	良好	5Y7/2 灰白	轆轤成形 回転糸切り	1/3	掘方覆	
4	須恵器 高台付椀	-	(9.2)	(5.3)	砂粒	良好	5Y8/1 灰白	轆轤成形 回転糸切り	1/2	床直	
5	須恵器 大壺	-	-	-	砂粒	良好	5Y5/1 灰	粘土紐輪積み 叩き目	胴部片	竈	
6	土師器 高台付壺	-	(9.8)	(2.9)	砂粒	良好	7.5Y R4/6 褐	粘土紐輪積み 調整	脚部 1/4	覆土	



- 1 茶褐色土 Hr-I混、As-C含
- 2 黒褐色土 焼土・灰混
- 3 黒褐色土 粘性有
- 4 茶褐色土 Hr-I・As-C混
- 5 褐色土 ローム層移層粒混
- 6 黒褐色土 炭化物含
- 7 黒褐色土 ローム粒混

カマド

- 1 茶褐色土 Hr-I混、As-C含、焼土含
- 2 赤褐色土 焼土混、灰含
- 3 暗褐色土 As-C・Hr-I混、焼土含
- 4 茶褐色土
- 5 茶褐色土 焼土ブロック・灰含
- 6 黒褐色土 粘質土



第224図 15号住居跡出土遺物実測図

第4節 古墳時代以降

のため確認できなかった。また、焚口付近はカマドからの流失土とともに灰や焼土粒が散在する。床下にはカマド手前及び南西隅に浅い皿状の掘り方が2ヶ所検出した。

貯蔵穴は南辺カマド寄りにある。平面は円形を呈し、南北53cm、東西51cm、深さ28cmを測る。

周溝・柱穴は確認されなかった。

カマド 東壁中央南寄りにある。燃焼部は壁を掘り込んで構築するタイプである。規模は、全長71cm、幅75cm、壁外長49cm、壁内長22cm、焚口幅32cm、燃焼部幅24cmを測る。袖は壁内に伸ばし構築され、右袖に丸瓦を左袖に河原石を補強材として用いる。カマド第6層の粘土は左袖手を固定するための置き土と考えられる。燃焼部底面には灰が多く、上層は被熱赤化したカマド廃棄後の崩落土で覆われていた。煙道部には壁で蓋をするように補強されていた。カマド手前1mの範囲内には、焚き口の補強材と考えられる大小2個の石と、袖の一部である粘土が、さらに燃焼部上層の崩落土が流出していた。

16号住居跡 (第225・226・227図、P.L21・22)

Kj-74グリッドに位置する。15号溝が化壁から50cm程付近を横断し、分岐した溝がカマド煙道部を壊す。北西隅はK区8号土坑が壊している。新旧関係は本住居跡→15号溝→K区8号土坑の順に新しい。周辺には北東25.5mに15号住居跡、南西14mに20号住居跡、南東33mに17号住居跡が位置している。

南東隅はカマドを境として壁に20cm弱の食い違いが見られ、10cm強の欄状になる。東壁が一樣に不明瞭なことから何らかの造作が施されたものと考えられる。確認面はAs-C・Hr-I 混黒褐色土上面である。

住居跡の平面形は不整形を呈し、その規模程4.40m、東西3.50mを測る。方位はN-93°Eを示す。

覆土は3層に区分される自然埋没である。

壁の状態は黒褐色土層を掘り込み、ローム面に至る。傾斜角度はやや外反しているが、壁の崩壊は少

遺物は瓦がカマド袖と住居内出土し、住居内の瓦は14号溝出土の瓦と接合関係を示す。また、鉄製品が2点出土した。鉄鎌(F15)は北西隅で水平状態で検出した。検出時は完形であったが取り上げ時に4点に割れてしまった。刃先の裏面に植物茎の跡痕が付着していた。その他、壘(1)・坑(4)等が床直で出土した。

15号-B住居跡

住居跡の平面形は隅丸長方形を呈し、その規模は南北3.88m、東西3.06mを測る。方位はN-90°Eを示す。

壁高は北壁10cm、南壁17cm、東壁20cmを測る。

図化した遺物の他に土師器口縁部7片、壘口縁部3片、壘胴部片多数と須恵器坑口縁部8片、坑底部4片が出土した。

本住居跡は出土遺物から9世紀後半と考える。

壁高は北壁54cm、南壁50cm、東壁52cm、西壁60cmを測る。

床面の状況はローム層中に構築している。壁際、特に北寄りがせり上がる様に高くなる。硬質床面は中央部で確認された。この硬質面は非常に硬くしまっていた。

周溝はカマドを除いて程全周し、幅・深さともに安定している。幅15cm、深さ5cmを測る。

その他の施設として東南隅に棚状遺構が検出した。カマド南側から南壁中央東寄りにかけて三角形を呈する。これはカマドを境として壁が20cm弱食い違い、床面から10cm強の段差を成す。コーナー部に柱穴らしい掘り方が検出した。規模は直径43cm、深さ10cmを測る。東壁が一樣に不明瞭なことから何らかの造作を施したものと考える。

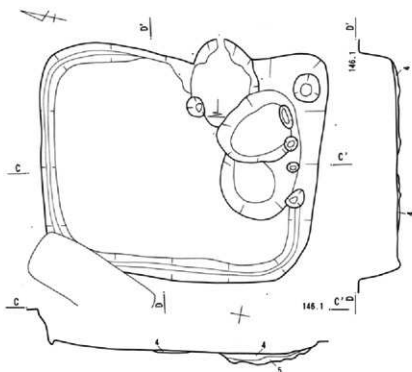
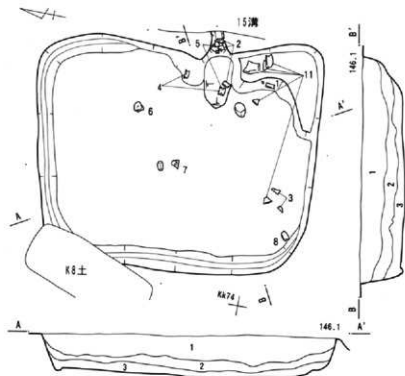
柱穴は棚状遺構の1本のみである。

貯蔵穴は検出されなかった。

カマド 東壁中央やや南寄りにある。燃烧部は壁内に構築し、煙道部は壁を掘り込み構築するタイプである。規模は、全長残存121cm、幅118cm、壁外長残存30cm、壁内長91cm、焚口部41cm、燃烧部長46cm、煙道長残存28cm、煙道幅11cmを測る。掘り方は楕円形を呈し、燃烧部を構築する際に内側に粘土を充填し、袖を突出させる。左袖には砂岩を芯材に粘土を貼付する。燃烧部は床面より4cm程掘り込み、火床面は強く焼けていた。煙道には口縁を外した「コ」字壁を粘土で固定し転用している。

遺物はカマド内から甕(2)が、棚状遺構から須恵器大甕(11)が出土した。また覆土内から釘(F16)や3層中から内面に「十」の線刻のある埴(6)が出土した。その他多くの土器片が主に1層・2層から出土した。図化した遺物の他に、土師器口縁部14片、埴口縁部片が多数出土した。

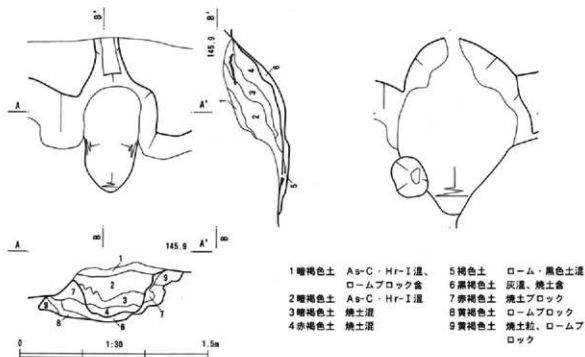
本住居跡は出土遺物から9世紀後半と考える。



- 1 暗褐色土 As-C・Hr-I混
- 2 暗褐色土 As-C・Hr-I混、ロームブロック含
- 3 暗褐色土 As-C・Hr-I混、ローム粒・As-C混黒色土ブロック含
- 4 黒褐色土 暗褐色土粒・ローム粒混、硬化
- 5 暗褐色土 ローム粒含、焼土・炭化物含



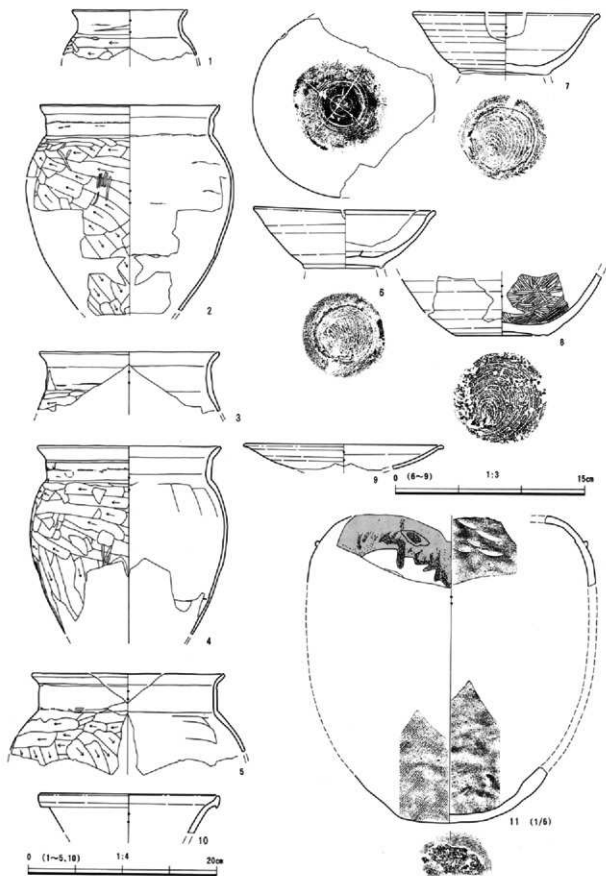
第4節 古墳時代以降



第226図 16号住居跡カマド実測図

第51表 16号住居跡出土遺物観察表 (第227図、P.L.148・149)

No	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 小髷壺	(12.3)	—	(5.3)	砂粒	良好	7.5Y R5/3	粘土総輪積み にふい縄 擦撫・磨削り	口縁~胴部 1/4	覆土	
2	土師器 壺	(19.2)	—	(22.2)	砂粒	良好	5Y R5/6 明赤褐	粘土総輪積み 擦撫・磨削り・砥磨	口縁~胴下 1/3	電	
3	土師器 壺	(19.2)	—	(6.3)	砂粒	良好	7.5Y R3/4 暗褐	粘土総輪積み 擦撫・磨削り	口縁~胴部 1/3	覆土	
4	土師器 壺	19.6	—	(19.9)	砂粒	良好	5Y R5/6 明赤褐	粘土総輪積み 擦撫・磨削り	口縁~胴部 1/3	電	
5	土師器 壺	(20.6)	—	(10.7)	砂粒	良好	5Y R5/6 明赤褐	粘土総輪積み 擦撫・磨削り	口縁~胴部 1/4	電	
6	須恵器 高台付埴 壇	14.5	6.4	4.9	砂粒	良好	10Y R6/3	轆轤成形 にふい黄緑 回転糸切り	3/4	覆土	
7	須恵器 高台付埴 壇	(14.9)	—	(4.8)	砂粒	良好	5Y 7/1 灰白	轆轤成形 回転糸切り	1/2	床直	
8	須恵器 埴壇	—	7.3	(4.7)	砂粒	良好	10Y R7/4 にふい黄橙	轆轤成形 回転糸切り・暗文状擦撫	1/3	床直	内黒
9	緑釉陶器 高台付皿	(16.0)	—	(2.0)	砂粒	良好	7.5Y 6/2 灰オリブ	轆轤成形 擦調整	1/4	覆土	
10	須恵器 壺	(19.4)	—	(4.0)	砂粒	良好	N6/0 灰	轆轤成形 擦調整	口縁片	覆土	
11	須恵器 大壺	—	—	(48.3)	砂粒	良好	10Y R5/1 褐灰	粘土総輪積み 叩き目・当て具痕	破片 胴部・底部	棚伏 床直	



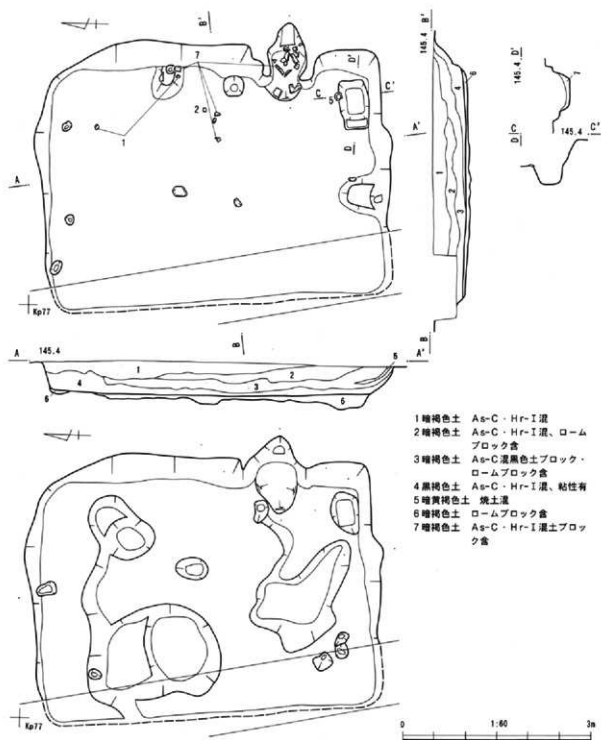
第227圖 16号住居跡出土遺物実測圖

第4節 古墳時代以降

17号住居跡 (第228・229・230図、P L22)

Kp-77グリッドに位置する。重複関係はないが、西壁を試掘坑により壊されている。周辺には本住居跡を中心に北54.5m、西14.5m、南37mに弧状に15

号・16号・20号・19号・144号・142号・141号・145号住居跡があり、南東7.5mに18号住居跡が位置している。



- 1 暗褐色土 As-C・Hr-I 混
- 2 暗褐色土 As-C・Hr-I 混、ロームブロック含
- 3 暗褐色土 As-C 混黒色土ブロック・ロームブロック含
- 4 黒褐色土 As-C・Hr-I 混、粘性有
- 5 暗黄褐色土 焼土混
- 6 暗褐色土 ロームブロック含
- 7 暗褐色土 As-C・Hr-I 混土ブロック含

第228図 17号住居跡実測図

なお、この弧状内には掘立、竪穴状遺構等がある。

住居跡の平面形は隅丸長方形を呈し、その規模は南北5.56m、東西4.07mを測る。方位はN-88°-Eを示す。確認面はAs-C・Hr-I混黒褐色土上面である。

覆土は軽石多混土で北半分が埋没し、南边上層にはロームを主とした土が混入している。半埋没後人為的に埋没された可能性が考えられる。

壁の状況は黒褐色土層を掘り抜きローム層に至る。傾斜角度が急で垂直に近く、壁の崩壊は少ない。壁高は北壁45cm、南壁43cm、東壁46cm、西壁残存46cmを測る。

床面の状況はローム層を削平し踏み締めている。硬質床面は壁際を除き全域で確認された。また壁際に焼けたロームブロックと茅の炭化物が検出した。床下は中央部を掘り残し壁際を浅く掘り込んでいる。

貯蔵穴は南辺カマド寄りにある。平面形は長方形を呈し、西寄りに12cmほどの段差を設ける。規模は南北49cm、東西56cm、深さ29cmを測る。北西縁から高台付壇(5)が壁に接するように内傾して出土した。

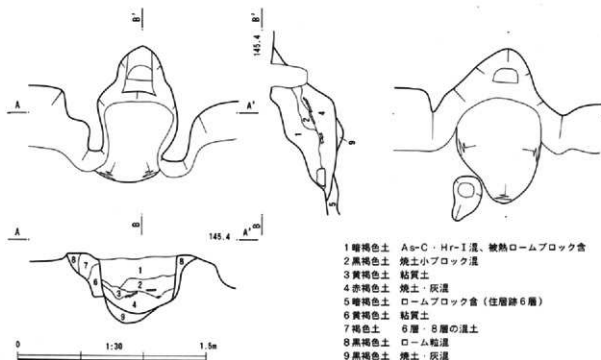
周溝・柱穴は確認されなかった。

その他の施設として南壁中央部に南北62cm、東西75cm、床面より高さ9cmを測る段差が検出し、出入り口施設の可能性が示唆された。

カマド 東壁中央南寄りにある。燃焼部は壁を僅かに掘り込み構築するタイプである。規模は、全長109cm、幅118cm、壁外長36cm、壁内長73cm、焚き口幅39cm、燃焼部幅55cm、煙道長36cm、煙道幅19cmを測る。燃焼部を構築する際に内側に粘土を充填し、袖を突出させる。袖は厚く粘土を貼付する。焚き口部は砂岩切石を鳥居状に架している。燃焼部は箱形で内壁は一様に赤く焼け、底面には焼土と厚い灰層が残されていた。

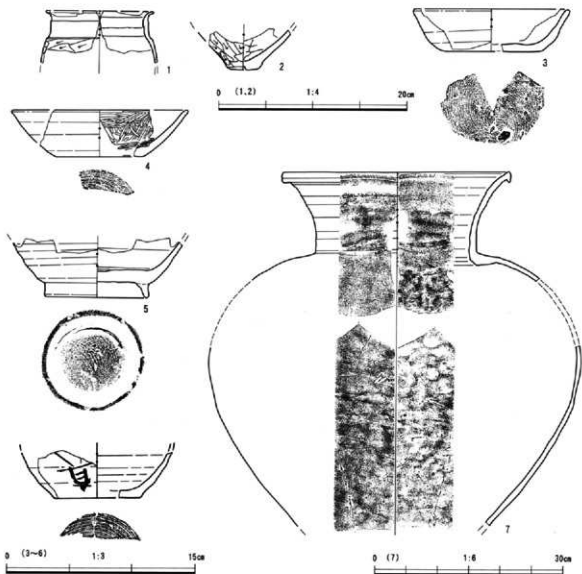
遺物はカマド覆土内に須恵器大甕片(7)が、貯蔵穴から高台付壇(5)が出土した。また住居中央やや北東の覆土中位から刀子(F18)1振が出土した。また「真」の墨書が外面と書かれた須恵器壺が出土した。固化した遺物の他に、土師器坏口縁部13片、甕口縁部8片と須恵器蓋口縁部1片、壇口縁部10片、甕の胴部片が多数出土した。

本住居跡は出土遺物から8世紀後半と考える。



第229図 17号住居跡カマド実測図

第4節 古墳時代以降



第230図 17号住居跡出土遺物実測図

第52表 17号住居跡出土遺物観察表 (第230図、P.L149 - 150)

No.	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 小型壺	(11.6)	—	(5.6)	砂粒	良好	7.5Y R3/3 暗褐	粘土細輪積み 置漉・置削り	口縁～胴部 1/3	床直	
2	土師器 壺	—	(3.7)	(4.5)	砂粒	良好	5Y R5/6 明赤褐	粘土細輪積み 置漉・置削り	底部片	床直	
3	須恵器 埴	(12.4)	(8.1)	3.4	砂粒	良好	5Y7/1 灰白	轆轤成形 回転糸切り	1/3	覆土	
4	須恵器 埴	(14.1)	(7.1)	3.7	砂粒	良好	7.5Y R6/4 にじい橙	轆轤成形 内黒	1/8	覆土	
5	須恵器 高台付埴	—	8.3	(4.5)	砂粒	良好	7.5Y5/1 灰	轆轤成形 回転糸切り	1/2	貯蔵穴	
6	須恵器 埴	—	6.8	(3.6)	砂粒	良好	10Y R6/1 褐灰	轆轤成形	1/4	覆土	墨書 「真」
7	須恵器 大壺	(35.7)	—	(55.9)	砂粒	良好	N5/0 灰	粘土細輪積み 叩き目	口縁～胴部・ 胴部	電	

18号住居跡

(第231・232図、P L 23)

Kq-78グリッドに位置する。重複関係はない。周辺には本住居跡を中心に北61m、西71m、南30mに弧状に15号・16号・20号・19号・144号・142号・141号・145号住居跡があり、北西7.5mに17号住居跡が位置している。なお、同時期の住居跡群は北西450mの6号住居跡周辺に位置する。

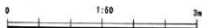
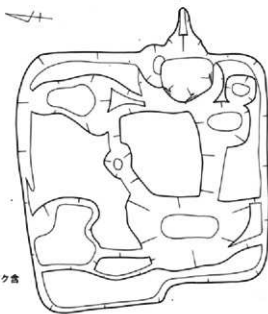
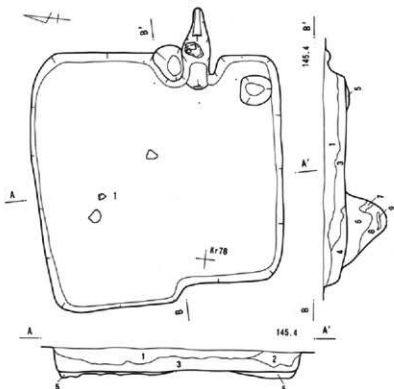
住居跡の平面形は不整形を呈し西壁に張り出し部をもつ。住居跡の規模は南北3.93m、東西3.96mを測る。張り出し部は長方形で幅205cm、奥行き45cmである。方位はN-85°-Eを示す。確認面はAs-C・Hr-I混黒褐色土上面である。

覆土は軽石多混土で全体は自然埋没であるが、床面近くにロームブロックが混入していた。

壁の状況は黒褐色土層を掘り抜き ROOM 面に至る。傾斜角度が急で垂直に近く、壁の崩壊は少ない。壁高は北壁37cm、南壁30cm、東壁32cm、西壁20cmを測る。

床面の状況はローム層中に構築している。ローム層を20cm程削平し踏み締めている。硬質床面は

- 1 暗褐色土 As-C・Hr-I混
- 2 暗褐色土 As-C・Hr-I・ローム粒混
- 3 暗褐色土 As-C・Hr-I混、ロームブロック含
- 4 黒褐色土 As-C混
- 5 暗褐色土 ローム粒混、硬化
- 6 黒褐色土 橙色・灰白色細砂粒含、粘性有
- 7 黄褐色土 ロームブロック
- 8 黒褐色土 ロームブロック含
- 9 黒褐色土



第231図 18号住居跡実測図

第4節 古墳時代以降

壁際を除き全域で確認され、中央部からカマド焚き口までは特に硬化していた。床下には南西隅に大形の土坑があり、他は5~10cm前後の浅い不整形の掘り込みが検出した。

貯蔵穴は南西隅にある。平面形は方形を呈し、東西46cm、南北48cm、深さ10cmを測る。底面は凹凸がある。本貯蔵穴は床面を除去した掘り方で明瞭となり、ロームを浅く掘り込んだ上に混土が貼られていた。深い掘り方を持たず、床面上に何らかの施設を成していたものとは考えられないだろうか。

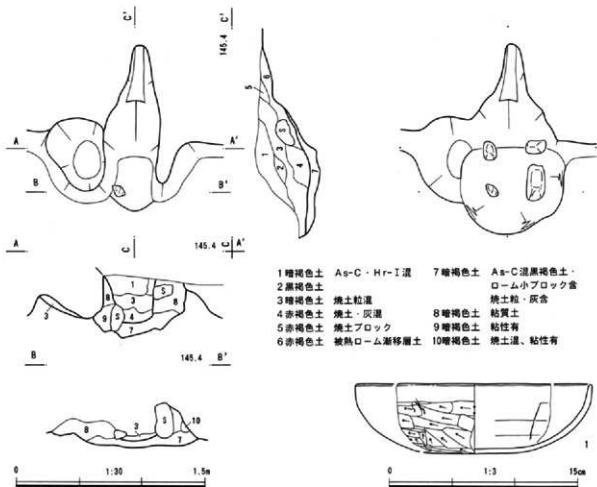
周溝・柱穴は確認されなかった。

カマド 東壁中央南寄りにある。燃焼部を壁内に構築するタイプである。規模は、全長132cm、幅

89cm、壁外長70cm、壁内長62cm、焚口部幅33cm、燃焼部幅28cm、煙道長43cm、煙道幅9cmを測る。燃焼部は床面より9cm程掘り込んでいる。燃焼部を構築する際に内側に粘土を充填し、袖を突出させる。袖は河原石を芯に厚く粘土を貼付する。燃焼部には焼土・灰の混土が確認された。煙道部は軽石多混土を掘り込み、ローム質の粘土を貼付していた。

遺物は環(1)が中央北側の床直で、覆土から釘(F17)が出土した。図化した遺物の他に土師器口縁部6片、甕口縁部1片、甕の胴部片が多数出土した。

本住居跡は出土遺物から8世紀前半と考える。



第232図 18号住居跡カマド・出土遺物実測図

第53表 18号住居跡出土遺物観察表 (第232図、P.L150)

No.	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 環	(18.9)	-	15.6	砂粒	良好	5Y R6/6 橙	型作り 置掘・置削り	1/8	床直	

19号住居跡 (第233・234・235図、P L 23・24)

Ks-76グリッドに位置する。重複関係はない。周辺には北東16.5mに17号住居跡、北33mに20号住居跡、南13mに144号住居跡、南東23.5mに142号住居跡、東24mに147号住居跡が位置している。

住居跡の平面形は隅丸長方形を呈し、その規模は南北4.96m、東西3.65mを測る。方位はN-55°-Eを示す。確認面はAs-C・Hr-I 混黒褐色土上面である。

覆土は軽石多混暗褐色土の自然埋没である。

壁の状況は黒褐色土を掘り抜きローム層に至る。傾斜角度が急で垂直に近く、壁の崩落も少ない。壁高は北壁50cm、南壁47cm、東壁50cm、西壁47cmを測る。

床面の状況はローム層中に構築している。全体にロームブロックと黒褐色土・暗褐色土の混土で貼床を行っている。硬質床面は全域で認められた。特に中央部は硬化が著しい。床下には3基の土坑と不整形の掘り込みが検出した。

第54表 19号住居跡床下土坑一覧表

土坑番号	平面形	NS (cm)	EW (cm)	深さ (cm)	備考
1	隅丸長方形	102	111	36	
2	円形	100	90	24	
3	円形	88	75	26	

3基ともに焼土粒・炭化粒の混入が認められた。特に2号床下土坑はカマドの造り替えに対応したものか焼土粒の混入が他の土坑より著しく多く認められた。

貯蔵穴は南東隅にある。平面形は楕円形、断面皿状を呈し、長軸70cm、短軸45cm、深さ26cmを測る。内部より坏2個が正位に重なるように出土した。

周溝はカマド及び南壁を除き確認された。断面U字状を呈し、幅6cm、深さ3cm程を測る。

カマド 2基のカマドが検出した。1号カマドは東壁中央南寄りにあり、本住居使用時での遺構である。2号カマドは東壁中央部にあり、本住居掘り方調査時に検出した。

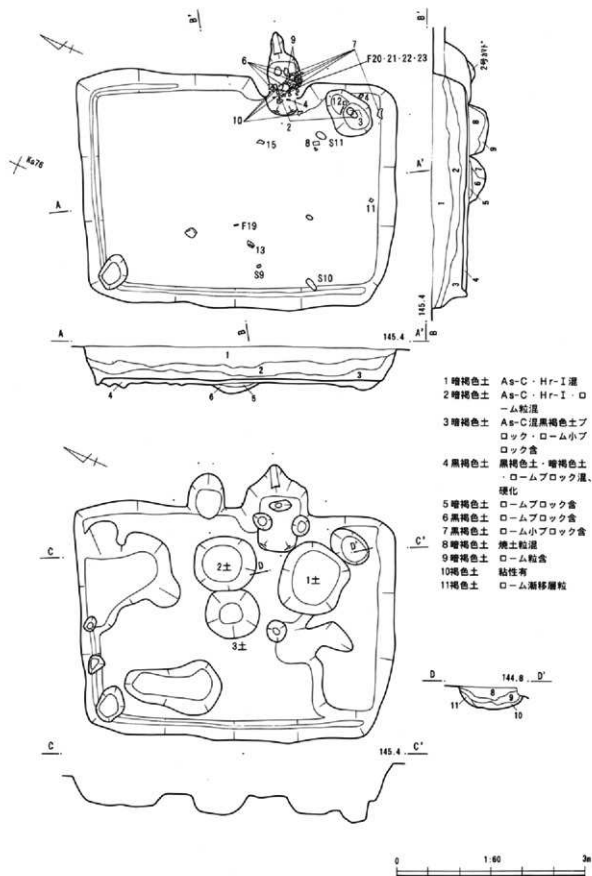
1号カマド 燃焼部は壁を掘り込み構築するタイプ

である。規模は、全長130cm、幅97cm、壁外長68cm、壁内長62cm、焚口部幅40cm、燃焼部幅48cm、煙道長35cm、煙道幅11cmを測る。燃焼部は床面より3cm程掘り込んでいる。燃焼部を構築する際に内側に粘土を充填し、袖を突出させる。袖は河原石を芯に厚く粘土を貼付する。右袖から燃焼部の内壁には、「コ」字型の破片を貼付し補強している。燃焼部には焼土・灰の混土が確認された。奥壁左寄りに支脚石が検出した。支脚石がカマド主軸より左に寄っていることから2穴式のカマドが考えられる。煙道部は焚き口部と軸線が大きく振れている。本カマドは土層観察から2回の造り直しが看取られた。

2号カマド 燃焼部は壁を掘り込み構築するタイプである。規模は、全長71cm、幅62cm、壁外長54cm、壁内長16cm、焚口部幅25cm、燃焼部幅40cmを測る。燃焼部は床面より3cm程掘り込んでいる。本カマドは同位置に建て替えられた住居の際、カマドも2号カマドから1号カマドへ造り替えられた。これに際して元の2号カマドはロームブロックにより封印されている。

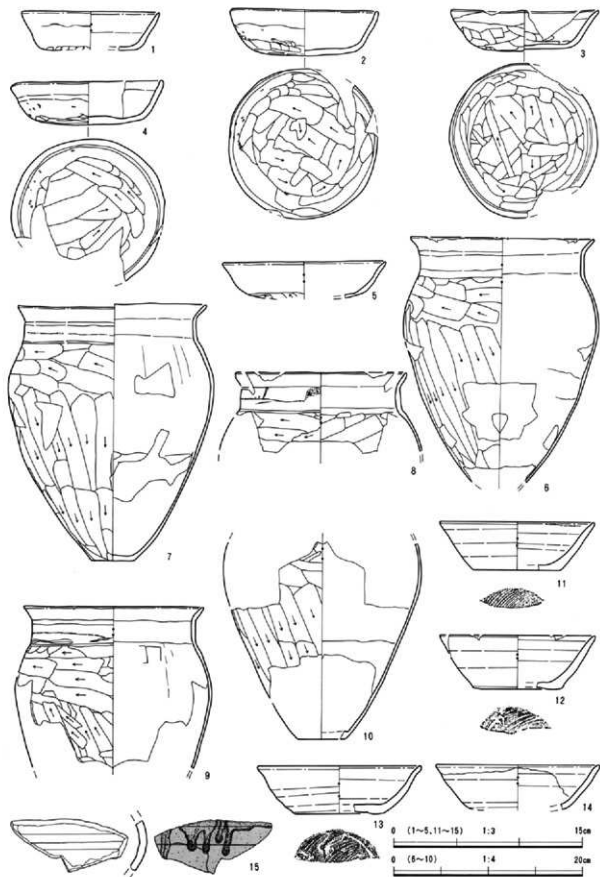
遺物は刀子(F19)が住居中央やや西の床直で刃先を南に向けて水平状態で出土した。検出時錆の付着は多いがほぼ完存と判断された。しかし取り上げ時に2点に割れてしまった。他に釘(F21・22・23)がカマド内から一括出土した。また、西壁際に砥石(S9)と敲石(S10)がそれぞれ床直で出土した。土器は1号カマド内から壺(6・7・9・10)が出土し、坏(2・3)は重なるようにして貯蔵穴内から出土した。図化した遺物の他に、土師器口縁部9片、壺口縁部4片、壺の胴部片多数と須恵器端口縁部15片、坩堝部4片が出土した。

本住居跡は出土遺物から9世紀前半と考える。



第233図 19号住居跡実測図

第4節 古墳時代以降



第235図 19号住居跡出土遺物実測図

第55表 18号住居跡出土遺物観察表 (第235図、P.L150・151)

No	器種・器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 坏	(11.0)	(7.6)	(3.0)	砂粒	良好	7.5Y R5/4 にぶい褐	型作り 底面・底削り	1/8	電	
2	土師器 坏	11.8	8.1	3.6	砂粒	良好	5Y R5/6 明赤褐	型作り 底面・底削り		ほぼ完形	貯蔵穴
3	土師器 坏	11.8	7.6	3.2	砂粒	良好	7.5Y R6/6 橙	型作り 底面・底削り	3/4		貯蔵穴
4	土師器 坏	12.2	8.6	3.4	砂粒	良好	7.5Y R5/4 にぶい褐	型作り 底面・底削り	3/4		電
5	土師器 坏	(13.0)	(9.0)	(2.9)	砂粒	良好	7.5Y R6/6 橙	型作り 底面・底削り	1/8		覆土
6	土師器 甕	19.5	—	(25.7)	砂粒	良好	7.5Y R5/4 にぶい褐	粘土紐輪積み 底面・底削り	1/2		電
7	土師器 甕	20.0	4.5	27.2	砂粒	良好	10Y R6/6 明黄褐	粘土紐輪積み 底面・底削り	4/5		電
8	土師器 甕	(18.3)	—	(8.5)	砂粒	良好	5Y R4/4 にぶい赤褐	粘土紐輪積み 底面・底削り	1/8		口縁~胴部 覆土
9	土師器 甕	(19.2)	—	(17.0)	砂粒	良好	7.5Y R6/4 にぶい橙	粘土紐輪積み 底面・底削り	1/4		口縁~胴部 電
10	土師器 甕	—	(5.0)	(21.0)	砂粒	良好	7.5Y R5/4 にぶい褐	粘土紐輪積み 底面・底削り	1/4		胴部~底部 電
11	須恵器 埴	(12.3)	(7.0)	3.8	砂粒	良好	5Y5/1 灰	轆轤成形 回転糸切り	1/8		覆土
12	須恵器 埴	(12.3)	(7.1)	4.3	砂粒	良好	5Y7/1 灰白	轆轤成形 回転糸切り	1/4		覆土
13	須恵器 埴	(13.0)	(7.2)	3.8	砂粒	良好	2.5Y6/1 黄灰	轆轤成形 回転糸切り	1/3		覆土
14	須恵器 埴	(13.0)	—	(3.5)	砂粒	良好	5Y6/1 灰	轆轤成形			口縁~胴部 電
15	須恵器 大甕	—	—	—	砂粒	良好	5Y6/2 灰オリーブ	轆轤成形			胴部片 覆土

20号住居跡 (第236・237・238図、P.L24)

Kn-73・74グリッドに位置している。重複関係はないが、カマド手前を南北に試掘坑が縦断するとともに、西側は調査区外になっている。周辺には北東14mに16号住居跡、南33mに19号住居跡、南東23.5mに17号住居跡が位置している。

住居跡の平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。規模は南北4.63m、東西残存2.5mを測る。方位はN-83°-Eを示す。確認面はAs・C・Hr-I 混黒褐色土上面である。

覆土はAs・C・Hr-I 混入土で埋没しており、壁際で濃淡差によるブロックが認められた。また床面上にはローム・黒褐色土の混土が薄く広がっていた。

壁の状況は黒褐色土層を掘り抜きローム層に至っている。傾斜角度は急で垂直に近く、壁の崩壊は少ない。壁高は北壁50cm、南壁68cm、東壁50cmを測る。

床面の状況はローム層を20cm程掘り込み平坦に踏み締めている。硬質床面範囲は中央部で顕著であっ

た。床下はカマド手前に平面円形で直径100cm、深さ9cmの土坑状の落ち込みを検出した。また住居跡北側は全体的に浅い掘り込みが認められた。

貯蔵穴は南東隅にある。平面形は方形で東西76cm、南北60cm、深さ22cmであった。床面は平坦である。

敲石と埴が壁際に密着して出土した。

周溝はカマドを除き全周すると考えられる。規模は一定しており幅5cm、深さ4cm程を測る。北東隅に直径6cm、深さ10cm程の小孔が3孔検出した。

柱穴は確認されなかった。

カマド 東壁中央南寄りにある。燃焼部は壁を僅かに掘り込み構築するタイプである。規模は、全長153cm、壁外長104cm、壁内長49cm、焚口部幅64cm、燃焼部幅55cm、煙道幅15cmを測る。袖は壁を僅かに掘り残し、その上に粘土を貼り付け構築する。左袖には袖石の抜き取られた痕跡が浅い落ち込みとして検出した。燃焼部は床面より3cm程掘り込み、灰と炭

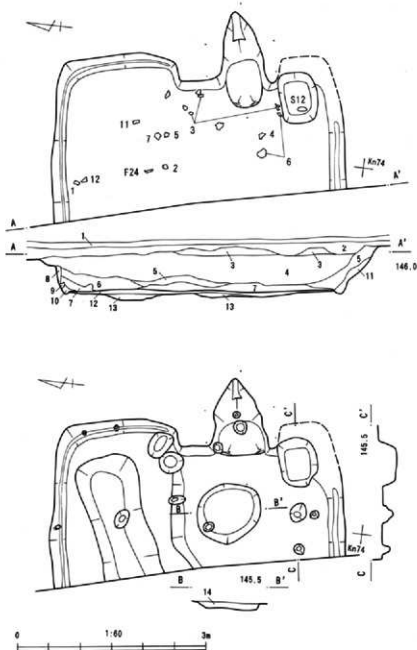
第4節 古墳時代以降

化物の混土上に厚く灰層がある。奥壁中央に支脚石の抜き取りか円形の落ち込みがある。また、燃焼部と煙道の間小ピットが検出した。煙道部は緩やかに立ち上がり、先端部には被熱赤変した粘質土が検出される。煙道部補強用土と考えられる。

遺物は鉄鎌 (F24) 1 振が住居中央北寄りの床直で南側に刃先を向けて水平状態で出土した。土器の殆どは覆土上位にあり、主に北西方向から流入堆積

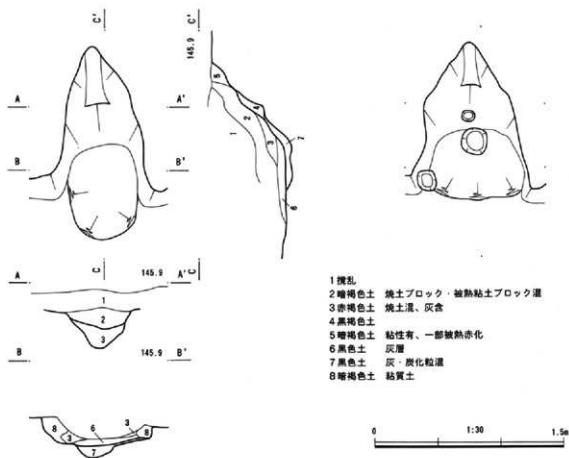
している。床直は壘 (3) と堀 (5) である。また、貯蔵穴内に敲石 (S12) が出土した。固化した遺物の他に、土師器坏口縁部 8 片、壘口縁部 15 片、坏底部 1 片、須恵器坏口縁部 20 片、蓋 1 片が出土した。

本住居跡は出土遺物から 9 世紀前半と考える。



- | | |
|----------|------------------------------------|
| 1 暗褐色土 | 現代耕土 |
| 2 暗褐色土 | As-A 含・As-B 混 |
| 3 暗褐色土 | As-C・Hr-I 含 |
| 4 暗褐色土 | As-C・Hr-I 混 |
| 5 暗褐色土 | As-C・Hr-I 混、
焼土粒含 |
| 6 暗褐色土 | As-C 混暗褐色土・
As-C 混黒色土・
ブロック含 |
| 7 黒褐色土 | As-C 混暗褐色土・
As-C 混黒色土・
ブロック含 |
| 8 暗褐色土 | As-C・Hr-I 含 |
| 9 黄褐色土 | ロームブロック |
| 10 黒褐色土 | |
| 11 暗褐色土 | 礫石含、粘性有 |
| 12 暗黄褐色土 | 暗褐色土混、灰層・
焼土粒層含 |
| 13 暗褐色土 | ロームブロック混、
粘性有 |
| 14 暗褐色土 | 焼土粒混、灰含、
硬化 |

第236図 20号住居跡実測図



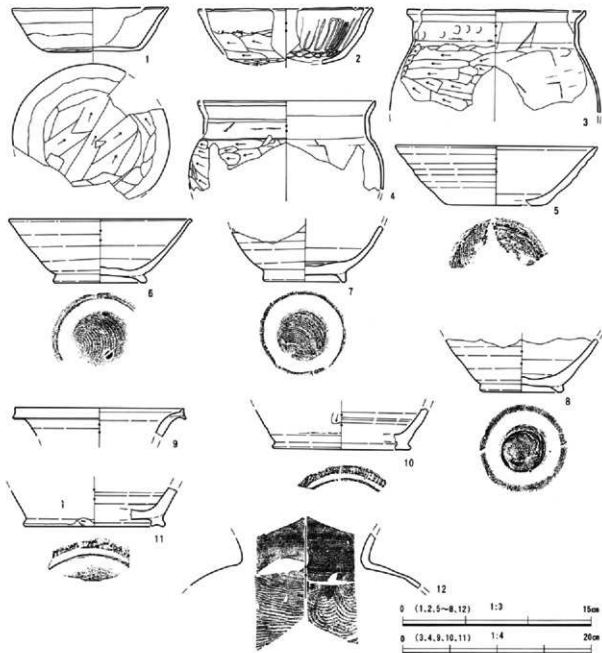
- 1 攪乱
- 2 暗褐色土 焼土ブロック・被熱粘土ブロック遺
- 3 赤褐色土 焼土遺、灰倉
- 4 黒褐色土
- 5 暗褐色土 粘性有、一部被熱赤化
- 6 黒色土 灰層
- 7 黒色土 灰・炭化粒遺
- 8 暗褐色土 粘質土

第237図 20号住居跡カマド実測図

第56表 20号住居跡出土遺物観察表 (第238図、P.L151・152)

No.	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 坏	12.4	7.7	3.5	砂粒	良好	7.5Y R4/3 にぶい横縞	型作り 荒瀬・荒削り	口縁→胴部 3/4	覆土	
2	土師器 坏	(13.9)	(9.2)	(4.4)	砂粒	良好	7.5Y R5/3 にぶい横	型作り 荒瀬・荒削り	口縁→胴部 1/8	覆土	
3	土師器 壺	(19.1)	—	(10.7)	砂粒	良好	5Y R5/6 明赤褐	粘土紐輪積み 荒瀬・荒削り	口縁→胴上 1/3	床直	
4	土師器 壺	(19.1)	—	(9.5)	砂粒	良好	7.5Y R4/4 褐	粘土紐輪積み 荒瀬・荒削り	口縁→胴部 1/5	覆土	
5	須恵器 埴	(16.1)	(8.1)	4.7	砂粒	良好	10Y R7/3 にぶい黄橙	轆轤成形 回転糸切り	1/3	床直	
6	須恵器 高台付埴	14.6	7.4	5.1	砂粒	良好	2.5Y 6/2 灰黄	轆轤成形 回転糸切り	3/4	覆土	
7	須恵器 高台付埴	—	6.6	(4.5)	砂粒	良好	5Y 6/1 灰	轆轤成形 回転糸切り	1/2	覆土	
8	須恵器 高台付埴	—	6.7	(4.1)	砂粒	良好	2.5Y 7/3 残黄	轆轤成形 回転糸切り	1/3	覆土	
9	須恵器 壺	(18.0)	—	(3.0)	砂粒	良好	7.5Y 4/1 灰	粘土紐輪積み 無調整	口縁部片	覆土	
10	須恵器 壺	—	(14.7)	(4.2)	砂粒	良好	7.5Y 4/1 灰	粘土紐輪積み 無調整	底部片	覆土	
11	須恵器 壺	—	(15.2)	(3.8)	砂粒	良好	7.5Y 4/1 灰	粘土紐輪積み 無調整	底部片	覆土	
12	須恵器 壺	—	—	(7.5)	砂粒	良好	5Y 5/1 灰	粘土紐輪積み 叩き目	頸部片	覆土	

第4節 古墳時代以降



第238図 20号住居跡出土遺物実測図

21号住居跡 (第239図、P L25)

K1-77グリッドに位置する。重複関係はないが、住居跡北側が調査区外となっている。周辺には本住居跡を中心に9世紀代の住居跡が北35.5m、西19m、南55.5mの範囲で弧状を呈する15号・16号・20号・19号・144号・142号・141号・145号住居跡があり、南19.5mに17号、同じく26mに18号住居跡が位置している。なお、同時期の5号住居跡は北西415m・9

号住居跡は北西383mにある。

住居跡の平面形は全体の1/5程度の残存率のため不明であるが、方形を呈するものと考える。規模は南北残存0.57m、東西残存3.1mを測る。方位はN-90°-Eを示す。確認面はAs-C・Hr-I 混黒褐色土上面である。

覆土は上層に軽石多混暗褐色土、下層にローム漸

移層ブロックを含む暗褐色土の2層で自然埋没である。

壁の状況は黒褐色土を掘り抜きルーム層に至り、傾斜角度は急で垂直に近く、壁の崩壊は少ない。壁高は南壁47cm、東壁40cm、西壁40cmを測る。

床面の状況はルーム層中に構築している。ルーム層まで掘り込んだ上に薄く貼り床を行い踏み締めた形跡を残すが、掘りすぎのため範囲は確認できなかった。床下は浅い凹凸が検出した。

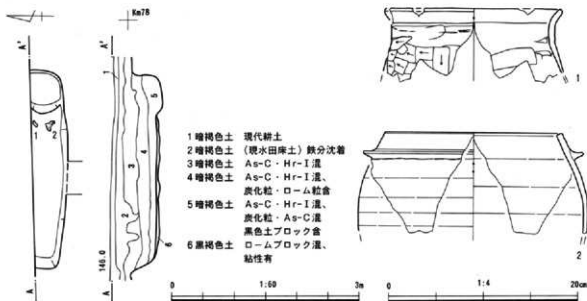
貯蔵穴は南東隅にある。平面方形を呈し、東西67

cm、南北残存51cm、深さ10cmであった。床面は平坦である。周囲には遺物が集中して出土した。

カマドは確認されなかったが、南東隅で被熱赤変した砂岩切石の破片と焼土がみられ、極近所に存在が予想される。

遺物は4層中の床面より僅かに浮いて羽釜(2)が出土した。図化した遺物の他に、土師器環口縁部3片、壺口縁部9片、坏底部3片、壺胴部片が多数、また須恵器灰軸塊口縁部2片が出土した。

本住居跡は出土遺物から10世紀前半と考える。



第239図 21号住居跡・出土遺物実測図

第57表 21号住居跡出土遺物観察表 (第239図、P.L.152)

No.	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 壺	(18.9)	-	(7.8)	砂粒	良好	2.5Y R5/6 明赤褐	粘土総輪積み 荒削・磨削	口縁~胴部 1/5	覆土	
2	須恵器 羽釜	(19.0)	-	(10.6)	砂粒	良好	5Y6/1 灰	粘土総輪積み 撫調整	口縁~胴部 1/6	覆土	

133号住居跡 (第240図、P.L.25)

Ho-54・55グリッドに位置する。重複関係はないが、北側が調査区外となっている。近隣周辺には住居跡等は検出していない。同時期の住居跡は北151mに1号住居跡、南147mに134号住居跡方位N-79°-Eを示す。南271m程のK区に集中して位置している。

住居跡の平面形は隅丸方形を呈するものと考えられる。規模は南北残存1.67m、東西2.46mを測る。

確認は調査区北壁精査中に検出し、確認面はAs-C・Hr-I 混黒褐色土上面である。

覆土の状況はAs-C・Hr-I多混暗褐色土の単一層の自然埋没である。

壁の状況は黒褐色土を掘り込んでいるため、傾斜角度は急で垂直に近く、壁の崩壊は少ない。壁高は南壁8cm、東壁26cm、西壁20cmを測る。

第4節 古墳時代以降

床面の状況はAs-C混黒褐色土を削平し、黒褐色土で薄く貼っていると思われる。床面と掘り方面は一致しており、床下土坑等の施設は検出されなかった。

貯蔵穴は南東隅にある。平面形は方形で、東西52cm、南北40cm、深さ8.7cmであった。底面は平坦であり、壁は外反する。周辺に埴類の遺物が出土した。

周溝・柱穴は確認されなかった。

カマド 東壁にある。燃焼部は壁を掘り込んで壁外に造り出すタイプである。しかし現代の水道管敷

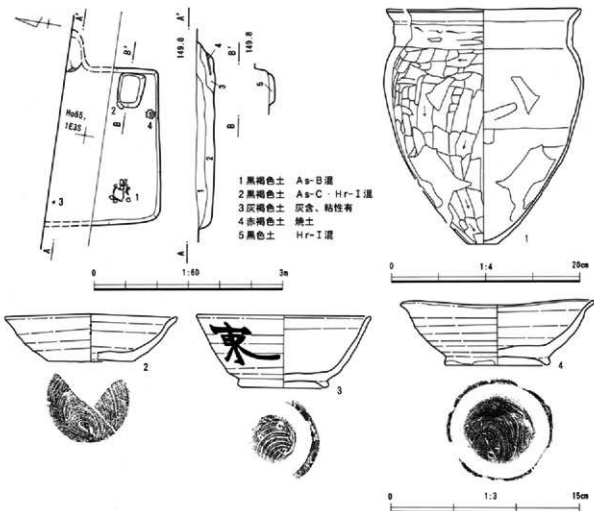
設により壊されているとともに、調査区外のため全体像は不明である。

遺物は住居中央西壁際に「東」の墨書が外面に書かれた須恵器埴（3）が床直で出土した。埴（1）は住居南西隅で北東を口縁部に潰れるように床面より浮いた状態で検出した。また、埴（4）は南壁から内傾するように出土した。図化した遺物の他には、土師器甕口縁部2片、坏底部1片、又須恵器埴口縁部3片が出土した。

本住居跡は出土遺物から9世紀後半と考える。

第51表 133号住居跡出土遺物観察表（1）（第240図、P.L152）

No	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 甕	(20.7)	3.2	24.8	砂粒	良好	5Y R5/6 明赤褐	粘土総輪轆み 笠撫・笠削り	3/4	覆土	
2	須恵器 埴	(13.6)	(6.8)	3.8	砂粒	良好	2.5Y 6/2 灰黄	轆轤成形 回転糸切り	1/2	覆土	



第240図 133号住居跡・出土遺物実測図

第58表 133号住居跡出土遺物観察表(2) (第240図、P.L152)

No	器種・形状	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
3	須恵器 高台付埴	13.7	(7.2)	5.7	砂粒	良好	5Y 6/1 灰	輪轆成形 回転糸切り	3/4	覆土	横曹 「東」
4	須恵器 高台付埴	(15.4)	8.3	4.7	砂粒	良好	10Y R 7/3 にぶい黄褐色	輪轆成形 回転糸切り	4/5	覆土	

134号住居跡 (第241・242・243図、P.L25)

Jb-66グリッドに位置する。重複関係はない。周辺には南東15mに10号住居跡が位置する。

住居跡の平面形は隅丸方形を呈し、その規模は南北4.08m、東西3.06mを測る。方位はN-112°-Eを示す。確認面はAs-C・Hr-I 混黒褐色土上面である。

覆土は地形に沿って北西方向から3層の褐色シルトから流入堆積後、As-C・Hr-I 混暗褐色土が堆積した自然埋没である。

壁の状況は黒褐色土を掘り込み、傾斜角度は急で垂直に近く、壁の崩壊は少ない。壁高は北壁26cm、南壁26cm、東壁20cm、西壁25cmを測る。

床面の状況はAs-C混黒褐色土中に構築し、As-C混黒褐色土・焼土粒・炭化粒混入で貼り床しており、硬質面は全体に確認された。床下は凹凸の少ない平坦面であった。

貯蔵穴は南東隅にある。平面形は長方形で東西87cm、南北57cm、深さ14cmである。断面皿状を呈する。確認は床面を除去した掘り方で明瞭となり、ロームを浅く掘り込んでいた。上層には径33cmから12cm程の礫7個が貯蔵穴を覆う様にあり、床面上に何らか

の施設を成していたものか、カマドで使用した礫かと思案される。

周溝・柱穴は確認されなかった。

カマド 東壁中央南寄りにある。燃焼部は壁を掘り込み構築するタイプである。規模は、全長94cm、幅残存106cm、壁外長44cm、壁内長49cm、焚口部幅52cm、燃焼部幅50cm、煙道長15cm、煙道幅12cmを測る。袖は壁面を僅かに掘り残し粘土を貼付し構築する。右袖には径29cm程の河原石を芯とする。燃焼部は床面より4cm程掘り込み、焼土と炭化粒の混土の上で火焼面とする。奥壁に角礫の支脚石が立っていた。

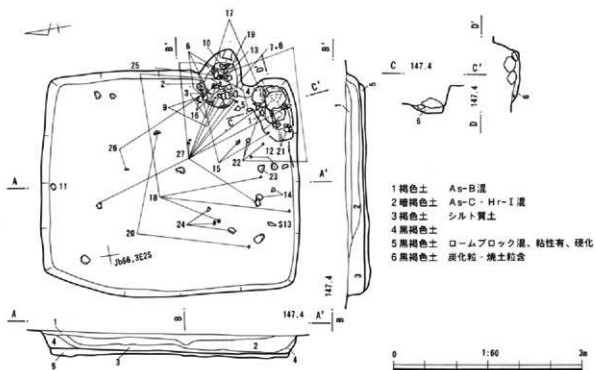
遺物はカマド内から出土した甕(6・7・8・9・27)や埴(10・13・19)は上層から出土した。また、カマド内及び周辺に出土し接合関係をもつ土器は床直出土である。礫は貯蔵穴上面に集中し、南壁に沿うように点在していた。図化した遺物の他に、土師器環口縁部11片、甕口縁部6片、坏底部6片、また須恵器皿口縁部2片、碗底部2片が出土した。

本住居跡は出土遺物から9世紀前半と考える。

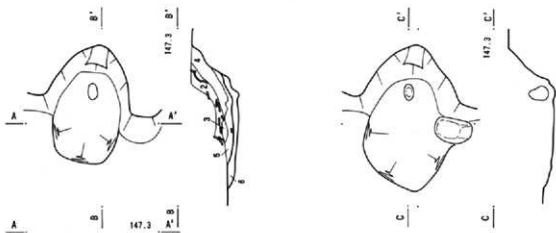
第59表 134号住居跡出土遺物観察表(1) (第242図、P.L153)

No	器種・形状	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 坏	(12.1)	(9.0)	3.2	砂粒	良好	7.5Y R6/4 にぶい橙	壺作り 篋施・篋削り	1/3	貯蔵穴	
2	土師器 坏	12.1	8.3	3.3	砂粒	良好	10Y R5/3 にぶい黄褐色	壺作り 篋施・篋削り	4/5	電	
3	土師器 坏	(12.9)	(8.0)	2.9	砂粒	良好	10Y R6/4 にぶい黄褐色	壺作り 篋施・篋削り	1/4	電	
4	土師器 高坏	(17.8)	-	(5.7)	砂粒	良好	5Y R5/6 明赤褐	篋施・篋削り	口縁～頸部 1/4	電	
5	土師器 高坏	(20.9)	-	(6.8)	砂粒	良好	5Y R5/6 明赤褐	篋施・篋削り	口縁～頸部 1/5	電	
6	土師器 壺	-	(16.1)	-	砂粒	良好	5Y R5/6 明赤褐	壺作り 篋施・篋削り	底部片	電	
7	土師器 小型台付壺	(11.0)	-	(9.6)	砂粒	良好	5Y R5/6 明赤褐	粘土紐輪積み 篋施・篋削り	口縁～頸部 1/4	電	

第4節 古墳時代以降

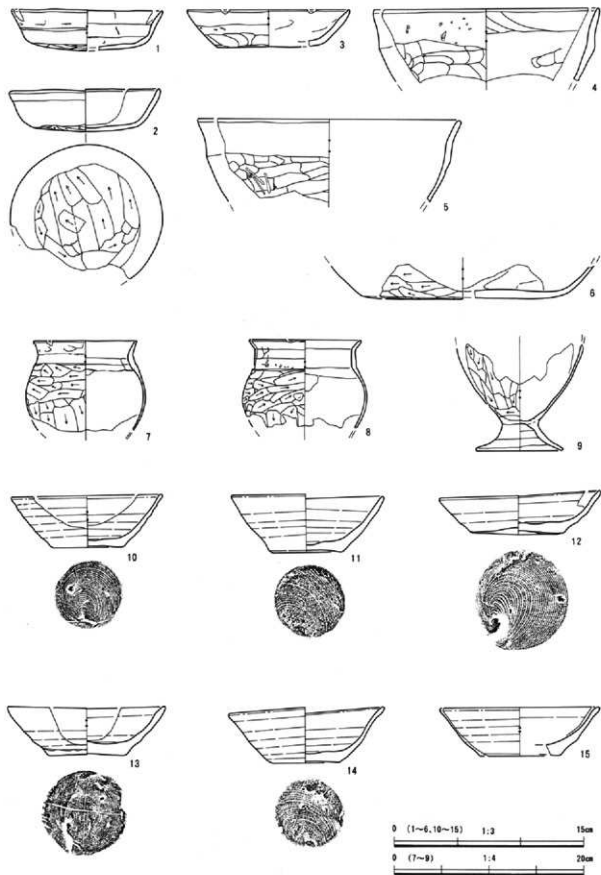


- | | |
|--------|-----------------|
| 1 褐色土 | As-B 混 |
| 2 暗褐色土 | As-C・Hr-I 混 |
| 3 褐色土 | シルト質土 |
| 4 黒褐色土 | |
| 5 黒褐色土 | ロームブロック混、粘性有、硬化 |
| 6 黒褐色土 | 炭化粒・焼土粒含 |



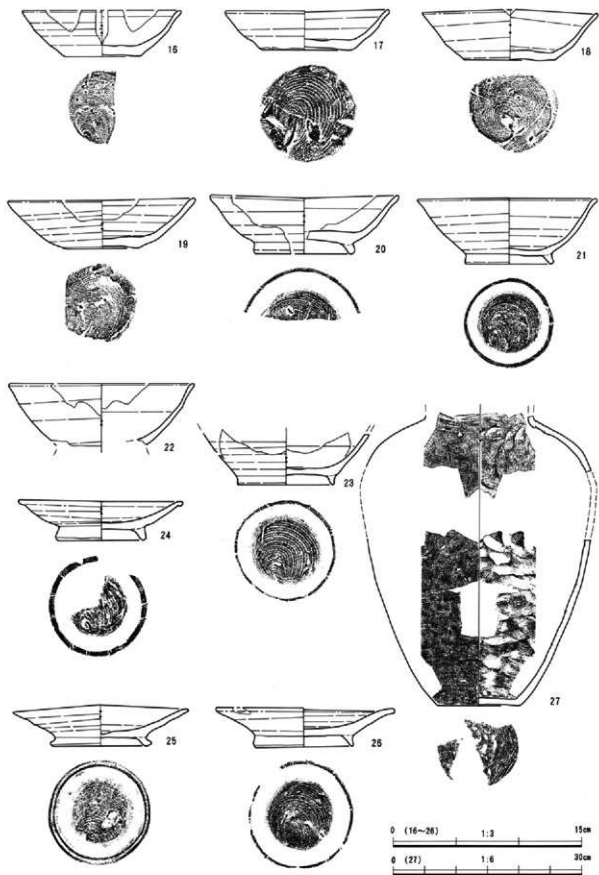
- | | |
|--------|------------------|
| 1 黒褐色土 | As-C 混 |
| 2 暗褐色土 | As-C 混、ローム粒・焼土粒含 |
| 3 赤褐色土 | 焼土 |
| 4 暗褐色土 | 炭化粒混、焼土粒含 |
| 5 暗褐色土 | 焼土ブロック混 |
| 6 黒褐色土 | 焼土粒・炭化粒混 |

第241図 134号住居跡実測図



第242図 134号住居跡出土遺物実測図(1)

第4節 古墳時代以降



第243图 134号住居跡出土遺物実測图(2)

第98表 134号住居跡出土遺物観察表(2) (第242・243図、P.L.153・154)

No	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
8	土師器 小型台付壺	(11.0)	—	(9.2)	砂粒	良好	7.5Y R5/4 にぶい褐色	粘土紐輪積み 笠蓋・笠削り	口縁~胴部 1/4	電	
9	土師器 小型台付壺	—	9.4	(11.3)	砂粒	良好	7.5Y R5/4 にぶい褐色	粘土紐輪積み 笠蓋・笠削り	胴下~脚部 1/3	電	
10	須恵器 埴	(12.0)	5.8	4.1	砂粒	良好	2.5Y R6/6 橙	轆轤成形 回転糸切り	1/3	電	
11	須恵器 埴	12.2	5.8	4.6	砂粒	良好	5Y5/1 灰	轆轤成形 回転糸切り	完形	覆土	
12	須恵器 埴	12.3	7.3	3.5	砂粒	良好	5Y6/1 灰	轆轤成形 回転糸切り	ほぼ完形	覆土	
13	須恵器 埴	(12.5)	6.4	3.6	砂粒	良好	10Y R7/1 灰白	轆轤成形 回転糸切り	1/3	覆土	
14	須恵器 埴	12.5	5.4	4.4	砂粒	良好	7.5Y6/1 灰	轆轤成形 回転糸切り	ほぼ完形	覆土	
15	須恵器 埴	(12.6)	(6.4)	3.9	砂粒	良好	5Y6/1 灰	轆轤成形	1/4	電	
16	須恵器 埴	(12.6)	6.0	3.7	砂粒	良好	N4/0 灰	轆轤成形 回転糸切り	1/4	床直	
17	須恵器 埴	13.1	7.3	3.3	砂粒	良好	2.5Y6/1 黄灰	轆轤成形 回転糸切り	ほぼ完形	電	
18	須恵器 埴	(14.0)	7.2	4.0	砂粒	良好	10Y R8/2 灰白	轆轤成形 回転糸切り	1/3	電	
19	須恵器 埴	(14.9)	5.8	3.9	砂粒	良好	2.5Y R6/6 橙	轆轤成形 回転糸切り	1/3	電	
20	須恵器 高台付埴	(15.0)	8.1	4.7	砂粒	良好	7.5Y6/1 灰	轆轤成形 回転糸切り	1/4	覆土	
21	須恵器 高台付埴	14.3	7.1	5.3	砂粒	良好	5Y8/1 灰白	轆轤成形 回転糸切り	3/4	貯蔵穴	
22	須恵器 高台付埴	(14.8)	—	(4.9)	砂粒	良好	2.5Y5/1 黄灰	轆轤成形	1/3	覆土	
23	須恵器 高台付埴	—	7.7	(4.4)	砂粒	良好	10Y R6/2 灰黄褐色	轆轤成形 回転糸切り	1/3	覆土	
24	須恵器 高台付皿	13.0	7.1	3.1	砂粒	良好	5Y R6/4 にぶい橙	轆轤成形 回転糸切り	2/3	床直	
25	須恵器 高台付皿	(13.9)	7.5	3.2	砂粒	良好	10Y R6/4 にぶい黄橙	轆轤成形 回転糸切り	2/3	電	
26	須恵器 高台付皿	14.1	7.9	3.0	砂粒	良好	10Y R7/1 灰白	轆轤成形 回転糸切り	ほぼ完形	覆土	
27	須恵器 大壺	—	13.0	(45.5)	砂粒	良好	N6/0 灰	叩き目	胴部~底部 1/8	覆土	

135号住居跡 (第244図、P.L.26)

Mi-78グリッドに位置する。南東隅は攪乱で壊されている。周辺には西4mに136号・138号住居跡、南東30mに139号住居跡、北東44.5mに140号住居跡が位置している。

住居跡の平面形は隅丸方形を呈し、その規模は南北4.72m、東西3.60mを測る。方位はN-64°-Eを示す。確認面は小礫混黒褐色土面である。

覆土は確認土より褐色味をおびた黒褐色土である。壁の状況はしまりの弱い小礫混黒褐色粘質土を掘り込んでおり、壁の崩壊があり傾斜角度は緩やかに外反する。壁高は北壁10cm、南壁15cm、西壁17cmを測る。

床面の状況は小礫混褐色土を踏み固めており、特にカマド前から南東方向に硬質面が認められた。焼き口手前に炭化粒・焼土粒の分布が顕著であった。床下土坑等の施設は検出されなかった。

周溝は北壁から西壁にかけて巡る。全体に幅7cm前後、深さ6cm前後で一定した掘り方を示す。

貯蔵穴・柱穴は確認されなかった。

カマド 東壁中央南寄りにある。燃焼部は壁を掘り込んで造り出すタイプである。覆土が浅く燃焼部の掘り方に近い確認のため袖石と被熱部のみが検出した。規模は、袖石幅85cm、被熱部東西48cm、南北40cmを測る。燃焼部は床面より6cm程掘り込み構築

第4節 古墳時代以降

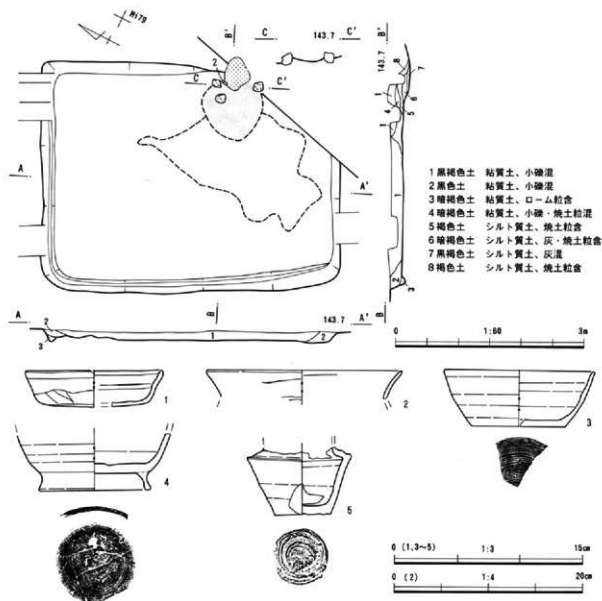
されている。

遺物はほとんどが覆土中であり、壺(2)がカマド左袖内に出土した。図化した遺物の他に、土師器

坏口縁部11片、坏底部6片、甕口縁部1片と須恵器

皿口縁部2片、碗口縁部7片が出土した。

本住居跡は出土遺物から8世紀後半と考える。



第244図 135号住居跡・出土遺物実測図

第99表 135号住居跡出土遺物観察表(1) (第244図、P.L154)

No	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 坏	(10.9)	(7.5)	(2.9)	砂粒	良好	7.5Y R5/8 明褐	型作り 煎撫・煎削り	1/3	覆土	
2	土師器 壺	(21.5)	-	(3.5)	砂粒	良好	7.5Y R5 明褐	粘土紐輪積み 煎撫	口縁片	竈	
3	須恵器 碗	(12.0)	(7.4)	(4.3)	砂粒	良好	5Y5/1 灰	轆轤成形 回転糸切り	1/5	覆土	

第60表 135号住居跡出土遺物観察表(2) (第244図、P.L155)

No	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
4	須恵器 高台付埴	—	(8.9)	(4.4)	砂粒	良好	N5/0 灰	轆轤成形 回転糸切り	1/3	覆土	
5	須恵器 小型甕	—	4.4	(4.9)	砂粒	良好	5Y5/1 灰	轆轤成形 回転糸切り	頸部~底部 1/2	覆土	

136号住居跡 (第245・246図、P.L26)

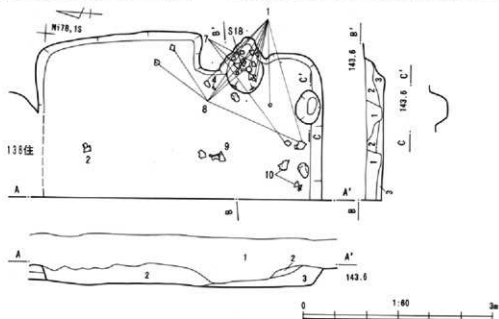
Mi-77グリッドに位置する。138号住居跡と重複関係にあり、本住居跡の方が新しい。なお、西側は調査区外となっている。周辺には東4mに135号住居跡、南東32mに139号住居跡が位置している。同時期の21号住居跡は北184mにある。

住居跡の平面形は隅丸方形を呈するものと考えら

れる。規模は南北4.50m、東西残存2.6mを測る。方位はN-87°-Eを示す。確認面は小礫混黒褐色土面である。

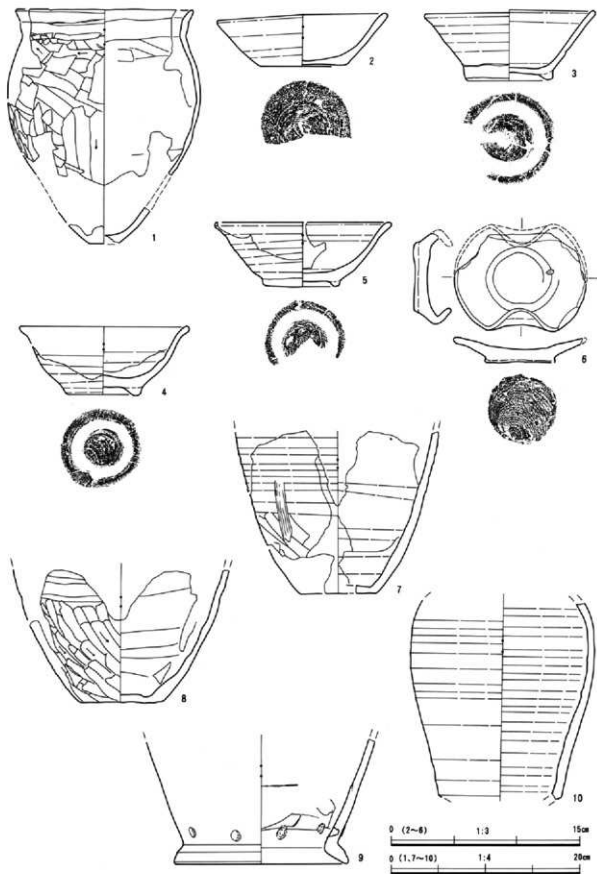
覆土は、小礫を多く含む黒褐色粘質土で下層には同様の土層に炭化粒の混入が見られる。

壁の状況はしよりの弱い小礫混入黒色粘質土を掘



- 1 現代耕土
- 2 黒褐色土 粘質土、小礫混
- 3 黒褐色土 粘質土、小礫・炭化粒混
- 4 黒褐色土 粘質土、焼土粒含
- 5 暗褐色土 シルト質土、焼土粒含
- 6 赤褐色土 シルト質土、焼土混、灰含
- 7 黒褐色土 シルト質土、灰混
- 8 暗褐色土 粘質土、焼土粒含

第245図 136号住居跡実測図



第246図 136号住居跡出土遺物実測図

り抜いているため、傾斜角度は緩やかに外反する。壁高は北壁20cm、南壁25cm、東壁33cmを測る。

床面の状況はローム層中に構築している、小礫混褐色土で床面と掘り方面は一致している。硬質床面範囲は確認されなかった。

貯蔵穴は南東隅西寄りにある。平面形は楕円形で長軸51cm、短軸38cm、深さ28cmである。底面は平坦で壁は外反する。

カマド 東壁中央南寄りにある。燃焼部は壁を掘り込んで構築するタイプである。規模は、全長90cm、幅95cm、壁外長26cm、壁内長64cm、突口部幅60cm、燃焼部幅49cmを測る。袖は壁を僅かに掘り残し、壁内に僅かな落ち込みがあり、袖石抜き取り痕と考え

られる。燃焼部は床面より11cm程掘り込み構築される。燃焼部中央や奥壁より四角錐状の角礫が支脚石として立って検出した。奥壁は緩やかな立ち上がりを示し、被熱している。

遺物はカマド内から羽釜片(7)と甕(1)が出土した。また瓶(9)は住居中央部の床面より浮いて出土した。なおほとんどの遺物が第2層覆土内で出土した。図化しない遺物の他には、土師器環口縁部17片、甕口縁部8片、甕底部2片が、又須恵器境口縁部7片、塊底部2片が出土した。

本住居跡は出土遺物から9世紀後半と考える。

第51表 136号住居跡出土遺物観察表(第246図、P.L155)

No.	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 甕	(18.9)	(3.2)	(24.7)	砂粒	良好	5Y R5/6 明赤褐	粘土紐輪積み 荒削り・費削り	1/3	竈	
2	須恵器 埴	(12.9)	6.9	4.1	砂粒	良好	7.5Y R6/4 に、灰白	轆轤成形 回転未切り	1/2	覆土	
3	須恵器 高台付埴	13.4	6.7	5.5	砂粒	良好	5Y 6/2 灰白	轆轤成形 回転未切り	2/3	覆土	
4	須恵器 高台付埴	(13.3)	6.0	5.3	砂粒	良好	2.5Y 5/4 黄褐	轆轤成形 回転未切り	1/4	覆土	
5	須恵器 高台付埴	13.9	6.1	5.1	砂粒	良好	2.5Y 6/2 灰黄	轆轤成形 回転未切り	3/4	覆土	
6	須恵器 耳皿	(10.6)	5.6	2.1	砂粒	良好	2.5Y 6/1 黄褐	轆轤成形 回転未切り	4/5	覆土	
7	須恵器 羽釜	-	(8.0)	(17.0)	砂粒	良好	10Y R6/4 に、灰白	轆轤成形 荒削り・調整	割部～底部 1/4	竈	
8	須恵器 羽釜	-	9.0	(14.0)	砂粒	良好	7.5Y R6/6 黄	粘土紐輪積み 荒削り・調整	割部～底部 1/2	床直	
9	須恵器 甕	-	(18.5)	(12.9)	砂粒	良好	5Y 7/2 灰白	轆轤成形 荒削り・調整	割部～底部 1/3	覆土	
10	須恵器 甕	-	-	(20.7)	砂粒	良好	5Y 5/1 灰	轆轤成形 調整	割部 1/4	覆土	

137号住居跡 (第247図、P.L26)

M1・m-81グリッドに位置する。重複関係はないが東側が調査区外になっている。周辺には南西10mに139号住居跡、北西24.5mに135号住居跡が位置している。

住居跡の平面形は隅丸方形を呈するものとする。規模は南北4.20m、東西残存1.63mを測る。方位はN-95°-Eを示す。確認面は小礫混黒褐色土面である。覆土は小礫を多く含む黒褐色粘質土である。壁の状況はしまりの弱い小礫混の黒色粘質土を掘り抜

いているため、壁の崩壊があり傾斜角度は緩やかに外反している。壁高は北壁21cm、南壁20cm、西壁13cmを測る。

床面の状況は小礫混褐色土で床面と掘り方面は一致している。硬質床面範囲は確認されなかった。

柱穴は南西隅寄りに1本検出した。平面形は円形で直径27cm、深さ33cmである。

周溝は調査区外を除いて全周し、断面U字状を呈し、幅・深さとも安定している。北側幅8cm、深さ

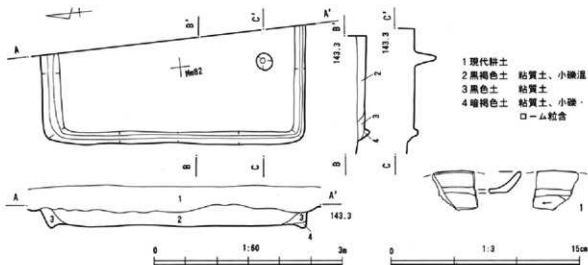
第4節 古墳時代以降

7 cm、南側幅 5 cm、深さ 7 cm、東側幅 5 cm、深さ 8 cmである。

カマド 調査区外の東側に予想される。

遺物は覆土内から出土したものである。図化した遺物の他に、土師器口縁部2片、斐脚部数片出土した。

本住居跡は覆土から平安時代と考える。



第247図 137号住居跡・出土遺物実測図

第62表 137号住居跡出土遺物観察表 (第247図、P L 155)

No.	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 坏	-	-	-	砂粒	良好	5Y R5/6 明赤褐	型作り 底磨・底削り	口縁片	覆土	

138号住居跡 (第248図、P L 26・27)

Mh-i-77グリッドに位置する。136号住居跡と重複関係にあり、本住居跡の方が古い。なお、西側は調査区外になっている。周辺には東4mに135号住居跡、北東45.5mに140号住居跡、南東36mに139号住居跡が位置している。

住居跡の平面形は隅丸方形を呈すると考える。規模は南北残存3.44m、東西残存0.92mを測る。方位はN-72°-Eを示す。確認面は小礫混黒色土面である。

覆土は小礫を多く含む黒褐色粘質土であり、上層136号住居よりはローム粒を多く含むしまりのよい土

である。この層は136号住居築時の盛り土と考えられる。壁の状況は、しまりの弱い小礫混黒色粘質土を掘り抜いているため傾斜角度は緩やかに外反する。壁高は北壁20cm、東壁10cm、を測る。

床面の状況は小礫混褐色土で床面と掘り方面は一貫している。硬質床面範囲は確認されなかった。

周溝・柱穴・貯蔵穴は確認されなかった。

カマド 東壁にある。燃焼部は壁を掘り込んで壁外に造り出すタイプである。規模は、全長116cm、幅120cm、壁外長78cm、壁内長38cm、焚口部幅24cm、燃焼部幅37cm、煙道幅15cmを測る。燃焼部を構築する

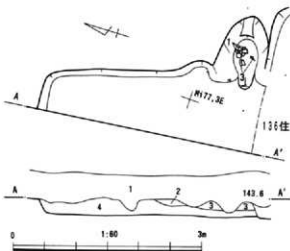
第63表 138号住居跡出土遺物観察表 (第248図、P L 156)

No.	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 坏	12.1	10.0	3.0	砂粒	良好	5Y R5/6 明赤褐	型作り 底磨・底削り	2/3	電	
2	土師器 罌	(18.4)	-	(10.9)	砂粒	良好	5Y R3/6 明赤褐	粘土紐輪積み 底磨・底削り	口縁～頸部 1/4	覆土	
3	土師器 罌	(23.0)	-	(8.2)	砂粒	良好	10Y R4/6 褐	粘土紐輪積み 底磨・底削り	口縁～頸部 1/6	電	

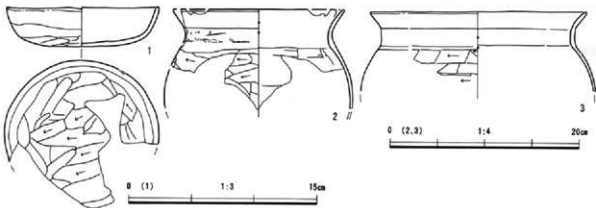
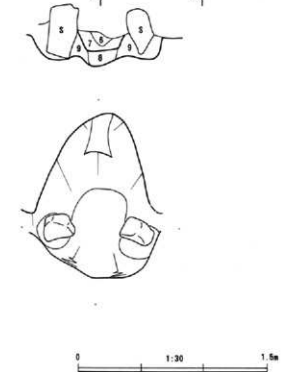
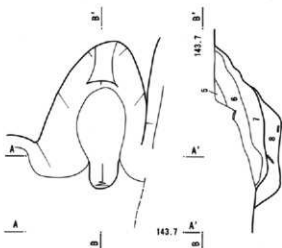
際内に側に粘土を充填し、袖を突出させる。袖は壁を僅かに掘り残し、それらに角礫を芯に厚く粘土を貼付する。燃燒部は床面より12cm程掘り込み、シルト質土と灰の混土上層に火焼面を成す。奥壁は緩やかに立ち上がる。

遺物はカマド内から環(1)、甕(3)が出土した。図化した遺物の他には、土師器坏口縁部3片、甕口縁部8片、甕の胴部片が多数出土した。

本住居跡は出土遺物から9世紀前半と考える。



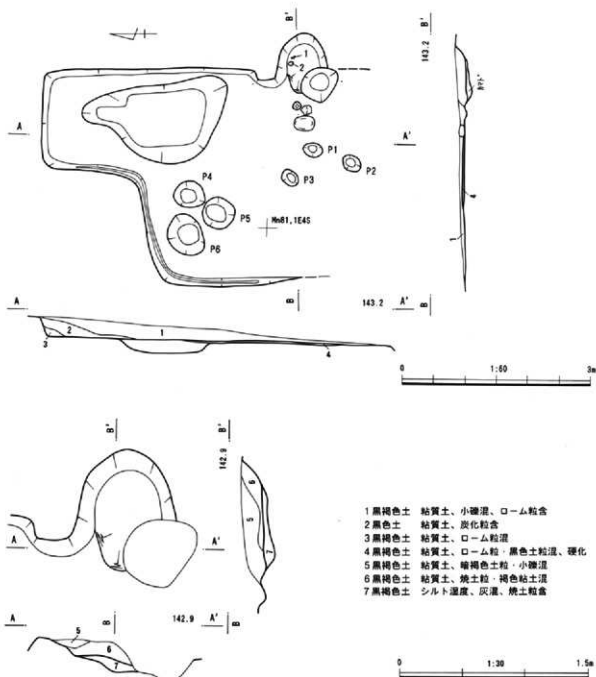
- 1 現代耕土
- 2 黒色土 粘質土、小礫混
- 3 黒褐色土 粘質土、ローム粒混
- 4 黒褐色土 粘質土、小礫混
- 5 黒褐色土 粘質土、小礫混
- 6 黄褐色土 シルト質土、小礫混
- 7 褐色土 シルト質土、焼土粒・炭化粒混
- 8 黒褐色土 シルト質土、灰混
- 9 暗褐色土 粘質土



138号住居跡 (第249・250図、P L 27)

Mn-81グリッドに位置する。南壁部を21号溝及び現代土坑により壊されている。また、南側は現代により削平されている。周辺には北西36mに同時期の住居跡138号住居跡がある。また、北東10mに137号住居跡、北西30mに135号と136号住居跡が位置する。

住居跡の平面形は方形を呈していたものと考えられ、北壁東寄りに大きな張り出しをもつ。規模は南北残存4.8m(張り出し1.56m)、東西3.43mを測る。張り出し部は方形で南北1.56m、東西1.61mである。方位はN-89°-Eを示す。確認面は小礫混黒色土面である。



第249図 138号住居跡実測図

覆土は小礫を多く含む黒褐色粘質土で下層には同様の土層に炭化粒の混入が見られた。また、壁には同様の土層中にローム粒が多く含まれている。

壁の状況は、ローム層を掘り抜いているため、傾斜角度は急で垂直に近い。壁高は北壁28cm、東壁16cm、西壁12cmを測る。

床面の状況は、ローム層を掘り込み平坦面を構築している。硬質床面は住居内に認められたが、張り出し部には認められなかった。床下には張り出し部との接点部に断面皿状の土坑が検出した。平面は不整形長方形を呈し、規模は東西123cm、南北220cm、深さ20cmを測る。

周溝は西壁から北壁、張り出し部西側と連続して検出した。このことから張り出し部は本住居跡に伴うものであることが示された。規模は住居西側幅3cm、深さ3cm、北側幅4cm、深さ2cm、張り出し部西側幅3cm、深さ5cmを測る。

柱穴は確認されなかったが、小ピットが6本検出した。

第64表 139号住居跡ピット一覧表

ピット番号	平面形	NS (cm)	EW (cm)	深さ (cm)	備考
1	楕円形	29	24	13.5	
2	楕円形	38	24	20	
3	楕円形	26	25	17	
4	円形	48	42	16	
5	円形	51	49	25.5	
6	楕円形	55	65	27	

貯蔵穴は確認されなかった。

カマド 東壁にある。燃焼部は壁を掘り込んで構築するタイプである。規模は全長96cm、幅97cm、壁外長52cm、壁内長33cm、焚口部幅54cm、燃焼部幅51cmを測る。右袖部を現代の土坑により壊される。袖は壁を僅かに掘り残り壁内に突出する。燃焼部は床面より7cm程掘り込み、焼土粒・炭化粒混土上面を火焼面とする。

遺物はカマド内より壺(1)と蓋(2)が出土した。凶化した遺物の他に、土師器環口縁部9片、壺胴部片多数、また須恵器環口縁部2片、壺底部1片が出土した。

本住居跡は出土遺物から9世紀前半と考える。



第250図 139号住居跡出土遺物実測図

第65表 139号住居跡出土遺物観察表 (第250図、P.L156)

No.	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	須恵器壺	(12.9)	(4.1)	(3.5)	砂粒	良好	7.5Y6/4 に近い橙	轆轤成形 凹底糸切り	1/6	竪	
2	須恵器蓋	(14.0)	—	(2.3)	砂粒	良好	5Y5/1 灰	轆轤成形	1/7	竪	
3	須恵器蓋	(16.9)	—	(2.7)	砂粒	良好	5Y6/1 灰	轆轤成形	口縁～体部 1/8	覆土	

140号住居跡 (第251・252図、P.L27)

Ma-82グリッドに位置する。重複関係は北東隅でM区1号土坑、南壁は現代に壊される。本住居跡とM区1号土坑は本住居跡の方が古い。また、南壁及びカマド中央部を現代により壊されている。周辺には同時期の136号住居跡が南西48mにある。また

南西44.5mに135号住居跡、南西45.5mに138号住居跡が位置する。

住居跡の平面形は不整形長方形を呈し、その規模は南北3.47m、東西3.60mを測る。方位はN-118°Eを示す。確認面は小礫混黒褐色土面である。

第4節 古墳時代以降

壁の状況はしまりの弱い小礫混土を掘り抜いているため、傾斜角度は緩やかに外反する。壁高は北壁12cm、南壁12cm、東壁16cm、西壁16cmを測る。

床面の状況は疑似ロームを僅かに掘り込み平坦とし、小礫褐色土を薄く貼っていたようである。硬質床面は床下土坑上面を除き全域で確認された。床下はカマド手前に不整形円形を呈する土坑が1基検出した。規模は長軸137cm、短軸100cm、深さ10cmを測る。覆土には炭化粒・焼土粒混入、カマド灰掻き出し施設と考えられないだろうか。

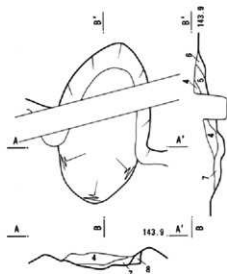
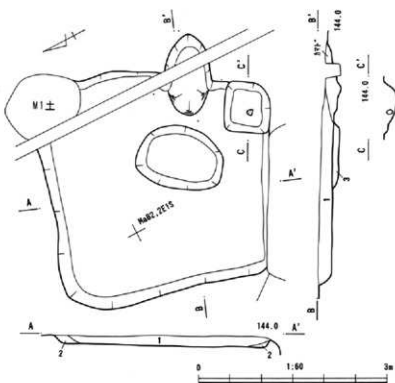
貯蔵穴は南隅にある。平面形は方形で断面U字状を呈し、西側・北側では僅かなテラス状の段差が検出した。規模は東西79cm、南北74cm、深さ20cmを測る。

周溝・柱穴は確認されなかった。

カマド 東壁中央南寄りにある。燃焼部は壁を掘り込み構築するタイプである。規模は全長128cm、幅106cm、壁外長58cm、壁内長79cm、焚口部幅63cm、燃焼部幅52cmを測る。袖は壁を僅かに掘り残り壁内に突出する。燃焼部は床面より12cm程掘り込み、焼土粒・炭化粒混土上面を火焼面とする。

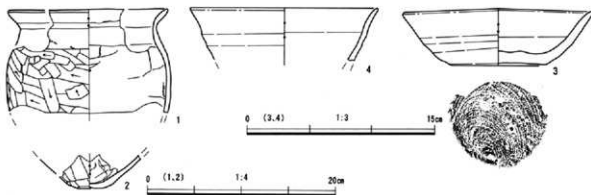
遺物は覆土内一括である。図化した遺物の他に、土師器坏口縁部8片、壺口縁部3片と須恵器壺口縁部7片、埴底部4片が出土した。

本住居跡は出土遺物から9世紀後半と考えられる。



- | | |
|--------|---------------|
| 1 黒褐色土 | 粘質土、小礫混 |
| 2 黒褐色土 | 粘質土、ローム粒混 |
| 3 黄褐色土 | 粘質土、ローム粒混 |
| 4 褐色土 | 粘質土 |
| 5 赤褐色土 | シルト質土、焼土混 |
| 6 暗褐色土 | 粘質土、焼土粒混 |
| 7 黒色土 | シルト質土、灰混、焼土粒混 |
| 8 黄褐色土 | 粘質土 |





第252図 140号住居跡出土遺物実測図

第66表 140号住居跡出土遺物観察表 (第252図、P.L156)

No	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 甕	(17.0)	—	(11.1)	砂粒	良好	5Y R5/4 にぶい赤褐	粘土船輪積み 旋盤・荒削り	口縁~胴部 1/4	覆土	
2	土師器 甕	—	3.2	3.5	砂粒	良好	7.5Y R5/4 にぶい褐	粘土船輪積み 旋盤・荒削り	底部片	覆土	
3	須恵器 埴	15.0	7.7	4.4	砂粒	良好	5Y7/1 灰白	轆轤成形 回転糸切り	1/2	覆土	
4	須恵器 埴	(15.0)	—	(3.6)	砂粒	良好	2.5Y6/3 にぶい黄	轆轤成形	1/5	覆土	

141号住居跡 (第253・254図、P.L27)

Lc-79グリッドに位置する。重複関係はないが、西壁南寄りからカマド中央にかけて現代に壊されている。なお、東側は調査区外になっている。南東隅が拡張されていたもので、そこは貯蔵穴が存在していた。周辺には同時期の住居跡が、西接して142号住居跡、北西14.5mに144号住居跡、南東13mに145号住居跡が位置する。

住居跡の平面形は隅丸長方形を呈し、その規模は南北4.26m、東西3.15mを測る。方位はN-89°-Eを示す。確認面は小礫混黒褐色土面である。

壁の状況は黒褐色土を掘り込んでおり、傾斜角度は急で垂直に近い。壁高は北壁12cm、南壁16cm、東壁10cm、西壁18cmを測る。

床面の状況はローム層を掘り込み平坦面に踏み締めている。硬質床面範囲は確認されなかった。床面と掘り方面は一致する。

貯蔵穴は南東隅にある。平面形は楕円形を呈し、長軸107cm、短軸57cm、深さ25cmを測る。中央部は最も深く、東側で12cm、西側で4cm程の段差がある。

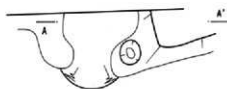
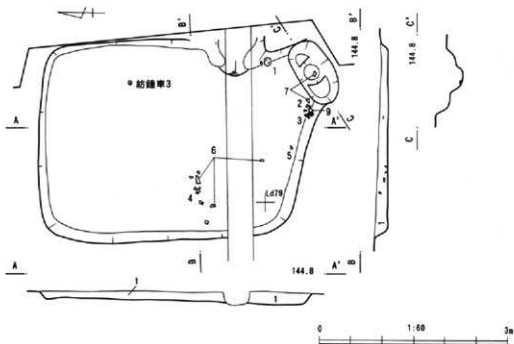
周溝・柱穴は確認されなかった。

カマド 東壁中央南寄りにある。燃焼部は壁を掘り込んで構築するタイプである。規模は、全長残存66cm、幅109cm、壁外長残存13cm、壁内長52cm、焚口部幅29cm、燃焼部幅61cmを測る。燃焼部中央を水道管敷設に伴い壊される。袖は壁を僅かに掘り残し、粘土で壁内に突出させる。右袖には鏝の抜き取り痕が検出した。燃焼部は床面より11cm程掘り込み灰層の上に火焼面を持つ。中央部に支脚と思われる地山の掘り残しが見られた。覆土内には崩壊による粘土ブロックの混入が顕著であった。

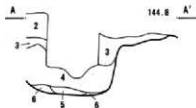
遺物は紡錘車が中央北東寄りに床直で出土した。土器は貯蔵穴西の床直に椀・皿が集中し、住居中央西寄りの床直で「コ」字甕(4・6)が出土した。図化した遺物の他に、土師器環口縁部23片、甕口縁部17片、平底部片、甕底部片が多数、また須恵器埴口縁部7片、埴底部1片が出土した。

本住居跡は出土遺物から9世紀後半と考えられる。

第4節 古墳時代以降



- 1 黒褐色土 粘質土、小礫混
- 2 現代耕土
- 3 褐色土
- 4 褐色土 シルト質土、焼土混、粘土含
- 5 褐色土 粘質土
- 6 黒色土 シルト質土、灰混、焼土粒・粘土含



第253図 141号住居跡実測図

第47表 141号住居跡出土遺物観測表(1) (第254図、P.L156・157)

No	器種・器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 坏	11.8	7.6	3.5	砂粒	良好	5Y R5/4 にぶい赤褐	型作り 笠飾・底削り	完形	覆土	
2	土師器 坏	12.2	7.9	3.7	砂粒	良好	7.5Y R6/4 にぶい橙	型作り 笠飾・底削り	2/3	床直	
3	土師器 坏	(12.6)	—	(3.2)	砂粒	良好	7.5Y R6/4 にぶい橙	型作り 笠飾・底削り	1/3	床直	
4	土師器 壺	(19.6)	—	(16.3)	砂粒	良好	5Y R5/6 明赤褐	粘土紐輪積み 笠飾・底削り	口縁~頸部 1/3	床直	
5	土師器 壺	(24.2)	—	(5.6)	砂粒	良好	5Y R5/8 明赤褐	粘土紐輪積み 笠飾・底削り	口縁~頸部 1/8	覆土	
6	土師器 壺	(21.1)	—	(6.2)	砂粒	良好	5Y R5/6 明赤褐	粘土紐輪積み 笠飾・底削り	口縁~頸部 1/2	床直	
7	須恵器 塊	(14.2)	—	(5.5)	砂粒	良好	2.5Y 6/3 にぶい黄	轆轤成形	1/5	貯蔵穴	

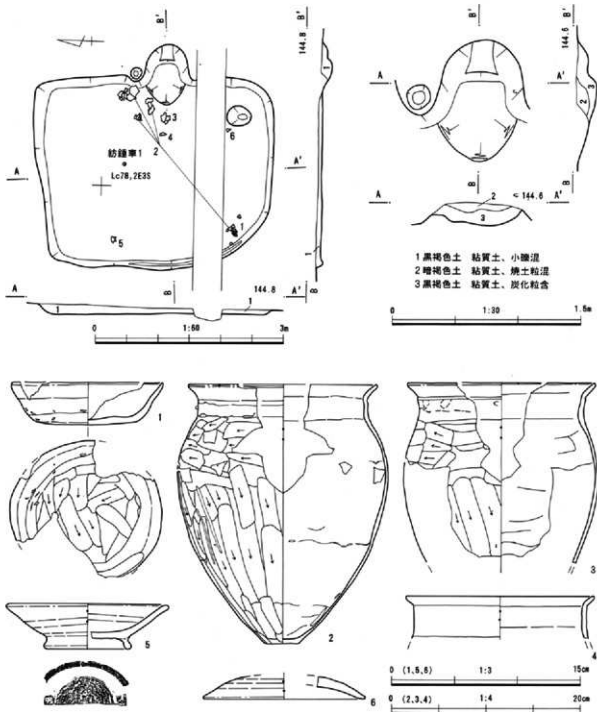
第4節 古墳時代以降

柱穴か貯蔵穴か、南東隅に平面円形を呈し、直径37cm、深さ13cmを測る小穴が検出した。遺物の混入はない。

カマド 東壁中央にある。燃焼部は壁を掘り込み構築するタイプである。規模は、全長96cm、幅131cm、壁外長24cm、壁内長72cm、焚口部幅62cm、燃焼

部幅41cm、煙道部幅20cmを測る。袖は壁を僅かに掘り残し、壁内に突出する。燃焼部は床面より15cm程掘り込み、炭化粒混土上面を火焼面とする。遺物は出土しない。

遺物は住居中央に紡錘車が床直で出土した。カマド左側の床直で甕類があり坏（1）と碗（5）は西



第255図 142号住居跡・出土遺物実測図

壁際に出土した。図化した遺物の他に、土師器環口縁部9片、埴輪部片多数と、須恵器埴口縁部10片が出土した。

本住居跡は出土遺物から9世紀後半と考える。

第48表 142号住居跡出土遺物観察表 (第255図、P.L157)

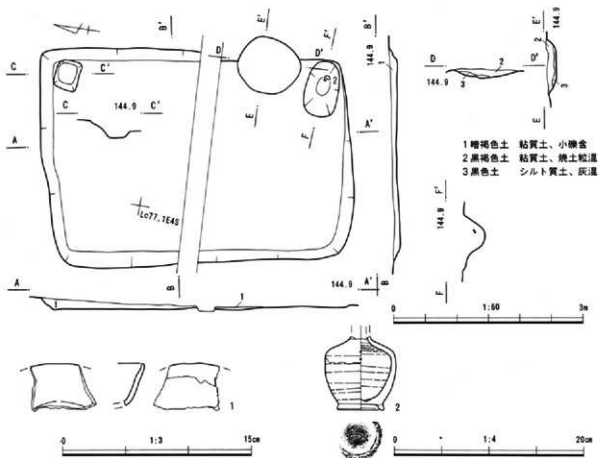
No.	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 環	12.1	8.0	3.3	砂粒	良好	7.5Y R4/3 褐	型作り 寛瀬・費用り	2/3	床直	
2	土師器 埴	(20.1)	3.4	27.5	砂粒	良好	5Y R5/4 にぶい赤褐	粘土紐輪積み 寛瀬・費用り・寛磨	口縁~底部 1/2	床直	
3	土師器 埴	(20.0)	-	(19.0)	砂粒	良好	7.5Y R5/4 にぶい褐	粘土紐輪積み 寛瀬・費用り	口縁~胴部 1/8	床直	
4	土師器 埴	(20.2)	-	(4.6)	砂粒	良好	5Y R5/6 明赤褐	粘土紐輪積み 寛瀬	口縁片	床直	
5	須恵器 高台付埴	(13.0)	(6.9)	3.5	砂粒	良好	5Y 6/1 灰	轆轤成形 回転糸切り	1/3	床直	
6	須恵器 蓋	(12.9)	-	(1.7)	砂粒	良好	10Y R7/4 にぶい黄緑	轆轤成形	1/8	床直	

143号住居跡 (第256図、P.L28)

Lc・d-77グリッドに位置する。重複関係はないが、東壁中央から西壁中央にかけて現代に壊される。また、南東側は現代削平が大きい。周辺には東5.5m

に142号住居跡、その先に141号住居跡、北9.5mに144号住居跡が位置する。

住居跡の平面形は隅丸長方形を呈し、その規模は



第256図 143号住居跡・出土遺物実測図

第4節 古墳時代以降

南北4.92m、東西3.37mを測る。方位はN-80'-Eを示す。確認面は小礫混黒褐色土面である。

覆土は小礫混黒褐色粘質土である。

壁の状況は削平により明瞭ではないがやや外反気味に立ち上がる。壁高は北壁16cm、南壁5cm、東壁10cm、西壁10cmを測る。

床面の状況はローム層中に構築している。小礫混褐色土を薄く貼っているようである。硬質床面範囲は確認されなかった。なお、北東隅に方形の浅い掘り込みが検出した。規模は南北37cm、東西48cm、深さ11cmを測る。その他床下土坑等の施設は検出されなかった。

貯蔵穴は南東隅にある。平面は楕円形、断面U字状を呈し、長軸87cm、短軸52cm、深さ34cmを測る。東壁寄り中に口縁部を下に小壺が出土した。

周溝・柱穴は確認されなかった。

カマド 東壁中央南寄りにある。燃焼部の掘り方の状態で確認された。燃焼部は壁を僅かに掘り込んで構築するタイプである。燃焼部範囲は南北108cm、東西92cmを測る。床面より5cm程掘り込み、灰混土上面を火焼面とする。

遺物は貯蔵穴から小型壺(2)の他は北東隅落ち込みから口縁部片が出土したのみである。

本住居跡は、覆土より平安時代の所産と考える。

第99表 143号住居跡出土遺物観察表 (第256図、P.L157)

No	御器類形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土胎器 坏	-	-	-	砂粒	良好	5Y R5/4 よい赤褐色	型作り 荒撫・荒削り	口縁片	覆土	
2	須恵器 小型壺	-	(4.8)	(7.7)	砂粒	良好	2.5Y 6/2 灰青	轆轤成形 回転未切り	3/4	貯蔵穴	

144号住居跡 (第257図、P.L28)

La・b-76グリッドに位置する。重複関係はないが東側は現代削平される。周辺には北13mに19号住居跡、北東28mに17号住居跡、南東に近接して141号・142号・143号住居跡が位置している。

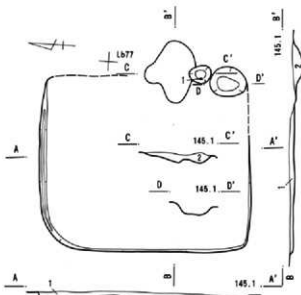
住居跡の平面形は隅丸方形を呈し、その規模は南北3.34m、東西残存2.75mを測る。方位はN-86'-

Eを示す。確認面は小礫混黒褐色土面である。

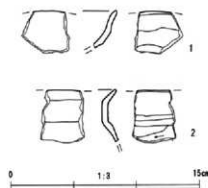
覆土は小礫混黒褐色土の単一層である。

壁の状況は削平により明瞭ではないが、傾斜角度は急で垂直に近い。壁高は北壁8cm、南壁3cm、西壁5cmを測る。

床面の状況はローム層中に構築される。小礫混褐



第257図 144号住居跡・出土遺物実測図



1 黒褐色土 粘質土、小礫土
2 黒褐色土 粘質土、炭化粒・焼土粒含

色土を薄く貼っているように見られた。硬質床面範囲は確認されなかった。床下土坑等の施設も検出されなかった。

貯蔵穴は南東隅にある。平面形は楕円形で東西45cm、南北57cm、深さ12cmを測る。底面は平坦で壁は外反気味に立ち上がる。遺物等の出土はない。

周溝は北壁際に検出した。断面U字状、幅4cm、深さ3cmである。

柱穴は確認されなかった。

カマド 東壁中央やや南寄りにある。燃焼部は壁

を掘り込み壁内に構築するタイプである。燃焼部の掘り方に近い形で確認された。規模は全長97cm、幅58cmを測る。壁ライン状に袖石抜き取りと思われる痕が確認された。左袖は浅い落ち込みで、右袖は小ピット状を呈する。燃焼部は床面より7cm程掘り込む。遺物等の出土はない。

遺物は覆土中一括である。図化した遺物の他に、土師器坏口縁部5片、甕底部1片、甕胴部片多数と須恵器坏口縁部1片が出土した。

本住居跡は出土遺物から9世紀後半と考える。

第70表 144号住居跡出土遺物観察表 (第257図、P L 157)

No.	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 坏	-	-	-	砂粒	良好	7.5Y R6/6 橙	型作り 彫削・荒削り	口縁片	覆土	
2	土師器 甕	-	-	-	砂粒	良好	5Y R6/6 橙	粘土紐輪積み 彫削・荒削り	口縁片	覆土	

145号住居跡 (第258・259図、P L 28・29)

Le-80グリッドに位置する。南側で26号溝と重複関係にある。本住居跡の方が古い。なお、西側は調査区外である。周辺には北西13mに141号住居跡、北東13mに146号住居跡が位置している。

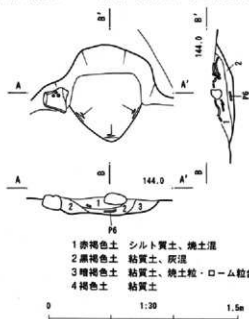
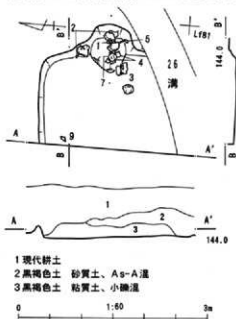
住居跡の平面形は隅丸方形を呈し、その規模は南北残存1.94m、東西残存1.42mを測る。方位はN-

84°-Eを示す。確認面は小礫混黒褐色土面である。

覆土は小礫混黒褐色土の単一層である。

壁の状況は黒色土を掘り込んでおり、傾斜角度は急で垂直に近く、壁の崩落は少ない。壁高は北壁18cm、東壁11cmを測る。

床面の状況はローム層中に構築され、小礫混褐色



第258図 145号住居跡実測図

第4節 古墳時代以降

土を薄く貼っているようである。硬質床面範囲は確認されなかった。床下土坑等の施設も検出されなかった。

周溝・柱穴・貯蔵穴は確認されなかった。

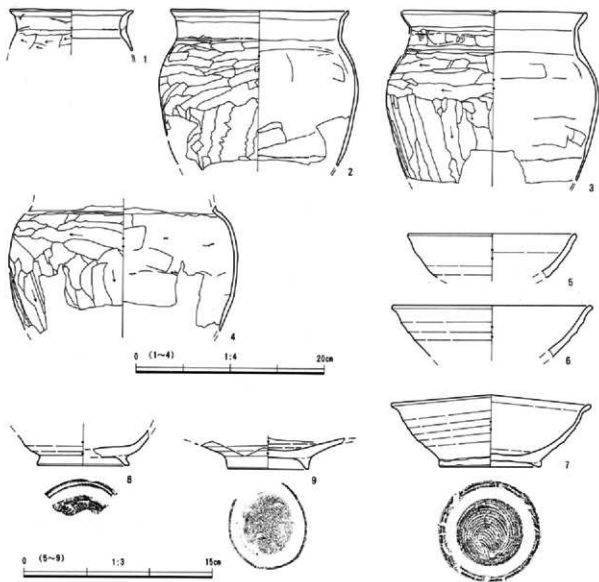
カマド 東壁にある。燃焼部は壁を掘り込み壁外に構築するタイプである。規模は全長76cm、幅推定112cm、焚口部幅56cm、燃焼部幅54cmを測る。袖は壁ライン上にあり、左袖には凹石を袖芯材に使い、カマド手前の磨石が右袖石と考えられ、粘土を貼付し構築される。燃焼部は床面より3cm程掘り込み、灰泥

土上面を火焼面とする。壺3個体分が南西方向に口縁部を示し、礫につぶされ重なるように出土した。この礫はカマド補強材と考えられる。

遺物はカマド左袖に凹石・磨石が、カマド内から壺(1・2・3・4)と碗(5・7)が出土した。

図化した遺物の他に、土師器坏口縁部8片、壺口縁部8片、壺胴部片多数、また須恵器埴口縁部10片、埴底部4片が出土した。

本住居跡は出土遺物から9世紀後半と考えられる。



第258図 145号住居跡出土遺物実測図

第71表 145号住居跡出土遺物観察表 (第259図、P.L157・158)

No	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 小型壺	(13.2)	—	(4.2)	砂粒	良好	7.5Y R6/6 橙	粘土紐輪積み 甌蓋・甌削り	口縁~胴部 1/4	甌	
2	土師器 壺	(18.9)	—	(16.9)	砂粒	良好	7.5Y R6/8 橙	粘土紐輪積み 甌蓋・甌削り	口縁~胴部 3/4	甌	
3	土師器 壺	(19.5)	—	(18.0)	砂粒	良好	5Y R6/6 橙	粘土紐輪積み 甌蓋・甌削り	口縁~胴部 1/4	甌	
4	土師器 壺	—	—	(12.9)	砂粒	良好	5Y R5/6 明赤褐	粘土紐輪積み 甌蓋・甌削り	胴部~胴部 1/3	甌	
5	須恵器 埴	(13.3)	—	(3.4)	砂粒	良好	10Y R7/3 にぶい黄橙	轆轤成形	口縁~体部 1/4	甌	
6	須恵器 埴	(15.8)	—	(4.0)	砂粒	良好	10Y R7/4 にぶい黄橙	轆轤成形	口縁 1/4	甌	
7	須恵器 高台付埴	(15.5)	7.9	5.7	砂粒	良好	7.5Y R6/6 橙	轆轤成形 回転糸切り	1/3	甌	
8	須恵器 高台付埴	—	(2.7)	(7.0)	砂粒	良好	7.5Y R5/4 にぶい褐	轆轤成形 回転糸切り	1/8	甌土	
9	須恵器 高台付埴	—	6.2	(1.9)	砂粒	良好	5Y5/1 灰	轆轤成形 回転糸切り	1/3	甌土	墨書

146号住居跡 (第260図、P.L29)

Lb・c-81グリッドに位置する。2軒の重複関係が認められた。土層観察から北側(A住居)が新しく、南側(B住居)が古い。なお、東側は調査区外である。周辺には北19mに147号住居跡、西13mに141号住居跡が位置している。確認面小礫混黒褐色土面である。

覆土は3層のしまりの有るロームブロック混黒褐色土を人為的に埋没後、2層の軽石多混土で自然埋没したものと考えられる。

住居跡の平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。

壁の状況は西・北壁は黒褐色土を掘り込み垂直に近い立ち上がりを示す。

床面の状況はローム層中に構築される。硬質床面範囲は全面で確認された。床下土坑等の施設は検出しなかった。なお、A住居とB住居では2cm程B住居の方が高い。

周溝・柱穴・貯蔵穴は確認されなかった。

カマド 調査区外に存在が考えられる。

146号-A住居跡

規模は南北残存3.24mを推測し、東西残存0.96mである。方位は東壁及び南壁から考慮しN-97°-Eを示す。

壁の状況は西・北壁は黒褐色土を掘り込み垂直に近い立ち上がりを示す。壁高は北壁27cm、南壁残存20cm、西壁23cmを測る。

146号-B住居跡

規模は東西残存1.56mである。方位は東壁及び南壁からN-95°-Eを示す。

壁高は南壁30cmを測る。

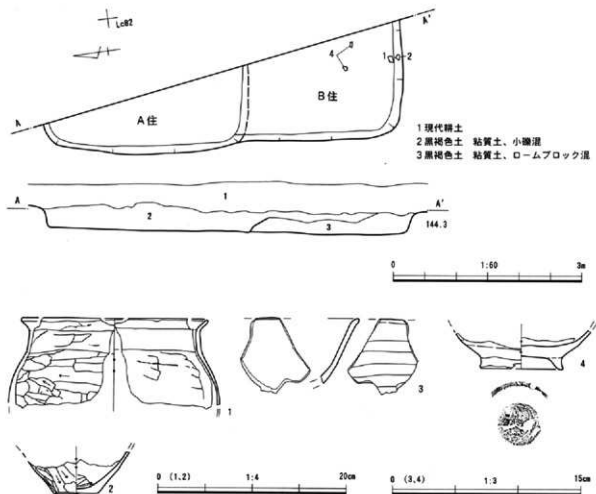
遺物はB住居に出土した。甕(1・2)は南壁際に壁に接するようであり、埴(4)は中央部に床直で出土した。図化した遺物の他に、土師器環口縁部9片、甕口縁部1片、甕底部2片、甕胴部片多数と須恵器埴口縁部10片が出土した。

本住居跡は出土遺物からA・B共に9世紀後半と考える。

第72表 146号住居跡出土遺物観察表 (第260図、P.L158)

No	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 壺	(19.5)	—	(9.5)	砂粒	良好	5Y R5/8 明赤褐	粘土紐輪積み 甌蓋・甌削り	口縁~胴部 1/6	B-甌土	
2	土師器 壺	—	(4.5)	(4.3)	砂粒	良好	5Y R5/6 明赤褐	粘土紐輪積み 甌蓋・甌削り	胴下~底部 1/2	B-甌土	
3	須恵器 埴	—	—	—	砂粒	良好	5Y4/1 灰	轆轤成形	口縁片	B-甌土	
4	須恵器 高台付埴	—	(6.3)	(3.0)	砂粒	良好	2.5Y7/2 灰黄	轆轤成形 回転糸切り	1/4	B-床直	

第4節 古墳時代以降



第260図 146号住居跡・出土遺物実測図

147号住居跡 (第261図、P L 29)

Ks-80・81グリッドに位置する。重複関係はないが、現代の削平により焼土分布と硬質床面範囲のみが確認された。周辺には北西24mに17号住居跡、西24mに19号住居跡、南19.5mに146号住居跡が位置している。焼土範囲は円形を呈し直径25cmで、硬質床面範囲は焼土分布北西に不整隅丸方形で南北124cm、東西154cmを測る。

その他の施設は、検出されなかった。

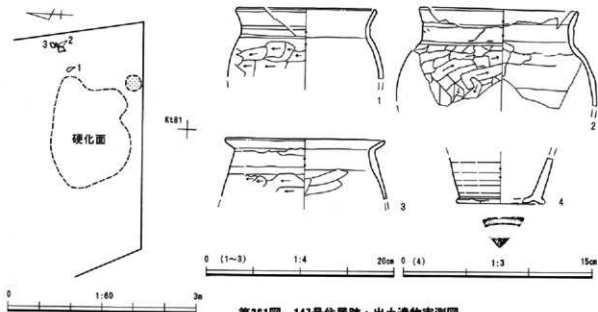
遺物は硬質床面範囲北東に接して同レベルで壘(2・3)が出土した。壘(4)は覆土である。

図化した遺物の他に、土師器口縁部9片、壘胴部片多数、また須恵器壘胴部が数片出土した。

本住居跡は出土遺物より平安時代の所産と考える。

第73表 147号住居跡出土遺物観察表 (第261図、P L 158・159)

No	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器壘	(14.8)	—	(7.3)	砂粒	良好	10Y R5/4 にぶい黄褐色	粘土紐輪襷み 篋撫・寛削り	口縁~胴部 1/5	覆土	
2	土師器壘	(17.0)	—	(10.3)	砂粒	良好	5Y R5/3 にぶい赤褐色	粘土紐輪襷み 篋撫・寛削り	口縁~胴部 1/4	床直	
3	土師器壘	(17.1)	—	(6.1)	砂粒	良好	5Y R5/4 にぶい赤褐色	粘土紐輪襷み 篋撫・寛削り	口縁~胴部 1/5	床直	
4	須恵器高台付壘	—	(9.4)	(4.6)	砂粒	良好	2.5Y 6/3 にぶい黄	轆轤成形	胴下~底部 1/8	覆土	



第261図 147号住居跡・出土遺物実測図

148号住居跡 (第262図、P L29)

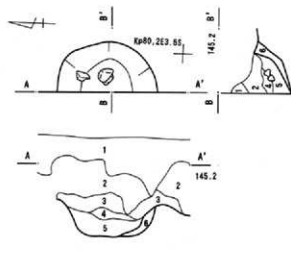
Kp-80グリッドに位置する。重複関係はなく、本住居跡は、カマド以外は、確認されなかった。カマドの一部以外は調査区外である。周辺には南西26mに19号住居跡、南16.5mに147号住居跡が位置している。

カマド 燃焼部は壁を掘り込み構築するタイプで

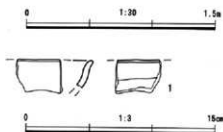
ある。規模は全長残存40cm、幅残存80cmを測る。燃焼部に粘土を貼付し構築され、出土した2個の礫は補強材と考えられる。

遺物は覆土内から2個の礫の他に坏(1)が出土した。

本住居跡は出土物より平安時代の所産と考える。



- 1 現代粘土
- 2 暗褐色土 As-C・Hr-I混、焼土粒含、粘性有
- 3 褐色土 シルト質土、焼土粒含
- 4 黄灰色 シルト質土、灰・焼土粒混
- 5 赤褐色土 シルト質土、焼土粒混
- 6 暗赤褐色土 灰混、焼土粒・粘質土含



第262図 148号住居跡・出土遺物実測図

第74表 148号住居跡出土遺物観察表 (第262図、P L159)

No.	器種器形	口径	底径	器高	胎土	構成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 坏	-	-	-	砂粒	良好	SY R6/4 に濃い橙	窯作り 荒瀬・荒削り	口縁片	覆土	

第25表 住居跡一覽表

住居番号	位置グラフ	縦横(m)		面積(m ²)	方位	形態	カマド	壁高 (cm)			階級穴	周溝	柱穴	時代	備考	
		南北	東西					北	南	西						東
14	G n-51	2.36	3.30	6.38	N-86°-E	隅丸長方形	-	15	10	10	7	-	3	古墳	4 C	
12	G n-49	4.10	5.45	21.05	N-93°-E	隅丸長方形	-	54	47	55	49	-	4	古墳	5 C	
1	G f-44, 45	3.05	2.52	(6.55)	N-93°-E	隅丸方形	-	-	10	8	(12)	南庭園	-	-	平安	8 C後
2	G g-46	3.85	3.10	8.65	N-71°-E	隅丸方形	東	40	40	42	43	溝	4	奈良	8 C前	
3	G f-46	3.77	3.10	9.28	N-130°-E	隅丸方形	東	-	27	23	28	-	3	奈良	8 C前	
4	G h-44	2.80	(1.8)	(4.56)	N-97°-E	隅丸方形	東	3	-	-	-	-	3	奈良	9 C後	
5	G n-51	3.50	3.76	14.27	N-98°-E	隅丸方形	東	36	33	31	24	附庭園	(4)	平安	10 C後	
6 (A)	G i-1 m-49, 50	3.27	2.68	7.23	N-86°-E	隅丸方形	東	(65)	(66)	21	12	南庭園	-	-	奈良	8 C前
6 (B)	G i-1 m-49, 50	4.67	4.13	15.53	N-84°-E	隅丸方形	東	53	45	53	46	-	-	-	奈良	8 C前
8 (A)	G m-50	(4.40)	(3.21)	(15.71)	N-126°-E	隅丸長方形	東	3	2	10	5	-	-	-	奈良	8 C前
8 (B)	G m-50	(3.30)	(3.23)	(12.53)	N-116°-E	隅丸長方形	東	3	2	10	5	-	-	-	奈良	8 C前
9	H b-47, 48	2.97	3.22	7.46	N-89°-E	隅丸方形	南東	27	19	16	23	-	-	-	平安	10 C後
10	J b + c-69	3.95	-	(5.90)	N-94°-E	-	-	36	36	40	-	-	-	-	平安	9 C後
13	G e + f-48	3.63	2.92	7.67	N-90°-E	隅丸方形	東	-	-	-	-	南庭園	-	-	平安	9 C後
15(A)	K e-75	3.88	3.06	(11.10)	N-90°-E	方形	東	10	17	-	20	溝	-	-	平安	9 C後
15(B)	K e-75	3.35	3.95	(10.48)	N-108°-E	方形	東	17	17	20	-	-	-	-	平安	9 C後
16	K j-74	4.40	3.50	11.85	N-93°-E	方形	東	54	50	60	52	南庭園	○	2	平安	9 C後
17	K p-77	(5.56)	4.07	17.90	N-88°-E	方形	東	45	43	(46)	46	南庭園	-	-	奈良	8 C後
18	K q-78	3.93	3.96	12.86	N-85°-E	方形	東	37	30	20	32	南庭園	-	-	奈良	8 C前
19	K s-76	4.96	3.65	13.12	N-55°-E	長方形	東(2ヶ)	50	47	47	50	南庭園	-	-	奈良	9 C前
20	K m-75, 74	4.63	(2.5)	(8.11)	N-83°-E	(方形)	東	50	68	-	20	南庭園	○	-	平安	9 C前
21	K l-77	(0.57)	3.10	(1.28)	N-90°-E	-	-	-	47	40	40	南庭園	-	-	平安	10 C前
133	H o-54, 55	(1.67)	2.46	(3.77)	N-79°-E	-	東	-	8	20	26	南庭園	-	-	平安	9 C後
134	J b-66	4.08	3.06	11.88	N-112°-E	隅丸方形	東	26	25	25	20	南庭園	-	-	平安	9 C前
135	M i-78	4.72	3.60	12.91	N-64°-E	方形	東	10	15	17	-	-	○	-	奈良	8 C後
136	M i-77	4.50	(2.6)	9.84	N-87°-E	-	東	20	25	-	33	南庭園	-	-	平安	9 C後
137	M i-1 m-81	4.20	(1.63)	(5.34)	N-95°-E	-	東	21	20	13	-	-	○	1	平安	9 C前
138	M h-1-77	(3.44)	(0.92)	(2.95)	N-77°-E	-	東	20	-	-	-	-	-	-	平安	9 C前
139	M n-81	-	3.43	(10.80)	N-89°-E	-	東	28	-	12	16	-	○	-	平安	9 C前
140	M a-82	3.47	3.60	9.74	N-118°-E	隅丸方形	東	12	12	16	16	溝	-	-	平安	9 C後
141	L c-79	4.26	3.15	10.77	N-88°-E	隅丸長方形	東	12	16	18	10	南庭園	-	-	平安	9 C後
142	L c-78	3.77	3.00	9.12	N-88°-E	隅丸方形	東	15	7	7	7	-	-	-	平安	9 C後
143	L c + d-77	4.92	3.37	13.39	N-88°-E	隅丸長方形	東	16	5	10	10	南庭園	-	1	平安	9 C後
144	L a + b-76	3.34	(2.75)	8.36	N-86°-E	隅丸方形	東	8	3	5	-	-	○	-	平安	9 C後
145	L e-80	(1.94)	(1.42)	(2.80)	N-84°-E	-	東	18	-	-	11	-	-	-	平安	9 C後
146(A)	L b + c-81	(3.24)	(0.90)	(2.34)	N-97°-E	-	-	27	(30)	23	-	-	-	-	平安	9 C後
146(B)	L c-81	-	-	(1.56)	(3.22)	N-95°-E	-	-	30	-	-	-	-	-	平安	9 C後
147	K s-80, s-81	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	平安	-
148	K p-80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	平安	-

カマド先頭部分のみ

第2項 遺物集中地点

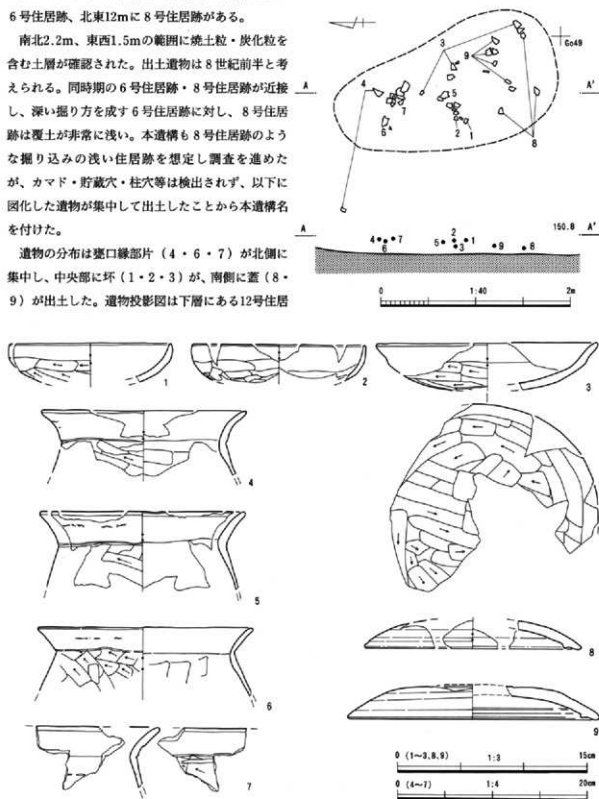
(第263図、P L 29)

Gn-48グリッドに位置する。周辺には北東6mに6号住居跡、北東12mに8号住居跡がある。

南北2.2m、東西1.5mの範囲に焼土粒・炭化粒を含む土層が確認された。出土遺物は8世紀前半と考えられる。同時期の6号住居跡・8号住居跡が近接し、深い掘り方を成す6号住居跡に対し、8号住居跡は覆土が非常に浅い。本遺構も8号住居跡のような掘り込みの浅い住居跡を想定し調査を進めたが、カマド・貯蔵穴・柱穴等は検出されず、以下に図化した遺物が集中して出土したことから本遺構名を付けた。

遺物の分布は壺口縁部片(4・6・7)が北側に集中し、中央部に坏(1・2・3)が、南側に蓋(8・9)が出土した。遺物投影図は下層にある12号住居

跡周堤帯上面を基に作成した。遺物は地形に沿って北西方向から南東方向に傾斜するようにある。



第263図 遺物集中地点・出土遺物実測図

第4節 古墳時代以降

第76表 遺物集中地点出土遺物観察表（第263図、P.L158）

No.	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 坏	(13.0)	—	(3.1)	砂粒	良好	10Y R5/4 にふい黄褐色	型作り 底撫・底削り	1/7	覆土	
2	土師器 坏	(15.6)	—	(2.7)	砂粒	良好	5Y R6/6 橙	型作り 底撫・底削り	口縁～底部 1/4	覆土	
3	土師器 坏	(17.5)	—	(3.6)	砂粒	良好	5Y R4/6 赤褐色	型作り 底撫・底削り	1/2	覆土	
4	土師器 長胴甕	(21.8)	—	(6.6)	砂粒	良好	7.5Y R6/6 橙	粘土紐輪積み 底撫	口縁～頸部 1/7	覆土	
5	土師器 長胴甕	(22.5)	—	(6.4)	砂粒	良好	7.5Y R6/6 橙	粘土紐輪積み 底撫	口縁～胴部片	覆土	
6	土師器 長胴甕	—	—	—	砂粒	良好	10Y R5/4 にふい黄褐色	粘土紐輪積み 底撫・底削り	口縁～胴部片	覆土	
7	土師器 長胴甕	(21.9)	—	(8.0)	砂粒	良好	7.5Y R6/6 橙	粘土紐輪積み 底撫・底削り	口縁～頸部 1/4	覆土	
8	須恵器 蓋	(17.1)	—	(2.2)	砂粒	良好	10Y R6/3 にふい黄褐色	轆轤成形	1/4	覆土	
9	須恵器 蓋	(19.6)	—	(2.7)	砂粒	良好	5Y6/1 灰	轆轤成形	1/3	覆土	

第3項 掘立柱建物跡・柵列・ピット群

G区・K区・L区・M区に検出した。

G区の確認面は軽石多混暗褐色土であり、検出した柱穴・井戸・溝の上面にはAs-B層上のシルト質土が確認された。また、As-B混土を覆土することから中世の遺構と考える。遺構の集中はG1-Q-48~53グリッドで1号・2号掘立柱建物跡、1号・2号柵列、ピット群がある。

本地点は比高差北1.6m、西1.2m程の高まりが2号柵列西側から北側に囲むようにあり、屋敷は地形と溝により区画されるものと考えた。また、1号・2号柵列内にはその他のピットが密集し、柵内に主要建物があったことが考えられる。

遺構の配置は屋敷の中心を成すと考えられる1号掘立柱建物跡P9を中心に北東10.5mに2号掘立柱建物跡、南6.5mに1号柵列、西14.5mに2号柵列、南西8.5mに1号井戸、南西12mに2号井戸、南10.5mに7号溝が位置している。

K区・L区の確認面はAs-C・Hr-I混黒褐色土である。覆土等から平安時代の所産が考えられ、15号住居跡から145号住居跡にかけて、弧状を呈する9



第264図 G区掘立柱建物跡・柵列・井戸位置図

世紀代の住居跡群との関連が示唆される。

M区の確認面は小礫混黒褐色土で覆土等から平安時代が想定され、135号住居跡から140号住居跡にかけて弧状を呈する9世紀代の住居跡群との関連が考えられる。

1号掘立柱建物跡 (第265、P L30)

Gn-50グリッドに位置する。重複関係はない。平面形は北西に歪むがほぼ方形を呈す総柱式である。棟方向は東西を示し、N-8°-Wである。

規模は2間の等間(東辺3.15m、西辺3.46m、北辺3.95m、南辺3.29m)で、面積11.94㎡を測る。

柱穴は9本検出した。平面形は方形を呈し、しっかりとした掘り方をもつ。確認面での形状は東西平均30.4cm、南北平均27.1cm、深さは最大値53cmで平均34.5cmである。P1は縦横23cmを測る正方形を呈し、P4には扁平な石が確認面から掘り方中位にくい込むように検出した。

柱間寸法は平均1.8mである。

遺物は検出されなかった。

2号掘立柱建物跡 (第266図、P L30)

G1-51グリッドに位置する。重複関係はないが、東側は調査区外となる。

平面形は長方形を呈するものとする。棟方向は東西を示し、方位はN-13.5°-Wである。

規模は桁行2間以上、梁行2間(西辺4.5m)である。

柱穴は6本検出した。平面形は円形で、しっかりした掘り方をもつ。確認面での形状は直径平均27.4cmで深さは最大値33cmで平均25.2cmである。北辺はP3を中心に間が設定されると考えられ、P2はP3の補助柱と考えられる。P1には楕円形の石が壁に貼り付くように検出した。

柱間寸法は桁方向で平均1.72m、梁方向で平均2.25mである。

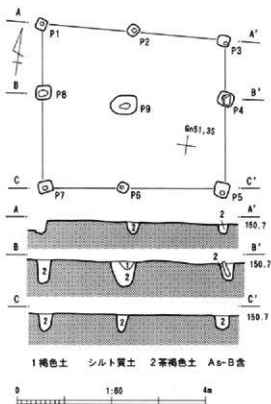
第77表 1号獨立柱建物跡柱穴一覽表

No	形状	NS cm	EW cm	深さ			備考
				上場m	下場m	cm	
P1	方形	23	23	150.60	150.32	28	
P2	方形	23	23	150.59	150.34	25	
P3	方形	23	25	150.55	150.34	21	
P4	方形	29	32	150.50	150.16	34	
P5	方形	31	31	150.50	150.22	28	
P6	方形	22	22	150.53	150.17	36	
P7	長方形	24	31	150.55	150.18	37	
P8	方形	29	31	150.59	150.10	49	
P9	楕円形	40	56	150.54	150.01	53	

(深さ上場・下場は標高を現す単位m)

第78表 1号獨立柱建物跡柱穴間一覽表

柱穴番号	長さ(m)	柱穴番号	長さ(m)
P1~P2	1.98	P7~P8	2.00
P2~P3	1.97	P8~P9	1.82
P3~P4	1.15	P2~P9	1.60
P4~P5	2.00	P4~P9	2.10
P5~P6	2.15	P6~P9	1.72
P6~P7	1.65	P1~P8	1.46



第285図 1号獨立柱建物跡実測図

1号構列 (第267図、P.L30)

Go-50~52グリッドに位置する。重複関係はない。東西に直線的な5間の柱列である。方位はN-89°-Eを示す。規模は9.53mである。

柱穴は6本検出した。平面形は方形を呈し、しっかりとした掘り方を持つ。確認面での形状は東西平

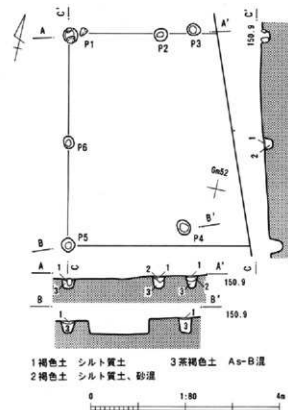
第79表 2号獨立柱建物跡柱穴一覽表

No	形状	NS cm	EW cm	深さ			備考
				上場m	下場m	cm	
P1	円形	32	31	150.78	150.58	20	
P2	円形	27	27	150.85	150.60	25	
P3	円形	34	28	150.87	150.60	27	
P4	楕円形	32	27	150.68	150.35	33	
P5	円形	27	26	150.60	150.34	26	
P6	円形	25	23	150.74	150.54	20	

(深さ上場・下場は標高を現す単位m)

第80表 2号獨立柱建物跡柱穴間一覽表

柱穴番号	長さ(m)	柱穴番号	長さ(m)
P1~P2	1.95	P4~P5	2.50
P2~P3	0.71	P5~P6	2.17
P3~P4	4.20	P6~P1	2.33



第286図 2号獨立柱建物跡実測図

均24.5cm、南北平均25cm、深さは最大値37cmで平均23.8cmを測る。

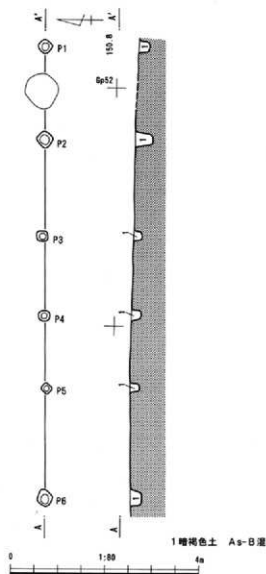
柱間寸法は平均1.9mである。

遺物は検出されなかった。

第81表 1号柵列跡柱穴一覧表

No	形状	NS cm	EW cm	深さ		備考
				上層m	下層m	
P1	方形	25	25	150.37	150.14	23
P2	方形	31	29	150.46	150.09	37
P3	方形	23	22	150.50	150.32	18
P4	円形	23	22	150.56	150.34	22
P5	方形	19	19	150.58	150.38	20
P6	方形	29	30	150.57	150.34	23

(深さ上層・下層は標高を示す単位m)



第82表 1号柵列跡柱穴間一覧表

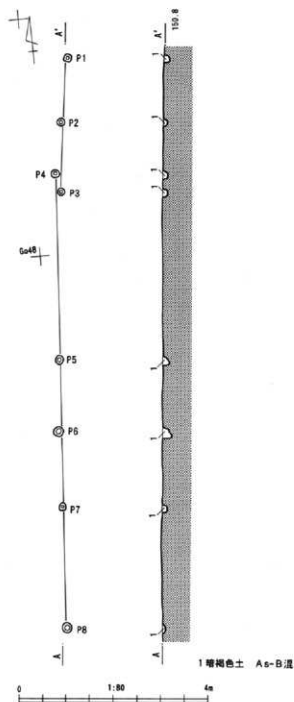
柱穴番号	長さ(m)	柱穴番号	長さ(m)
P1~P2	1.96	P4~P5	1.51
P2~P3	2.03	P5~P6	2.34
P3~P4	1.68		

第267図 1号柵列跡実測図

2号柵列 (第268図、P L.30)

Gn~p-47・48グリッドに位置する。重複関係はない。谷地形に沿った南北に伸びる6間の柱列である。方位はP1-P3はN-8°-E、P4-P8はN-4.5°-Eを示す。規模は12mを測る。

柱穴は8本検出した。平面形は円形ないし隅丸方形を呈し、しっかりした掘り方をもつ。確認面での



第268図 2号柵列跡実測図

第4節 古墳時代以降

形状は東西平均17.4cm、南北17.4cm、深さは最大値19cmで平均11.8cmを測る。P3とP4は近接して穿かれており、P5との間隔が他の柱間に比べ広いことから補助柱と考えられる。

柱間寸法は平均2.06mである。

遺物は検出されなかった。

第84表 2号楕円柱穴間一覽表

柱穴番号	長さ(m)	柱穴番号	長さ(m)
P1~P2	1.35	P5~P6	1.51
P2~P3	1.46	P6~P7	1.60
P3~P4	0.41	P7~P8	2.54
P4~P5	3.91		

3号楕円柱遺物跡 (第269図、P.L31)

Kn-78グリッドに位置する。重複関係はないが、東側は調査区外となる。周辺には西4.5mに4号壑穴状遺構、南西12.5mに17号住居跡、北9mに21号住居跡がある。本遺構は15号住居跡から145号住居跡にかけて、環状を呈する9世紀代の住居跡群の中央西に位置する。

確認面はAs-C・Hr-I 混黒褐色土上面である。覆土はP2で確認し他の柱穴も同様であった。第1層の柱痕と第2層の軽石混入暗褐色土である。第2層の柱痕直下は硬化しており、柱を据えるために埋めた土であることが確認された。

平面形は方形を呈する側柱式と考えられる。棟方向は東西を示し、方位はN-13.5°-Wである。

規模は桁行2間以上、梁行2間(西辺3.36m)である。

柱穴は6本検出した。平面形は東西に長い楕円形でしっかりした掘り方をもつ。確認面での形状は東

第85表 3号楕円柱遺物跡柱穴一覽表

No.	形状	NS cm	EW cm	深さ			備考
				上場m	下場m	cm	
P1	楕円形	34	50	145.49	145.02	47	
P2	円形	31	32	145.48	145.08	40	
P3	楕円形	37	41	145.38	145.10	28	
P4	楕円形	35	43	145.39	145.14	25	
P5	楕円形	32	40	145.40	144.95	45	
P6	円形	34	40	145.44	144.98	46	

(深さ上場・下場は標高を現す単位m)

第86表 3号楕円柱遺物跡柱穴間一覽表

柱穴番号	長さ(m)	柱穴番号	長さ(m)
P1~P2	1.44	P4~P5	0.59
P2~P3	3.59	P5~P6	1.56
P3~P4	0.64	P6~P1	1.80

第83表 2号楕円柱穴一覽表

No.	形状	NS cm	EW cm	深さ			備考
				上場m	下場m	cm	
P1	方形	17	15	150.82	150.70	12	
P2	円形	17	17	150.84	150.74	10	
P3	円形	15	16	150.84	150.74	10	
P4	楕円形	16	19	150.84	150.73	11	
P5	円形	18	17	150.82	150.68	14	
P6	円形	21	21	150.83	150.64	19	
P7	円形	16	15	150.82	150.70	12	
P8	円形	19	19	150.80	150.74	6	

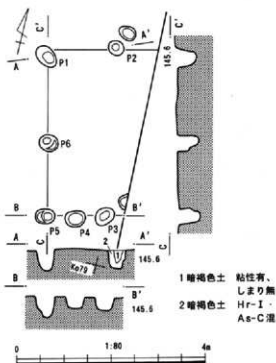
(深さ上場・下場は標高を現す単位m)

西平均41cm、南北平均33.8cm、深さは最大値47cm、平均38.5cmである。南辺はP5・P3で間を構成すると考えられ、中間にP4が穿かれる。P4は他に比べ掘り方が浅く、前面を意識した飾り柱とは考えられないだろう。

柱間寸法は桁方向で平均1.34m、梁方向は平均1.68mである。

遺物は検出されなかった。

なお、この遺構の覆土は近接する17号~20号住居跡覆土と同質であることから平安時代に存在していたものとする。



第269図 3号楕円柱遺物跡実測図

3号櫛列 (第270図、P L31)

Jp70~Jr72グリッドに位置する。周辺には北接して19号溝、南30mに4号櫛列と13号・14号溝が位置している。確認面はAs-C・Hr-I混黒褐色土上面である。覆土はAs-C混黒褐色土である。

本櫛列は2列が平行して構築されており、北側のP1~P8をA、P9~P18をBとする。

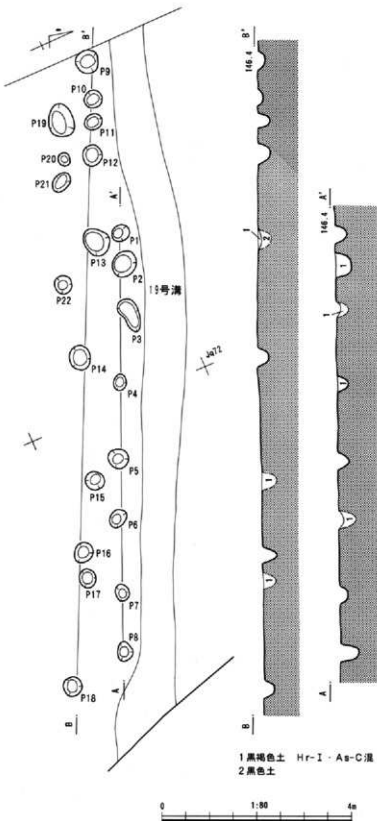
Aは19号溝が蛇行する位置に溝寄り突出して構築される東西6間の柱列である。方位はN-114°-Eを示す。規模は8.85mである。

柱穴は8本検出した。平面形は円形を呈し、確認面での形状は直径平均40.3cm、深さは最大値40cmで平均29.4cmを測る。P1はP2に比べ形状も小さく浅く、補助柱と考えた。P3は不整楕円形を呈す布織状を呈する。柱間寸法は平均1.48mである。

Bは19号溝に平行に構築された6間の柱列である。方位はN-116°-Eを示す。規模は13.16mである。

柱穴は10本検出した。平面形は円形を呈し、確認面での形状は直径平均42.3cm、深さは最大値で32cm、平均24.9cmを測る。P9とP12の間にP10・P11が穿かれる。P16とP17は近接しておりどちらかが補助柱と考える。柱間寸法は平均2.21mである。本櫛列と19号溝とは覆土から同時期の平安時代に存在していたものと考えられ、南に位置する4号櫛列・13号・14号溝とともに何らかの区画を成すものと考えられる。

遺物は検出されなかったが覆土から平安時代の所産と考える。



第270図 3号櫛列跡実測図

第87表 3号櫛列跡柱穴一覧表

No	形状	NS cm	EW cm	深さ			備考
				上場m	下場m	cm	
2	円形	52	53	146.30	145.93	37	
3	楕円形	40	72	146.26	146.00	26	
4	円形	27	33	146.24	146.00	24	
5	円形	44	41	146.23	145.97	26	
6	円形	35	38	146.22	145.85	37	
7	円形	29	36	146.18	146.00	18	
8	楕円形	32	41	146.17	145.77	40	
9	円形	48	48	146.31	146.13	18	
10	円形	37	38	146.32	146.19	13	
11	円形	37	35	146.32	146.06	26	
12	円形	39	46	146.32	146.03	29	

第88表 3号櫛列跡A柱穴間一覧表

柱穴番号	長さ(m)	柱穴番号	長さ(m)
P1~P2	0.63	P5~P6	1.22
P2~P3	1.12	P6~P7	1.60
P3~P4	1.46	P7~P8	1.15
P4~P5	1.62		

4号櫛列 (第271図、P L 31)

Kb73~Kd72グリッドに位置する。周辺には南接して13号・14号溝、北30mに3号櫛列と19号溝が位置している。櫛列は13号・14号溝と平行して構築された3間の柱列である。確認面はAs-C・Hr-I混黒褐色土上面である。覆土は軽石混(Hr-Iを主にAs-C混)暗褐色土である。方位はN-26.5°-Eを示す。

規模は6.92mを測る。柱穴は4本検出した。平面形は円形を呈し、確認面での形状は直径平均24.8cm、深さは最大値39cm、平均27.8cmを測る。柱間寸法は平均2.31mである。

本櫛列と13号・14号溝とは覆土から同時期平安時代の存在と考えられ、3号櫛列・19号溝とともに何らかの区画を成すと考える。

第89表 4号櫛列跡柱穴一覧表

No	形状	NS cm	EW cm	深さ			備考
				上場m	下場m	cm	
P2	円形	21	19	146.26	146.00	26	
P3	楕円形	22	18	146.28	146.00	28	
P4	楕円形	42	32	146.30	145.91	39	

(深さ上場・下場は標高を現す単位m)

第81表 4号櫛列跡柱穴間一覧表

柱穴番号	長さ(m)	柱穴番号	長さ(m)
P1~P2	1.65	P3~P4	3.60
P2~P3	1.69		

No	形状	NS cm	EW cm	深さ			備考
				上場m	下場m	cm	
14	円形	43	50	146.30	146.07	23	
15	円形	40	38	146.22	145.92	30	
16	円形	40	41	146.20	145.88	32	
17	円形	34	40	146.20	145.89	31	
18	円形	39	41	146.16	145.96	20	
19	楕円形	54	69	146.34	145.86	48	
20	円形	23	29	146.34	146.23	11	
21	楕円形	47	33	146.34	146.17	17	
22	円形	37	39	146.30	146.07	23	

(深さ上場・下場は標高を現す単位m)

第89表 3号櫛列跡B柱穴間一覧表

柱穴番号	長さ(m)	柱穴番号	長さ(m)
P9~P10	1.45	P14~P15	2.55
P10~P11	0.45	P15~P16	1.54
P11~P12	0.64	P16~P17	0.42
P12~P13	1.75	P17~P18	2.25
P13~P14	2.30		

5号櫛列 (第272図、P L 31)

Kf73~Kg73グリッドに位置する。周辺には北6.5mに13号・14号溝、南10mに15号溝が位置している。確認面はAs-C・Hr-I混黒褐色土上面である。覆土は軽石混(Hr-Iを主にAc-C混)暗褐色土である。南北に直線的な4間の柱列である。方位はN-8°-Eを示す。

規模は8.72mを測る。柱穴は5本検出した。平面形は円形を呈し、確認面での形状は直径平均46.3cm、深さは最大値28cm、平均26cmを測る。柱間寸法は平均2.19mである。

本櫛列は近接する13号・14号溝と15号溝とで区画を成す中にあり、両溝の交わる地点に近接していることからこの区画と何らかの意味合いがあるものと考えられよう。遺物は検出しなかった。

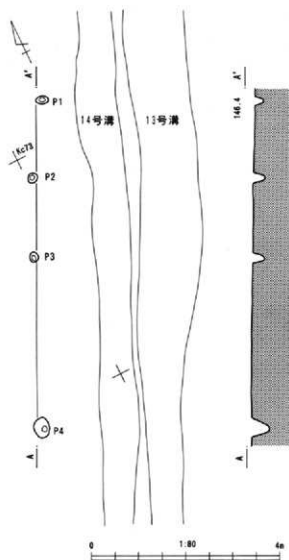
第92表 5号櫛列跡柱穴一覧表

No	形状	NS cm	EW cm	深さ			備考
				上場m	下場m	cm	
P2	楕円形	50	42	146.18	145.90	28	
P3	楕円形	52	42	146.26	145.98	28	
P4	円形	43	41	146.24	146.00	24	
P5	楕円形	64	43	146.27	146.00	27	

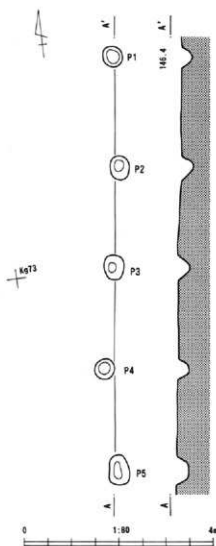
(深さ上場・下場は標高を現す単位m)

第93表 5号櫛列跡柱穴間一覧表

柱穴番号	長さ(m)	柱穴番号	長さ(m)
P1~P2	2.29	P3~P4	2.12
P2~P3	2.15	P4~P5	2.18



第271図 4号柵列跡実測図



第272図 5号柵列跡実測図

第94表 柵列跡一覧表

番号	位置グリッド	規模(m)	主軸方位	出土遺物	時代	備考
1	G o - 50, 51, 52	9.53	N-89°-E		中世	
2	G P - 47, G n o o P - 48	12.00	(P1-P3) N-8°-E (P4-P8) N-4.5°-E		中世	
3	J o o q - 70, 71 J q o r - 72, 73	A-8.85 b-13.16	(P1-P8) N-114°-E (P9-P18) N-116°-E		平安	
4	K b - 73, K c - 72, 73 K d - 72	6.92	N-26.5°-E		平安	
5	K f o g - 73	8.72	N-8°-E		平安	

第95表 掘立柱建物跡一覧表

番号	位置グリッド	規模	桁 梁				面積(m ²)	主軸方位	形態	出土遺物	時代	備考
			東辺(m)	西辺(m)	北辺(m)	南辺(m)						
1	n-50	2×2	3.15	3.46	3.95	3.29	11.94	N-8°-W	方形		中世	
2	Gf-51	-×2	-	4.50	(3.14)	(3.86)	(15.75)	N-13.5°-W	(方形)		中世	
3	Kn-78	-×2	-	3.36	(2.45)	(1.65)	(6.88)	N-13.5°-W	(方形)		平安	

ビット群

各調査区で掘立柱建物跡や柵列と認定されなかったビットを掲載する。

G区 (第274・275図、P L31) m～q-48～52グリッドに位置する。1号・2号柵列に囲まれた内側に集中し、総数162本が検出した。

確認面・覆土共に1号・2号掘立柱建物跡と同じであり、中世屋敷における主要建物の存在が示唆される。

K区1号 (第276図、P L31) p～q-75～76グリッドに位置する。15号住居跡～145号住居跡にかけて弧状を呈する9世紀代の住居跡群の北西内側に位置する。総数19本が検出した。確認面・覆土共に周辺にある3号掘立柱建物跡や住居跡覆土に類似することから住居跡群の建物跡が考えられる。

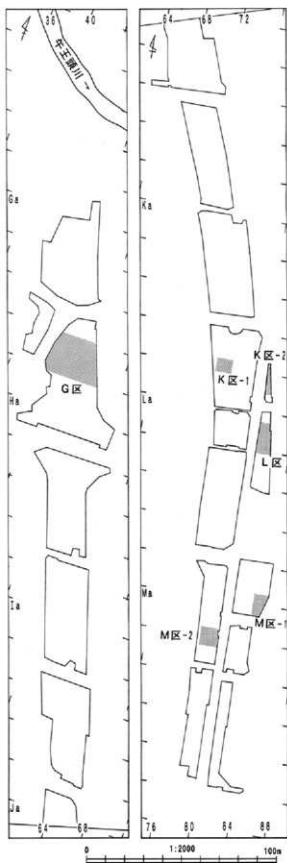
K区2号 (第277図、P L31) o～q-80グリッドに位置する。現道東側地区に検出した。K区1号ビット群と同様で弧状を呈する住居跡群内の中央西寄りに検出した。総数14本である。

確認面・覆土はK区1号ビット群と類似し、同ビット群や住居跡群との関連が示唆される。

L区 (第278図、P L31) b～e-80～81グリッドに位置する。K区1号・2号ビット群同様で住居跡群内の南西に位置する。総数18本が検出した。確認面・覆土は周辺の住居跡と同様であり、K区-1、K区-2ビット群ともに周辺の住居跡群に伴う建物跡が示唆される。

M区1号 (第279図) L t～M b-82～83グリッドに位置する。135号住居跡から140号住居跡にかけて弧状を呈する9世紀代の住居跡群内北に位置する。総数5本が検出した。確認面・覆土は周辺の住居跡群と同質であり、住居跡群内の建物跡の可能性が示唆される。

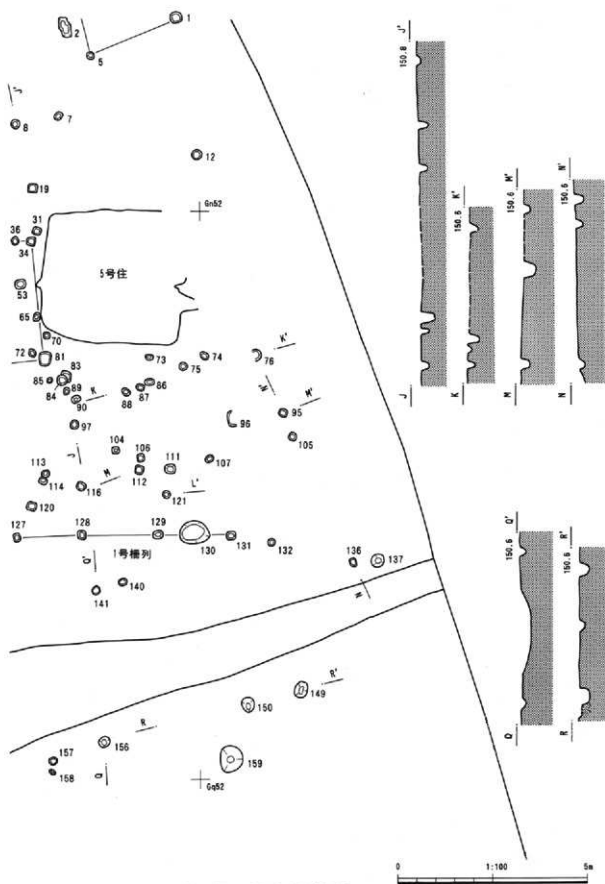
M区2号 (第280図、P L31) c～d-78・79グリッドに位置する。M区1号ビット群の南西に位置し、弧状を呈する住居跡群の北西にある。総数14本が検出した。確認面・覆土はM区2号ビット群と同質で周辺の住居跡及びM区1号ビット群とともに建物跡が示唆される。



第273図 ビット群位置図

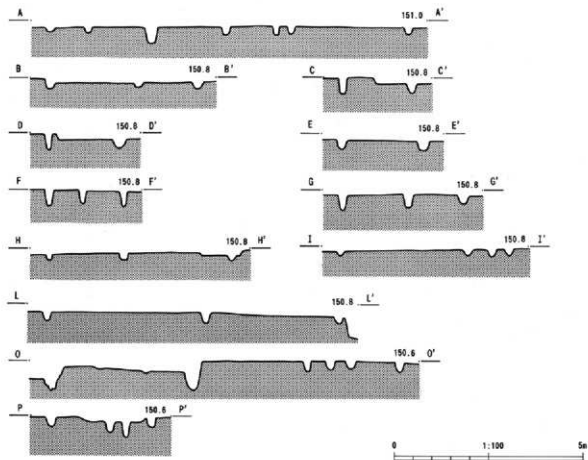
第96表 G区ビット群一覧表(1)

ビット 番号	形状	上端 標高(m)	下端 標高(m)	深さ (m)	グリッド	道橋名 エレベライン	ビット 番号	形状	上端 標高(m)	下端 標高(m)	深さ (m)	グリッド	道橋名 エレベライン
1	円形	150.65	150.28	0.37	Gm-51	2号独立	61	楕円形	150.53	150.43	0.10	Gn-50	
2	不定形	150.62	150.40	0.22	Gm-51		62	楕円形	150.54	149.93	0.61	Gn-50	
3	円形	150.86	150.70	0.16	Gm-48		63	方形	150.54	150.32	0.22	Gn-50	
4	円形	150.85	150.62	0.23	Gm-48		64	円形	150.66	150.55	0.11	Gn-48	B-B'
5	円形	150.60	150.33	0.27	Gm-51	2号独立	65	円形	150.59	150.27	0.32	Gn-51	1号独立
6	円形	150.82	150.64	0.18	Gm-48	A-A'	66	楕円形	150.81	150.34	0.47	Gn-48	A-A'
7	楕円形	150.61	150.49	0.12	Gm-51		67	楕円形	150.56	150.37	0.19	Gn-50	
8	円形	150.60	150.49	0.11	Gm-51	J-J'	68	楕円形	150.84	150.57	0.27	Gn-48	2号側欄
9	円形	150.70	150.54	0.16	Gm-50	I-I'	69	円形	150.67	150.47	0.20	Gn-49	G-G'
10	楕円形	150.82	150.52	0.30	Gm-48		70	円形	150.54	150.36	0.18	Gn-51	
11	円形	150.70	150.51	0.19	Gm-50	I-I'	71	円形	150.83	150.62	0.21	Gn-48	2号側欄
12	円形	150.58	150.30	0.28	Gm-51		72	楕円形	150.54	150.14	0.40	Gn-51	
13	方形	150.71	150.55	0.16	Gm-50	I-I'	73	楕円形	150.40	150.23	0.17	Gn-51	
14	円形	150.70	150.44	0.26	Gm-50		74	楕円形	150.43	150.33	0.10	Gn-52	
15	円形	150.71	150.49	0.22	Gm-50		75	円形	150.33	150.06	0.27	Gn-51	
16	方形	150.65	150.40	0.25	Gm-50		76	円形	150.49	150.25	0.24	Gn-52	K-K'
17	方形	150.73	150.62	0.11	Gm-49		77	楕円形	150.64	150.38	0.26	Gn-48	E-E', C-C'
18	方形	150.85	150.64	0.21	Gm-48	A-A'	78	楕円形	150.39	150.36	0.03	Gn-49	E-E', D-D'
19	方形	150.60	150.29	0.31	Gm-51	J-J'	79	方形	150.54	150.32	0.22	Gn-50	
20	方形	150.62	150.46	0.16	Gm-50		80	円形	150.53	150.18	0.35	Gn-50	1号独立
21	方形	150.65	150.49	0.16	Gm-50		81	方形	150.51	150.22	0.29	Gn-51	1号独立
22	円形	150.82	150.57	0.25	Gm-48		82	方形	150.54	150.19	0.35	Gn-50	1号独立
23	円形	150.85	150.60	0.25	Gm-48	A-A'	83	方形	150.51	150.15	0.36	Gn-51	J-J'
24	円形	150.67	150.55	0.12	Gm-48		84	楕円形	150.50	150.14	0.36	Gn-51	J-J'
25	円形	150.60	150.39	0.21	Gm-50		85	円形	150.51	150.32	0.19	Gn-51	
26	方形	150.57	150.25	0.32	Gn-50		86	楕円形	150.45	150.17	0.28	Gn-51	K-K'
27	円形	150.60	150.35	0.25	Gm-50		87	楕円形	150.45	150.36	0.09	Gn-51	K-K'
28	円形	150.60	150.40	0.20	Gn-50		88	楕円形	150.48	150.27	0.21	Gn-51	K-K'
29	楕円形	150.61	150.34	0.27	Gn-50		89	円形	150.51	150.31	0.20	Gn-51	J-J'
30	円形	150.63	150.48	0.15	Gm-49		90	楕円形	150.51	150.29	0.22	Gn-51	
31	方形	150.57	150.12	0.45	Gn-51	J-J'	91	円形	150.81	150.66	0.15	Gn-48	A-A'
32	方形	150.62	150.35	0.27	Gn-50		92	楕円形	150.70	150.47	0.23	Gn-48	B-B'
33	円形	150.80	150.62	0.18	Gn-48	2号側欄	93	楕円形	150.61	150.47	0.14	Gn-49	H-H', G-G'
34	方形	150.60	150.35	0.25	Gn-50	1号独立	94	円形	150.61	150.41	0.20	Gn-49	H-H'
35	円形	150.57	150.39	0.18	Gn-50	1号独立	95	方形	150.46	150.21	0.25	Gn-52	M-M', N-N'
36	円形	150.57	150.34	0.23	Gn-50	1号独立	96	方形	150.40	150.26	0.14	Gn-52	
37	方形	150.57	150.37	0.20	Gn-50		97	円形	150.51	150.32	0.19	Gn-51	J-J'
38	方形	150.62	150.33	0.29	Gn-50	1号独立	98	楕円形	150.81	150.69	0.12	Gn-48	A-A'
39	方形	150.60	150.47	0.13	Gn-49	G-G'	99	円形	150.81	150.59	0.22	Gn-48	
40	方形	150.82	150.62	0.20	Gn-48	A-A'	100	円形	150.76	150.37	0.39	Gn-48	F-F', C-C'
41	円形	150.68	150.47	0.21	Gn-48	B-B'	101	円形	150.74	150.41	0.33	Gn-48	F-F'
42	方形	150.70	150.42	0.28	Gn-49		102	円形	150.75	150.34	0.41	Gn-49	F-F', D-D'
43	方形	150.56	150.20	0.36	Gn-50		103	楕円形	150.72	150.09	0.63	Gn-49	
44	方形	150.57	150.26	0.31	Gn-50		104	方形	150.48	150.15	0.33	Gn-51	
45	円形	150.58	150.25	0.33	Gn-50		105	方形	150.43	150.23	0.20	Gn-52	N-N'
46	楕円形	150.66	150.53	0.13	Gn-50		106	方形	150.45	150.17	0.28	Gn-51	
47	方形	150.61	150.54	0.07	Gn-50		107	円形	150.48	150.18	0.30	Gn-52	
48	楕円形	150.82	150.62	0.20	Gn-48		108	円形	150.82	150.65	0.17	Gn-48	
49	円形	150.82	150.58	0.24	Gn-48		109	方形	150.65	150.37	0.28	Gn-49	H-H'
50	円形	150.84	150.60	0.24	Gn-48		110	方形	150.61	150.45	0.16	Gn-49	
51	円形	150.63	150.40	0.23	Gn-49		111	方形	150.42	150.13	0.29	Gn-51	
52	長方形	150.67	150.55	0.12	Gn-49	I-I'	112	方形	150.45	150.21	0.24	Gn-51	M-M'
53	方形	150.52	150.21	0.31	Gn-51		113	楕円形	150.54	150.40	0.14	Gn-51	
54	円形	150.60	150.36	0.24	Gn-49		114	楕円形	150.54	150.41	0.13	Gn-51	
55	方形	150.57	150.31	0.26	Gn-50		115	方形	150.55	150.28	0.27	Gn-50	O-O'
56	方形	150.82	150.40	0.42	Gn-48	2号側欄	116	楕円形	150.51	150.32	0.19	Gn-50	
57	楕円形	150.84	150.50	0.34	Gn-48		117	楕円形	150.68	150.24	0.44	Gn-48	
58	円形	150.54	150.29	0.25	Gn-50		118	楕円形	150.83	150.56	0.27	Gn-48	2号側欄
59	方形	150.60	150.07	0.53	Gn-50	1号独立	119	円形	150.58	150.41	0.17	Gn-50	
60	長方形	150.57	149.98	0.59	Gn-50		120	方形	150.57	150.31	0.26	Gn-51	L-L'



第274図 G区ビット群実測図

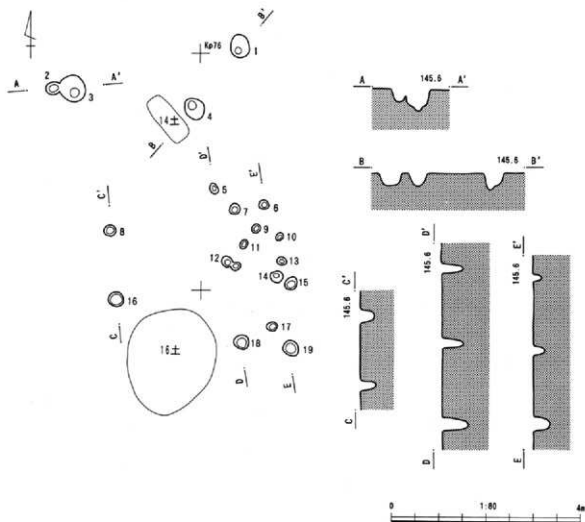
第4節 古墳時代以降



第275図 G区ピット群断面図

第88表 G区ピット群一覧表(2)

ピット番号	形状	上場標高(m)	下場標高(m)	深さ	グリッド	遺構名 エレベライン	ピット番号	形状	上場標高(m)	下場標高(m)	深さ	グリッド	遺構名 エレベライン
121	楕円形	150.43	150.30	0.13	G o-51	L-L'	142	方形	150.80	150.29	0.51	G o-48	
122	方形	150.57	150.36	0.21	G o-50	L-L', O-O'	143	円形	150.83	150.65	0.18	G P-48	2号櫛列
123	円形	150.70	150.31	0.39	G o-49	H-H'	144	楕円形	150.79	150.60	0.19	G P-48	
124	円形	150.83	150.45	0.38	G o-48	2号櫛列, O-O'	145	方形	150.75	150.44	0.31	G P-48	
125	楕円形	150.58	150.36	0.22	G o-50	1号櫛列	146	円形	150.81	150.65	0.16	G P-47	2号櫛列
126	楕円形	150.57	150.39	0.18	G o-51	1号櫛列	147	円形	150.43	150.02	0.41	G P-50	O-O'
127	方形	150.55	150.36	0.19	G o-51	1号櫛列	148	楕円形	150.30	150.11	0.19	G P-49	P-P'
128	方形	150.49	150.32	0.17	G o-51	1号櫛列	149	楕円形	150.40	149.11	1.29	G P-52	R-R'
129	方形	150.46	150.07	0.39	G o-51	1号櫛列	150	楕円形	150.41	150.02	0.39	G P-52	R-R'
130	楕円形	150.49	149.90	0.59	G o-51	1号櫛列	151	円形	150.26	149.76	0.50	G P-50	O-O'
131	方形	150.39	150.15	0.24	G o-52	1号櫛列	152	楕円形	150.42	150.02	0.40	G P-50	
132	円形	150.36	150.27	0.09	G o-52		153	円形	150.43	150.13	0.30	G P-49	P-P'
133	楕円形	150.57	150.43	0.14	G o-50		154	楕円形	150.17	149.92	0.25	G P-49	P-P'
134	円形	150.57	150.24	0.33	G o-50		155	円形	150.29	149.92	0.37	G P-50	
135	円形	150.58	150.31	0.27	G o-50	O-O'	156	円形	150.45	150.33	0.12	G P-51	Q-Q'
136	方形	150.45	150.22	0.23	G o-52	N-N'	157	楕円形	150.40	150.22	0.18	G P-52	
137	円形	150.44	150.15	0.29	G o-52		158	円形	150.45	150.26	0.19	G P-51	
138	方形	150.57	150.34	0.23	G o-50		159	楕円形	150.45	150.23	0.22	G P-51	
139	方形	150.57	150.30	0.27	G o-50		160	円形	150.55	150.30	0.25	G Q-49	P-P'
140	円形	150.49	150.39	0.10	G o-51		161	円形	150.10	149.79	0.31	G Q-50	O-O'
141	楕円形	150.51	150.35	0.16	G P-51	Q-Q'	162	楕円形	150.10	149.79	0.21	G Q-50	O-O'

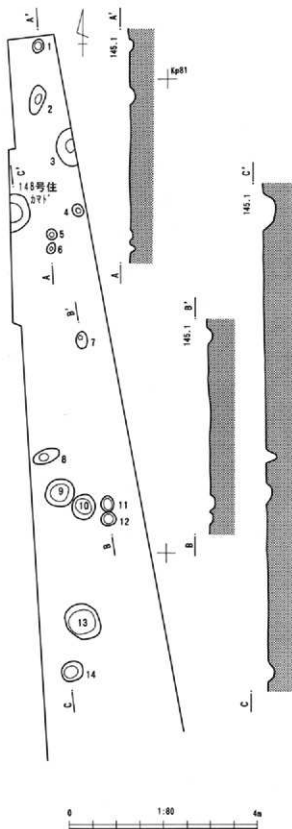


第276図 K区1号ビット群実測図

第97表 K区1号ビット群一覧表

ビット 番号	形状	上場 標高(m)	下場 標高(m)	深さ (m)	グリッド	遺構名 エレベライン
1	楕円形	145.47	145.22	0.25	K O-76	B-B'
2	円形	145.56	145.28	0.28	K P-75	A-A'
3	円形	145.54	145.30	0.24	K P-75	A-A'
4	楕円形	145.48	145.29	0.19	K P-75	B-B'
5	楕円形	145.44	145.18	0.26	K P-76	D-D'
6	円形	145.40	145.20	0.20	K P-76	E-E'
7	円形	145.44	145.15	0.29	K P-76	
8	楕円形	145.49	145.15	0.34	K P-75	C-C'
9	円形	145.40	145.16	0.24	K P-76	
10	円形	145.39	145.18	0.21	K P-76	
11	楕円形	145.42	145.24	0.18	K P-76	
12	楕円形	145.43	145.17	0.26	K P-76	D-D'
13	楕円形	145.37	145.10	0.27	K P-76	
14	円形	145.40	145.18	0.22	K P-76	E-E'
15	円形	145.36	145.04	0.32	K P-76	
16	円形	145.47	145.18	0.29	K Q-75	C-C'
17	円形	145.41	145.13	0.28	K Q-76	
18	円形	145.41	145.06	0.35	K Q-76	D-D'
19	円形	145.40	145.03	0.37	K Q-76	E-E'

第4節 古墳時代以降



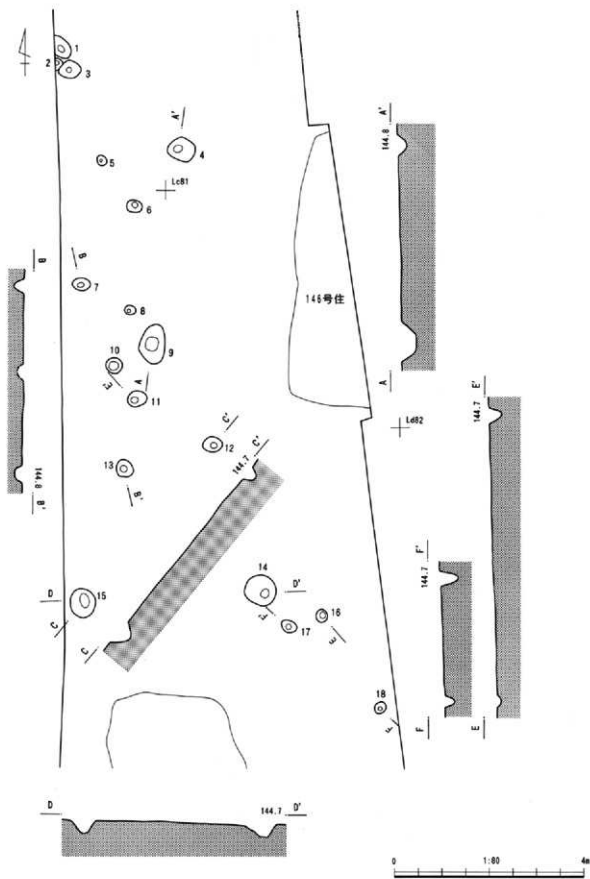
第277図 K区2号ピット群実測図

第98表 K区2号ピット群一覽表

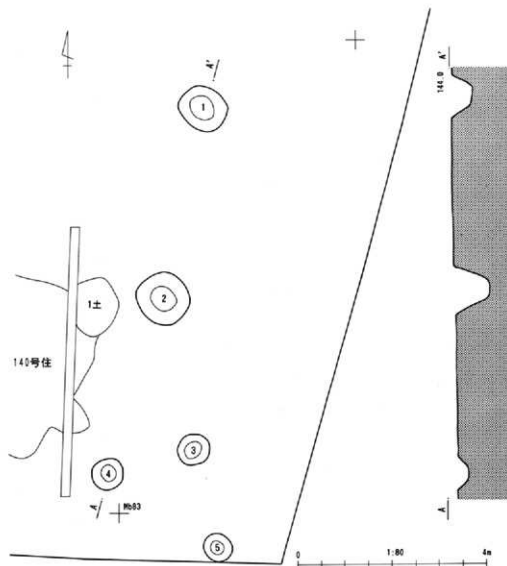
ピット番号	形状	上場標高(m)	下場標高(m)	深さ(m)	グリッド	遺構名 エレベライン
1	円形	144.90	144.82	0.08	K o -80	A-A'
2	楕円形	144.88	144.55	0.63	K P -80	A-A'
3	楕円形	144.88	144.53	0.35	K D -80	
4	円形	144.87	144.76	0.11	K P -80	
5	円形	144.88	144.76	0.12	K P -80	A-A'
6	楕円形	144.78	144.74	0.04	K P -80	A-A'
7	楕円形	144.85	144.70	0.15	K q -80	B-B'
8	楕円形	144.81	144.61	0.20	K q -80	C-C'
9	円形	144.78	144.60	0.18	K q -80	C-C'
10	円形	144.76	144.58	0.18	K q -80	
11	楕円形	144.78	144.64	0.14	K q -80	B-B'
12	円形	144.78	144.70	0.08	K q -80	B-B'
13	円形	144.73	144.51	0.22	K r -80	
14	円形	144.72	144.55	0.17	K r -80	C-C'

第99表 L区ピット群一覽表

ピット番号	形状	上場標高(m)	下場標高(m)	深さ(m)	グリッド	遺構名 エレベライン
1	楕円形	144.51	144.17	0.34	L b -80	
2	円形	144.51	144.25	0.26	L b -80	
3	楕円形	144.45	144.20	0.25	L b -80	
4	円形	144.35	144.16	0.19	L b -81	A-A'
5	円形	144.35	144.26	0.09	L b -80	
6	楕円形	144.34	144.09	0.25	L c -80	
7	楕円形	144.30	144.07	0.23	L c -80	B-B'
8	円形	144.24	144.03	0.21	L c -80	
9	楕円形	144.23	143.95	0.28	L c -80	A-A'
10	円形	144.26	144.12	0.14	L c -80	
11	楕円形	144.25	143.94	0.31	L c -80	E-E'
12	楕円形	144.14	144.00	0.14	L d -81	C-C'
13	円形	144.23	144.09	0.14	L d -80	B-B'
14	円形	144.06	143.82	0.24	L d -81	D-D'
15	円形	144.14	143.90	0.24	L d -80	C-C', D-D'
16	円形	144.02	143.93	0.09	L d -81	E-E'
17	楕円形	144.04	143.67	0.37	L d -81	F-F'
18	円形	143.93	143.77	0.16	L e -81	F-F'



第278図 L区ビット群実測図



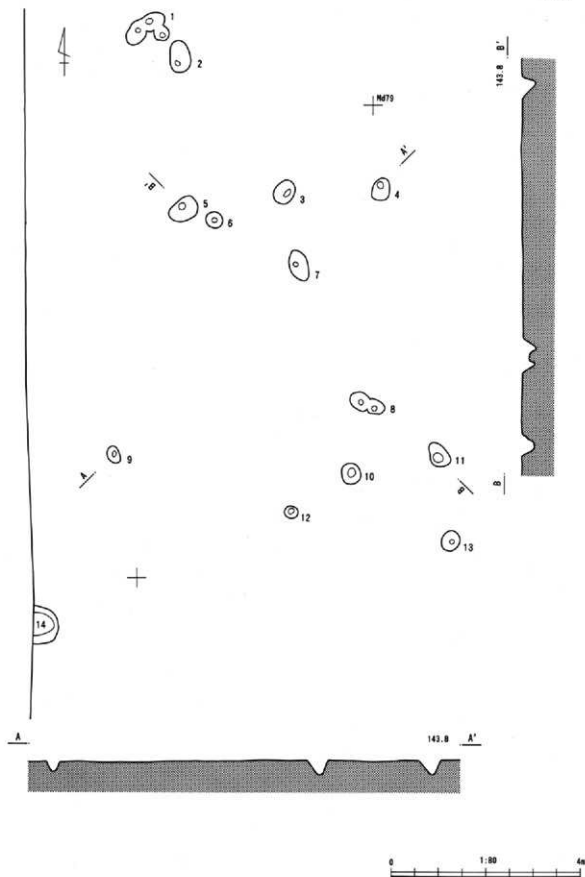
第279図 M区1号ピット群実測図

第100表 M区1号ピット群一覧表

ピット番号	形状	上端標高(m)	下端標高(m)	深さ(m)	グリッド	道検名 エレベライン
1	円形	143.70	143.21	0.49	L t-83	A-A'
2	円形	143.60	142.80	0.80	M a-83	A-A'
3	円形	143.50	142.90	0.60	M a-83	
4	円形	143.50	143.26	0.24	M a-82	A-A'
5	円形	143.45	143.23	0.22	M b-83	

第101表 M区2号ピット群一覧表

ピット番号	形状	上端標高(m)	下端標高(m)	深さ(m)	グリッド	道検名 エレベライン
1	不定形	143.54	143.11	0.43	M c-78	
2	楕円形	143.50	143.05	0.45	M c-78	
3	楕円形	143.41	143.16	0.25	M d-78	
4	楕円形	143.41	143.17	0.24	M d-79	A-A'
5	楕円形	143.44	143.15	0.29	M d-78	B-B'
6	円形	143.47	143.16	0.31	M d-78	
7	楕円形	143.47	143.17	0.30	M d-78	A-A'
8	不定形	142.85	142.62	0.23	M e-78	B-B'
9	円形	143.42	143.27	0.15	M e-77	A-A'
10	円形	143.41	143.05	0.36	M e-78	
11	楕円形	142.95	142.16	0.79	M e-79	B-B'
12	円形	143.39	143.26	0.13	M e-78	
13	円形	143.32	143.10	0.22	M e-79	
14	楕円形	143.40	143.19	0.21	M f-77	



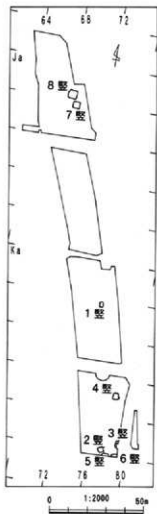
第280図 M区2号ビット群実測図

第4項 竪穴状遺構

遺構の平面形が四角形を呈すると通常竪穴住居跡と理解されることが多い。竪穴状遺構は平面形が四角形という点と竪穴という構造は住居跡と似ているが、住居跡のように厨房施設であるカマドや床下収納庫である貯蔵穴などの付属施設がない遺構をいう。また、住居跡に比べ小型で、竪穴が浅いという特徴が本遺跡で見られた。

本遺跡からは8基の遺構が確認された。

以下に各遺構の詳細を記す。



第281図 竪穴状遺構位置図

1号竪穴状遺構 (第282図、P.L.32)

Ke-74グリッドに位置する。重複関係はない。周辺には、東5mに15号住居跡、南48.5mに4号竪穴状遺構があり、15号住居跡から145号住居跡にかけて、環状を呈する9世紀代の住居跡群の北西外側に位置する。

平面形は隅丸長方形を呈し、規模は南北2.77m、東西2.15mを測る。方位は東壁と南壁からN-77°Eを示す。確認面はAs-C・Hr-I 混暗褐色土上面である。覆土はHr-Iを主とする軽石多混茶褐色土の単一層である。なお、床面の近くにはロームブロックの混入も確認された。

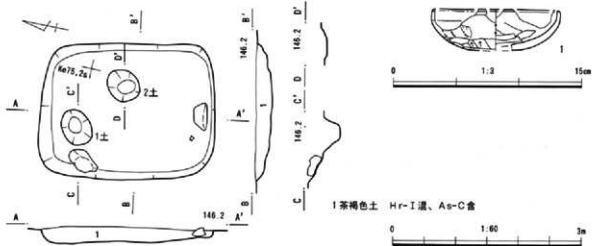
壁の状況はAs-C混黒褐色土を掘り込み、壁際は塊状に立ち上がり、壁の崩壊は少ない。壁高は北壁20cm、南壁11cm、東壁15cm、西壁14cmを測る。

床面の状況はローム層を削り出し平坦にしている。貼り床や硬質床面範囲は確認されなかった。

土坑状の落ち込みが2ヶ所検出した。覆土は本遺構とほぼ同質状の土でやや粘性はあるが本遺構に伴うものと判断した。2基の並び方に規則性は認められない。1号は北西隅にある。2号は中央東壁寄りに浅く検出した。

第102表 1号竪穴状遺構土坑一覧表

土坑番号	平面形	NS (cm)	EW (cm)	深さ (cm)	備考
1	円形	47	53	26	
2	円形	48	48	7	



第282図 1号竪穴状遺構・出土遺物実測図

カマド・貯蔵穴等の施設は検出されなかった。

遺物は西壁北寄り、南壁中央に人頭大の河原石が出土した。加工痕等は確認できなかったが、平坦な面が上面にある。土坑と合わせ遺構内で何らかの造作が行われていた可能性が示唆される。土器は土

師器坏が南壁石際に床直で出土した。他は検出されない。

本遺構はカマド・貯蔵穴等の施設がないこと、覆土内に焼土粒・炭化粒の混入も認められないことから住居跡とは認定できない。

第103表 1号竪穴状遺構出土遺物観察表 (第282図、P.L159)

No.	遺物種別	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 坏	(9.7)	—	(5.2)	砂粒	良好	5YR5/6 明赤褐	型作り 磨面・荒削り	1/3	床直	

2号竪穴状遺構 (第283図、P.L32)

Kt-77グリッドに位置する。重複関係はない。周辺には、南東4mに5号竪穴状遺構、南東8mに6号竪穴状遺構、東10mに3号竪穴状遺構、北西7.5mに19号住居跡があり、15号住居跡から145号住居跡にかけて、環状を呈する9世紀代の住居跡群の南西内側に位置する。

平面形は隅丸長方形を呈し、規模は南北2.25m、東西2.95mを測る。方位は東壁と南壁からN-65°-Eを示す。確認面はAs-C・Hr-I混濁褐色土上面である。覆土は上層にHr-Iを主とする軽石多混黒褐色土が覆い、黒褐色土で自然埋没している。

壁の状況はAs-C混黒褐色土を掘り込み、外反気味に立ち上がり、壁の崩壊は少ない。壁高は北壁9cm、南壁16cm、東壁10cm、西壁16cmを測る。

床面の状況はローム漸移層中に構築される。貼り床、硬質床面範囲は確認されなかった。

ビッドが3基東壁寄りに検出した。このビッドの覆土には軽石が混入していることから、本遺構とは時期を異にする可能性が考えられる。

カマド・貯蔵穴等の施設はなく、覆土内に焼土粒・炭化粒の混入も認められない。

遺物の出土はない。

第104表 2号竪穴状遺構ビッド一覧表

ビッド番号	平面形	NS (cm)	EW (cm)	深さ (cm)	備考
1	円形	46	47	17	
2	不正楕円形	41	64	24	
3	円形	22	21	15	



第283図 2号竪穴状遺構実測図

3号竪穴状遺構 (第284図、P.L32)

Ks-79グリッドに位置する。北西隅にK区26号土坑がある。新旧関係は土坑が古く、本遺構が新しい。また、東側は調査区外となる。周辺には、西10mに

2号竪穴状遺構、南西9.5mに5号竪穴状遺構、南7mに6号竪穴状遺構、北西9.5mに18号住居跡があり、15号住居跡から145号住居跡にかけて、環状を呈

第4節 古墳時代以降

する9世紀代の住居跡群の南西内側に位置する。

平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。規模は南北3.71m、東西残存1.24mを測る。方位はN-86°-Eを示す。確認面はAs-C・Hr-I混暗褐色土上面である。覆土はAs-C混黒褐色土で自然埋没している。

床面の状況はAs-C混黒褐色土を掘り込み、外反気味に立ち上がり、壁の崩壊は少ない。壁高は北壁15cm、南壁10cm、西壁12cmを測る。

カマド・貯蔵穴等の施設はなく、覆土内に焼土粒・炭化粒の混入も認められない。

遺物の出土はない。

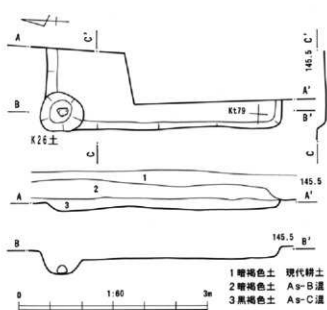
4号竪穴状遺構 (第285・286図、P L32)

Kn-77・78グリッドに位置する。重複関係はない。周辺には、東4.5mに3号掘立柱建物跡、南西10mに17号住居跡があり、15号住居跡から145号住居跡にかけて、環状を呈する9世紀代の住居跡群の西内側に位置する。

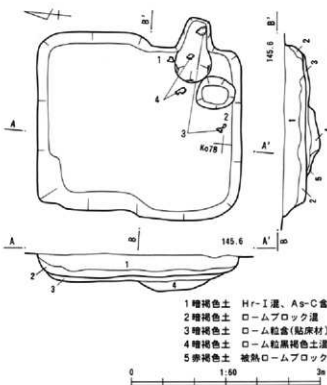
平面形は隅丸方形を呈し、規模は南北3.20m、東西2.78mを測る。北側と南側で僅かにずれが生じる。方位はN-84°-Eを示す。確認面はAs-C・Hr-I混暗褐色土上面である。覆土はHr-Iを主とする軽石多混暗褐色土の自然埋没である。壁の状況はAs-C混黒褐色土を掘り込み、塊状に立ち上がり、壁の崩壊は少ない。なお、東壁中央を突出して構築する。壁高は北壁28cm、南壁26cm、東壁26cm、西壁33cmを測る。

床面の状況はローム漸移層上面に構築する。硬質床面は中央部に軽石混土を踏み締め確認された。中央やや南寄りの硬質床面下に土坑が検出した。平面形は円形を呈し、規模は南北1.28m、東西1.03m、深さ18cmを測る。壁面には被熱したロームを貼付け補強する。

東壁中央南寄りに突出部が検出した。規模は東西1.03m、南北0.45mを測り、深さは確認面から36cmである。確認時に焼土塊と黄褐色粘土が検出し、この焼土塊に続く掘り方で、左壁側



第284図 3号竪穴状遺構実測図



第285図 4号竪穴状遺構実測図(1)

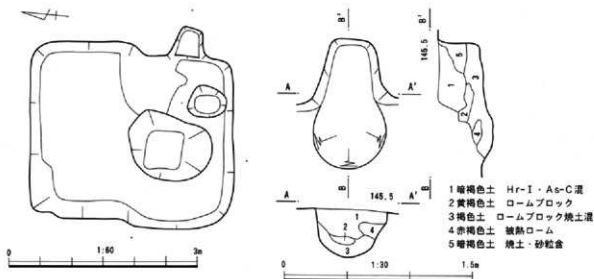
に焼土塊・ロームブロックがあり、全体は焼けていない。壁は垂直に立ち上がり、被熱していない。床面を8cm程掘り込み凹凸である。被熱しておらず、崩落したロームを主とした軽石多混暗褐色土の混土が堆積していた。壁外先端部に須恵器塊1/2が伏せ

た状態で出土した。この突出部は覆土が焼土塊・黄白色粘土ブロック等で覆われていること、壁面底部に被熱痕がないことからカマドとは認定できず、何らかの作業に伴い焼土等を集めた場所と考えられた。なお、遺構床面から掘り込みが連続することから本遺構に伴うものとする。

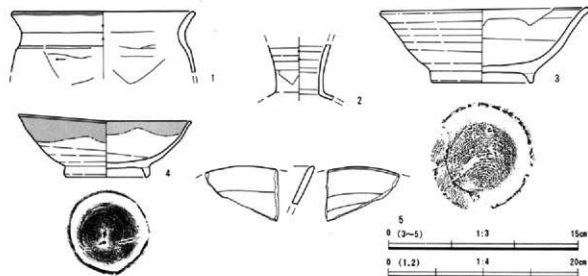
土坑は1基南東隅に検出した。平面方形を呈し南北62cm、東西50cm、深さ13cmを測る浅い掘り方である。

遺物は須恵器長頸壺(2)が突出部先端から出土し、灰釉陶器碗(4)が床直で出土した。

本遺構は出土遺物より9世紀後半と考える。



第206図 4号竪穴状遺構実測図(2)



第207図 4号竪穴状遺構出土遺物実測図

第105表 4号竪穴状遺構出土遺物観察表(1) (第207図、P.L.159-160)

No	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土胎器 壺	(19.1)	-	(6.4)	砂粒	良好	2.5Y R5/6 明赤褐	粘土紐輪積み 荒撫・費削り	口縁~胴部 1/8	覆土	
2	須恵器 長頸壺	-	-	(5.9)	砂粒	良好	5Y 6/1 灰	輪轆成形	頸部片	覆土	

第105表 4号竪穴状遺構出土遺物観察表(2) (第287図、P.L.168)

No	容器器形	口径	底径	器高	胎土	産成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
3	須恵器 高台付罎	16.5	8.1	6.0	砂粒	良好	2.5Y6/2 灰黄	轆轤成形 回転糸切り	4/5	突出部	
4	灰釉陶器 高台付罎	13.8	6.9	5.0	砂粒	良好	5Y7/2 灰白	轆轤成形 回転糸切り	3/4	覆土	
5	須恵器 埴	—	—	—	砂粒	良好	10Y R/7/4 にぶい黄橙	轆轤成形	口縁片	覆土	

5号竪穴状遺構 (第288図)

Kt・La-78グリッドに位置する。重複関係はないが南側は平成7年度調査区外であり、平成10年度分では現代に削平されていた。周辺には、東4.5mに6号竪穴状遺構、南西8.5mに144号住居跡、北西4mに2号竪穴状遺構、北西12mに19号住居跡があり、15号住居跡から145号住居跡にかけて、環状を呈する9世紀代の住居跡群の南西内側に位置する。

平面形は隅丸方形を呈するものとする。規模は南北残存1.58m、東西3.90mを測る。方位はN-342°-Eを示す。確認面はAs-C・Hr-I 混暗褐色土上面である。覆土は黒褐色土の自然埋没である。4号竪穴状遺構同様に西側と東側では若干のずれが生じる。2基の土坑の重複も考えられるが、ここでは竪穴状遺構として報告する。壁の状況は外反気味に立ち上がる。

床面の状況はローム漸移層上面に構築され、平坦であるが、平面の凹凸に合うように西側と東側では6cm程の段差がある。硬質床面範囲は確認されな

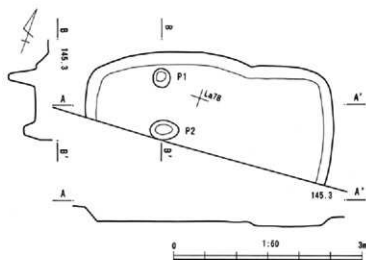
かった。床下にも施設は検出しなかった。

ビットは2本中央西寄りに壁に平行に検出した。なお、これらは本遺構に伴うかは不明である。

カマド・貯蔵穴等の施設はなく、覆土内に焼土粒・炭化粒の混入も認められない。遺物は検出しなかった。

第106表 5号竪穴状遺構ビット一覧表

ビット 番号	平面形	NS (cm)	EW (cm)	深さ (cm)	備考
1	円形	29	27	43	
2	楕円形	31	46	19	



第288図 5号竪穴状遺構実測図

6号竪穴状遺構 (第289図)

Kt・La-78グリッドに位置する。重複関係はないが、南側は5号竪穴状遺構同様で検出しなかった。周辺には、西4.5mに5号竪穴状遺構、北西8mに2号竪穴状遺構、北7mに3号竪穴状遺構、北西15.5mに19号住居跡があり、15号住居跡から145号住居跡にかけて、環状を呈する9世紀代の住居跡群の南西内側に位置する。

平面形は隅丸方形を呈するものとする。残存規模は南北残存1.47m、東西残存2.68mを測る。方位はN-335°-Eを示す。確認面はAs-C・Hr-I 混暗褐色土上面である。覆土は、As-C混黒褐色土の自然埋没である。

壁の状況はAs-C混暗褐色土層を掘り込み外反気味

に立ち上がる。壁高は北壁25cm、西壁17cmを測る。

床面の状況はローム漸移層を僅かに掘り込み構築する。硬質床面範囲は確認されなかった。

カマド・貯蔵穴等の施設はなく、覆土内に焼土粒・炭化粒の混入も認められない。

遺物は検出されなかった。

7号竪穴状遺構 (第290図、P.L32)

Je-68グリッドに位置する。重複関係はない。周辺には北6mに8号竪穴状遺構、南5.5mに8号溝が位置している。

平面形は隅丸方形を呈し、四辺ともほぼ直線を成す。規模は南北3.48m、東西3.60mを測る。方位はN-94°-Eを示す。確認面はAs-B混土の半ば硬化した状態である。覆土はAs-B混土で焼土や炭化粒の混入は見られない。

壁の状況は硬くしめるAs-B混土を除去した面で、As-C混土を10cm程掘り込む。壁高は北壁15cm、南壁9cm、東壁12cm、西壁12cmを測る。B混土の鉄分凝集によるものか全体に硬化していた。床下の掘り方等の掘り込みは検出しなかった。

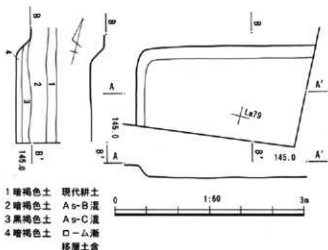
ピットは1本検出した。平面楕円形を呈し、直径20cm、深さ35cmを測る。覆土は茶褐色土である。長軸上にあることから柱穴の可能性も考えられる。その他壁際に小溝・小孔はなく、壁外1m範囲内にも柱穴相当のものは検出しなかった。

中央部で20cm大の割石3個が床面より5cm程浮いた状態で出土した。埋没時の混入か。この3個の割石は剥落した状態が顕著であるが、規則性は観察されなかった。また被熱痕跡や炭化物の付着等も確認されなかった。

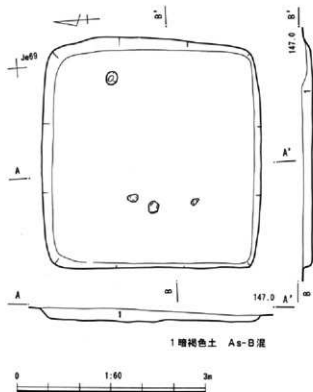
カマド・貯蔵穴等の施設はなく、覆土内に焼土粒・炭化粒の混入も認められない。

遺物は南壁東寄りに火打ち金 (F13) が出土した他はない。

竪穴状遺構



第289図 6号竪穴状遺構実測図



第290図 7号竪穴状遺構実測図

8号壑穴状遺構

(第291図、P.L.32)

Jd-68グリッドに位置する。重複関係はない。周辺には、南6mに7号壑穴状遺構、南10mに8号溝が位置している。

平面形は方形を呈し、規模は南北4.27m東西4.62mを測る。方位はN-13°-Eを示す。確認面はAs-B混土が半ば硬化した状態である。覆土はAs-B混土で焼土粒・炭化物の混入は見られない。

壁の状況は硬くしまったAs-B混土で、外反気味に立ち上がる。壁高は北壁6cm、南壁8cm、東壁8cm、西壁10mを測る。

床面の状況は中央部東側の段差を境に西側は硬化しており、東側はAs-C混土を掘り込んでいる。床下の掘り込みは検出されなかった。

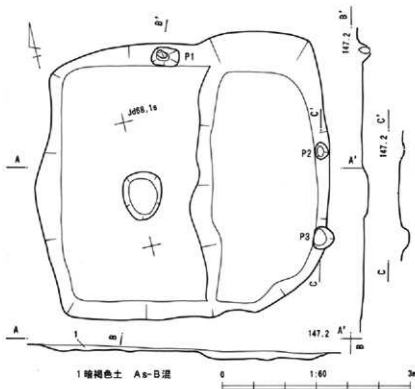
ピットが壁際に3本検出した。東壁に2本で辺を3分割する。北壁の1本は中央やや西寄りにあり、頁岩系の割石が壁に食い込むようにある。

第107表 8号壑穴状遺構ピット一覧表

ピット番号	平面形	NS (cm)	EW (cm)	深さ (cm)	備考
1	楕円形	29	44	18.5	
2	円形	26	22	6	
3	円形	34	31	11	

第108表 壑穴状遺構一覧表

壑穴番号	位置グリッド	規模(m)		面積(m ²)	主軸方位	形態	壁高			柱穴	出土遺物	時代	備考
		NS	EW				北	南	西				
1	Ke-74	2.77	2.15	5.856	N-77°-E	隅丸長方形	20	11	14	15	-	平安	
2	Kt-77	2.25	2.95	6.638	N-65°-E	隅丸長方形	9	16	16	10	-	平安	
3	Ks-79	3.71	(1.24)	-	N-86°-E	-	15	10	12	-	-	平安	
4	Kn-77,78	3.20	2.78	8.896	N-84°-E	隅丸方形	28	26	33	26	-	平安	
5	Kt-La-78	(1.58)	3.90	-	N-342°-E	-	20	-	22	14	2	平安?	
6	Kt-La-78	(1.47)	(2.68)	-	N-335°-E	-	25	-	17	-	-	平安?	
7	Je-68	3.48	3.60	12.528	N-94°-E	隅丸方形	15	9	12	12	1	中世	
8	Jd-67,68	4.27	4.62	19.727	N-13°-E	方形	6	8	10	8	-	中世	



第291図 8号壑穴状遺構実測図

中央西寄りに平面楕円形で長軸76cm、短軸61cm、深さ6.4cmを測る浅い落ち込みが検出した。これは本遺構と同じ覆土で埋没し、底面は硬化していた。

これらピットの浅い落ち込みは本遺構に伴うもので、柱穴の可能性も考えられる。また、周囲には柱穴に相当するものは確認されなかった。

カマド・貯蔵穴等の施設はなく、覆土内に焼土粒・炭化物の混入も認められない。

遺物の検出はなかった。

第5項 溝

本道跡から検出された溝は27条ある。

1号溝・2号溝・3号溝・4号溝・5号溝

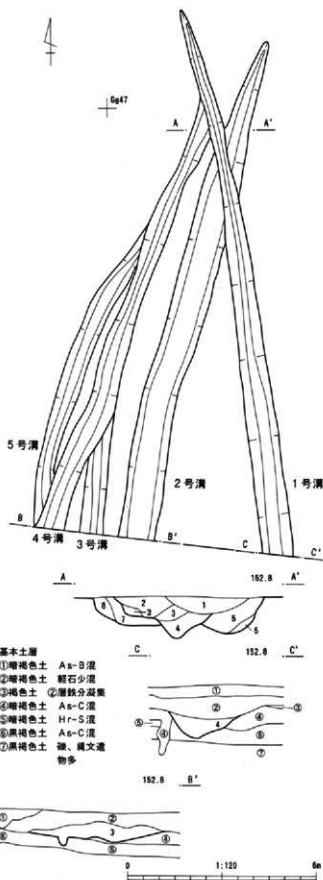
(第292図、P.L.33)

Gf~i-46~48グリッドに位置する。重複関係はこれらの溝以外はない。新旧関係は1号・2号・4号・3号・5号の順に古いと考える。南側は現道により調査不可能であり、現道南側には検出しなかった。確認面は表土除去後に砂層が带状に検出した。覆土は氾濫による鉄分凝集の砂利層と玉砂利の多い砂層を中心に壁面の崩落等の土層である。

平面形は1号溝が北北西から南南東に流下するのに対し、2号溝から5号溝は北北東から南南西に流下する。断面形は各々皿状を呈する。走行方位1号溝はW-80°-Nを、2号~5号溝はW-107°-Nを示す。

規模は確認長で1号溝は17.6m、2号溝は16.3m、3号溝3.5m、4号溝14.2m、5号溝9.5mを測る。確認面からの幅は最大値で1号溝88cm、2号溝112cm、3号溝80cm、4号溝80cm、5号溝72cm、深さは最深で1号溝46cm、2号溝29cm、3号溝34cm、4号溝34cm、5号溝22cmである。

これらの溝群は土層観察からAs-B降下以前の構築であり、時間的に近接するものと考



第292図 1号・2号・3号・4号・5号溝実測図

第4節 古墳時代以降

えられる。溝は北側の午王頭川旧河道の蛇行する地点に直行する様にあるが水位的には何らかの造作を施さないと水は流れない。また、東接する陣馬泥流丘を意識した区画溝とも同時期に存在していたであ

ろう西接する住居群に伴う区画溝とも考えられる。

遺物は縄文土器が多数出土したがこれらは下層の縄文時代配石遺構群に伴うものである。本遺構群に伴う遺物は検出しなかった。

6号溝 (第293図、P.L.33)

Gd~f-44~49グリッドに位置する。重複関係はない。北接して午王頭川旧河道が位置する。確認面は現代耕土除去後のローム層上面である。

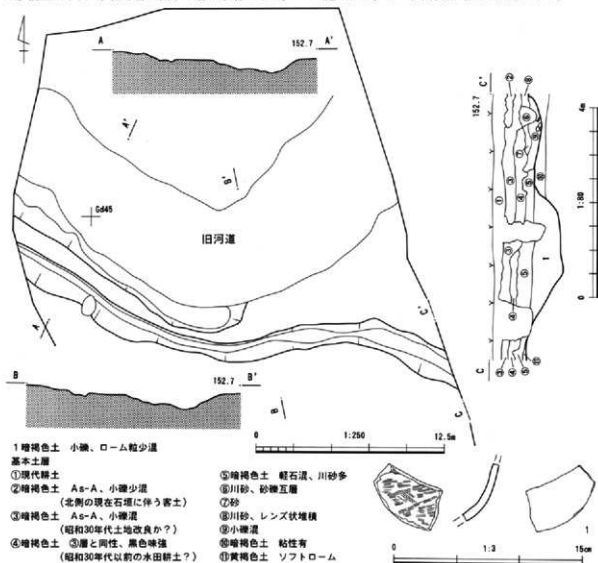
平面形は西西北から東東南に流下し午王頭川旧河道に平行する。走行方位はW-12°-Nを示す。

規模は幅1.76m、確認長30.88m、深さ50cmを測る。覆土は小石・砂粒を含み流水の跡が顕著である。

本遺構は土層観察から6~9層が明治以降に水田引水のための溝であることからそれ以前に設けられた溝か、台地との境界の溝と考える。

出土遺物は1の陶器片のみである。

本地点は現在、北側は氾濫層上に水田が営まれ、昭和30年代の土地改良に伴い第2層の客土及び石垣が施された。なお、南側台地上は畑地である。



7号溝 (第294図、P L 33)

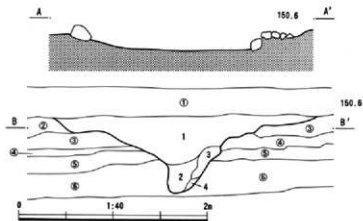
Go~q-49~53グリッドに位置する。

確認面はAs-B混土が帯状に検出する。覆土はAs-B混土である。平面形は西から東に流下する。断面皿状を呈する浅い掘り込みである。走行方向はW-163'-Nを示す。

規模は確認長21.2m、幅最大値236cm、深さ19cmを測る。溝両縁には角礫を列状に配する石垣を施している。

本遺構は周辺に検出した1号・2号独立柱建物跡、1号・2号柵列ともに中世の屋敷を区画する溝と考える。

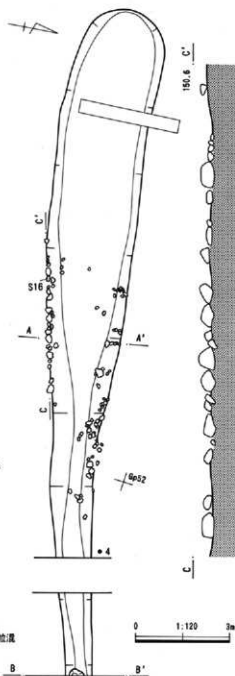
遺物は溝の縁に紡錘車に類似する石製品(4)が出土した。その他土師器環口縁部細片と胴部片が数点出土した。



基本土層

- ①暗褐色土 現代耕土
 ②暗褐色土 シルト質土・川砂混
 ③暗褐色土 As-B混土
 ④As-B層
 ⑤黄褐色土 粘性有、B下水田耕土
 ⑥暗褐色土 Hr-I・シルト質土混

- 1 暗褐色土 As-B混土
 2 暗褐色土 As-B・シルト粒混
 3 暗褐色土 As-B・暗灰褐色土粒混
 4 暗褐色土 粘性有



第294図 7号溝実測図

第109表 6号溝出土遺物観察表 (第293図、P L 180)

No	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	須志器 大壺	-	-	-	砂粒	良好	N5/0 灰	粘土紐輪積み 胴調整	胴部片	覆土	

第110表 8号溝出土遺物観察表 (第295図、P L 180)

No	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	須志器 鉢	(29.3)	-	(5.9)	砂粒	良好	7.5Y4/1 灰	輪縁成形	口縁部	覆土	
2	須志器 壺	-	-	-	砂粒 白色礫	良好	5Y5/1 灰	粘土紐輪積み 胴調整・叩き目	胴部片	覆土	

8号溝 (第295図、P L 33)

Je-g-64~70グリッドに位置する。重複関係はない。

確認面はAs-C・Hr-I混土层で、ローム漸移層と黒褐色土の境界である地形変換点に位置する。

平面形は西から東に直線的にある。走向方位はW-15°-Nを示す。規模は確認長30.4m、幅29cm、深さ確認面から35cmを測る。覆土はAs-B混土の自然埋没である。壁際の崩落は少なく、底面も荒れていない。流水の形跡は見られなかった。

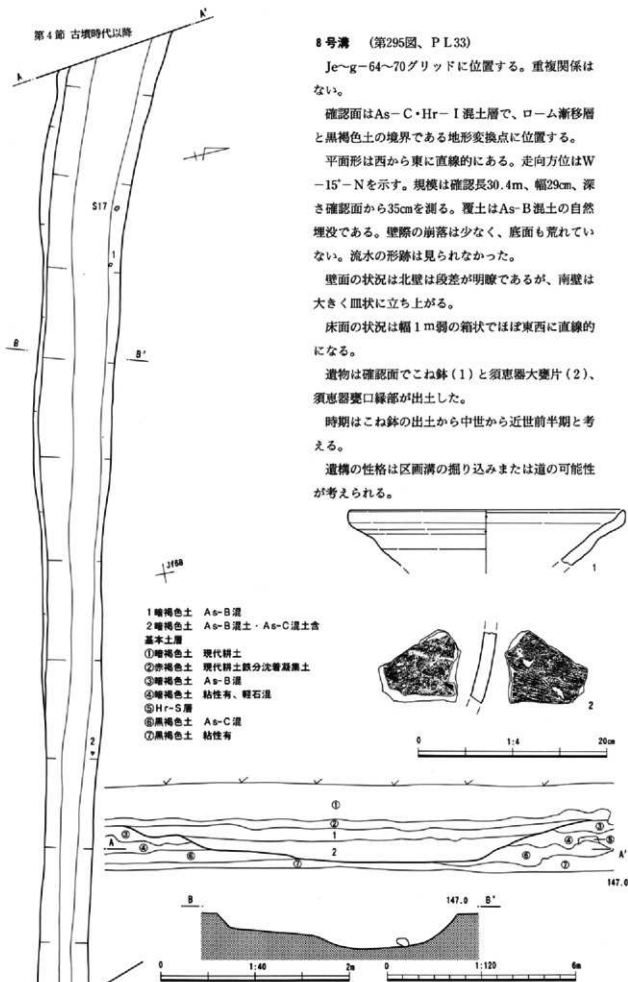
壁面の状況は北壁は段差が明瞭であるが、南壁は大きく皿状に立ち上がる。

床面の状況は幅1m弱の箱状でほぼ東西に直線的になる。

遺物は確認面でこね鉢(1)と須恵器大壺片(2)、須恵器壺口縁部が出土した。

時期はこね鉢の出土から中世から近世前半期と考える。

遺構の性格は区画溝の掘り込みまたは道の可能性が考えられる。



第295図 8号溝実測図

9号溝 (第296図、P.L.33)

Jf・g-65グリッドに位置する。重複関係はない。確認面はAs-C・Hr-I 混土層である。

平面形は北北東から南南西に直線的にあり、走向方位はW-110°-Nを示す。規模は確認長7.2m、幅55cm、深さ確認面から13cmを測る。覆土は軽石(As-Aか)混入暗褐色土である。壁際の崩落は少なく、底面は荒れておらず2ヶ所に方形の落ち込みをもつ。流水の痕跡は見られなかった。

壁面は台形状に外反して立ち上がる。

底面の幅は74cmの箱状で南南西に直線的になる。

遺物は検出しなかった。時期は第3層を切り、1層に類似することから近世以降の所産で、10号溝とともに島の区画を成す溝と考える。

1 暗褐色土 軽石(As-A?) 多量

基本土層

①暗褐色土 現代耕土

②赤褐色土 現代耕土鉄分沈着凝集土

③暗褐色土 As-B混、鉄分・マンガン含

④As-B層

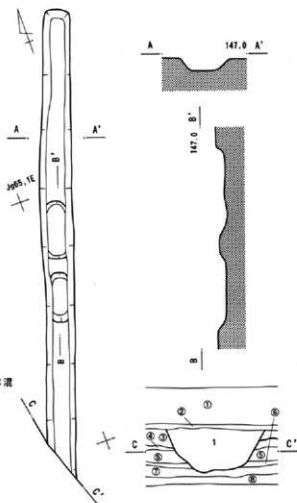
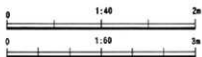
⑤暗褐色土 軽石混入、粘性有

⑤Hr-S層

⑦黒褐色土

⑧黒褐色土

As-C混



10号溝 (第296図、P.L.33)

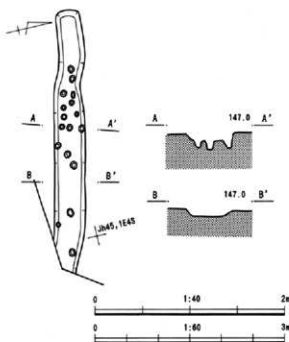
Jh-64・65グリッドに位置する。重複関係はない。確認面はAs-C・Hr-I 混黒褐色土上面である。平面形は西北から東南に直線的にあり、走向方位はW-13°-Nを示す。

規模は確認長4.1m、幅45cm、深さ確認面から9cmを測る。覆土は軽石(As-Aか)混入暗褐色土である。壁際の崩落は少なく、底面は荒れていないが小ビット状の落ち込みが17個確認された。小ビットは平面円形を呈し、直径平均8cm、深さ平均16cmを測る。流水の痕跡は見られなかった。

壁面の状況は台形状に角度を持って外反し立ち上がる。

底面の幅は68cmの箱状で東西に直線的になる。

遺物は検出しなかった。時期は9号溝同様で近世以降の所産と考える。9号溝とともに近世以降の島の区画を成す溝と考える。



第296図 9号・10号溝実測図

11号溝 (第297図、P L34)

Ih・i-61～63グリッドに位置する。重複関係は12号溝と交差するようにある。同時期の所産と考えた。確認面はAs-C混黒褐色土上面である。

平面形は12号溝から分岐するように西南から北東方向に細く蛇行する。走向方位はW-160°-Nを示す。

規模は12号溝との分岐から確認長13.9m、幅60cm、深さ最大値14cmを測る。流水の痕跡は明瞭ではないが底面に僅かに砂層の堆積が見られた。

壁面は外反して立ち上がり、底面はやや荒れていた。

遺物は検出しなかった。時期はAs-B下耕土下層土を除去し検出したこととHr-S層を切って構築していることから奈良～平安時代の所産の区画溝と考えられる。

第111表 12号溝出土遺物観察表 (第297図、P L160)

No	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	須恵器 甕	-	-	-	砂粒 黒色粒子	良好	2.5Y R8/3 淡黄	粘土紐輪積み 甕磨	体部片	覆土	内照

13号溝・14号溝 (第298図、P L34・35)

Ka-f-72～74グリッドに位置する。重複関係はない。確認面はAs-C・Hr-I混黒褐色土上面である。

平面形は南南西から北北東に2条が平行してほぼ直線的にある。走向方位はW-112°-Nを示す。

規模は確認長25m、幅は13号溝110cm、14号溝130cm、深さは中央部で13号溝30cm、14号溝13cmを測る。覆土は軽石多混(Hr-Iを主にAs-C少混)茶褐色

12号溝 (第297図、PL34)

Ia～q-59～65グリッドに位置する。重複関係は11号溝と交差するようにある。同時期の所産と考えた。確認面はAs-C混黒褐色土上面である。

平面形は北西から南東方向に細く蛇行する。走向方位はW-51°-Nを示す。規模は確認長86.5m、幅64cm、深さ最大値19cmを測る。底面に僅かに砂層があり流水の痕跡が見られた。

壁面は外反して立ち上がる。底面はやや荒れていた。

遺物は須恵器甕胴部片が1片出土した。時期は出土遺物と11号溝同様にAs-B下耕土下層土を除去し検出したこととHr-S層を切って構築していることから奈良～平安時代の所産の区画溝と考えられる。

土で、13号溝は鉄分凝集で上下に分層される。

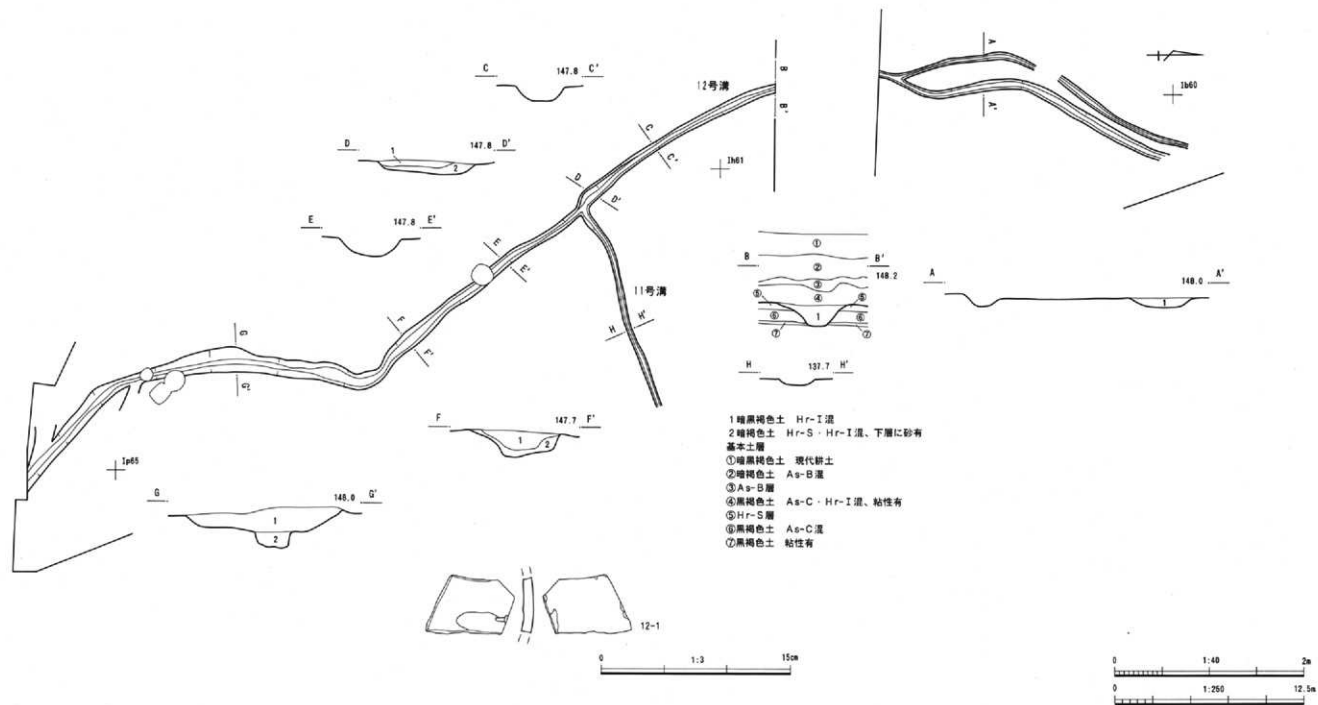
壁面は緩やかに立ち上がる。13号溝の底面はローム層を10cm程掘り込み平坦で、所々に半月形の掘削痕が残る。勾配は南西から北西方向に下る。14号溝の底面は布掛状の2段の掘り方を成し、13号溝と同規模の掘り方内に幅100cm程の小溝が系統的にある。この平行する2条の溝は同時期で区画を意図したものと考えられる。13号溝は当初空堀で、14号溝はその外側を区画する4欄が設けられており、半埋没後

第112表 13号溝出土遺物観察表 (第298図、P L160)

No	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	須恵器 埴	-	(8.0)	(2.1)	砂粒	良好	N6/1 灰	轆轤成形 回転糸切り	体部～底部 1/3	覆土	
2	須恵器 高台付埴	-	(7.9)	(2.4)	砂粒	良好	5Y8/2 灰白	轆轤成形 回転糸切り	体部～底部 1/4	覆土	
3	須恵器 高台付埴	-	(6.5)	(3.5)	砂粒	良好	N7/1 灰白	轆轤成形 回転糸切り	体部～底部 1/5	覆土	

第113表 14号溝出土遺物観察表 (第298図、P L160)

No	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	須恵器 埴	-	(7.0)	(1.4)	砂粒	良好	N6/0 灰	轆轤成形 回転糸切り	底部片	覆土	

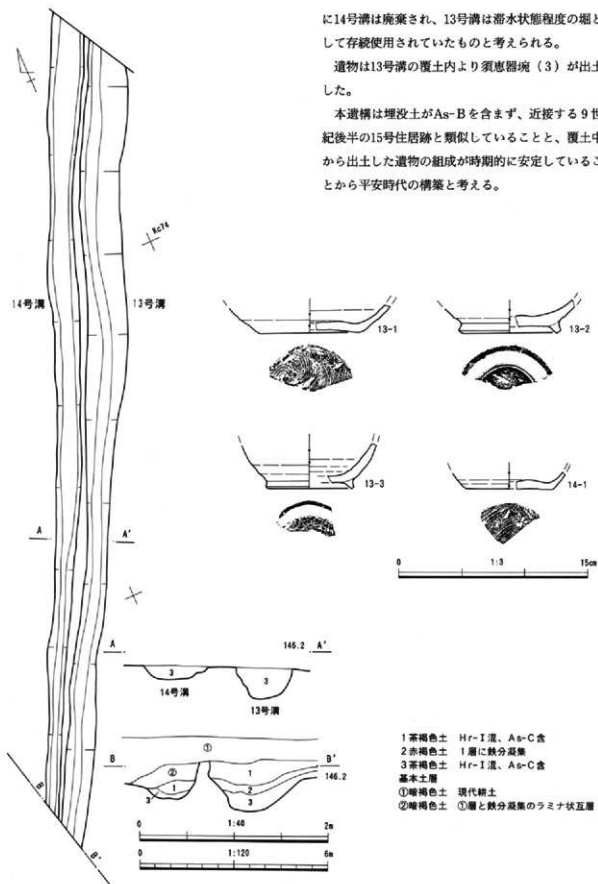


第297图 11号·12号溝実測図

に14号溝は廃棄され、13号溝は滞水状態程度の堀として継続使用されていたものと考えられる。

遺物は13号溝の覆土内より須恵器碗(3)が出土した。

本遺構は埋没土がAs-Bを含まず、近接する9世紀後半の15号住居跡と類似していることと、覆土中から出土した遺物の組成が時期的に安定していることから平安時代の構築と考える。



第298図 13号・14号溝・出土遺物実測図

15号溝 (第299図、P.L.35)

Ki・j-73~77グリッドに位置する。重複関係は分岐点において16号住居跡とある。新旧関係は16号住居跡が古く、本遺構の方が新しい。確認面は軽石多混暗褐色土面である。溝と地山は同じ軽石多混土であるが褐色の濃淡の差が顕著であった。

平面形は北西から南東方向に蛇行し16号住居跡東側で分岐し南西から北東方向にのびる。走向方位は $W-10^{\circ}-N$ と分岐してから $W-109^{\circ}-N$ である。

規模は確認長北西からは23.2m、南西からは5.0m、幅100cm程で、深さは西側で60cm程、東側で90cm程を測る。覆土は軽石多混(Hr-Iを主にAs-C少混)暗褐色土の自然埋没である。

壁は台形状に外反して立ち上がる。底面はローム層を10~15cm程掘り込み平坦である。硬化した状態や流水に伴う砂礫の堆積は見られない。

遺物は土埴2点が出土した。本遺構は覆土から13号溝・14号溝と同時期の平安時代と考えられる。

16号溝 (第300図、P.L.35・36)

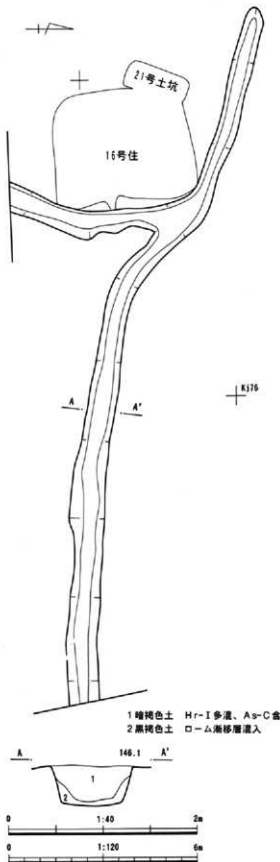
Ib~e-58・59グリッドに位置する。重複関係はない。確認面はAs-C混黒褐色土面で、ローム層と黒褐色土の境界の地形変換点に位置する。

平面形は南西から北東に弓なりにあり北側で分岐する。走向方位は $W-111^{\circ}-N$ を示す。

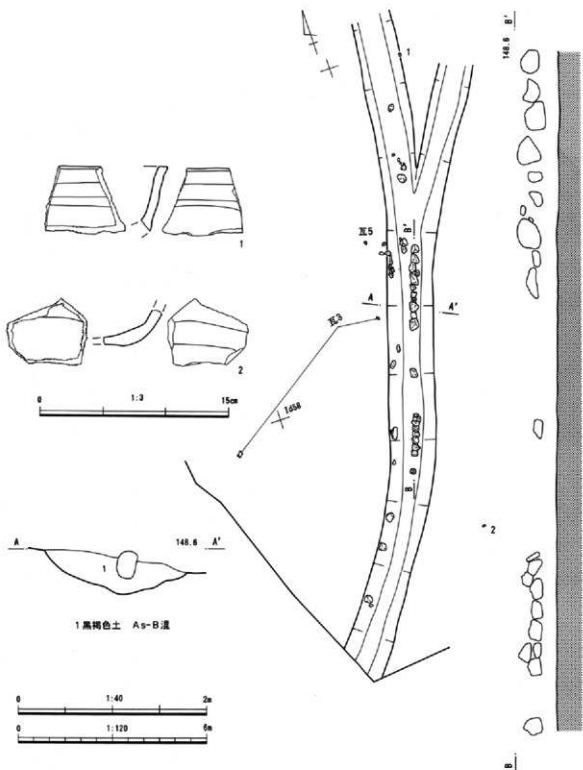
規模は確認長16.0m、幅150cm、深さ35cm程を測る。覆土はAs-B混黒褐色土である。

壁面はなだらかに立ち上がる。底面は凹凸があり、幅150cm程と一定している。径22cm程の角閃石安山岩が覆土に埋め込むように底面に揃え直線的に配置され、石垣状を呈している。

遺物は2点の土銅片と溝縁から瓦が出土した。本遺構は覆土がAs-B混土であることと、出土した遺物から中世の所産と考える。



第299図 15号溝実測図



第300図 16号溝・出土遺物実測図

第114表 16号溝出土遺物観察表 (第300図、P.L.160)

No.	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	軟質陶器 土鍋	-	-	-	砂粒	良好	2.5Y6/2 灰黄	粘土紐輪積み 撫調整	口縁部	覆土	
2	軟質陶器 土鍋	-	-	-	砂粒	良好	10Y R6/4 にぶい黄粒	粘土紐輪積み 撫調整・篋削り	底部?	覆土	

17号溝 (第301図、P L 36)

Ip・q-63・64グリッドに位置する。重複関係は東側で12号溝と接し、西側は調査区外へとなる。確認面はAs-C混黒褐色土面である。

規模は確認長5.5m、幅190cm、深さ42cmを測る。

平面形は西から東に直線的にある。走向方位はW-6°-Nを示す。覆土はAs-B混土である。

壁は緩やかに立ち上がる。底面は2段の掘り方で、中央部は凹凸のあるやや荒れた状態にあり、北側は一段高い位置に石列が検出した。石列は径10~12cm程の角礫を確認長6mに配している。

遺物は覆土中より陶器小片が数点出土した。本遺構は覆土と出土遺物より中世以降の所産と考えられる。

18号溝 (第301図、P L 36)

Io・p-63~65グリッドに位置する。重複関係は西側で12号溝に接し、東側は調査区外となる。なお、本遺構は土層観察から2条の溝が看取られる。

確認面はAs-C混黒褐色土面である。

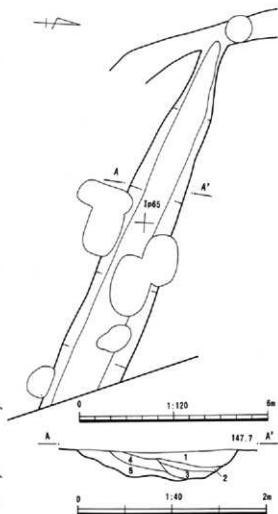
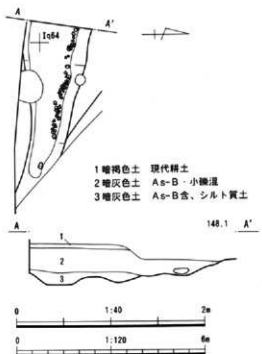
平面形は南西から北東方向に直線的にあり、西側が細くなりさらに伸びるものと考えられる。走向方位はW-17°-Nを示す。

規模は確認長11.1m、幅180cm、深さ30cmを測る。

覆土は上層にAs-A混土があり、中間層にロームを充填し版築構造が考えられる。

壁は緩やかに立ち上がり、北壁はやや急である。底面は幅90cm程で直線的にあり、中央部がやや盛り上がっていた。

遺物は覆土内から陶器碗が出土した。本遺構は覆土と出土遺物から近世の所産と考えられる。



第301図 17号・18号溝・出土遺物実測図

19号溝 (第302図、P.L.36)

Jp・q-69~73グリッドに位置する。重複関係はない。周辺には3号柵列が本遺構に平行して南接している。確認面はAs-C・Hr-I 混黒褐色土面である。

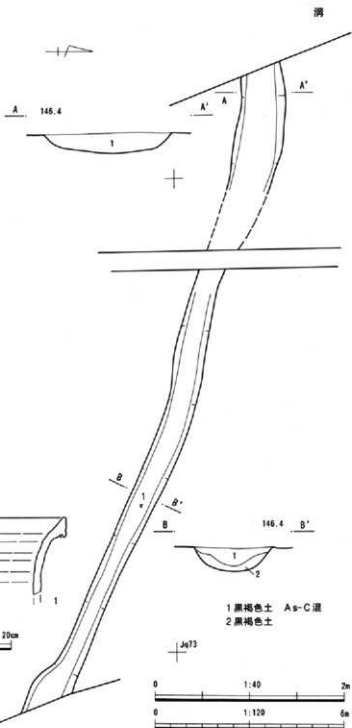
平面形は西北から南東にかけて緩やかな弓なりを呈する。走向方位はW-21°-Nを示す。

規模は確認長21.5m、幅100cm程、深さ20cm程である。覆土はAs-C混土である。断面皿状を呈し、底面は流水の形跡は全く平坦である。

遺物は中央部底面から須恵器大甕口縁部が出土した。本遺構は覆土と出土遺物から平安時代の所産であり、また南接する3号柵列、南に位置する13・14号溝その溝に北接する4号柵列とともに何らかの区画を成すものと考えられる。



第302図 19号溝・出土遺物実測図



第115表 18号溝出土遺物観察表 (第301図、P.L.160)

No.	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	陶器 高台付碗	-	6.1	(2.4)	砂粒	良好	10Y R6/4 に濃い黄橙	織籠成形 削出高台	底部	覆土	施釉

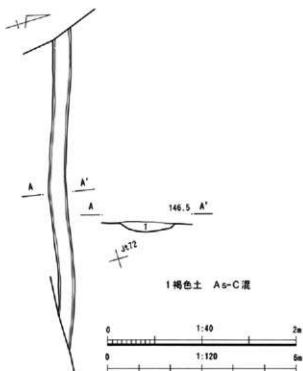
第116表 19号溝出土遺物観察表 (第302図、P.L.160)

No.	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	須恵器 甕	(31.8)	-	(8.1)	砂粒 白色粒	良好	7.5Y R3/2 黒褐	粘土紐輪組み 撫調整	口縁部	覆土	

20号溝 (第303図、P.L.36)

Js・t-70~72グリッドに位置する。重複関係はない。確認面はAs-C混土上面である。平面形は西北から東南方向に緩やかに蛇行する。走向方位はW-15°-Nを示す。

規模は確認長9.6m、幅60cm、深さ12cmを測る。覆土はAs-C混土である。断面皿状を呈し、底面は流水の形跡はなく荒れていない。遺物は検出しなかった。本遺構は19号溝同様に平安時代の所産の区画溝と考えられる。



第303図 20号溝実測図

21号溝・22号溝・23号溝 (第304図、P.L.36・37)

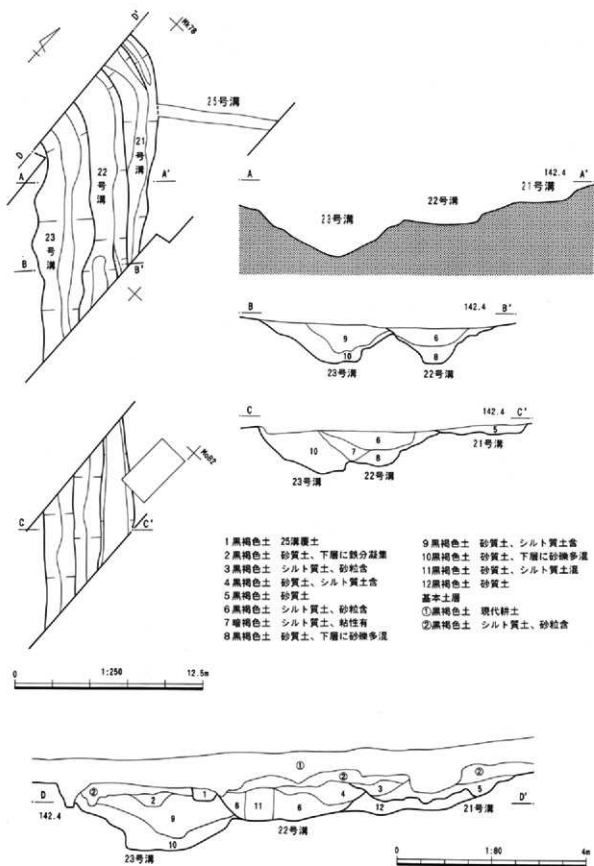
Mk-n-77~79グリッドに位置する。重複関係は3条の溝が廻直されるとともに、25号溝が接する。新旧関係は25号溝・21号溝・22号溝・23号溝の順に古くなる。確認面は小礫混黒褐色土で、砂質シルト質土が幅広く検出した。平面形は北西から南東方向に直線的にあり、西側で屈曲する。走向方位はW-50°-Nを示す。規模は確認長33.2m、幅69cmで内21号溝140cm、22号溝250cm、23号溝310cm、深さは確認面から21号溝23cm、22号溝72cm、23号溝135cmを測る。

覆土は黒褐色砂質土を主にし、下層には砂礫層が認められた。調査区西側の土層観察によると1層は25号溝、2層・3層・4層は同じ面に掘り込まれる溝で確認面では本遺構と同方向に浅く細い帯状が見られたが、全体像の把握には至らなかった。5層が21号溝覆土である。6~8層は22号溝で6層が溝本体で7層は一度洪水等で埋没した所に再び溝を構築したものと思われる。また、8層は溝の底面より深く洪水等により掘り込まれた部分と考えられる。9・

10層が23号溝で9層は10層埋没後再び掘ったものと考えられる。10層の底部には砂礫層が堆積している。11層は土坑状を呈し、22号溝底面を長方形に掘り込んでいた。12層は22号溝が掘り込まれる以前に埋没または埋められた遺構と考えられる。21号溝は断面皿状を呈し、底面は平坦で垂直に近い立ち上がり後、緩やかに外反する。流水の痕跡は明瞭ではない。22号溝断面形U状を呈し、底面は砂礫層が見られ流水の痕跡も明瞭で荒れている。23号溝断面V字状を呈し底面は流水により荒れており、所々で砂礫を多く含む窪みが検出した。

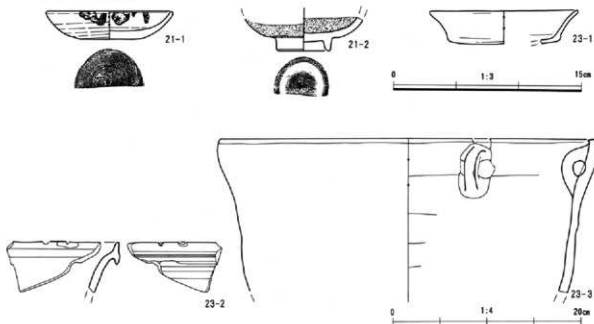
遺物は覆土中より中近世の陶器片が多数出土した。また23号溝底面の砂礫層からは縄文土器・石器・土師器等が出土した。しかし、細片のため図化可能なものは以下のものである。

それぞれの本遺構は覆土や出土遺物から21号溝は18世紀、22号溝は15世紀、23号溝が14世紀と考えられる。



第304図 21号・22号・23号溝実測図

第4節 古墳時代以降



第305図 21号・23号溝出土遺物実測図

第117表 21号溝出土遺物観察表 (第305図、P.L160)

No.	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	陶器 皿	(10.0)	(4.8)	2.2	砂粒	良好	2.5Y 6/3 にふい貴	轆轤成形	1/2	覆土	
2	陶器 高台付碗	—	(4.3)	(2.6)	砂粒	良好	5Y 7/2 白灰	轆轤成形 削出高台	底部 2/3	覆土	

第118表 23号溝出土遺物観察表 (第305図、P.L161)

No.	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 杯	(11.7)	(8.3)	(2.4)	砂粒	良好	5Y R 7/6 橙	型作り 荒漉・荒削り	1/8	上層	
2	陶器 罐	—	—	—	砂粒	良好	5Y 4/1 灰	轆轤成形 無調整	口縁部	上層	
3	陶器 内耳罎	(40.0)	—	(16.3)	砂粒	良好	7.5Y R 3/1 黒褐	轆轤成形 無調整	口縁~胴部 1/5	覆土	

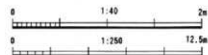
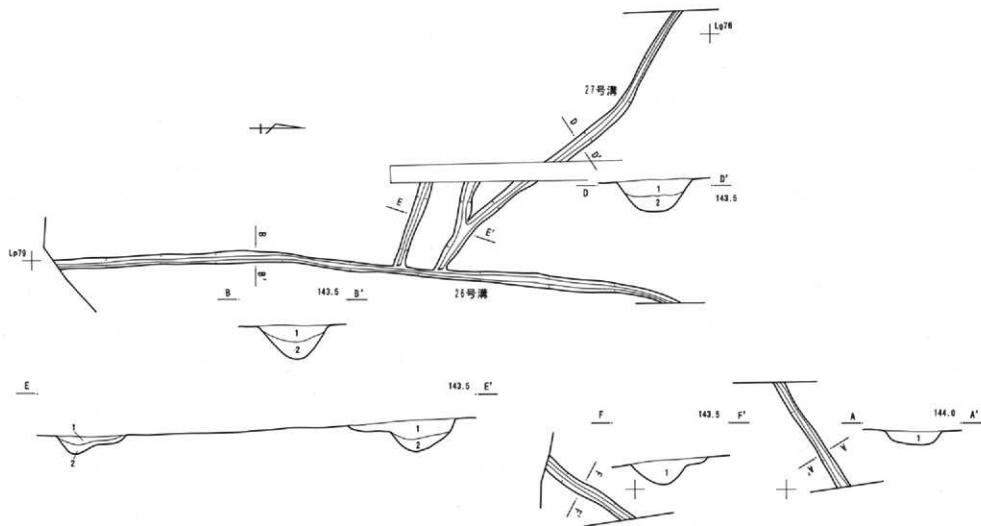
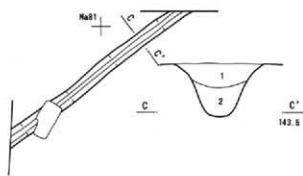


第306図 26号溝出土遺物実測図

第119表 26号溝出土遺物観察表 (第306図、P.L161)

No.	器種器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土師器 杯	—	—	(3.2)	砂粒	良好	7.5Y R 5/6 明褐	型作り 荒削り	口縁部	覆土	
2	須恵器 高台付碗	—	(6.4)	(2.2)	砂粒	良好	5Y 4/1 灰	轆轤成形 回転未切り	底部	覆土	
3	須恵器 高台付碗	—	(7.8)	(2.5)	砂粒	良好	5Y 4/1 灰	轆轤成形 回転未切り	底部	覆土	

1 黑褐色土 粘性强、小礫、Hr-S、Hr-I 含
 2 黑褐色土 砂質土、水浸痕



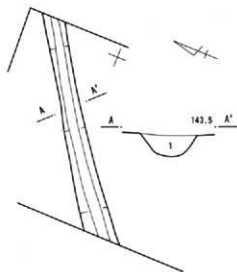
第307图 26号·27号溝实测图

25号溝 (第308図、P L 37)

Mi-k-78~82グリッドに位置する。重複関係は西側で21号溝上面を走る。新旧関係は本遺構の方が新しい。確認面は小礫混黒褐色土である。平面形は北東から南西方向に直線的にある。走向方位はW-143'-Nを示す。

規模は確認長21.4m、幅90cm、深さ20cm程を測る。覆土は黒褐色シルト質土である。断面境状を呈し底面には砂質土が見られ、21号溝方向に流下していたものと考えられる。

遺物は検出しなかった。本遺構は土層から近代以降と考えられる。



26号溝・27号溝 (第307図、P L 37・38)

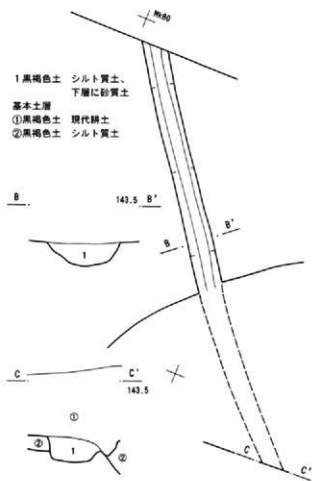
26号溝はLe~Mb-78~82グリッドに、27号溝はLg~k-75~82グリッドに位置する。重複関係は26号溝中位で27号溝と接する。確認面は小礫混黒褐色土である。26号溝の平面形は大きく弧を描くようであり、幅・深さは一定している。

規模は確認長96.0m、幅80cm、深さ35cmを測る。走向方位は直線的になる部分でW-93'-Nを示す。

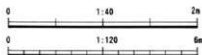
27号溝の平面形は北西から南東に蛇行する2~3条である。

規模は確認長23.9m、幅90cm、深さ33cm程を測る。走向方位は長いものでW-49'-Nを示す。覆土はともに小礫混黒褐色土にHr-S・Hr-Iが混入し、下層には流水の痕跡を示す砂質土がある。

遺物は26号溝の覆土内に須恵器陶等が出土した。本遺構は覆土と出土遺物から平安時代の区画溝と考えられる。



- 1 黒褐色土 シルト質土、
下層に砂質土
基本土層
① 黒褐色土 現代耕土
② 黒褐色土 シルト質土



第308図 25号溝実測図

第4節 古墳時代以降

第120表 溝一覽表

番号	位置グリッド	長さ (m)	幅 (m)	断面	上流 方向	主軸方位	流路 方位	出土遺物	時代	備考
1	G f・g・h・i-47	(17.6)	1.0	U	北北西	W-80°-N	9°		平安	
2	G f・g・h・i-47	(16.3)	1.2	U	北北東	W-105°-N	1°		平安	
3	G i-46	(3.5)	0.7	U	北	W-96°-N	2°		平安	
4	G g・h-47, i-46	(14.2)	0.9	U	北北東	W-110°-N	1°		平安	
5	G h-47, h・i-46	(9.5)	0.7	U	北北東	W-119°-N	3°		平安	
6	G d-44, 45, e-45, 46, 47, 48, 49	(30.0)	1.7	U	西西北	W-12°-N	6.5°	須・埴(内黒)	中世～	
7	G o-53, P-49, 50, 51, 52	(21.1)	2.7	U	西	W-163°-N	6.5°	紡錘車	中世	
8	J c-64, 65, f-65, 66, 67, 68, 69, 70	(30.4)	2.9	U	西西北	W-15°-N	14.5°	須・鉢、須・壺	中世	
9	J f・g-65	(7.2)	0.55	U	北北東	W-110°-N	1°		近世～	
10	J h-64, 65	(4.1)	0.45	U	西西北	W-13°-N	2°		近世～	
11	I h-63, 64, i-61, 62, 63	(13.9)	0.6	U	西西南	W-160°-N	0°		平安	
12	I a・b-60, c・d・e-59, 60, g-59, 60, h-60, i-60, 61, j-61, 62, k-62, 63, l・m・n・o・p-63, P-64, q-64, 65	(86.5)	0.7	U	北西	W-51°-N	6°	須・壺	平安	
13	K a-73, 74, b-73, c-72, 73, d・e-72	(24.9)	1.1	U	南南西	W-112°-N	4°	須・埴、須・高台付埴、須・高台付埴	平安	
14	K a-74, b-73, 74, c-73, d-72, 73, e・f-72	(25.0)	1.3	U	南南西	W-113°-N	1.5°	須・埴	平安	
15	K i-73, j-74, 75, 76, 77, k-74, 76, 77	A (23.2) B (5.0)	1.1 0.9	U	西西北 南南西	W-10°-N W-109°-N	9.5° 3°		平安	
16	I b-59, c-58, 59, d・e-58	(16.0)	1.5	U	南南西	W-111°-N	3°	土鍋	中世	
17	I p・q-63, 64	(5.5)	1.9	U	西	W-6°-N	1°		近世～	
18	I o-63, 64, P-64, 65	(11.1)	1.8	U	西西北	W-17°-N	11°	須・埴	近世～	
19	J p-69, 70, 71, q-71, 72, 73	(21.5)	1.1	U	西西北	W-21°-N	11°	須・壺	平安?	
20	J s-70, t-70, 71, 72	(9.6)	0.6	U	西西北	W-15°-N	3°		平安?	
21	M k・l-77, 78, l・m-79	(33.1)	(2.5)	U	北西	W-51°-N	15°	須・皿、須・高台付埴	中世	
22	M l-77, 78, m-78, 79, n-79	(33.7)	(2.6)	U	北西	W-50°-N	27°		中世	
23	M i・m-77, 78, m-79, n-78, 79	(33.2)	4.0	U	北西	W-48°-N	15°	土・埴、須・壺、内耳鏡	中世	
24	M p-77, 78, q-78, 79, r-79	(15.3)	1.0	U	北西	W-53°-N	8°		弥生	
25	M i-81, 82, j-80, 81, k-78, 79	(21.4)	0.9	U	北東	W-143°-N	19°		近世～	
26	L e-80, 81, f・s-80, g・h・i・j・k・l-79, m・n・o-78, 79, t-80, 81, M a-81, 82, b-82	(96.0)	0.8	U	北	W-93°-N	25°	土・埴、須・高台付埴、須・高台付埴	平安	
27	L g-75, 76, h-76, 77, i-77, 78, h i-81・82, j k-78-79	A (23.9) B (5.4)	0.9 0.7	U	北西 南西	W-49°-N W-124°-N	38° 5°		平安	

第121表 1号溝一覽表

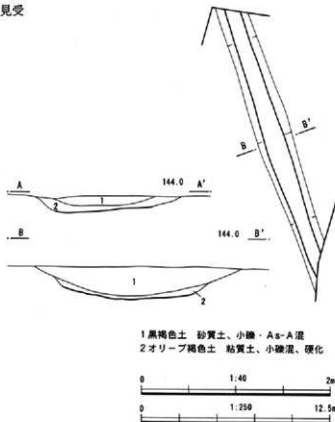
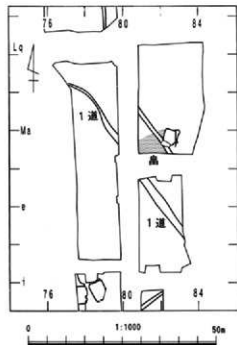
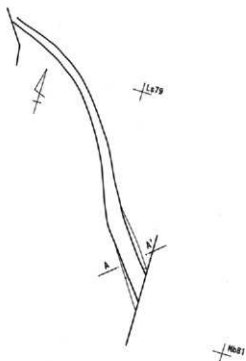
番号	位置グリッド	長さ (m)	幅 (m)	断面	上流 方向	主軸方位	流路 方位	出土遺物	時代	備考
1	L r-77, 78, s-78, t-78, 79 M c-81, 82, d・e-82, 83, f-83, 84	(50.5)	2.0	U	北西	W-54.5°-N	26°		中世	

第6項 道

1号道 (第309図、P L 38)

Lg-k-75~82グリッドに位置する。重複関係はない。確認面は小礫混黒褐色土である。平面形は北西から南東にかけて緩やかに蛇行する。走向方位はW-54.5°-Nを示す。覆土は路面上層にAs-Aと小礫を含む黒褐色砂質土である。路面を形成する第2層は小礫混の粘質土で非常に硬くなっている。第3層は地山の小礫・ローム混の粘質土であり、人為的な造成痕は見られない。遺物は路面上の覆土から備前焼の陶器細片・鎌(F30)・刀子(F29)等が出土した。構築時期は覆土と出土遺物から近代の所産と考えられる。

本道構は人為的に構築されたものではなく、人々の往来により硬化し道状を呈することとなったものと考えられる。両端には畠が検出しており、道上からは鎌が出土するなど農道としての機能が多分に感じられる。また、西側70mを走行する鎌倉街道や東側30mを走行する佐波奉行街道を繋ぐようにも見受けられ、両街道との関連が示唆される。



第309図 1号道位置図・実測図

第7項 井戸

本遺跡からは4基の井戸が検出した。検出地点はG区とI区である。G区の1号・2号井戸は接して構築されており、中世屋敷の南西隅に位置している。I区の3号・4号井戸も近接して構築されているが、周辺には同時期の遺構は検出されなかった。

1号井戸 (第311図、P.L.39)

Gp-49グリッドに位置する。重複関係はない。南西に接するように2号井戸がある。

確認面はAs-C混茶褐色土である。確認時は南側に軽石多混暗褐色土が分布しており、一段浅いプランを呈し、北側に長軸140cm×短軸120cmの円形プランを確認した。規模は長軸3.7m、短軸2.2m、深さ3.15mを測る。断面円筒形を呈し、底は直径98cmで底面は平坦であった。覆土は自然埋没である。壁面はローム層を掘り抜き、砂礫層に達している。湧水点は底面から50cm上の黄色ロームと赤褐色粘質土の間で、赤褐色粘質土下は灰色砂礫層になる。

遺物は検出されなかった。なお、井戸縁及び周辺の精査を行ったが柱穴らしきものは検出しなかった。この井戸の構築時期は覆土と周辺の遺構配置などを考慮すると中世の所産と考えられる。

2号井戸 (第311・312図、P.L.39)

Gp-49グリッドに位置する。重複関係はない。北西に接するように1号井戸がある。確認面はAs-C混茶褐色土である。覆土は1・2層は自然埋没であるが3層以下は人為的埋没の様相を呈する。4層には径10cm～20cm大の礫と陶器片が出土した。平面形は隅丸方形を呈し、規模は長軸2.8m、短軸2.7m、深さ3.85mを測る。断面東側は段々に緩やかな傾斜があり、以下は円筒状を呈する。底は直径90cmで底面は平坦であるが北西に径36cm、深さ25cm程の落ち込みがある。この井戸は東側を入口にし北西より桶等を投げ入れ、くみ取っていたものと考えられる。なお、井戸縁及び周辺の精査を行ったが柱穴ら

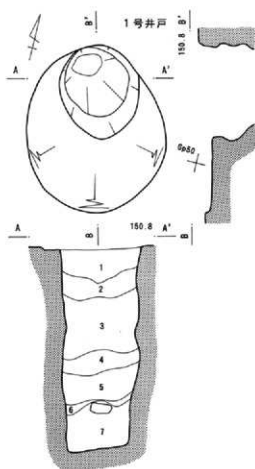


第310図 中世以降分布図・井戸位置図

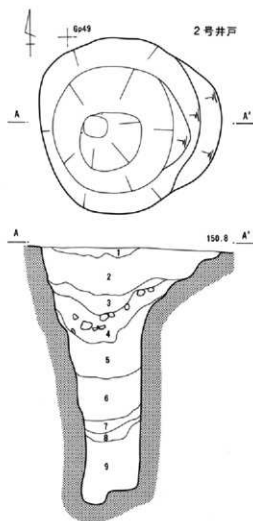
しきものは検出しなかった。壁の状況は1号井戸と同様であり、底面から1m上が湧水点である。

井戸の構築時期は出土遺物や覆土と周辺の遺構配

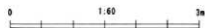
置などを考慮すると中世の所産と考えられる。1号井戸との関連は覆土から本井戸の方が古いと考えた。



- 1 暗褐色土 軽石多混
- 2 暗褐色土 砂質土、As-B・ロームブロック含
- 3 暗褐色土 シルト質土、As-C混黒・黒色粘質土ブロック混
- 4 暗黒褐色土 粘性有
- 5 黒色土
- 6 黒褐色土 As-C混黒・黒色土ブロック混
- 7 暗灰褐色土 下層に砂層有

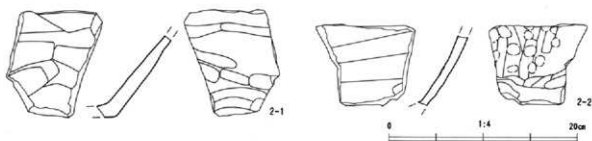


- 1 暗褐色土 軽石多混
- 2 暗褐色土 砂質土、As-B・ロームブロック混
- 3 暗褐色土 シルト質土、As-C混黒・黒色粘質土ブロック混
- 4 褐色土 黒色土ブロック混、10~20cm大礫多混
- 5 暗褐色土 シルト質土
- 6 黒色土 粘性有
- 7 黒色土
- 8 黒色土 砂層
- 9 暗黒褐色土 シルト質土、下層に砂層有



第311図 1号・2号井戸実測図

第4節 古墳時代以降



第312図 2号井戸出土遺物実測図

第122表 2号井戸出土遺物観察表 (第312図、P.L161)

No.	器種・器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	陶器 内耳網	-	-	-	砂粒	良好	7.5Y R5/6 明褐色	轆轤成形 磨調整	胴部~底部	覆土	
2	陶器 内耳網	-	-	-	砂粒	良好	5Y5/2 灰オリーブ	轆轤成形 磨調整・指頭圧痕	胴部	覆土	

3号井戸 (第313図、P.L39)

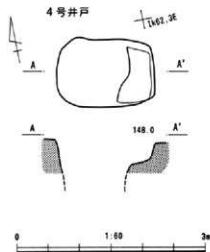
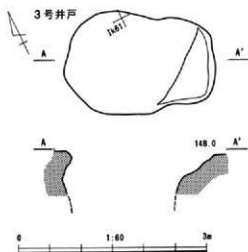
Ik-60・61グリッドに位置する。As-B畠地内にあり東5.5mに4号井戸がある。確認面はAs-B混暗褐色土を除去したAs-C・Hr-I混黒褐色土面である。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸2.3m、短軸1.6m、中段径は1.6mを測る。断面は東側で段々に中央に向かい、他はオーバーハングしている。底面は湧水等により地山が露く検出できなかった。遺物の出土はなかった。

構築時期はAs-B下畠調査中であり上層の覆土にAs-Bの混入が見られたことから中世の所産と考えられる。

4号井戸 (第313図、P.L39)

Ik-62グリッドに位置する。As-B畠地内にある。確認面はAs-B混暗褐色土を除去し、As-C・Hr-I混黒褐色土面である。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸1.6m、短軸1.1m、中段径は0.9mを測る。断面は東側で段々に中央に向かい円筒形になると思われる。底面は湧水等により検出できなかった。遺物の出土はなかった。

構築時期は3号井戸と同様にAs-B下畠調査中であり、上層の覆土にAs-Bの混入が見られたことから中世の所産と考えられる。



第313図 3号・4号井戸実測図

第8項 火葬跡

本調査区から3基の火葬跡が検出した。いずれもG区にあり、1号・2号火葬跡は中世屋敷内に位置する。3号火葬跡は中世屋敷跡の段差を利用した区画から20mの台地上陣場泥流丘縁辺部に検出した。火葬跡内には焼土、炭化材、骨片が残り、火葬の実施がうかがえる。しかし、骨片の検出した1号火葬跡でも全身の骨は検出されず、火葬後に別の地点に納骨された可能性も考えられる。墓としてはやや疑問のあるところから本遺構名で報告する。本遺跡周辺では中世の火葬跡・墓が下東西遺跡、国分僧寺・国分尼寺中間地域遺跡等で検出しており、平安時代の火葬墓の可能性として大久保A遺跡I区18号土坑が見られる。本遺跡検出の遺構は国分僧寺・国分尼寺中間地域遺跡に類例を求めることができる。

1号火葬跡 (第315図、P L 39)

Gp-48グリッドに位置する。重複関係はない。7号溝と2号柵列に囲まれた屋敷跡の南西隅にあり、北東25mに2号火葬跡、北50.5mに3号火葬跡が位置している。

平面形は長方形を呈し、規模は南北155cm、東西103cm、深さ29cmを測る。長軸方位はN-15'-Wを示す。確認面はAs-C混黒褐色土上面である。覆土は暗褐色土で炭化材・炭化物が多量に混入している。

壁の状況はAs-C混土をほぼ垂直に掘り込み、内側に厚さ1cm強で粘土が貼付している。壁高は北壁24cm、南壁14cm、東壁10cm、西壁24cmを測る。

床面の状況は削平した底面に準大の礫を4列を基本に敷き詰め、火床面を作り出している。隙間には特に充填せずそのままの状態であった。殆どの石は隣接する陣場泥流丘中の山石が使用され、1点のみ河原石が出土した。石は大小32個の角礫で、最大は21cm×19cm、最小は8cm×5cmで、20個近くは10cm前後のもので厚さ約10cmが選択基準となっていたようである。煤の付着するものが多いが、極端に被熱赤変したものをヤケール等の付着したものはなかった。



第314図 火葬跡位置図

焚口部は東壁中央にある。最大幅30cm、奥行25cmを測り、底面は敷きつめた石の上面にある。副葬品と思われる遺物や釘等は検出されなかった。出土した炭化材は直径1cm大の広葉樹有芯材や竹・篠があり、良質の柱目もあり一部割材が含まれていた。詳細は別項「自然科学分析」を参照されたい。また、骨が焚口部の北から粉・顆粒化した状態で検出した。少量、粉顆粒のため分析はできなかった。

本遺構の構築は、覆土より中世のものと考えられる。

2号火葬跡 (第315図、P L 39)

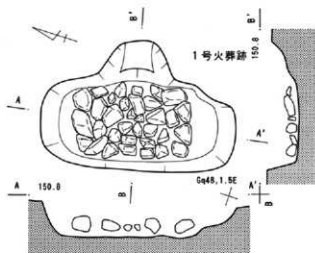
Gm-52グリッドに位置する。重複関係はない。7号溝と2号柵列に囲まれた屋敷内にあり、1号掘立柱建物跡の西9m、2号掘立柱建物跡南7.5mに位置する。南西25mに1号火葬跡、北西40mに3号火葬跡がある。

平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸65cm、短軸51cm、深さ9cmを測る。長軸方位はN-48'-Eを示す。確認面はAs-B下水田耕土下のHr-I混シル

第4節 古墳時代以降

ト質土下のAs-C混土上面である。覆土は黄白色シルト質土で確認面上層のHr-1混シルト質土と類似する。壁の状況は外反気味に立ち上がり、確認時西・北・東の3辺に被熱赤化が視察された。壁高北壁5cm、南壁7cm、東壁8cm、西壁9cmを測る。底面の状況は皿状に窪み、南壁際から中央にかけて炭化物の薄い層が確認された。焚口部は、炭化物や炭が舌状に分布して確認された南壁にあつたと考えられる。

遺物は検出されず、釘や底面の置き石等も確認されなかった。本遺構の構築は、覆土より中世のものと考えられる。

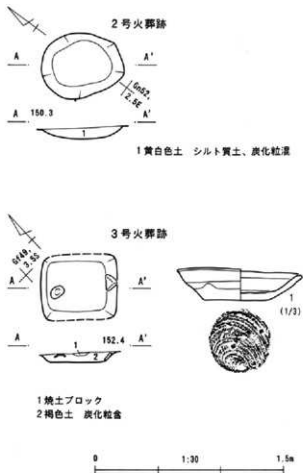


3号火葬跡 (第315図、P.L.39)

Gb-48・49グリッドに位置する。重複関係はない。1号火葬跡、2号火葬跡の検出した屋敷跡より北40mの一段高い位置の陣馬泥流丘内にある。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸60cm、短軸52cm、深さ8cmを測る。長軸方位はN-45°-Wを示す。現代の耕作により底面近くまで削平されており、泥流丘上面及びROOM上面で、焼土と置き石、灯明皿が出土し確認した。覆土はAs-A混土に焼土ブロックが混入していた。壁の状況は外反気味に立ち上がり、南東辺に平らな石が壁に貼り付く様にある。被熱赤化は確認されなかった。床面の状況は泥流丘を掘り込み、貼り床等は不明である。

遺物は油煙の付着した完形の灯明皿(1)が1点西壁寄りに床面より4cm程浮いた状態で出土した。その他釘等は検出しなかった。構造的には1号火葬跡に類似するものと考えられる。本遺構の構築は出土物から15世紀中頃と考える。



1 焼土ブロック
2 褐色土 炭化検査

第315図 1号・2号・3号火葬跡・出土遺物実測図

第123表 3号火葬跡出土遺物観察表 (第315図、P.L.161)

No	遺物形状	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	成形・調整	残存	位置	備考
1	土器 カワラケ	9.9	5.0	2.4	砂粒	良好	2.5Y8/3 淡黄	轆轤成形 回転糸切り	完形	覆土	内面保付着

第9項 土坑

本調査区から検出した土坑は総数128基である。縄文時代3基、弥生時代1基と時代の判定された遺構を除く古墳時代以降および時期不明の土坑を掲載する。128基の土坑について観察すると大きく次の4つのタイプがあることがわかった。長方形を呈する土坑(A)、方形を呈する土坑(B)、楕円形を呈する土坑(C)、円形を呈する土坑(D)の4種類に大別される。

さらに長方形を呈する土坑(A)は以下の3つに分けられる。

A-①長軸・短軸比が6:1程度の長軸が長い長方形を呈する土坑。A-②長軸・短軸比が4:1程度の長軸の長い長方形を呈する土坑。A-③長軸・短軸比が2:1程度の長方形を呈する土坑である。

また、方形を呈する土坑(B)は以下の2つに分けられる。B-①長軸・短軸比が1.5:1程度の方形を呈する土坑。B-②長軸・短軸比が1:1程度の正方形を呈する土坑である。

G区

G区の土坑分布は、1号土坑が調査区最北でAs-C混黒褐色土面において1基単独で検出された他は、G区現道南側の緩斜面地に集中する。確認面は中世屋敷が検出されたAs-C・Hr-I混茶褐色土面および中世水田の確認されたAs-B混褐色土面である。覆土はAs-Bの混入は見られるが、主な覆土は現代耕土に類似する暗褐色土である。また、検出した中世屋敷・中世水田より新しい所産である。

本調査区の土坑群を大別するとA-①が8基、A-②が6基、A-③が11基、B-①が5基、B-②が10基、Cが3基、Dが5基である。

1号土坑 (第316図、P L 40)

Ge-43グリッドに位置する。重複関係はない。確認面での平面形は円形を呈し、規模は南北147cm、東西140cm、深さ47cmを測る。断面V字状を呈し、底面近くに扁平な鎌が2個内傾して出土した。壁面は荒れている。出土遺物はない。

土層説明 1 暗褐色土 As-C混、ロームブロック含

2号土坑 (第316図)

Gk-50グリッドに位置する。重複関係はない。底面の平面は南北に長い長方形を呈し、規模は長軸82cm、短軸56cmを測り、確認面からの深さは24cmである。

底面は平坦で、壁面は垂直気味に立ち上がる。出土遺物はない。

3号土坑 (第316図)

Gl-49グリッドに位置する。南東隅が13土坑と接している。底面の平面形は東西に長い長方形を呈し、規模は長軸129cm、短軸55cmを測り、確認面からの深さは32cmである。底面は平坦で、壁面は垂直気味に立ち上がる。出土遺物はない。

4号土坑 (第316図)

Gl-48グリッドに位置する。重複関係はない。底面の平面形は円形を呈し、規模は直径48cm程を測り、確認面からの深さは9cmと浅い掘り込みである。底面は平坦で、壁面は垂直気味に立ち上がる。出土遺物はない。

5号土坑 (第316図)

Gl-48グリッドに位置する。重複関係はない。底面の平面形は南北に長い長方形を呈し、規模は長軸156cm、短軸60cmを測り、確認面からの深さは24cmである。底面は平坦で、壁面は垂直気味に立ち上がる。出土遺物はない。